



01829.2)







奠廟故副提學李秉泰之清操名節無愧古之廉吏也○召見備局有司堂  
先朝又入清白選請特降賜備之命仍許易名之典從之○召見備局有司堂  
上沈象奎上教曰京外枝薄軍制田結撮要分類彙成冊子以入而較簿則  
耗條加分等名色軍制則分番納布等節目田結則旱田水田等多少詳細懸  
錄以為便覽可也象奎曰茲簿或有備局磨勘者自該道區別者又或有自該  
邑指俸貯積者若俱為彙錄則不無浩繁之歎矣上曰務從詳要與戶判相  
議為之又教曰先朝御製尚未開刊今若開印則卷帙當為幾何象奎曰似  
為百餘卷而昔在先朝親加考正亦有未及脫稿處不可不一番稟裁後印  
出矣上曰當設藝修廳乎象奎曰內閣既是專掌御製閣臣中又有大臣  
重臣自上詢議以為入梓似好矣又言交隣之道有交隣之冊乎象奎曰有通文  
自志傳載于大文傳而於事尤詳永旨宋知瀛曰欲考我國文獻則有文獻  
備考矣象奎曰先朝以備考中有所遺漏且有古今異宜者命故都正李萬

運使之績成補編而學校考未及告訖矣今聞其子儒駿方稟請纂次云自  
先朝既有命則便是公家冊子若取給筆札則似好矣上曰言于戶判筆札  
與紙地給之可也上內下囊子十二部仍教曰日前有兩書入於慈宮矣  
慈宮有此賞賜故分賜卿等○閏五月丙寅朔○丁卯別講○以李元植為成  
歸北道節度使○戊辰別講○己巳○庚午次對先是太司憲李直輔疏請招

須廣故留糧學寺奉養之計若無糧則無事矣  
先朝又入清白選時降賚備之命仍許易名之典從之○召見備局有司堂  
上沈象奎上教曰京外發簿軍制田結撮要分類彙成冊子以入而殺簿則  
耗條加分等召色軍制則分番納布等節目田結則旱田水田等多少詳細懸  
錄以為便覽可也象奎曰發簿或有備局磨勘者自該道區別者又或有自該  
邑指俸貯積者若俱為或錄則不無浩繁之歎矣上曰務從詳要與戶判相  
議為之又教曰先朝御製尚未開刊今若開印則卷帙當為幾何象奎曰似  
為百餘卷而昔在先朝親加考正亦有未及脫稿處不可不一番稟裁後印  
出矣上曰當設纂修廳乎象奎曰內閣既是專掌御製閣臣中又有大臣  
重臣自上詢議以為入梓似好矣又言交隣之道有交隣志二冊備載事例  
自誌俾覽可以備忘矣上曰至於事大有何可覽之冊乎象奎曰有通文  
館志俾覽於事大尤詳承旨宋知濂曰欲考我國文獻則有文獻  
備考矣象奎曰先朝以備考中有所遺漏且有古今異宜者命故都正李萬

運使之績成補編而學校考未及告訖矣今聞其子儒駿方稟輯纂次云白  
先朝既有命則便是公家冊子若取給筆札則似好矣上曰言于戶判筆札  
與紙地給之可也上內下囊子十二部仍教曰日前有所書入於慈宮矣  
慈宮有此賞賜故分賜卿等○閏五月丙寅朔○丁卯別講○以李元植為成  
鏡北道節度使○戊辰別講○己巳○庚午次對先是大司憲李直輔疏請招

義長四郎様へ

己丑年八月十六日

本軍平定御品、以件記宣

御難之在、向御軍中、本

軍中、官場更、馬場、

於此、公定、此、

是、御難、云、

如、之、御難、云、

公、之、御難、云、

本、軍、中、御難、

之、御難、云、

是、御難、云、

公、之、御難、云、

本、軍、中、御難、

之、御難、云、

是、御難、云、

公、之、御難、云、

本、軍、中、御難、

之、御難、云、

是、御難、云、

公、之、御難、云、

本、軍、中、御難、

之、御難、云、



萬機要覽內容目次(下冊)

軍政編 一

目次	一頁	京營陣式	牌(15) 一六江字内(16)
五衛	三	龍虎營	四七
都控府	三	方陣(47) 蜂屯陣(47) 鶴翼陣(48)	
衛將所部將廳	五	訓練都監	四八
衛制	七	列陣(48) 一方陣(48) 直陣(49) 銳陣(50)	
總例(7) 形名(11) 陣法(19) 陣圖(24)		一曲陣(51) 圓陣(52) 玄武陣(52) 一六	
北道衛制	三	花陣(53) 一馬兵蜂屯陣(53) 一馬兵鶴翼	
茂山以南五衛會亭以北五衛(31) 一金		陣(53)	
錫曹北路五衛復設議(32)		禁御營	五三
扈衛廳	三九	列陣(53) 一方陣(54) 直陣(54) 銳陣(55)	
捕盜廳	四三	一曲陣(56) 圓陣(57) 玄武陣(57) 一六	
總例	四三	花陣(57) 一騎士蜂屯陣(58) 一騎士鶴翼	
巡邏字内	四三	陣(58)	
左邊七牌(11) 一六江字内(15) 一右邊八	四四	守禦廳	五八
		列陣(58) 一方陣(59) 銳陣(59) 南漢山	
		守城(61)	
		松戎廳	六〇

萬機要覽 內容目次 軍政編一

列陣(62)   方陣(62)   曲陣(63)	六四
守隘兩營異同之接	六四
形名制度	六五
操點	六七
城操	七一
水操	七三
西北聚點	七六
烽燧	七九
驛遞	八五
總例	八五
各道屬驛	八七
京畿公忠(87)   全羅(88)   慶尙(89)   江原(90)   黃海平安(91)   咸鏡(92)	八七
驛位	九二
驛站	九二
總例(92)   西撥(93)   北撥(93)   南撥(94)	九二
巡選	九五
總例	九五
軍號	九九
夜行	一〇〇
勿禁帖	一〇一
伏處座更軍	一〇一
傳漏	一〇一
備邊司	一〇三
總例	一〇三
職制	一〇四
會議	一〇四
所掌事目	一〇九
擬製(109)   軍機(113)   火賞分等(114)   還備(114)   松政(115)   留都(116)   西北補紙(117)   衣及木棉去核(116)   漂到人(117)   日役(118)   夜標(117)   撥概軍及駕牛(118)   草料(118)   各司(119)   龍書(119)   使行銀(119)   箭竹樺(118)	一〇九

軍政編 二

皮題給(119)   海松子落幅紙題給(120)   慶尙全羅本(121)   虎豹皮方席(121)   名帖(122)   諸道啓報(122)   郎廳規矩(123)	三五
日次	三五
兵曹	三七
總例	三七
一軍色	三六
所掌(128)   收布撥數(128)   均應給代(129)   均應換買米(130)   年例捧入(131)   應下(132)	三六
二軍色	三五
所掌(133)   騎步兵撥數(133)   收布撥數(136)   均應給代(137)   均應換買米(138)   捧上式(138)   賦價式(139)   稽留式(140)   應下(140)   封不動(145)   徵番(147)   十六番騎兵撥數(147)   騎兵分	三五
都案廳(151)   騎兵點考(152)	五二
所掌(153)   收布撥數(153)   均應給代(154)   應下(154)	五二
有應色	五六
所掌(156)   收布撥數(156)   捧入(158)   應下(159)	五六
馬色(159)	五六
總例(161)   立番(161)   立馬(162)   補把(162)   每年應捧(162)   每年應下(163)	五六
兵曹各掌事例	六四
結束色	六四
信箭(164)   標信(165)   符驗(166)   信符(168)	六四
調發(165)   關內行巡(169)   巡審(170)   射禁(171)	六四
嫡奸(170)   能麼兒(170)   軍官文武試射(171)   擬製(171)   申開鼓(173)   巡將(172)   軍官(172)   射禁(171)   論賞(173)	六四
省記色	七四







禁松字内	二五七
提虎分投	二五七
各處入直	二五七
戒令	二五九
逃律	二五九
給暇	二六〇
軍器	二六〇
服着	二六八
諸鎮	二六九
諸屯	二七一
財用	二七三
六道砲保備保	(273)
軍色	(271)
軍角色	(271)
軍鎧色	(275)
軍弓箭色	(275)
軍火藥色	(276)
軍保軍所	(277)
軍還債革	(278)
軍關西富峨山城穀耗割來	(278)
求請卜定	(279)
舟車	二七九
公廩	二八〇
禁衛營	二八一
設置沿革	二八三
六道軍保	二八四
京畿公忠	(286)
全羅慶尙	(287)
黃海江	(287)
原都計	(288)
軍額	二八九
軍檢	二九二
軍案	二九三
軍取	二九五
軍才	二九六
軍馬	二九六
追現給料	二九七
鍊習	二九七
中日私習	(297)
私習陣	(299)
射諫	(299)
裝貶議	(301)
下番鄉軍私習	(301)
試藝	三〇一

賞試才	(301)
騎士都試	(302)
中甸	(302)
瑞蕙臺試射	(302)
觀武才	(302)
別試才	(303)
陪	三〇四
恩	三〇四
郊幸	(304)
稿價	(304)
城內動駕	(305)
斥	(307)
飛伏兵	(305)
槍劍軍	(306)
把門甲士	(307)
設布帳	(307)
傳語軍	(307)
守城字内	三〇七
恩衛信地	三〇七
都城分投字内	三〇七
北漢城環分投字内	三〇八
宮城把守字内	三〇八
宮城外巡邏字内	三〇八
宮城外巡邏	三〇九
摘奸	三〇
香祝陪往字内	三〇
諸川字内	三〇
禁松字内	三〇
提虎分投	三〇
各處入直	三二二
領軍將	三二三
逃軍	三二三
腰牌	三二三
給暇	三二三
軍馬致斃	三三四
戒令	三三四
軍器	三三五
諸鎮	三三一
財用	三三三
軍色	(322)
角色	(323)
別破色	(323)
求請	(323)
車子	三三四
公廩	三三四
鄉軍除番	三三五
御營廳	三三七
設置沿革	三三七
六道軍保	三三九

京畿公忠全羅 (329)	一慶尚黃海 (330)	一江	三三三	
原 (331)	一都計 (331)		三三三	
軍	案		三三四	
軍	才		三三六	
軍	馬		三三九	
軍	料		三四〇	
鍊	習		三四〇	
中日 (310)	一私習 (311)	一習陣 (312)	一射講 (313)	三四〇
一喪貶講 (311)	一卜番鄉軍私習 (315)			三四五
試	武才 (315)	一騎士都試 (316)	一中旬 (316)	三四五
觀武才 (316)	一別試射 (317)	一瑞慈寮試射		三四五
陪	息 (317)			三四八
郊幸 (318)	一橋饋 (319)	一城內動駕 (319)	一門排立	三四八
候伏兵 (319)	一門甲士 (319)	一門排立		三四八
一傳語軍 (350)				三四八
守城字內				三五〇
慰衛信地				三五〇
都城分授字內				三五〇
北漢城隍分授字內 (351)	一關王廟 (351)			三五〇
宮塔把守字內				三五二
城內外巡邏字內				三五二
宮塔外巡邏				三五二
摘奸				三五三
藩川字內				三五三
禁松字內				三五三
捉虎分授				三五四
各處入直				三五四
領軍將				三五五
戒令				三五五
進律				三五六
腰牌				三五六
給取				三五六
軍器				三五六
諸屯				三五五

財	軍色 (367)	一徽餉色 (369)	一騎士色 (370)	一別	三六七
破陣色 (370)	一會計案 (371)	一補軍色 (371)			三六七
求請 (371)					三六七
舟					三七一
公					三七一
鄉軍除番					三七九
除番額本 (375)	一除番作隊式 (375)	一京軍			三七九
新募秩 (375)					三七九
總戎應					三七九
開營始末					三七九
官制					三七九
軍制					三八一
內營軍 (381)	一外營軍 (382)				三八一
兵					三八三
旗					三八四
諸					三八四
臨津鎮 (381)	一長山鎮 (385)				三八四
北漢山城					三八八
設置沿革 (388)	一官制 (389)	一軍制 (390)	一編		三八八
營 (390)	一行宮 (391)	一諸倉 (391)	一屬屯 (392)		三八八
兩西添餉米 (392)	一壯牙兵需米 (394)	一均			三九三
應給代錢 (394)	一義僧番錢 (395)	一兵曹移			三九三
米本 (396)	一經理穀 (396)	一取耗米 (396)	一銀		三九三
錢餉穀等 (397)					三九三
財					三九三
一年應捧錢 (399)	一一年應捧米各穀 (100)				三九三
一一年應下錢 (100)	一一年應下米各穀				三九三
(101)	一一年應下米 (101)	一北漢一年應捧			三九三
應下米 (101)	一臨長兩策一年應捧應下				三九三
募民養兵 (102)					四〇一
輪採					四〇三
留陣					四〇五
中甸					四〇五



大閱	四〇九
試取	四〇五
斥候伏兵傳語軍	四〇六
禁松	四〇六
捕上所	四〇七
公解	四〇七
諸倉	四〇八
還殺移轉	四〇八
雜事例	四〇九
禁條	四一〇
屬邑沿革	四一一
輪番沿革	四一二
調發	四一三
軍器	四一三
北漢調禁仰倉	(417)   臨津鎮 (421)   長山鎮 (421)
軍政編四	四一三
日次	四一三

關防	四一五
漢城府水原府	四一五
開城府江華府	四一六
廣州府	四一七
京畿	四一七
梁誠之所論 (115)   柳成龍所論 (129)   李廷龜系城山城記 (132)   李泰壽所論 (132)	四一七
忠清道	四一三
柳成龍所論 (137)   金培所論 (138)	四一三
江原道	四一三
柳成龍所論 (112)	四一三
黃海道	四一三
梁誠之所論 (115)   柳成龍所論 (115)   權修疏論 (116)   李泰壽所論 (119)	四一三
全羅道	四一三
柳成龍所論 (156)   李恒福所論 (157)   姜沆所論 (161)   李泰壽所論 (161)	四一三
慶尙道	四一三

柳成龍所論 (173)   李敬輿所論 (175)	四七七
咸鏡道	四七七
梁誠之所論 (181)   南九萬所啓 (185)   李泰壽所論 (192)	四九三
平安道	四九三
梁誠之所論 (300)   柳成龍所論 (501)   金尙憲所論 (504)   洪命壽所啓 (505)   金錫曹所論 (506)   南九萬所論 (507)   權愔所啓 (509)	五二四
關防	五二四
柳成龍築城論 (511)   柳成龍山城論 (515)   柳成龍築城論 (523)   柳成龍設法之法 (527)   柳成龍設法之法 (528)   柳成龍設法之法 (531)   備局所啓火田之禁 (532)   關防集錄木城之法 (533)   柳成龍防護之法 (533)   藩鎮之說 (535)	五三七
海防	五三七
東海	五三七

舟師	五八三
總例	五八三
沿革 (583)   魚船 (581)   肅宗改制 (585)   海	五八三
南	五八三
慶尙道 (553)   文獻備考對馬島事實 (554)	五八三
全羅道 (559)	五八三
西海之南	五六一
全羅道 (561)   公忠道 (561)   京畿 (565)	五六一
西海之北	五六七
平安道 (567)   黃海道 (568)   京畿 (570)	五六七
兩江	五七一
趙云化海島開發之論	五七二
日本相道海路	五七三
通文館志 (573)   倭記 (575)   金世濂風向之記 (576)   李恒福倭寇對策 (577)   金世濂倭寇對策 (580)	五七三



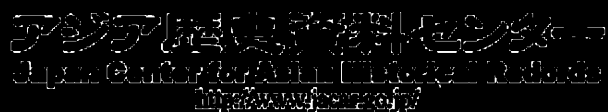
船船(35)   壬辰亂後改制(35)	五八六	軍旅大成	六〇九
三道統禦營	五八七	國朝寶鑑	六二〇
京畿水營	五八七	世宗密諭(610)   金宗瑞書啓(612)	六二〇
防禦營	五八七	白頭山定界	六三二
三道統制營	五八八	軍旅大成	六三二
慶尙右水營	五八九	洪世泰白頭山記	六三三
慶尙左水營	五九一	廢四郡全圖	六三六
公忠水營	五九三	廢四郡事實	六三一
全羅左水營	五九七	開延廢府茂昌廢府	六三二
全羅右水營	六〇〇	慶尚廢郡	六三三
黃海道水營	六〇一	慈城廢郡	六三四
平安道防禦營等	六〇二	茂昌慈城設鎮	六三六
戰船改造改型年限	六〇三	退標開舉之議	六三八
分防法	六〇四	舊地復闢之議	六四二
馬馬海保移鎮之議	六五三	上土移鎮之議	六五九
三川三江鑄賦	六七一		

軍政編 五

目次  
六鎮開拓……………六〇七

厚州事實……………六六一  
假島始末……………七〇三

内容目次 終



申本作萬機要覽卷之七

申本麻本大本類考三本  
作軍政編

都松府以下至陣圖申  
本麻本三本麻

萬機要覽

軍政編

五衛

都松府

衛將所

衛制

陣圖

衛附北道制

衛廳

捕盜廳

京營陣式

形名制度

操點

烽燧

萬機要覽 軍政編 一



簡、麻本大本作規

部、大本作調

銀、諸本或通作劍、劍、劍、一々不舉

外與、宋本作與外、則、宋本脫

五 衛 衛將所部將廳

品文、隨武、宰通、○擬、差、因、後、排、望、之、荷、簡、都、副、  
 總管、隨武、宰通、○擬、差、因、後、排、望、之、荷、簡、都、副、  
 四武、臣、從、都事六員、五武、臣、從、○名、書、房、吏、直、十、二、名、人、軍、使、士、令、二、名、十  
 ○入直、祇、堂、受、上、郎、廳、應、則、各、二、日、員、宣、輪、仁、回、門、而、通、堂、化、上、門、則、開、信、閉、信、時、下、考、時  
 亦、察、於、建、建、陽、陽、門、門、以、以、東、東、檢、入、察、直、各、軍、兵、衛、考、察、部、專、將、當、巡、舉、更、行、及、夜、各、巡、門、則  
 止、翌、朝、于、以、政、無、院、事、形、○御牌、永、下、於、奉、本、安、府、於、之、堂、牌、上、為、坐、二、直、而、處、一、則  
 堂、則、上、日、佩、於、中、夜、時、巡、入、時、直、翌、郎、廳、還、受、納、於、○侍衛、每、時、於、殿、上、座、及、銀、動  
 為、四、員、外、而、與、郎、入、廳、直、全、磨、數、進、則、參、若、銀、有、外、項、堂、則、雖、各、堂、二、上、員、二、進、員、參、亦  
 衛、本、陵、府、幸、修、時、單、則、子、堂、受、上、點、侍、○寶劍、府、每、修、於、殿、子、座、四、及、員、動、受、點、時、本  
 ○守宮、一、動、員、駕、則、時、并、堂、與、上、龍、則、旗、本、標、府、修、差、單、備、子、各、一、員、受、而、點、本、郎、府、廳  
 劃、堂、出、上、○中日、射、每、於、而、中、當、且、日、入、本、直、府、內、具、三、廳、草、以、記、下、請、軍、出、兵、標、等、信、試

管、朴本作之、內昔、朴本作外昔

外、朴本作下

九人、朴本作九員

四

年入、戎、直、堂、郎、各、一、薦、員、取、與、才、禁、軍、取、直、才、堂、上、同、府、為、舉、上、行、一、員、每  
 廳、及、進、參、郎、○騎兵點考、各、每、一、當、員、騎、進、兵、去、上、番、時、同、本、府、為、點、堂、考、郎

衛將所

將部、稱、將、廳、附、該、廳、○衛、堂、將、郎

外、所、在、衛、中、即、化、門、外、泥、洞、將、主、管、義、與、南、所、在、金、龍、虎、門、左、內

衛、西、所、在、虎、曜、金、右、門、內、昔、東、所、在、忠、宣、佐、前、門、內、昔、北、所、在、景

化、武、門、後、衛、昔、之、○衛將十五員、而、文、蔭、中、武、二、堂、員、上、稱、三、曹、品、司、擬、衛、差

將、主、該、應、事、部將二十五員、武、南、臣、行、參、一、上、員、十、并、員、兼、參、內、外、禁、十、衛、四

○人、書、使、員、衛、將、各、外、名、所、色、二、隸、外、一、所、人、十、八、名、所、九、內、四、人、所、十、將、五、廳、名、二

七、部、將、廳、○入直、而、四、衛、所、將、部、將、則、替、各、直、一、日、單、每、子、三、日、入、啓、輪、回

○受牌、納、四、入、直、衛、人、將、後、所、受、部、各、將、一、所、受、於、各、替、一、直、此、且、則、出、本、直、無、人、受、先





五 衛 衛制 總例

納直之式每於替直人且○侍衛將每全數進參部動將則時只衛  
 出節節日知委道四員傳進待參結行東○受軍號所每入口直部昏四  
 色節節日知委道四員傳進待參結行東○受軍號所每入口直部昏四  
 將官禁曹軍局出號身傳外于兵曹撥動府駕四時則衛分將各軍部將營一入員直  
 號詣行在所內兵曹○報烽燧名每來口于初丹昏鳳木門竟外以烽本軍山一  
 未烽準火即五北柄道準烽舉火或一有柄雲昏準之告謂于也南該所而部一將柄  
 兵即曹地瑟枚朝報入兵曹○舖軍舖東北所五舖西每舖三每舖夜南騎所兵六  
 巡各二到名則舉行軍傳號○巡更一四員所各入率直巡衛更將騎部兵將六  
 初名使將令衛兒將房相直對各繼一發循發環巡不而斷假夜令自東初所更部三將點發之  
 西於初更則西更南所將次對傲而此發二行更止南於北罷所三而更東東  
 至至通成化門外西每至番初肅口分外更南單至子入鳳啓門北○四所字

及、申本作時。

翼、申本麻本作竟。

火或、大本作燧或。

則、宋本脫。

此、朴本作至。

門西、朴本作門外西。

至三、宋本作至子三。

內門北所自通化陽門至集禮秋門東西所自集禮秋門至建陽  
 成門外大壇而內宮路墻修內而時有衛部將率該所之騎  
 兵看檢舉行報各壇字而內宮路墻修內而時有衛部將率該所之騎  
 東南兩所審入直兵衛曹將每部湖將自以初宮五墻口內三巡十日合意六  
 院于政○守門啓差衛宗廟一員社或稷二員祭具時戎服偵守攝門行於則  
 兵神曹外自○部將分差本部將差二員送外司所衛各將處劃所出送除  
 行部兵將例之分排本舉仕行定稱送為分儀仗庫專○管舉行部將為南  
 以儀仗庫圖式應而講殿行最則

衛制

衛兵之制自高麗行之二軍六衛是也二軍曰鷹揚  
 軍龍虎軍也六衛曰左右衛神虎衛興威衛金吾衛





五衛 衛制 總例

耳、朴本脫、遊、麻本  
作、宋本作游、以下  
遊、宋本作游、以下  
之、宋本作游、以下  
林本有、宋本脫、人、  
本有事、為、朴本脫、  
七十、李等三本誤作七  
百。

及、申本李本麻本大本  
作反、宋本作字。

加者、而、言、耳、每衛各有遊軍五領、大、三、為、以、正、軍、假、十、如、分  
 正、軍、二、千、五、百、遊、軍、而、為、三、千、若、以、一、百、執、隊、之、統、則、五、衛、其、之  
 遊、軍、則、一、千、七、百、一、旅、每、衛、二、百、一、十、兵、共、四、一、人、萬、二、千、四、十、五  
 每、百、人、二、百、一、十、四、五、千、三、百、五、十、六、隊、每、衛、一、千、五、百、七、十、兵、一、  
 百、十、遊、軍、以、三、千、而、一、百、一、十、一、千、一、十、一、人、乘、之、遊、軍、一、及、萬、七  
 百、正、軍、為、正、軍、數、得、例、同、千、五、大、將、令、衛、將、衛、將、令、部、將、部  
 將、令、統、將、統、將、令、旅、帥、旅、帥、令、隊、正、隊、正、令、伍、長、伍  
 長、令、其、卒、奇、正、相、生、駐、戰、無、常、係、將、之、節、度、耳、○、每  
 衛、五、部、各、有、其、屬、義、興、衛、為、中、衛、甲、士、一、萬、四、千、八  
 百、人、補、充、隊、屬、焉、廣州、水、原、長、湍、鎮、管、軍、府、京、畿、楊、州、

虎賁 大本脫。

昌州 原作昌洲、據餘  
本改。

鎮軍、藤本作鎮管軍。

敵、宋本作賊。

屬、江、州、洪、州、江、鎮、陵、原、州、淮、鎮、前、部、管、軍、士、○、右、部、鎮、忠、州、清、  
 道、公、州、海、州、鎮、管、軍、士、○、龍、驤、衛、為、左、衛、別、侍、衛、一、千、五  
 百、人、隊、卒、三、千、人、屬、焉、鎮、中、管、軍、士、○、東、部、慶、尚、道、大、鎮、  
 海、鎮、管、軍、士、○、右、部、後、部、晉、州、鎮、尚、州、安、東、鎮、○、前、部、管、軍、士、○、金、  
 衛、為、右、衛、族、親、衛、親、軍、衛、四、十、人、北、道、安、南、人、彭、排、五、千  
 人、屬、焉、部、屬、義、州、龜、城、朔、州、鎮、管、軍、士、○、昌、城、昌、州、方、左  
 寧、山、麟、江、界、碧、鎮、○、右、部、軍、部、屬、成、川、鎮、管、軍、士、○、高、山、里、○、前、部、楚、  
 部、寧、山、平、壤、鎮、管、軍、士、○、後、部、軍、部、屬、忠、佐、衛、為、前、衛、忠、義、衛、忠、贊、衛  
 破、敵、衛、二、千、五、百、人、屬、焉、州、鎮、管、軍、士、○、南、部、全、部、屬、道、順、  
 天、鎮、管、軍、士、○、右、部、屬、後、部、州、鎮、管、軍、士、○、前、部、屬、  
 長、興、濟、州、鎮、管、軍、士、○、後、部、州、鎮、管、軍、士、○、前、部、屬、



道、林本脫。黃、申本  
林本宋本作黃。

武衛爲後衛，忠順正兵壯勇衛六百人屬焉。京中北部屬

永安道北青鎮管軍士。慶源慶興鎮管軍士。水惠山鎮管軍士。○右部屬

戎鎮軍士。○前部屬。後部屬。富寧會寧鎮管軍士。高嶺潼關鎮軍士。

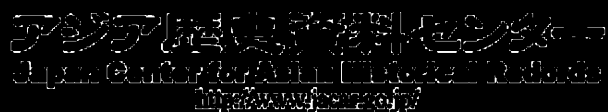
○五衛將十二員。從二品。上護軍九員。正三品。大護軍十四員。從三品。護軍十二員。正四品。副護軍五十四員。從四品。

司直十四員。正五品。副司直一百二十三員。從五品。司果十五員。正六品。部將二十五員。從六品。副司果一百七十六員。從六品。司正五員。正七品。副司正三百九員。從七品。司猛十六員。正八品。副司猛四百八十三員。從八品。司勇四十二員。正九品。副司勇一千九百三十九員。從九品。○五

衛、林本作所。  
於、麻本作于。

衛各一部入直，前夕兵曹分所分更取旨，衛將受點分領，都摠府堂上官二員直中所，各設衛門。諸衛別

置中所司儀內禁衛 達直日，諸將肅拜，受牌納牌於大內。兵曹都摠府 ○闕內則衛將若部將率軍士十人，以分更行巡後，無事與否直啓，都城內外行巡，兵曹以出直軍士。忠義衛忠贊衛忠順衛族親 分二所差定，行巡兵曹差定宮城四門外直宿，各上大護軍護軍中一人，正兵五人，光化門護軍初昏受鐸於兵曹，并受軍號，人定後令正兵二人搖鐸巡宮城，四面警守所及各門次次傳授，循環不已，至罷漏而止。○



所、申本作將。

五衛 衛制 五衛形名

一四

凡宿衛行巡人各門把守人。士宮城門、兵曹差、正兵、甲

把隊守與仁崇禮敦義東宗小廟門。則差城門軍。則其餘出直門。則差兵。

十五員領之。五員非軍士。左而右司。挾門。同。下之稱。每大。中門。三

門。左右。挾門。同。八宗廟人。警守所直宿人。兵曹入直堂上。

官初昏并軍號署名封進。○大小朝賀宴享衛將各

率其軍庭列。兵曹都摠府以下職帶軍務者列階上。

大內壘擊大鼓則各門把直外。入直諸衛聚會勤政

殿庭各占其方面。列兵曹立於東閣門之外。都摠府

次之上。上大護軍護軍次之。常參時。陳形名於前。以為

例。一。小蛟龍旗。一。皆忠義衛。奉持角。則吹螺。赤。○五

蛟、龍本皆作交、以下做之。

其、申本作旗。白黑、申本麻本李等三本。本改小、李本、林本。大本藤本作少。

其、申本作旗。隨方、宋本作隨其方。青赤白黑、李等三本作統長。

**衛形名交龍旗**。黃質。赤畫。蛟龍。及雲。麾。青。白。黃。用。其。色。有。

大將也。有三。衛將。其。色。有。青。黃。赤。白。黑。用。以。令。招。搖。旗。

衛將也。大將。衛將。亦。有。青。黃。赤。白。黑。用。以。令。招。搖。旗。

將。以。下。亦。有。七。星。有。白。方。色。火。燭。用。以。大。將。

旗。左。有。火。質。用。白。質。中。蛟。龍。質。畫。龍。也。及。雲。衛。將。旗。白。青。黃。赤。

隨。方。色。隨。以。應。大。將。令。衛。將。令。下。旗。隨。其。一。旗。之。色。用。

軍。將。也。遊。部。將。旗。從。內。其。衛。將。旗。赤。白。黑。各。隨。方。色。有。火。燭。其。

將。令。下。旗。白。一。旗。用。其。色。統。將。令。下。旗。也。遊。軍。將。旗。有。火。燭。其。

應。衛。將。令。也。以。遊。軍。將。令。下。旗。黃。赤。一。旗。用。其。色。領。將。青。

也。領。將。旗。黑。有。火。燭。以。應。其。色。軍。將。令。也。赤。白。領。將。令。下。旗。有。

隨。其。火。燭。質。各。色。統。將。旗。用。其。色。有。青。赤。白。黑。統。將。令。下。旗。

萬機要覽 軍政編一

一五



部、原本諸本脫、據麻

日點、李本麻本藤本作

以應、李本麻本藤本作、揮

陣、原本宋本作陳、據

自、大本作各。

鼓也之也、李本麻本藤

大角十五部將遊軍將衛將大將各鼓一金一蘇一磬  
 一鐸一鼓一百六十一鐸一各旗有應有點有指有報有揮  
 不麾與招搖復旗並立則衛將點大標起以應之將麾  
 若麾則以衛將指之大衛標有旗以應之點大將標麾以報衛將  
 指麾則以衛將指之大衛標有旗以應之點大將標麾以報衛將  
 同例麾有應有點有指有揮有假有舉報各則衛大有事而  
 後之麾令則指之大麾出陣之蒸令則散之令麾出進退左既前  
 令而衛將之應則例同復招搖旗有立有假令出與麾將  
 則立假之令而衛將應角有令以欲令之警時戒肅吹也角有戰  
 也小角有促小大角之促用於交戰有報衛自吹戰角而各  
 同例鼓有進鼓指之有戰而鼓也角有徐通於戰之進有

疾數擊之也金有退數擊有止疏擊擊則鼓譟大呼

鼓譟言也鐸則肅整不譟肅敬也○五衛之衆皆帖

章標於膏腹之間長六寸廣四寸各從其衛之色至

於旗麾之上皆書其號並書認獸○五衛陣法世

祖朝御製序文有曰其連陣之外陣者六七八九之

數也內陣者五十之數也間陣者一二三四之數也

此法河圖之文也合陣之中衛包內外者五十包內

外也四衛之離乎方者一六二七三八四九之各離

乎其方也此法洛書之變也駐統方列戰統圓聚方

以守之圓以行之此法天地之體也外陣方面內陣

肅整、宋本作整肅、案

腹、朴本作背。

陣、原作陳、據徐本改。

道也之也、宋本脫。  
居、宋本作向。而、宋  
本作向。簡、中本朴  
本作簡。簡、原作欵、  
據徐本改。

制、中本作例。制之下、  
宋本有也。四門、朴  
本作四運。

圓義形於外、智藏於內、此法陰陽之用也、各保小將、  
父子之親也、聽於一將、君臣之義也、陣有牝牡、夫婦  
之別也、隊伍相愛、兄弟之情也、法令不愆、朋友之信  
也、此法人倫之道也、是故教兵而民知禮義、國家恒  
安也。○結陣步駐統排列向外、簡、次、排、列、居、外、面、次、手、  
步戰統及戰駐二騎統作運立其後、後、步、駐、統、排、列、之、  
騎、作、運、向、外、而、立、又、於、其、後、而、立、戰、統、遊軍在將後、隊、  
然、將、或、一、當、前、之、制、內陣四門、外陣八門、內、外、之、門、然、馬、步、  
少、數、多、制、少、亦、隨、兵、一、多、○一衛獨陣、四部各居四方作外  
方陣、式、依、而、結、陣、立、中部居中作內圓陣、外、四、統、相、連、排、列、作、五、向、

以、朴本作向。

占、宋本作點。而、中  
本作若。二里、朴本  
作二步。

占、原本宋本大本作點、  
據徐本改。  
狹、原作狹、黃、原作  
寬、並據徐本改。頂、  
中本作例。局、中本  
作局。朴本藤本作拘。

其、中本李本藤本作於。  
列、中本李本藤本宋本  
藤本作例。  
縱、大本之外諸本皆作  
從。

重、左步、右騎、前駐、後戰、此但言不方變陣。○若使兩衛合  
陣、主衛疏其行以待之、左、衛、為、客、餘、例、同、疏、其、行、者、  
疏、遠、四、其、衛、而、列、也、陣、假、則、如、主、衛、之、獨、部、之、向、占、地、而、  
欲、一、是、各、衛、而、合、陣、則、各、退、半、其、里、二、而、衛、入、則、屬、一、則、占、地、三、地、  
召、於、一、是、各、衛、而、合、陣、則、各、退、半、其、里、二、而、衛、入、則、屬、一、則、占、地、三、地、  
疏、半、內、密、疏、行、時、亦、勢、以、此、可、推、然、衛、地、而、之、已、狹、不、必、不、局、可、於、預、定、法、或、  
客衛來合、而各以其兵入屬、將、衛、來、合、於、遊、於、軍、衛、將、部、遊、軍、  
入、於、合、於、右、部、入、於、領、右、前、入、於、前、領、後、入、於、後、中、入、於、統、中、將、領、  
以、入、於、領、而、皆、餘、例、同、或、使、三、衛、合、陣、同、此、例、合、○五衛  
連陣、中衛因獨陣按列不動為內陣、四衛來居其面  
為外陣、左、右、中、部、則、居、內、外、陣、之、間、如、獨、陣、內、橫、列、而、

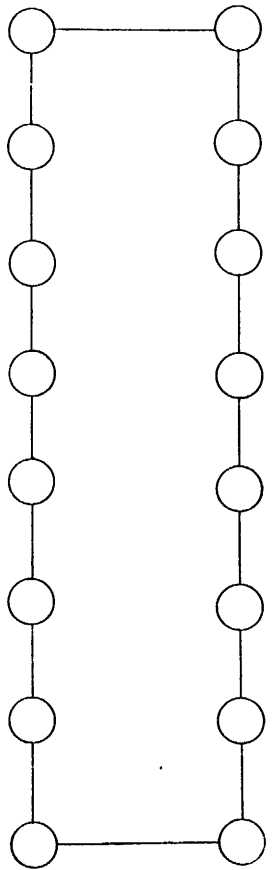




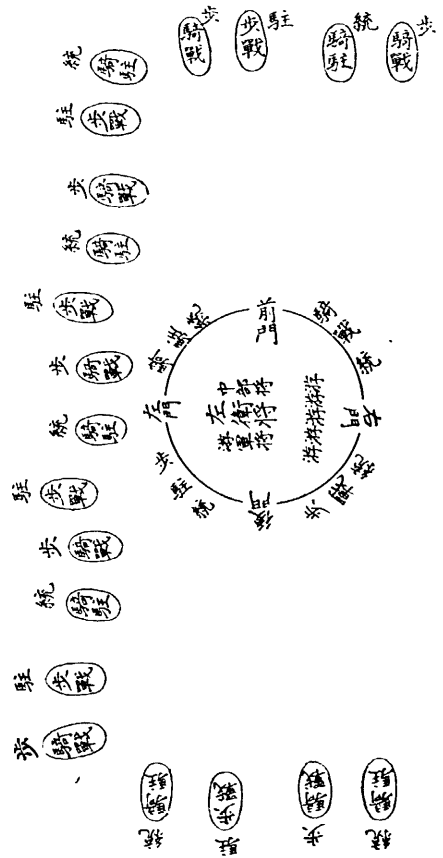




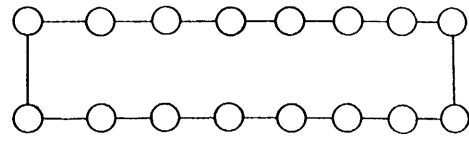
四統變為長蛇圖



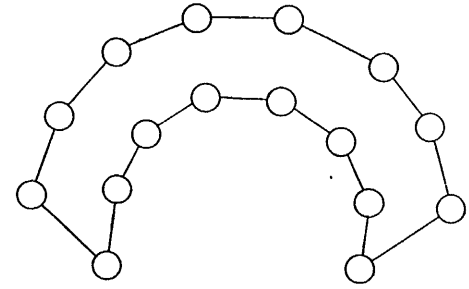
五衛 衛制 四統變為上蛇圖



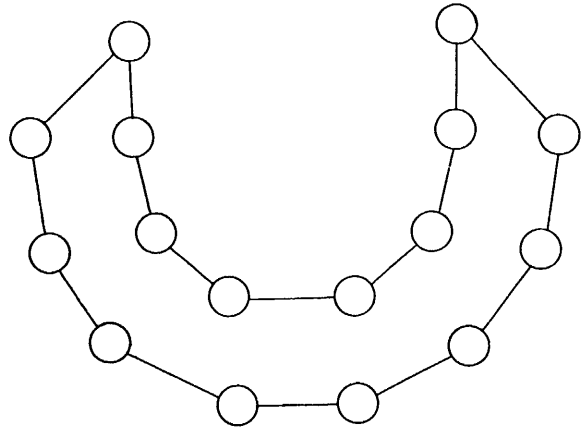
四統變爲鶴翼圖



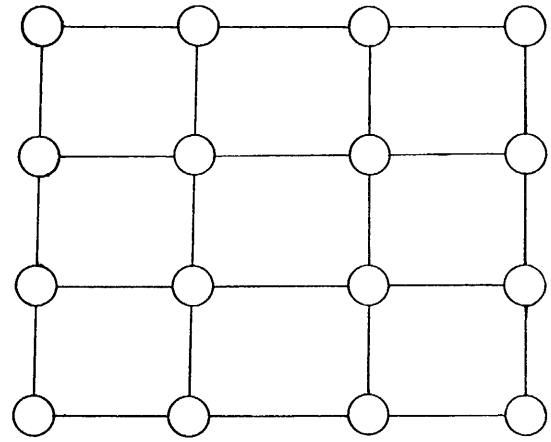
四統變爲却月圖



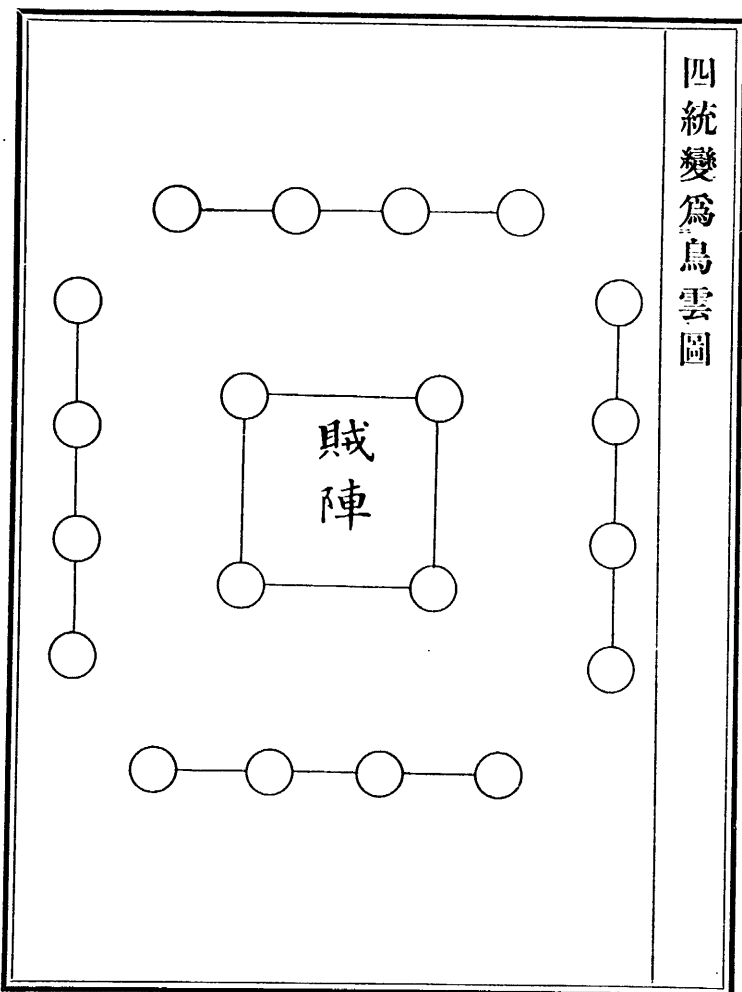
四統變爲假月圖



四統變爲魚鱗圖



四統變爲烏雲圖



附北道衛制

咸鏡北道尙行五衛之制。茂山以南五邑作五衛屬本營，卽南前左中右後也。會寧以北五邑作五衛屬之行營，卽北前左中右後也。

前衛將、富寧府使、所屬各色衛軍二千六百二十五名。左衛將、鏡城判官、所屬各色衛軍五千六百十三名。中衛將、茂山府使、所屬各色衛軍四千三百二十六名。右衛將、明川府使、所屬各色衛軍三千五百九十九名。後衛將、吉州牧使、所屬各色衛軍五千八百六十七名。

屬已上五衛之本營 ○前衛將、會寧

色、宋本作邑、以下倣  
之、此頁內之色字、  
申、本行作邑字、此以  
邑字、林本作下

府使所屬各色衛軍五千八百六十七名。左衛將、  
 鍾城府使所屬各色衛軍五千三百九十八名。中  
 衛將、穩城府使所屬各色衛軍一千九百十三名。  
 右衛將、慶源府使所屬各色衛軍四千七百二十  
 三名。後衛將、慶興府使所屬各色衛軍二千一百  
 五十四名。已上五衛  
屬之行營  
 金錫胄北路五衛復設事議曰、六鎮處我極北與  
 彼只隔一衣帶水。祖宗朝時、每有藩胡侵軼之  
 患、小入則驅掠人畜、大入則攻圍城堡。朝廷遂推  
 行五衛之制、使六邑之倅各自爲衛將以守其地、

人民、宋本作民人。

使六邑之治各自爲城壕以入其人民、蓋以邊上  
 事勢自與內地不同、不如此則官不得保其民、民  
 不得保其父母妻子、而遐絕空虛之區、終難爲我  
 國之有故也。常時則盡驅一境之民撤入城內、造  
 家安頓、農節則亦依五衛之法自相統率出野耕  
 作、雖猝遇警急輒以此防禦、此則蘇軾所稱河朔  
 被邊諸州人戶帶弓而鉏、佩劍而樵、器用鞍馬常  
 若寇至而親戚所聚墳墓所在、人自爲戰、敵甚畏  
 之者也。作農收穀之後、還復入保於城內、在我則  
 藩籬既固、防守自全、而敵至無所得、又無所食、不

鉏、朴本作鋤。

鉏、朴本作鋤。

搏人、麻本李等三本作搏人。  
授、原本麻本大本李等三本作授。據中本林本改。

數日而旋去。譬如噬狗信然搏人，而人若急先投身於柴，援塞其肩，而狗自去者，此乃往日六鎮之已事也。倭亂以後，故相臣柳成龍始用束伍之法，以鍊諸道軍兵，而亦知六鎮形便異於他道，獨不變五衛之制矣。其後金汝水爲北道兵使，請設營將，凡六鎮及各鎮堡軍兵出武之類，并皆編爲束伍，屬之營將，而爲府使僉萬者，既失所領，蹢躅如客，六鎮之勢駸駸至於散落危弱，而其民凜然皆懷不自保之憂，又何望其團鍊節制爲必勝之兵哉。使今邊塵只驚於豆滿，以北則兵使統率全軍

弱、中本麻本李等三本作落。

楊、中本麻本李等三本作梁。  
練、朴本麻本宋本大本作鍊。

猶可一鬪，若或有徵赴遠兵之舉，則是將舉六鎮捐而棄之，甚非爲邊計也。數年前朝家有慮于此，取輸城驛卒一千三百餘名，使察訪楊遇漢盡心選練，兵營標牌吏奴之屬，其數亦至數千，更令柳斐然抄編隊伍，合此以計之，董董爲三部六司之模樣矣。第未知六鎮軍兵之前屬束伍者爲幾名，而以卽今驛卒營屬代六鎮之束伍者，或足或不足，又幾名也。土奴之稱，雇工之設，或是前時聚落之遺制，亦似新附撫循之厚意，則到今奪削而分裂之，此恐涉於苛剋，而易生怨恨，若於兵使新設

營屬、朴本作管束。

也、宋本脫。

似、中本李等三本作以。

於僕、申本作仿懼。

怒、申本李等三本作怒。

一營之額有所不足者，選於此而充之，有老弱死亡者，亦選於此而代之。如此則雖以矜憫之性，必不敢怒，而其中健勇，又未始不為國家之用也。今計必須盡復六鎮之舊制，使其兵各守其城，土地人民庶相依保，而時有古今，敵有大小，兵家臨戰，亦豈無因敵變化之道乎？前衛受敵，則左右兩衛固可出兵而救也；左衛受敵，則前後兩衛亦可出兵而救也；中衛受敵，則前後左右四衛皆可救也。至於後衛，右衛亦莫不然。此即常山率然之蛇勢也。兵使則統率一營，相機進止，或處於本營，或

即、大本之外諸本皆作則。

一助、申本麻本作以助。杜本作破。

赴於行營，可援則援，可擊則擊，可以并勢合赴，則又各出六鎮之兵，一助一臂之力焉。雖罷束伍之制，此恐大有益於保邊制敵之要道也。





扈衛廳

四〇

國舅兼別將武堂上三品以三員戶式內入直一所

任軍官四員兵房戶曹給祿餘堂上戶掌務戶各房有堂上料軍官則

四百、申本、麻本、李等三本作四員、都下之下

而料窠爲九十五百三十一應時一每朔試射、別將試付料、各

領、宋本作營。

直於大將所、每於內中日、內入直、軍官應射五中者、

閑良直赴殿試、出身加資、又有三營哨官遷轉之式、

住、朴本作射、次下同。

首禁衛軍四營、應以軍官中出身者計其料仕、居

差、宋本作次。

五員、而五十員并屬於留都大臣、排立扈衛於闕外

外、申本作內。

信地自北金虎門前路北至城內動駕、出番軍官六十員分

左右列侍衛、并於還宮後待信箭罷陣。○牢子十名、

巡令手十名、燈籠軍十名每朔衣資料木合九斗、春標下軍

十二名、伺候軍六名每朔衣資料木一斗、每帳幕軍二十

名每朔一斗、米二有戶料兵布。

料米宋本脫



之、麻本脫。限、朴本  
作配。

符、朴本作牌。

賊、朴本大本李等三本  
作披。

惟、申本李本麻本作性。

青、朴本藤本作清。

標、李本宋本作漂。

捕盜廳 巡邏字內

四四

王府符大將牌之嚴重與符驗二年半定律文三十日遺失免罪居數日雖旋得納原牌毀傷與限前得見有異

王府不得循例議讞命議大臣依律免罪其後左議

政金載瓚右議政金思穆聯筭言大將佩符乃不離

肘腋者而特以限內得納免罪雖從法律事體終涉

惟駭請罷職依施

巡邏字內左邊七牌在會牌賢自南門上二至駝洞伏處

東生民別殿西墻伏橋處三牌南生洞二牌自鑄口門

至伏處在洞青涼橋自四把牌自橋至東東門在北齋伏

牌六自東大門外至五關王廟門伏處在東大門外

典、申本李本作曲。

六江字內豆漢毛浦字內自南伐院西至夫蕊鐵峙里鷺島亭

字內自永新渡村及以豆下浦峨北箭山農里橋安巖巖字內自

新設自里清涼里至浦後里農加設軍官六員所居各禁軍字內

祿與各佩通符禁軍夜施行巡都掌軍士九名浦往十島各豆二毛

名漢一江安巖定典

右邊八牌國一洞牌北自六曹清御路下至立福宮屏東門上舊至光

化彰門義前內處景福宮政西墻前六牌自西曹伏後處洞在至保

司前橋三曹自工曹伏後處洞在至保

至銅峴外至通橋毛館橋八大角亭大峴北伏石處井在洞京營自

前小門外西牌小門外南大門外至藥巡應南洞萬里外峴灼灼在

外至、大本作內至。外  
七之外宋本脫。外

萬機要覽 軍政編一

四五

洞石南廟伏處在南大門外八牌格洞

六江字內西水庫契字內萬里鑄城麻浦至梨內自院龍山字

字至玄石里西江字內自延倉里至新水禮鐵坊至遠石

里加設軍官六員通符各書察夜巡所祿與久勤以禁軍

行都掌軍士二十九名西水庫四名龍山遠亭二名

延略二名

二十九、原本諸本作九、據申本改、  
定、朴本作送。

京營陣式

親閱五營合陣訓練都監以回陣居中守禦廳以銳陣在前禁衛營以直陣在左御營廳以方陣在右撻戎廳以曲陣在後各營各照該營陣式。

龍虎營

〔方陣〕一內在左二內在右爲子壁一兼爲前面一羽爲左面二兼爲右面二羽爲後面合爲外壘。

〔蜂屯陣〕一兼在左二兼在右爲前層一內在別將之左二內在別將之右爲中層一羽在左二羽在右爲後層成蜂屯形。

〔〕諸本脫、以下倣之。

例 朴本作制

〔鶴翼陣〕一兼一內一羽在別將之左二兼二內二羽在別將之右自外擺向內成鶴翼形諸陣以禁軍六番爲例

訓練都監

〔列陣〕銃手左右部左司各五哨爲前層自內擺向外殺手左部中司三哨爲第二層自右擺向左右部中司三哨爲第三層自左擺向右銃手右司各五哨爲第四層自外擺向內左馬兵三哨爲左駐隊右馬兵三哨爲右駐隊中軍旗鼓居中殺手前後層之間爲二十步銃手在兵前爲

五步

〔方陣〕左右部中司各三哨爲子壁各左右司各五哨

爲外壘左部左司自前門擺至左門右司自左門擺

至後門右部左司自前門擺至右門右司自右門擺

至後門馬兵六哨居子外層之間中軍旗鼓居子壁

之中一隊得地三步一旗得地九步一哨得地二十步

內表至外表

〔直陣〕左右部中司各三哨爲子壁各左右司各五哨

爲外壘左部左司前左哨自前門擺至東南角中右

後哨自東南角擺至左門右司前左中哨自左門擺

至東北角右後哨自東北角擺至後門右部左司前

左哨自前門擺至西南角中右後哨自西南角擺至

至東北、朴本作至東南

右門、右司前、左中哨、自右門擺至西北角、右後哨自西北角擺至後門、馬兵六哨居子外層之間、中軍旗鼓居子壁之中、自中心至前表六十三步、自中心至左內表三十一步、自內表至外表三十一步

【銳陣】左右部中司各三哨爲子壁、左部左司前、左中哨及右哨一二旗自前門擺至東南角、右哨三旗及後哨自東南角擺至左門、右司自左門擺至後門、右部左司前、左中哨及右哨一二旗自前門擺至西南角、右哨三旗及後哨自西南角擺至右門、右司自右門擺至後門、馬兵六哨居子外層之間、中軍旗鼓居

子壁之中、自中心至前表二十三步、自中心至左內表至外表四十七步

【曲陣】左右部中司各三哨爲子壁、左部左司前、左中哨及中哨一二旗自前門擺至東南角、中哨三旗及右後哨自東南角擺至左門、右司自左門擺至後門、右部左司前、左中哨及中哨一二旗自前門擺至西南角、中哨三旗及右後哨自西南角擺至右門、右司自右門擺至後門、馬兵六哨居子外層之間、中軍旗鼓居子壁之中、自中心至前表二十七步、自中心至左內表至外表三十一步



〔圓陣〕左右部中司各三哨爲子壁左部左司自前門  
 擺至左門右司自左門擺至後門右部左司自前門  
 擺至右門右司自右門擺至後門馬兵六哨居子外  
 層之間中軍旗鼓居子壁之中自中步半自內表至外十

表五十七步

左足、右足、朴本作右足、左足。

〔立武陣〕馬兵六哨爲腹左部中司中哨爲頭左哨爲  
 左肩右哨爲左足右部中司中哨爲尾左哨爲右足  
 右哨爲右肩左部左司自前門擺至左門右司自左  
 門擺至後門右部左司自前門擺至右門右司自右  
 門擺至後門成立武形。

各成、麻本作皆成。陣、車本作軍。

〔六花陣〕左右部六司爲外六軍左右司中哨爲中軍  
 親兵馬兵六哨爲中一軍各軍亦各成六花諸陣以騎兵左

右別各三哨步軍左右部各三司  
左右司各五哨中司各三哨爲例

〔馬兵蜂屯陣〕左右別前哨各在前左哨在中右哨在  
 後每哨一旗在前二旗在左三旗在右每旗一隊在  
 前二隊在左三隊在右各成大小蜂屯形。

〔馬兵鶴翼陣〕左右別將居中左馬兵三哨擺列于別  
 將之左右馬兵三哨擺列于別將之右成鶴翼形。

禁御營

御、中本、麻本李等三本  
作衛。

〔列陣〕前右哨爲前層自內擺向外左後哨爲後層自







前之下、林本有後、後、  
林本脫。

擺至後門、騎士三番居子外層之間、中軍旗鼓居子  
壁之中。自中步、心至前、內表、四步、半、自內表、至外、表、十步。

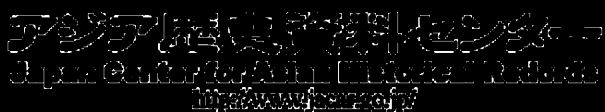
自東南、李等三本作自  
東北。

【曲陣】中哨爲子壁、四哨爲外壘、前哨一二旗自前門  
擺至東南角、三旗及左哨一旗自東南角擺至左門、  
左哨二三旗自左門擺至後門、右哨一二旗自前門  
擺至西南角、三旗及後哨一旗自西南角擺至右門、  
後哨二三旗自右門擺至後門、騎士三番居子外層  
之間、中軍旗鼓居子壁之中。自中步、心至前、內表、至外、表、十步。自中步、心至左、右內表、二步、半、自內表、至外、表、八步。

【圓陣】中哨爲子壁、四哨爲外壘、前哨自前門擺至左  
門、左哨自左門擺至後門、右哨自前門擺至右門、後  
哨自右門擺至後門、騎士三番居子外層之間、中軍  
旗鼓居子壁之中。自中步、心至前、內表、至外、表、十三步、半、自

【玄武陣】中哨及騎士三番爲腹、前右哨一旗各一二  
隊爲頭、三隊爲左右肩、左後哨三旗各一隊爲左右  
足、二三隊爲尾、前哨二三旗自前門擺至左門、左哨  
一二旗自左門擺至後門、右哨二三旗自前門擺至  
右門、後哨一二旗自右門擺至後門、成玄武形。

【六花陣】前左右後四哨爲外六軍、中哨及騎士三番



爲中一軍爲六花諸陣并以三番爲例

【騎士蜂屯陣】一番在前二番在中三番在後各番一

正在左二正在右每一正一領在正後之右二領在

正後之左二正一領在正後之左二領在正後之右

各成大小蜂屯形。

大小、大本脫。形、中本作陣。

【騎士鶴翼陣】別將居中一番及二番一正擺列于別

將之左三番及二番二正擺列于別將之右成鶴翼

形。

形、中本作陣。

守禦廳

【列陣】前右營爲前層自內擺向外左後營爲後層自

外擺向內左右營馬兵爲左右駐隊中營及親牙兵俱爲老營中軍旗鼓居兩層之間。

【方陣】中營五司各五哨爲子壁前營自前門擺至左

門左營自左門擺至後門右營自前門擺至右門後

營自右門擺至後門爲外壘馬兵七哨居子外層之

間親牙兵十五哨爲中軍親兵中軍居子壁之中

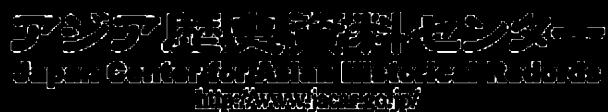
心至內表八十四步半自內表至外表一百九十三步

三、中本作。

【銳陣】中營五司各五哨爲子壁前營前左司及中司

前左中哨自前門擺至東南角中司右後哨及右司

五哨自東南角擺至左門後司五哨及左營前司四



哨左司前哨自左門擺至東北角左司左右後哨及  
 右後司各四哨自東北角擺至後門右營前左右司  
 各四哨自前門擺至西南角後司四哨及後營前司  
 前左中哨自西南角擺至右門前司右後哨及左司  
 五哨中司前左中右哨自右門擺至西北角中司後  
 哨及右後司各五哨自西北角擺至後門馬兵七哨  
 居子外層之間親牙兵十五哨為中軍親兵中軍居  
 子壁之中自一百八十六步內表九十九步自內表至外表  
前十七步半自表至外表一百零六步  
前中後營各四哨親牙兵三司各五哨為後  
馬兵一哨親牙兵三司各五哨為後

四哨、宋本作五哨。

案、中本作廳。

〔南漢守城〕前營前左中右後司各五哨自南門擺至  
 東門左營前左右後司各四哨自南門擺至西門中  
 營前左中右後司各五哨自西門擺向北門至長慶  
 暗門右營前左右後司各四哨自長慶暗門擺至東  
 門後營前左中右後司各五哨自蜂巖擺列于汗峯  
 親牙兵中司五哨結陣於鍊兵館之前左司五哨擺  
 立東墩右司五哨擺立西墩左營馬兵左哨及訓御  
 前哨為南門通衢遊兵馬兵中哨及訓御左哨為西  
 門通衢遊兵馬兵右哨及訓御中哨為北門通衢遊  
 兵右營馬兵左中哨及訓御右哨為東門通衢遊兵



【按】守揔二營，將在京師，兵在畿輔，與訓禁御三營有異。然若當親臨合閱之時，守為前銳，揔為後曲，寔備五營之制，則不可不並列于京營。顧其陣式，守與揔亦自不同。守廳有輪操，又有合操，故以五營為例。揔廳無合操，只有輪操，故以單營為例。且其常時所肄者，列方二陣，而守銳揔曲為合閱時本陣，故以此著式。至於南漢守城，雖異於陣式，陪都設險，南漢既重，本廳軍制守城為本，附見擺立之式。

形名制度

交龍旗	黃質赤色，畫交龍及雲氣，旗緣有。	大閱旗	黃二帶，幅。
紅親閱	書大閱，二。	信箭	數五，以鐵刻，各營用，各懸五色，命緞紅。
令旗	質三紅，對書前令字，凡。	紅巡視旗	質紅，凡七對，用巡視令。
坐纛旗	質黑，以黑邊，五方，畫太極，八宿，卦，方，一丈，桿，高。	司命旗	各營大將皆從，有大將司命旗。
行丈	在後，止，則，在，珠，在，絲。	司命旗	各營大將皆從，有大將司命旗。
書帶	軍用，五色，命，旗，長，三，尺，闊，二，尺，五，寸，桿，頭，高，一，丈，九，尺，尾。	朱雀旗	質赤。
命場	不用，認，旗，司，帥，字，旗，書，十，二，幅，質，帶，俱，黃，纓，黑，朱，雀，旗，赤。	白虎旗	質白，邊黃，玄武旗，質黑，並邊有白，畫氣，火，焰，旗，上，五，尺，大，桿，五。
朱雀旗	質赤。	白虎旗	質白，邊黃，玄武旗，質黑，並邊有白，畫氣，火，焰，旗，上，五，尺，大，桿，五。

黑李等三本作黃

皆、林本麻本作各

用司、申本作有司









形名制度

七〇

尖、宋本作廣。  
閉、宋本作開、發、本  
本作更。

點子以下、大本脫。

將	一	面	書	令	字	傳	貫	耳	箭	體	短	鐵	尖	用	犯	律	者	貫	信	砲									
令	軍	中	或	用	暗	金	貫	耳	箭	耳	體	短	鐵	尖	用	犯	律	者	貫	信	砲								
親	名	虎	時	用	砲	號	砲	肅	用	靜	哨	號	主	號	金	一	舉	起	令	三	舉	報	帳						
城	一	舉	賊	南	二	東	三	西	四	守	子	砲	即	佛	於	狼	機	五	號	子	喇	叭							
伍	主	擺	隊	後	獨	久	吹	是	掌	號	長	單	聲	擺	是	天	吹	為	聲	點	磨	鼓	吹	是	轉	擺	隊		
長	遇	聲	是	定	鼓	更	吹	大	角	為	以	之	螺	聲	即	要	時	起	囉	聲	可	加	大	角	初	吹	及		
祖	上	馬	軍	單	時	常	吹	頭	口	起	身	○	我	用	之	太	號	笛	官	主	發	放	要	聚					
鐸	金	鈴	時	金	用	鈺	小	而	無	腹	為	鑼	大	而	有	腹	初	鳴	息	鼓	行	凡							
陣	時	擊	騎	鼓	啫	啞	囉	用	於	打	點	子	吹	用	於	打													

操點

城操

預十日出示前一日懸操牌期日掌一號做飯掌二號應操軍兵執器登城駐隊兵於中軍臺下相對布陣招官旗面聽該操約束還送信地掌三號主將出門到將臺小開門中軍以下參現如例中軍升旗各升一體發伏路閉城門吶喊三吹立肅靜牌豹尾旗俾各聽候訖坐息一面伏路報警中軍應砲如方數該面遊兵飛趨應援賊到百步內該面以佛狼機鳥銃齊打賊到五十步放火箭射矢厥夫盡出堞口以備

陣、宋本麻本、本本作陣、  
操、中本麻本作曹。

路、大本作野。

應、大本作懸。

攻打賊到城下城上打石該面報賊退止放射又報賊遠遁回巢遊兵收同信地一面操完又操一面坐息四面伏路一齊報警中軍流水撞鐘四面遊兵一時飛趨應援照前禦畢開城門收伏路每梁留一人看瞭餘俱下城休息中軍落旗各營一旗候夜中軍稟起操掌一號各兵喫飯登城發伏路掌二號各官到齊更聽約束各回信地掌三號以下至閉城門同畫操例中軍車起五色雙燈各營一體懸燈城內人家門上各懸燈一盞俱關鎖大門以本家一人坐守中軍打更鼓一次擲鳴各梁一體傳擲一更盡放砲吹天驚聲

開、林本在開、路、林本作營、大本作營。

閉、中本麻本李等三本

車、大本作更。

轉更約二更之時一面伏路報警該面如晝操例防禦一面操完又操一面四面齊操亦如晝操例如前守更五更發撞鐘畢落燈各營一體落燈開城門收伏路各兵亦下城主將還到衙門各官如前參見將晝夜操得失查功罪發落

撞、麻本作鼓。

具、宋本作現。

水操

前期一月水軍節度使狀啓稟旨先一日懸操牌期日平明掌一號發哨船遠去做四面探賊狀掌二號升旗中軍率各船分二路行出洋中作尖字札列船聽候掌三號主將陞船舉碇回船行到陣頭中軍以

上、大本作頭。即、林  
本宋本作則。

等官、麻本作官等。

賊舟、麻本作賊船。

舵、中本作船。能、中  
本作能。

下將領各於船上跪迎候。過即乘脚船隨行。主將入  
 洋下碇。各將領聽候于座船下。黃門旗手於船頭。又  
 桿作門。主將陞船廳。中軍旗鼓旗牌等官先行參現。  
 軍牢巡視手吹鼓手等分班叩頭。主將升帳。各將領  
 由船門趨入參現。即還本船。掌號笛聚官旗。中軍立  
 于船頭。傳云。官旗過來。各應聲。即發放曰。官旗聽着。  
 應耳聽金鼓。應眼視旌旗。應駕船如馬。應見賊爭先。  
 應同舟共命。應船各為戰。應縱逃賊舟。軍法不貸。應  
 訖。挨次叩頭。布告官發放曰。舵工聽着。應一舟之功  
 專賴爾輩。應將舵斜開。不能直射賊舟者。斬首示衆。

用、大本作作。

起碇、林本作起打。大  
本作起碇。

僕、原作惜。據餘本改。  
各、中本李本林本麻  
本藤本作各。

僕、林本宋本作僕。

遠報、宋本作遠近報。

應訖。舵工叩頭。次。繚手聽着。應見賊減帆。使風用奸。  
 應縱逃賊舟。斬首示衆。應訖。繚手叩頭。次。碇手聽着。  
 應聞報賊至。起碇不速。應事到緊急。不肯棄碇。應以  
 致悞事。軍法不貸。應訖。碇手叩頭。次。隊長聽着。應各  
 兵分有兼藝。應遠近務要中機。應爾等專自督催。應  
 不許先自錯亂。應遠近違令。畏避躲奸。爾與同罪。應  
 訖。隊長叩頭。官旗下地方哨船遠報警。升行旗。一面  
 起碇揚帆。立肅靜。豹尾旗。中軍回還本船。將尖字  
 札一齊向前。哨船近報警。各船一字擺列。前右司為  
 前層。白內擺向外。左後司為後層。自外擺向內。中司

之後、中本作之右。

出前、中本作出戰。

進戰、中本作進前、瓦、中本作用、石、中本作船。

船、中本作船。

閉、宋本作開。

聚、麻本作取、宋本作收。

列在後層之後。賊船在二百步之內。前層用狼機鳥銃。火箭弓箭等器。分班打射。次後層出前層之前。照前打射。次中司出前。亦照前打射。次前後層及中司一齊疾棹進戰。做合戰狀。將噴筒火桶瓦罐大小石子擲賊舟。賊若以小船來攻。我用大船作犁沉勢。賊用大船。我以小船作圍擊狀。賊敗。各司依次收船。如前作尖字札。回船向內開。營行還到列營原處。立表下方營。回船向前下碇安插。發樵汲兵赴中軍。船領籌票上岸買辦柴米等具。即閉營門。中軍乘脚船赴座船下。稟聚官旗查功罪。回還本船。將行操得失對

閉、宋本作開。

四遠、宋本作回還。

轉、宋本作傳。

損、宋本作哨。

衆發落。訖官旗下地方收樵汲。閉營門。舉起火傳鑼。做飯食。發哨船四遠。日落時閉營門。落旗懸燈。發放夜瞭。官軍放砲吹天鵝聲。每一擊鼓。各船傳擊刁斗。一更盡。每放砲吹天鵝聲。轉更約二更之時。某面哨船遠報警。即蓋藏燈火。各船一體藏燈。暗營。哨船近報警。將燈明開。各船一體將燈明開。賊在三十步以內。俱照晝操例防禦。賊敗。發哨船四遠。如前守更。中軍乘脚船赴座船下。稟聚官旗查功罪。回到本船。將夜操得失對衆發落。天色微明。開營門。落燈。起碇。揚帆。掌二號各船如前作尖字札。掌三號吹招船喇叭。

各船依序隨踪入港安泊。

西北聚點

諸道水陸軍俱有春秋二操而城操則一年一操平安道之清北咸鏡道之北關雖值稟旨停操之年各邑鎮冬三朔必於官門聚點私操。

烽燧

時中本作則

平時一炬賊現形則二炬近境則三炬犯境則四炬接戰則五炬京則守直禁軍告兵曹外則伍長告鎮將木覓山烽燧自東至西五炬東第一準咸鏡江原兩道來楊州峨嵯山烽第二準慶尙道來廣州天臨山烽第三準平安道陸路來母岳東烽第四準平安黃海兩道海路來母岳西烽第五準公忠全羅兩道來陽川開花山烽兵曹定人候望翌日早晨告承政院以啓有變則雖夜即告木覓山每所軍四人伍長二人沿邊則每所軍十人伍長二人內地則每所軍

六人伍長二人軍及伍長並以烽燧近處居人差定或雲暗風亂烟火不通之時烽燧軍次次馳報○木

每戶各給保三名

牛朴本作斗

第一炬初起慶興西水羅堡牛巖自慶源穩城鍾城

會寧富寧鏡城明川吉州端川利原北青洪原咸

興定平永興高原文川德源安邊淮陽平康鐵原

永平抱川楊州通于峩嵯山烽

嶺、朴本作峰。之、宋本脫

間烽初起茂山南嶺通于會寧問烽之只準營邑鎮而止者不盡錄

游、朴本麻本大本作遊。洞、麻本宋本麻本作

同○初起魚游礪遮山通于鏡城○初起吾村堡

下峯通于鏡城○初起朱溫堡佛巖通于鏡城○

初起南老知堡下田坡通于鏡城○初起寶化堡

松峯通于鏡城○初起森森坡鎮東峯通于鏡城

○初起西北鎮西山通于吉州○初起吾乙足浦

隱龍德通于北青○初起魚面堡龍峯通于端川

已上直烽一百二十處間烽六十處

第二炬初起東萊多大浦鴈峯自梁山彥陽慶州永

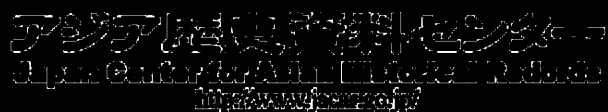
川新寧義興義城安東禮安榮川奉化順興豐基

丹陽清風忠州陰城竹山龍仁廣州通于天臨山

烽

間烽初起東萊于飛鳥通于安東○初起巨濟加

鳥、申本作鳥



羅山通于忠州。○初起熊川天城堡通于永川。○初起南海錦山通于忠州。

已上直烽四十處間烽一百二十三處。

第三炬初起江界滿浦鎮餘屯臺自渭原楚山碧潼

昌城朔州義州龍川鐵山宣川郭山定州嘉山博

川安州肅川永柔順安平壤中和黃州鳳山瑞興

平山金川開城府長湍坡州高陽通于母岳東烽。

已上直烽七十八處間烽二十二處。

第四炬初起義州古靜州自龍川鐵山宣川郭山定

州安州肅川永柔順安平壤甑山咸從龍岡三和

四、申本生本作崗。

長連安岳殷栗豐川長淵瓮津康翎海州平山延

安白川開城府交河高陽通于母岳西烽。

已上直烽七十一處間烽三十五處。

第五炬初起順天防踏鎮自興陽長興康津靈岩海

南珍島務安羅州咸平靈光茂長扶安沃溝臨陂

咸悅龍安恩津魯城公州天安牙山稷山陽城水

原南陽安山仁川富平金浦通津江華陽川通于

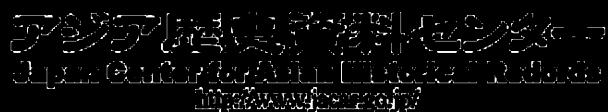
開花山烽。

間烽初起喬桐長峯島通于江華。

已上直烽六十處間烽三十四處。

案、申本麻本李等三本  
作烽。

三、申本作六。







家守令緊急軍情 各陵祭物載持備邊司回公郎  
廳徵軍關文資持將校閣臣受由之行並給馬而濫  
乘者以濫乘律驛官以私與律論驛有大中小路之  
分使客以下分路往來違者道臣糾察以聞

大君議政四七正二品四六從二品四五三品堂上官四四六

品以上四三九品以上四二上副使四三書狀官四二御史四三

通信使四三從事官四二

大路京畿十二驛中路京畿九驛公忠道二十四驛

全羅道四驛慶尙道五驛江原道六驛黃海道十一

驛平安道十三驛咸鏡道三十七驛其餘並屬小驛

一、麻本作二。

公忠全羅右道由衿川水原路公忠慶尙左道由

廣州利川路全羅左道慶尙右道由果川路

京畿迎華道本良屬驛十一分樂生駒興金嶺佐贊

水原本站海延曙道屬驛六青郊馬山東坡平邱

道屬驛十一雙樹綠楊仇谷泰安安嬾嬾田慶安道

屬驛七德豐吾川阿川楊重林道屬驛五盤石金倫

終南山花新津安平留春重林道屬驛五化百嶺玉溪丹棗湘水○

四十五

公忠道左道連原道屬驛十四林龍安丹月安富

新豐仁山坎原泉栗峰道屬驛十六雙樹猪山長

萬機要覽 軍政編一

化、宋本作花。湖、申  
本作相。更之。上。麻  
本有是。

猪、朴宋本作猪、大  
本作猪。

化、朴本作和。  
日、大本作廿。

時化合林元巖增若嘉和士成歡道屬驛十。廣程  
坡順陽化仁會洞新興田民  
共三等敬馬四維鳩丹平川迎春長命金沙。○右

道金井道屬驛十五。花川長時興昌德日興光  
順豐田下川利仁道屬驛九。鴻藍田青化豆龍田宿

○共一萬四馬二百六十四  
更○卒一萬四馬二百六十四

全羅道左道碧沙道屬驛九。鎮可波路彙山仁洛丹

別葵樹道屬驛十一。東道應令昌活引月知申洛

景陽道屬驛六。昌夫中德奇大富濟原道屬驛四。川所

達溪丹嶺玉包。○共七百三十九馬二百○右道青巖道

屬驛十一。松島林光嚴中加里綠沙參禮道屬

屬驛十一。松島林光嚴中加里綠沙參禮道屬

設、申本作坡。  
中、宋本作新。

巖、原本申本大本作巖、  
據餘本改。  
巖、原本申本大本作巖、  
據餘本改。  
中、宋本作新。

潭、麻本作潭。

驛十二。蘇安內谷扶興永原。○共三萬三千七百七

慶尙左道黃山道屬驛十六。蘆山渭川火肝谷阿月

龍明德山無屹金洞。省岷道屬驛十三。榆川西買田

山押梁凡於琴川。安奇道屬驛十一。歸琴山

文居坡和路青雲梨田。松羅道屬驛七。望昌大松登

陸驛谷長水道屬驛十四。阿火毛華陽山驛。清通朝驛

仁庇富鏡平昌樂道屬驛九。昌宣安通明竹洞。道深

○共一萬三千七百八十三。○右道自如道屬驛

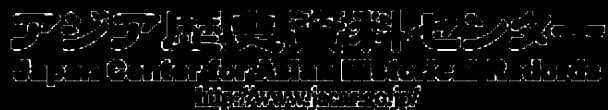
十四。新豐近仁靈浦。巴水春谷保平良洞。召村道

泉、宋本作川。甫、宋  
本作浦。

栖、申本大本作棲、朴  
本作西。

火、宋本作化。

道深、申本作庭深。



和、宋本作化。

洛、大本作樂、宋本作治。

間、中本作間、麻本作潤、守、中本作水。

鎮、朴本作珍。

嵐、宋本作楓、山、朴本作山。

神林、宋本作新林。

臨、中本作林、富、麻本作異、元、朴本作原。

屬驛十五、平居文和、富多、永昌、東溪、官栗、松道、新

幽谷道屬驛十八、雙城、名德、通、洛、原、洛、知、保、守、陽、山、洛、安、西、溪

仇味、安、洛、平、上、迎、林、香、沙、斤、道、屬、驛、十四、新、歸、安、閑、碧、臨、水、召、正、南、谷

栗安、間、正、守、右、麟、新、興、金、泉、道、屬、驛、十九、秋、風、文、扶、桑、山

乃、長、谷、勸、安、高、平、踏、溪、安、彦、茂、村、○、兵、三、等、馬、鎮、九、百、陽、吏、作

四卒百八十一、三千

江原道銀溪道屬驛十八、田、新、安、昌、道、雲、山、道、直、木、川、生、昌、川、豐

稜、春、水、仁、長、奴、富、林、嵐、保、安、道、屬、驛、三十、原、丹、丘、山

安、仁、神、嵐、安、保、富、昌、楊、淵、延、平、藥、水、平、安、碧、原、昌、好、善、保

珍、富、浪、臨、溪、高、丹、雲、橫、交、祥、雲、道、屬、驛、十五、降、倉、麟、巖、丘

波、朴本宋本作坡、貞、中本作正。

共、麻本在馬之下。

安、中本作守、吳、宋本作山、麟、李、等三本作獲。

木、李等三本作水。

剛、宋本作淵、大本作則、汀、朴本作完、史卒、原作卒、史、據餘本改。

嘉、大本作佳、新、中本作謂。

險、中本作論。

理、山、牛、宋本作里、山、中、牛、人、宋本脫。

清、澗、竹、泡、雲、根、明、波、大、康、高、平、陵、道、屬、驛、十六、柯、交

豐、直、平、大、昌、木、界、丘、山、冬、德、○、富、水、山、德、新、達、孝、洛

三十卒九千

黃海道金郊道屬驛八、龍、泉、劍、巖、洞、寶、山、敬、天、城、麒、麟

道屬驛十、延、陽、直、所、木、所、坪、茶、滿、安、山、青、丹、道、屬、驛

九、○、維、安、新、行、金、洞、二、百、二、金、剛、二、吏、望、汀、深、千、三、百、十、南、山

平安道大同道屬驛十二、興、安、定、肅、寧、安、生、雲、陽、林、車、畔、安

良、策、所、順、魚、川、道、屬、驛、十九、開、館、平、隨、營、所、吉、立、里、草、城

館、從、浦、上、下、北、洞、興、州、○、上、里、古、理、山、牛、場、一、古、延、州、入

五千三百一



驛 遞 各道屬驛 成鏡  
 驛位田 成鏡

九二

際、宋本作。守、大  
 本作水。  
 應、朴本麻本宋本藤本  
 作。人、宋本作。  
 終、施、朴本大木脫。  
 改、原、作、明、據、餘、本  
 緩、保、石、宋本作。柔、石、保。  
 鍾、申、本、作、鏡。  
 撫、朴、本、作、式。

成鏡道	高山道屬驛十三	關山、良山、奉龍、朔安、火燈、原
平原	蓬山、居山道屬驛二十一	川、威、原、新、恩、平、浦、五
終浦	熊耳、呼麟、虛川、虛麟、惠山、積生	輪城道屬驛
二十一	寧安、村、永、康、山、樸、村、山、懷、石、慶、石、撫、安、邑、鹿、野、撫、寧、德	
九明	馬乳、燕基、古阿、山、萬、江、陽、千、維、撫、百、〇、共、三、等、馬	
驛位田	大路二十結	黃海道加二十結 中路十五
結	兩界加小路五結	兩界加長二結 副長一結 五
十負	急走五十負	大馬七結 中馬五結 五十負 小
馬四結	緊一路則急走加五十負	大馬
附撥站		

祖、宋本作朝。  
 步撥、李等三本作步撥。

宣祖三十年	設擺撥以傳邊書	騎撥每二十五里置
一站	每五站撥騎將一人	步撥每三十里置一站
西撥	騎自京畿京營站	館華由黃海道舊官門站
川	至于平安道所串站	共為三十八站
安道	十三站	間路步黃海道五站
四十三站	江自博川至	
北撥	步自京畿豆險川站	州楊由江原道豐田站
至于成鏡道	阿吾地站	共為六十四站
道五六站	成鏡道	間路成鏡道十站
道五十五站	成鏡道	間路成鏡道十站

萬機要覽 軍政編一

九三



則、麻本脫。

人率入直軍五名各從字內達夜別巡三營入直將  
 官各一員率軍士五名自罷漏時至天明考察字內  
 又定校卒各一人巡兵曹亦時時都巡摘奸。○社  
 稷墻外三軍門牌將一人軍士三名分日輪回巡邏  
 ○京城內外則三軍門兩捕廳各定校卒作八牌分  
 字內行巡而三軍門則分日輪回訓局初日寅申牌  
 將八人軍士八十名自一掌苑署至南鑄字洞三牌  
 ○敦義門南邊至鐘門外西江牌自敦義門北邊至  
 八漢江自崇禮門外至大門外西至麻浦嚴○禁衛營中日午子  
 西卯牌將八人軍士七十八名。一清洞自與仁門北邊至

通、藤本作惠。

窟、申本作造。

須、朴本本作津。

口門、大本作口洞。把  
子之、申本、本李  
等三本作字、次同。  
外、麻本脫。

○門南邊自至敦義門北邊至三牌自清敦義門南邊自弘濟院  
 山三門外至梨院○六牌自麻浦至西內水庫○御  
 七牌自土亭至梨院○六牌自麻浦至西內水庫○御  
 營廳終日未戌牌將八人軍士六十四名。一水牌門北五  
 三邊自廣惠橋至敦義門五間水門南邊至崇禮門水門○  
 至橋水○踰峴○自敦義門外禮至梨院○與仁門外  
 楊花峴鎮左捕廳軍官八人軍士二十二名。一禮門南邊  
 外至駝駝下洞自鑄字洞至駝駝東邊三牌自生殿西洞  
 五東邊自把水口橋西邊至典洞○子橋東邊自鐘閣及銅峴  
 與仁門外至關王廟自右捕廳軍官八人軍士十六  
 名。一彰義門外曹東邊自三曹洞後洞南邊自昭義門邊



藥、大本作榮、兵曹判書、宋本脫。

門○外北邊自昭義館門及鍾閣至崇禮門○五牌自敦義門及藥峴峴至崇禮門○八牌自崇禮門外至萬里○兵曹判書三軍門大將兩捕將間間出都巡○左右巡廳分字內行巡禁火傳漏申飭及各城門抽籤專管舉行巡將監軍各二員每日自兵曹受點申時受牌於殿庭翌日還納左廳字內鍾閣以東巡將監軍各一員率員役一人軍士二名行巡有廳軍官三人各門仁門五間水抽籤軍三名收籤軍一名右廳字內鍾閣以西各門崇禮門敦義門巡將以下上同城內外警守所俗稱處十六處右一牌議政府前二牌工曹前

二牌乃至七牌、宋本作三牌乃至八牌。

八牌京營庫前六牌昭義門外七牌崇禮門外蓮池下二牌齊洞六牌水標橋七牌興仁門外五軍號兵曹入直堂上每日申時親書封押本曹郎官親呈政院啓下本曹無行公堂上則捨府首堂舉闕內則四所部將扈衛廳局廳漢旅廳軍官受去訓局則內入直哨官受去自門隙出給南營哨官闕外各營則當該將校來待敦化門外守門將受去亦自門隙出給軍號於同伍軍士者○私傳軍號凡行巡人皆受軍號闕內人及牆外人俗謂立遇他軍人信地俗謂輒相應循環不已至罷漏而止都城內外行巡牌

謂、藤本作號。

將原作覆，據條本改。

及、宋本在士夫之下。

將軍士或相遇問軍號不通者則以犯夜人捕治。  
 二更後五更前大小員人毋得出行若因急速公務  
 疾病死喪生產等不得已之事而行者保授所至之  
 家翌日告本曹覈實無故行者付隣近警守所以次  
 違授囚於巡廳三品以下直四堂上官及兩司官員  
 將告翌日報本曹若詐稱犯禁或受贈故放者以軍  
 令論見原典犯禁夜行人捕付警守所翌日各其營棍  
 治初更十度二更二十度三更三十度四更二十度  
五更十度見續典○朝官及士夫接隸並草記而  
按隸之為不棍治宮城各門軍舖及都城八門更籤自  
 巡廳收捧還納于兵曹宮城各門內則軍士受籤

外軍舖及各門則巡邏軍收籤都門則巡廳  
 軍收籤至明納于巡廳自巡廳還納內兵曹

及、宋本在門之下。

備局、宋本脫。式例、  
朴本作定式。

各司員役不可無侵夜舉行之事故酌量定額成給  
 勿禁帖以為憑信之地而每式年自備局捧甘各司  
 使之書送夜標於當次營門三營及左右捕廳俱為  
 着手決後巡廳則不着手決當次營門成貼送于備  
 局則備局一依式例照數分給舊帖交周而如有闕  
 失之弊則自備局決杖五十後新標成給。  
 宗社廟宮有所重諸處所及各宮房錢穀衙門街路  
 伏處座更軍各二名一從家座次第輪回守直而大  
 君王子公翁主大臣 國舅及盲人獨女無率丁者





句管堂、大本脫。

己卯御營大將並例兼提調癸巳始差八道句管堂

上各一員使有司堂上四員各兼管二道其後各道

句管堂上八員實堂上中分差英宗丁卯守禦使

摠戎使甲戌禁衛大將 正宗癸丑水原留守乙卯

廣州留守亦並例兼提調書吏十六人舊以八道營

吏今以京書寫一人庫直二名使令十六名大廳直

一名文書直一名守直軍三名撥軍三名

本司堂上筵稟或草記啓下光海時有司堂上三望

啓下堂上例文武郎廳單望書入武郎廳中參下四窠則

曹司有司堂上於公廨取才備三望受爲字於大臣

六人、宋本作六名。

吏之下、宋本有屬。

單望書入。

取才時諸郎應各薦三人雖散人通上

陞叙或守令除授事草記再滿十五朔後亦大臣記書

堤堰司革罷後移屬本司都提調三公例兼提調堂

上中二員啓下一員則以戶曹判書例兼矣。 正宗

甲寅以曹司有司堂上永爲兼察事定式郎廳兼吏

則本司書吏兼○貢市堂上二舟橋堂上皆於本司堂上中

差下而例兼堂上不得兼差。

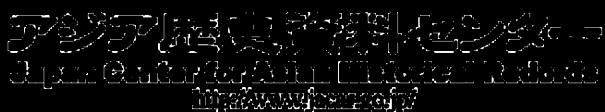
副提調陞資則以有司堂上更爲差下。○有司堂上

以職務相妨例不得兼摠管故或除拜則草記改差。

○曹司有司堂上實職遼改則草記付軍職而無過

事、宋本大本作使。

故、宋本作則。



兩日正宗己未定式○有司堂上籌坐日草記出草例爲執筆故資至輔國則禮數有礙減下有司之任

本司堂上若拜臺職則凡廟堂公會雖不進參例無

違改或值出疆兼帶往來郎廳若除臺職則遞改祖宣

癸巳惟獻納李暉光以纂集事兼帶○本司元無式暇及服制相避之

法肅宗丙戌刑曹判書徐文裕爲堂上左議政徐

宗泰以坐次非便陳筭命考可援之例政院啓言此

是稀有之事招問備吏則曾在先朝故相臣金壽

恒在相職其兄故相臣金壽興爲戶判會于備局時

以禮數非便相臣避入房中至於朝廷班行各以職

吳大本脫

局之下大本有之

事大本作例便宋本作更

次序坐及金壽興大拜之後以入相次第列坐而無

拘碍相避之事英宗己丑領議政洪漢洪樂上曰

免請難過依例復授矣許遞此後父在相職則右宜許遞

難尹著姑不啓言公備局考堂上李昞騰錄自前多子同如入座日勢

今而領相例有父子者一請申並飭察行公上曰嚴飭使姑勿行論公

樂領性也洪

舊制賓廳次對一月行三次初二日十三日肅宗戊

寅更定其式每月以初五初十五二十五三

十日爲日次而三次則原任大臣亦爲入來今則原

不爲特入教則○次對日次或值齋日及應頓之日則具

具大本作俱

由頃稟大臣若俱有故則亦爲頃稟而時無行公大臣則首有司堂上言送頃稟○正宗乙巳大臣有故有司堂上就議後與稟事諸堂依例來會後以爲例每因特教舉行不得循例來會○正宗丁未領議政金致仁啓言次對諸宰有可稟之事先與大臣相議陳達自是規例而近則不然請申飭遵舊○籌坐及賓坐將臣例不得懸病有實病則言稟大臣房○正宗丙午將臣李敬懋以情勢賓坐牌招不進 教曰雖以備堂牌招身爲將臣納牌不進揆以紀綱萬萬寒心仍命義禁府拿勘○仁祖戊寅因大臣有故特命提調坐衙如有覆

雖、宋本作權。

奏之事有司堂上就議大臣以啓○本司坐起不拘齋日逐日來會古規也寢廢已久近則間開坐而已 正宗戊戌齋日則不坐特教定式 正宗甲寅教曰此後如有民事之可以趁時稟處者雖值齋日皆以草記回啓仍令定式以重民事○次對及本司坐起日堂上進不進單子書入而若不備三員不得爲之故牌招進參事草記或以位不齊頃稟○耆老大臣堂上及輔國堂上不參籌坐 四都留守兩界監司義州府尹東萊府使濟州牧使正宗癸卯因特教廟薦統制使平安兵使受薦於諸堂上後備

三望入啓諸堂上各薦三人古例則堂上所薦或為一人二人多不過三人而必以議薦中人擬

○按覈慰諭監賑巡撫等使並自廟堂啓下遠接

使伴送使有勅奇令該曹差出單啓下事筵稟或草記

而若陞差送則直為啓下○暗行御史抄啓事命下

則堂下文官中抄擇以別單書入之意草記入啓數則

無定宣惠廳宣武祠皇朝人及忠武公李舜臣孫朝人及忠武公李舜臣鑄錢

所堂上筵稟或草記啓下

各營大將嘉善以上始為擬望而不循資級高下一

從通望次第備三望入啓或他望乏之時以二望擬

入具山草記 正宗丙午因領議政鄭存謙所啓將

矣、宋本在行末

於、宋本脫。

望之下、宋本有矣。

重、藤本作使。

日、宋本作日。

望勿以通望次第排擬資級隔等者以資級次第擬

望事定式矣丙辰因特教復以通望次第擬望定式

○正宗戊午文宰之只經揔使者不得入於三局大

將望時任訓練大將則勿擬於揔使望事稟定○將

望體重不得經宿故 肅宗己巳訓練大將差出時

兩大臣俱未出肅有司堂上依例就議大臣後薦望

○仁祖己丑揔戎使金應海降資因司僕納符命廟

堂定奪本司以揔戎重任不可輕遞今雖降資猶是

堂上官通政之為巡察亦有規例姑令仍察允之正

癸卯啓日揔戎使啓下都監中軍則兩任不可兼帶揔戎使

論之也。任改差何如。教大將自望點下之後。前例有無。非可

選差似當。代直出。○臺諫除拜將任。則廟堂啓遞臺職。宗肅

選。宋本作差。

丙寅。徐文重。丙午。雖完。戎使。以金思穆。拜大司憲。命議于

任。視三營。有守。擢兩營名。雖將

三堂。大本作列。書。本。作。三。堂。

孝宗壬辰。吏曹三堂俱闕。因政院啓辭。自廟堂參判

薦望受點。其後或值銓堂俱闕。或有故之時。則間或

因特教薦望。而只差出亞三堂。○正宗戊申。領議政

金致仁啓言。向以經筵國子通後。始通三銓事。筵稟

定式。而自前廟薦例。不拘履歷。蓋以廟薦異於銓法。

惟人是取。故也。元舉條中。以廟薦外三字。添書付標

何如。上可之。

凡廟薦罷職及罷職不叙人。不拘擬望。而將望則其

代不拘還擬。○雖非廟薦。凡闔帥赴任後。遞易廟堂

主管。該曹不得擅斷。

諸道春秋水陸操。取稟狀啓齊到。參量本道事勢。設

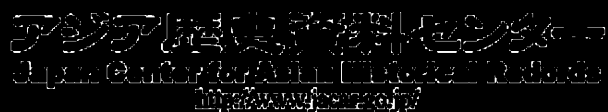
行與停止。問覆啓行會。若停操之時。官鎮門聚點。申

飭舉行。春則二月。秋則八月。內設行。三南。京畿。水操。

止而只行。前洋操。只行。春。操。城。操。○行操之年。巡點勿疊

行事。正宗庚戌。特教定式。○諸道習操狀啓。若踰

春秋孟朔初旬。當該道帥臣論勘事。正宗丁巳。定



經之下、朴本有遺

式○江華喬桐永宗行操之時赴操軍賞格木自本司區劃故慶尙監營射軍木全羅左右水營休番木分排上納後自本司照數分給於各該營

或木及上兵來捧廿

取賈先爲

即、宋本作則

諸道災實分等狀啓無或遲滯隨卽稟處而以草記

稟處則原狀啓粘入

○正宗後癸卯、實分等狀啓齊到稟處

原狀啓及回啓並爲啓書作册入啓事定式

勅需堤堰松政烽燧還餉分留軍器摘奸啓稟後發

遣郎廳 正宗己未東南蠶室種桑間二年十月內

遣備郎摘奸後草記事因傳教定式

詰、申本作贊

英宗庚寅因領議政金尙喆所啓諸道舊還趁開倉前參量各道之豐歉分排定數草記行會使之收捧事定式

各道還餉捧未捧狀啓齊到後未捧守令邊將中居末居二居三依通編草記論勘自備穀未滿十石守令亦論勘居首論賞

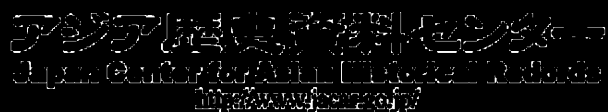
八道四都歲末磨勘成册上送本司自本司入啓

凡松政飭禁至嚴戰船漕船江華 御駕亭子船運

石船津船訓局待變船船材及外都庫木物

磨今水庫

藏水木物司饗院輪臺板足臺板司僕寺馬槽板堤



真、申本作即。

幸行、大本之外諸本皆作行幸、次行同。

行、朴本脫。

一百、宋本作二百。

寺、麻本宋本作司。

暖水筒木、自本司直令斫給、外此則無論株數之多寡並筵稟施行。正宗成中類

幸行時、大臣於本司留都、凡有摘奸之事、發遣本司

郎廳。○幸行多日經宿時、堂上輪回入直於本司。寧陵

齊厚陵溫陽幸行時

西北兩道襦紙衣及木綿去核、每年秋、有司堂上詣

本司、看品捧上、分四運、刷馬次、次替運、令禁軍領送

後草記。北關先運、花二、千一作、百三十八、同、零、惠、應、來、納、而、納。

核、自、該、寺、後、分、運、授、紙、衣、一、年、則、監、七、百、人、二、十、三、領、一、人、使、之、去、

二百三十四、四、領、紙、環、衣、二、送、百、六、十、五、領、先、關、運、西、襦、衣、一、百、衣

栗、宋本作給。

四十五、領、紙、衣、一、百、四、斤、領、貢、人、來、納、○紙、衣、以、紙、爲、外、  
拱、以、木、爲、內、拱、重、四、斤、襦、衣、內、外、生、木、着、絮、重、準、三、  
兩、斤、封、裹、空、石、

異國人漂到狀啓入來、水陸間、從自願還送之意、覆

啓知委、而衣袴及越海糧、禁雜人護送等節、申飭、漂

人若路、山、京、畿、則入弘濟院、後發遣郎廳、更爲問情、

衣袴雜物、別爲題給。湖、南、則、漂、人、願、從、水、路、不、待、回、

正、宗、式、○漂漢人從陸還歸者、內地人則別定咨官

領送、若外地人、灣府譯學、領付鳳城、咨文、定禁軍下

送灣府。

各司員役夜標、自本司依定例頒給、而每式年捧甘

漂、朴本作後、宋本作標、麻本作已亥、藤本作癸卯。



各司及當次營門寅申巳亥調局子午卯辰戌丑未御營各該司書帖直送該營自該營輪回手決成帖送于本司則收

捧舊帖換給新帖夜標關失者決答

擔樞軍丁及駕牛題給事自本司知委而擔軍則草

記會經承旨防禦使東班二品實職而身沒外任者

客死京中者卿宰以上受山下鄉身死者並擔軍

題給守令邊將之在任身死者鄉外方者鄉人之第未還

帶職名身死京邸者鄉儒之居勿洋身死

者駕牛題給○幕碑非啓請之則勿給

兩西松都軍校之因公上來者北道人初試後赴舉

回還者進上牽夫及領來者自京因公幹下去者無

論撥刷馬並成給草料有時急騎驛之事則分付兵

在任李等三本作任所

赴朴本作復

曹待令

正宗丙辰因下教各司能書無得直爲捧甘一遵定

式關由廟堂後自廟堂捧甘定送事草記蒙允

英宗己酉右議政李堞啓言使行時八包外非備局

分付則無得加送銀貨允之

箭竹每年依定式收捧於兩湖產竹邑鎮以爲京外

軍物需用而內而軍器寺各營門外而三南外諸道

營闔防營及守令論報請得則參量題給每年所捧

四十八浮九十七筒湖南三百二十七○樺皮分排卜定於咸鏡監營南

北兵營而有京外請得之報則參量題給一如箭竹



則、宋本脫。各、申本  
作合。

種、麻本大本作楨。

關之下、宋本有於。

給、藤本作送、該、大  
本作道。

而朱、申本李本朴本宋  
本大本作朱而。

例。司儲垂之數各爲百時卜定。○海松子、每年九月卜定於京畿外諸道水營以爲畿輔關防播種之資、而隨其請報量宜題給、禮曹卜定罷後、各陵寢或有播種之事則亦爲報司取用。水營各五○落幅紙、每科場依定式捧甘試所、元數內收捧三分之一、鄉試則發關各道、元數內十分之八捧納、而待京各司各軍門請報、依定例題給、至於兩西北道、會錄於各該監營、而該道營闔及防營請報則量宜指數、以會錄條中取用之意題送。會試科場亦依初試例、收捧而朱、草紙、東堂紙與落幅紙一、體收捧。英宗戊午、啓曰、備局例捧落幅紙於試所、而今番以未

持往、大本作往納。

準數退送、則二所試官朴師洙乃以試所分來之、自已試紙出、授備局書吏、使之持往備局云、事體駭然、勅使之入來、只隔一日、地部之遞易雖重難、朝廷不可一日無體統、戶曹判書朴師洙罷職、新判書未差出間、延接凡事、令次官舉行、何如、允之。  
慶尙監營射軍木十同、全羅左右水營休番木各五同、每年上納、本司郎廳帽債、員役衣資及其他、不得不用者、並以此需用。正宗壬寅、定式。○當守戊辰、因慶尙監司尹光顏所報、射軍木五同。  
本司所用虎豹皮方席、每式年依定式發、關於諸道

營閫使之措備上送每營一立京畿則只水營下定

英宗癸丑左議政徐命均啓言各道請得空名帖有用餘則置簿重記而實有弄奸之慮今後則用餘還爲上送記付則宜令燒毀上可之 正宗辛丑因

傳教賑餘空名帖之未及發賣留置賑廳者分付賑廳郎廳取來有司堂上照數洗草此後設賑時如有未分之餘帖畢賑後卽爲封上本司洗草後草記定

式通編非一道大款外勿許

英宗戊子傳曰今聞諸道狀聞中或有無膽報之處樞密使豈有不知之事此後令備邊司申飭諸道

名宋本作石

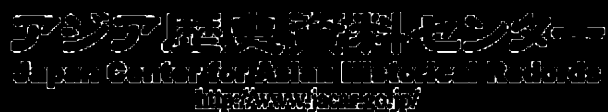
雖麻本作無

郎大本作司

肅宗戊子啓曰文郎廳三員騎省兼郎一員合四員而數月以來坐起時無一員來參古規文郎與武郎一體執筆回公而近來雖不一遵前規開坐時參謁亦不爲之名流之怠慢自便至爲未安不當一任其弊習在外一員外並罷職何如答曰允

正宗辛丑各司久任入侍時備邊郎一體入侍事特教定式

郎廳二員留司一則入直一則回公只入直省記







差律官一、刑曹書吏一、庫直以下員役共二百五

十四料並布

〔一〕中本替本大本脫、以下做之。

〔一軍色〕禁軍保扈輦隊內吹保收布以爲將校軍兵員役放料朔下之資有遂朔上下者有春秋兩等一年三等四等上下者又有一年一度者隨時別下者作爲簿册摠以名之曰魚鱗式例

收布摠數○禁軍保一萬九百九十五名祿直一千九百七名扈輦保一千九十七名內吹戶一百九十六名保一千三十二名都數爲一萬五千二百二十七名每名收木一疋庚午則二疋而爲一疋英宗而或許作

六名之名、宋本脫。

木、中本麻本李等三本作布。

東純、宋本作西純。

錢	南 <small>京</small> 海 <small>圻</small> 西 <small>關</small> 東 <small>木</small> 純 <small>錢</small> 參 <small>三</small> 產布邑納麻布 <small>關</small> 陵 <small>東</small> 蔚 <small>珍</small> 平 <small>三</small> 海 <small>平</small> 江
兩	正 <small>京</small> 錢 <small>圻</small> 一 <small>千</small> 九 <small>百</small> 三 <small>百</small> 六 <small>十</small> 六 <small>十</small> 兩 <small>湖</small> 南 <small>西</small> 木 <small>六</small> 十 <small>九</small> 同 <small>三</small> 十 <small>三</small>
十	同十七疋布七同二十疋錢一萬六千六百八十
兩	正 <small>京</small> 錢 <small>圻</small> 一 <small>千</small> 九 <small>百</small> 三 <small>百</small> 六 <small>十</small> 六 <small>十</small> 兩 <small>湖</small> 南 <small>西</small> 木 <small>六</small> 十 <small>九</small> 同 <small>三</small> 十 <small>三</small>
十	布 <small>三</small> 同 <small>三</small> 十 <small>三</small> 疋 <small>一</small> 疋 <small>二</small> 錢 <small>六</small> 同 <small>六</small> 千 <small>四</small> 百 <small>五</small> 十 <small>五</small> 錢 <small>三</small> 八 <small>兩</small> 六 <small>十</small> 兩 <small>嶺</small> 南 <small>四</small> 木 <small>三</small>
兩	海 <small>關</small> 西 <small>東</small> 木 <small>布</small> 一 <small>十</small> 五 <small>疋</small> 同 <small>十</small> 四 <small>疋</small> 六 <small>錢</small> 二 <small>千</small> 一 <small>千</small> 五 <small>百</small> 十 <small>五</small> 兩 <small>八</small> 兩 <small>四</small> 馱價
元數中計減	京 <small>八</small> 圻 <small>十</small> 不 <small>爲</small> 爲 <small>一</small> 除 <small>日</small> 程 <small>十</small> 疋 <small>每</small> 以 <small>同</small> 下 <small>每</small> 日 <small>五</small> 尺
均應給代	○英宗庚午良役既減一疋所減之代自
均應給代	同 <small>一</small> 疋 <small>三</small> 百 <small>七</small> 甲申坡州陞防營時軍保移屬
該營自均應給代	一疋 <small>二</small> 十 <small>疋</small> 正宗己酉高陽軍保疊役



者特爲蠲減亦自均應給代正木代錢十一合木三百七  
 同四十三疋推以米詳見給代磨鍊  
 均應換買米○將校軍兵員役有不可不以米支料  
 者而以本色無米邊歲入故均應給代木中一百五  
 十九同三十二疋零除留該廳以該廳米移來取用  
 三木一疋折錢折米一兩石每年米四千三百十五石每將校  
 斗奴兼料九斗僕軍書吏十庫直斗文書良軍各兵一石九斗使各房直各書十  
 多吏各加一減不一湖應新下差爲將校計五日十料餘軍石物隨其補兼匠料  
 裁並錄以每此月二隨十五入日取用色年郎各應不詣均今願以與均年應郎下應  
 放眼料同

植朴本脫。

事定式宋本作定式事

十六宋本作六十

俵宋本作採

料朴本作放

換申本作還

三十申本作四十

年例捧入○二軍色定式移來錢六千兩爲英宗癸巳  
 午同定式一移兩二錢爲代錢移來需事定式丙○二軍色  
 給代木一同十八疋移正屬華戊午龍府自仁二軍色給代保○  
 二軍色移來近仗軍士各色執吏書吏料米代錢五  
 百十六兩申近仗軍士判書李湖文源筵無稟米布正宗一戊  
 四百八兩申近仗軍士判書李湖文源筵無稟米布正宗一戊  
 出料給於一馬夫契上下人使定式賀米一年一朔布石錢納中于一均百應八軍十兵  
 合兩爲自九二軍六石移來而四元石額以二爲十閏名朔每支朔料米之八需○一各年  
 磨色鍊時吏以書均吏應會換質料米同矣爲上英宗甲戌式標每下軍朔料布米  
 兩錢自二三軍百色三移十六○三道屯稅錢二百七兩京諸屯陰在



竹、楊、俱、揚、州、廣、州、湖、西、忠、州、恩、津、海、正、宗、扶、餘、瑞、山、連、山、定、山、湖、南、嶺、山、羅、州、靈、巖、等、地、  
田、差、送、將、校、收、稅、營、以、納、也

逐朔上下○將校軍兵員役朔料米、以、均、應、換、上、質、○  
員役朔下及馬料等木八同九疋零、十二朔合九十  
八同八疋零、禁軍能麼兒講紙債別將疏筭價、雨裝  
直雇價錢六兩、十二朔合七十二兩、

一年四等應下○禁軍堂上軍官教鍊官員役以下  
等布及衣資木四同二十七疋、一年合十八同八疋、  
一年三等、春、夏、應下○標下軍兵奉足木十七同十  
六疋、夏、等、則、十、四、一年合五十一同三十四疋、

其宋本作長。

春秋兩等○禁軍將校別軍職卜馬軍馬草價、  
隊保布、將校衣資、試射時紙價、褒貶時例下、坐起時  
點火柴木價七十三同、兼、五、同、禁、軍、馬、草、一年合一百  
四十六同、正、宗、乙、卯、兼、修、禁、軍、資、馬、草、價、每、年、十、同、五、除、  
邑、軍、保、移、屬、該、一、府、所、移、減、之、代、自、二、軍、以、補、色、給、代、而、需、  
一年一度○內吹替番木、將校軍兵軍服債、龍虎營  
移送木、標下軍員役歲饌例下、曆書筆墨紙地、炭燒  
木價、各道草都錄債、棍杖木價、合、木三十一同、錢五  
百四十二兩零、○預差禁軍祿俸木代錢二千八百  
兩、預、差、禁、軍、三、百、五、十、人、元、無、冬、三、朔、文、源、筵、京、朔、





米下石以代錢二米七八百石納于給馬夫契為冬三朔放折  
 軍雖有資料而元兵曹判書尚太筵百五十石磨  
 則鍊此以下無價應役七稅大兩使上納夫會當所當受以食納于戶曹  
 今每石三合五夕條夫色邑掌紅役人價循表不給以出之存實無報  
 非來如後例受食使該契人每朔出料米十分給於五斗都合  
 木三十一同錢三千三百四十二兩零

債、申本作債。

債、宋本作某。

與、宋本作換。

隨時上下○軍物新造及修補債、試射賞格、將校軍  
 兵軍服債、陵行時各差備乾犒饋、中甸賞格、黃蜜象  
 毛貿易、禁軍馬草帛、兼內吹黃號衣、標下軍兵單狹  
 袖債、卜馬改立添價、卜馬不足貫價、新差將校衣資

御前巡牢軍服債等並臨時磨鍊、而無恒定數○本  
 色郎廳專管出入、每年歲首、前年捧上上下下、抄出會  
 計、請出布帛案、付標入啓。

〔二軍色〕掌騎步兵、其制、騎兵四名為一戶、步兵三名  
 為一戶、騎兵上番者、一年分六番、分把闕門及廟

六當、原作六番、據餘  
本改。

收布、宋本作受布。

社殿宮兩空闕、停番者、一年分六當、當當番之實同也  
 收其布、步兵無上番並收布、以為各司員役朔布之  
 資、凡各司員役、料受於戶曹、布受於兵曹、有逐朔上下者、逐  
 當雇立者、月令上下者、每當應下者、一年四等者、春  
 秋兩等者、一年一度者、式年一下等各樣支用、作為



簿册、總以名之曰魚鱗式例

騎步兵總數○騎兵一萬五千九百九十三戶每戶四名

除上番擺撥守塚等軍上番一千三百六十八戶、撥

四戶二名、關東軍二十五戶一名、實一萬四千四百四十

名、忠愍公守塚軍二戶一名、○步兵一萬二千三百五

十九戶一名每七戶三名、作八名

收布總數○騎軍停番步兵合九萬四千八百七十二

名每名收木一疋、庚午則分八番收二疋、英宗今實

納一千八百九十三同二十八疋二十尺騎步兵每

其數為一千八百九十七同二十四疋而二十尺

未、忠州、延豐兩邑撥軍、加給三同四十三疋、英宗尺

作名、原作作爲、據條  
本改。

收木、申本作收布、則、  
作一、申本作例、二、申本

實、申本脫。

事、定式、故實  
納、如、今、數。

均應給代○英宗庚午、良役減疋時、既減、每名一疋、

又減十六朔八當爲十二朔六當、所減之代、自均役

廳給代九本九疋七疋十疋甲申、坡州設防營後、本州騎步

兵所納之代、自均應給代十一同三疋合木九百八十同

四十八疋零價以米、錢、磨、鍊、推、來、而、閏、朔、條、及、折、營、

詳、見、均、應、給、代、編。○實錢六萬二千九百九十五兩零、

各項給代○開城府納金川騎步兵給代錢一百十

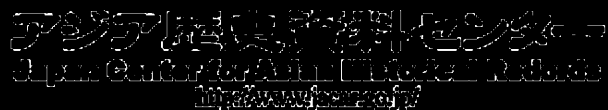
四兩正宗丙辰、金川大、小南、而、移、屬、松、都、後、兩、一、軍、

色移來錢一千兩正宗戊午、始興、等、五、邑、移、屬、華、城、

米錢、諸本皆作錢米。

行本、原本有〇、據他  
諸本除。

移來、宋本作給代。



仕禁軍祿馬草關西小米耗作錢一千七百兩正宗  
價移送本邑移屬華城後五邑軍納布之代以壬寅  
始興等西小米耗作錢封不動條中除出一千七百  
實置關西小米耗作錢封不動條中除出一千七百  
行兩付之合二千八百十四兩

均應換買米○番軍員役有不可不以米支料者而  
本曹無米邊歲入故以自均應給代木中九十三同  
四十五疋除留該廳以該廳米移來取用其數為二  
千五百三十八石上番騎兵一官三九百六十四名每朔各  
各一石有廳禮房省記石等色軍八掌吏每朔各一石  
歲末各一石有廳禮房省記石等色軍八掌吏每朔各一石  
石每名每朔九十七石曹中淨  
費條二百九十七石九斗

捧上式○騎步兵布皆以木綿而或許作錢京圻純

錢錢一萬一千四百關東純錢錢一萬二千三百而蔚珍

等六邑蔚珍平昌海江善陵納麻布布四十五疋三南海西

錢木參半而湖南之雲峰長水兩邑納麻布湖南木

十二同二十三疋湖錢二萬二千二百五十五兩三疋

十錢七疋錢二千九百六十八兩嶺南木一百五十五兩

萬一同四千二百八疋錢一六道合木七百八十八同四十

一疋零布七十三同十八疋錢十萬三千一百三十

八兩

馱價式○每同每日五尺計減十疋內勿論京畿不

不除者亦

二百、朴本大木課作三



稽留式 ○騎步布上納時未及番限者贖木二疋、二朔則三疋、三朔則四疋、自四朔以上無加徵。上納未滿十疋勿論、各年所捧多寡不同、而每三分其二屬判堂、其一屬色郎廳、以爲行下等需用。

逐朔上下 ○闕內外各司員役朔布木八十六同七疋零、十二朔合一千三十三同三十六疋零。凡木捧上以四十疋爲準、上下以三十五疋爲準、而只解尺除錢九此式全疋給者不減尺代錢給者亦不減除十兩零、十二朔合一千八十七兩零。

逐當雇立。古則騎兵之排番於闕內外各處以雇軍使掃汲水守直等役、後來自各處雇軍使願於騎兵收布防番後遂爲式。○闕內外各處雇

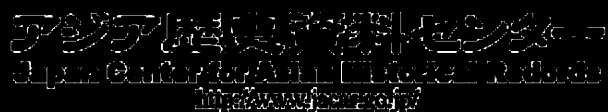
時、宋本作餘。

立價木、每當五十一同四十六疋、六當合三百一十一同二十六疋。

月令上下。造曆負米、燒瓦、浮紙、冶造弓矢、書禳辟等工、役之有月限者、與凡排月上者皆

此入於 ○一年合木一百二十一同三疋零、錢二千一百五十三兩零。

每當應下 ○五衛將曹司衛將忠翊將忠壯將守門將等入直處伺候兒房直接濟、政府古風各掌紙地等雜用木、每當二同四十九疋、一年合十七同四十四疋、錢每當二百五十兩零、一年合一千五百四兩零。



債等、朴本作等債。  
邑、宋本脫。代、每、宋  
本作代亦每。

一年四等應下○各宮守僕本曹錄事律官計士員  
 役等衣資各掌紙筆墨債等雜用內需司輸送北道  
 奴婢貢代北關鏡城等邑奴婢貢米州倉入上等每  
一石關代木三疋春夏純木秋冬參半每  
 三十四疋同六疋一疋肅宗庚子依戶曹關輸送武藝別監  
 試才賞格布木九疋同廂庫賞格布木五疋同營繕紫門軍價  
各木十五疋同純錢磨鍊而紫木春夏兩等各六十二  
 門夏等布七疋同二錢磨鍊而紫  
 同二十九疋秋冬兩等各四十四疋同二十六疋一年  
 合二百十四疋同十疋布春秋冬三等各七疋同夏等十  
 四疋同二十五疋一年合三十五疋同二十五疋錢春等  
 三千八兩夏等二千六百三十三兩秋冬兩等各四

千八百十四兩一年合一萬五千二百六十九兩。  
 春秋兩等○各 殿宮別監中禁武藝別監 宗社  
 殿宮各廟守僕衣資差備軍價錢每等二千兩外差  
 備軍價每等錢六百五十兩藥房單價每等錢六百  
 兩本曹褒貶政府吏曹參謁都政等時及鋪陳畫物  
 帽債各掌紙筆墨衣資等雜用木每等二十四疋同四  
 十三疋零一年合四十九疋同三十七疋零布每等二  
 十二疋一年合四十四疋錢每等三千八百二兩零  
 一年合七千六百五兩零。  
 每年一下○惠慶宮誕辰進獻木六疋同錢一千兩  
正宗甲辰定式奎

價、大木脫。

章閣分定、錢二兩、內需司貢價、二十七、四同、年例輸送、

錢三十兩、同、戶曹輸送、則錢四百、六、十、兩、三、錢、四、百、二、兩、正、前

十勇、正、衛、衣、資、手、條、何、六、十、軍、兩、冠、衛、衣、條、三、十、衣、資、條、木、二、同、勇

戶營、矣、壯、營、奴、罷、後、婢、賞、純、給、錢、輸、送、日、傘、差、備、輦、陪、訓、導、等、保

布、一、兩、五、番、錢、六、九、十、兩、七、番、八、十、兩、本、曹、各、色、移、送、一、六、軍

兩、千、馬、色、有、廳、千、色、兩、千、歲、幣、載、馬、馱、價、兩、錢、二、百、四、十、分、八、內

冰、庫、水、丁、馱、運、零、馱、價、五、百、七、十、五、兩、六、兩、藏、水、雜、費、東、水

庫、藏、水、軍、價、十、五、兩、同、本、曹、議、政、府、中、樞、府、臘、藥、錢、本、五、曹

資、曆、書、紙、地、員、役、歲、饌、五、節、改、火、騎、兵、過、冬、藁、子、里、

三、宋本作二。

樂、宋本作樂。

文臣朔試射調弓、各色過冬炭價等雜費、各樣給代、

正、宗、均、成、應、午、始、與、分、給、等、代、一、邑、軍、移、屬、華、一、城、百、後、五、邑、軍、身、布、色、之

六、院、百、三、四、十、八、兩、兩、內、苑、僕、四、四、十、二、兩、兩、尚、方、九、十、兩、兩、合、木、六

十四同二十五疋零錢一萬六千六百三十兩零。

式年例下○族譜廳璿源錄廳畫員員役朔木、左右

巡廳西北別付料廳本曹試射等鋪陳債、合、木、二十

八疋零布二疋零錢五十六兩零。

十年一下○堂郎軍幕、四十疋、新造價、木、布、各

封不動○木二百三十七同三十四疋、又有、江、都、南、移

十、同、錢、一、萬、三、千、一、百、七、十、六、兩、零、銀、十、萬、一、千、一

十、宋本作同。

百、李等三本作十。



百二十兩。○別錄先古則錢木布用除者將欲封不動增別錄無木六同三十五疋布八同苧布六同錢三百

取、宋本作收。

次、宋本作事。

兩。○正宗壬寅判書徐有隣筵稟以封不動錢九萬兩買置關西小米三萬石每年取耗三千石一萬石耗條一千石沁都貿銀充上後還屬本曹次劃送其餘二萬石耗條二千石作錢六千兩四千兩封不動二千兩以爲各項需用事定式己酉辛亥遇歉元穀略有蕩減一萬九千三百一十八石零實元取耗今爲五千四百二十兩零除其曹內需用禁軍賞試射支錢放四百兩堂郎排測員役路資錢一兩米一兩價戊午給代

曹內、宋本作內曹。

米、大本作送、其他諸本皆作來。

始興等五邑移屬華城後因備局節騎實每年封不動一千七百二十兩零。

正郎、宋本作郎廳。

本色正郎專管出入每年歲首前年捧上上下抄出會計請出布帛案付標入啓。

徵番○上番戶每當二百二十八戶每戶四名一名上番三名收布前期排番發關知委於諸道兵營則上番之軍各收其戶內之布以爲資裝。

六番騎兵總數○一番京畿六十二名朔寧十、楊州六、根安城十一、長湍八、江原道三十三名淮陽一、川伊陽城十、砥平四、富平二、三蔚珍四、杆城五、鐵原四、黃海道三十四名海州五、金城五、平康三、襄陽三。



延安十一、中本作延平十二。

峽二、李等三本作峽三、大陽三、林本作陽二、十、宋本作山十。山三、

六、	鳳山	四、	新安	一、	山	公忠道	六十六名	忠州	四、	瑞山	三、	魏
州	堤	八、	天安	四、	青陽	三、	公	延州	五、	洪	全羅道	十六名
二、	金山	三、	井邑	一、	成	慶尙左道	十五名	安東	四、	龍宮	三、	順川
城	興一、	義	慶尙右道	二名	尚州	二番	京畿	六十一名	楊	州		
四、	富平	七、	安城	十、	利川	十六、	陰竹	一、	根	六、	江原道	三十三
名	三、	原州	八、	金化	三、	安峽	二、	襄陽	三、	通川	黃海道	三十
三名	六、	海州	十、	平山	二、	松禾	一、	載寧	六、	信川	公忠道	六
十七名	寧州	三、	沃川	十四、	公	洪州	九、	陰	清城	二、	藍浦	三、
道十七名	金堤	三、	咸悅	一、	雲	峯山	一、	南	原	三、	昌	平
尚左道	十名	義	同	七、	慶尙右道	七名	尚州	二、	善	山	三、	開

櫻、宋本作櫻。

番	京畿	六十一名	安城	八、	陽智	六、	南陽	十四、	竹	山	江		
原道	三十四名	江陵	三、	八、	平	海	十、	珍	三、	通	黃海道	三十三	
名	四、	海州	七、	平山	二、	新	谷	五、	金	川	一、	粟	
道六十七名	原	十、	木	五、	鎮	安	九、	舒	同	八、	西	全羅	
道十七名	扶	安	一、	長	興	一、	南	龍	安	四、	淳	昌	一、
左道	八名	順	泉	一、	豐	基	慶尙右道	八名	尚	州	六、	二、	四番
京畿	六十一名	陽	城	三、	智	山	七、	長	滿	二、	州	十、	五、
仁	五、	楊	州	三、	江原道	三十三名	原	州	七、	八、	通	川	三、
蔚	珍	二、	淮	陽	一、	三、	黃海道	三十四名	載	寧	三、	豐	二、
栗	四、	谷	山	八、	般	一、	公忠道	六十七名	忠	鎮	川	三、	七、



泉 原作川、據餘本改。

原九、報恩、連山、永春、全羅道十六名、古阜州一、任茂、宋二、  
二、南堤、原三、龍潭、水二、慶尙左道十六名、安東一、龍宮、三、仁泉、  
安同、比、慶尙右道一名、開慶、五番、京畿六十一名、寧朔

潤、申本作礎、朴本麻

連本、大本李、三本作

五、豐德、川二、楊州、十一、南陽、六、長湍、江原道三十四名、  
四、漣川、十一、麻田、十一、高陽、五、黃海道三十三名、海州三、  
州、春川、七、蔚川、八、鐵原、二、原、

益、原作定、據餘本改。

興陽、大本作興德。

十、延安、六、黃州、七、公忠道六十六名、牙山一、平澤、三、韓山、  
新、昌岐、三、禮山、六、溫陽、三、河州、六、全羅道十七名、全、  
山、三、咸陽、一、綾州、一、萬頃、一、益、慶尙左道四名、安東

六、高陽、四、申本作四高

陽六。

慶尙右道十三名、尙州九、六番、京畿六十二名、積抱城、  
四、交河、一、加平、五、驪州、一、朔寧、五、漣川、六、高陽、四、金浦、

江原道三十三名、襄陽、六、蔚山、三、高城、二、鐵原、二、歙谷、四、黃海道

三十三名、長海、連州、二、信安、川、一、遂安、三、鳳山、三、公忠道六十

七名、全義、山、二、魯懷、德、五、公恩、州、七、九、瑞定、山、九、鹿、州、一、三、扶、興、五、

二、唐、石、城、二、洪、州、全羅道十七名、珍州、一、長、城、州、一、五、求、仁、禮、一、

二、錦、山、州、四、一、茂、朱、慶尙左道六名、安東、三、禮、安、慶尙右道

十名、尙州、二、八、

騎兵分把 ○大報壇、四、敦化門、七、金虎門、三、丹鳳門、

十、曜金門、七、宣仁門、十、弘化門、四、通化門、九、景秋門、

四、東所、五、西所、五、南所、五、北所、五、銅龍門、二、傳、東水

口、傳、御井、二、傳、景化門、二、傳、光政門、二、傳、仁政門、



傳漏 進善門、傳漏 馬軍營、傳漏 敦化門、傳漏 景秋門、  
 傳漏 北水閣、傳漏 永肅門、傳漏 內兵曹、傳漏 尙衣院、  
 禁漏、一、汲水 奎章閣、三、承政院、一、宗廟、二、社稷、  
 七、永禧殿、八、景慕宮、九、文禧廟、三、景福宮、  
 慶熙宮、二、軍器寺、三、火藥庫、二、義禁府、二、二軍色都  
 案廳、各、衛將所、官、房直、二、使、令、房、軍、士、將、夜、分、直、部、將、何  
候、二、炊、飯、直、一、都、旅、帥 闕內交代軍、一、○有病  
更、性、軍、一、留、營、軍、二、 每當上番騎兵、前月二十五日、本曹堂上與都摠府  
 堂上眼同開坐、分道點考下衛、下、於、衛、將、所、分、排、共、立、把、處、衛、將  
送、分 冬節則點考後從實數移文戶曹、取來襦衣、照數

衣、宋本作米。

分給後草記。

〔都案廳〕掌別騎兵、在、舊、制、有、京、保、在、於、兵、之、名、一、戶、三、保、戶  
三、千、勿、論、置、戶、與、京、營、各、收、二、疋、布、以、備、京、中、諸、處、使、喚  
歷、價、矣、設、置、戶、京、營、門、之、後、良、丁、充、額、無、路、肅、宗、使、喚  
自、午、戶、保、半、而、亦、無、額、應、募、者、矣、戊、午、京、戶、又、減、一、疋、以、開  
京、改、稱、騎、兵、特、騎、爲、革、罷、在、鄉、保、事、定、千、五、百、一、年、分、六、當  
 收其身布以爲祭享軍契貢價酬用之資。  
 收布摠數○別騎兵保一千五百名、每名收木一疋。  
舊、則、二、疋、而、一、疋、英、宗 三道木錢參半、湖、西、木、六、同、六  
庚、午、減、半、爲、一、疋 關東純錢、  
兩、嶺、南、木、同、三、疋、十、錢、四、疋、百、錢、二、百、七、十、兩  
海、西、木、同、四、疋、十、錢、四、疋、百、錢、二、百、七、十、兩 關東純錢、  
十、錢、一、百、八、兩 四道合木十四疋、錢一千五百九十

以、李本宋本作而。

開、申本麻本李等三本

資、宋本作費。

一百、申本麻本李等三



六兩馱價元數中計減每同每日程五  
 均役廳給代○英宗庚午良役減正時已減每名一  
 正又減十六朔八當爲十二朔六當所減之代自均  
 役廳給代一年分六當推來合木四同四十六疋布  
 二同二十疋錢七百二十三兩三錢元數二十五同三  
尺四寸以閏朔除留均役廳實木爲十  
 四同二十七疋零分六當木布錢磨鍊十  
 逐朔上下○恒式木十一疋十二朔合木二同三十  
 二疋  
 四等上下○員役等筆墨債木十二疋一年合木四  
 十八疋

履、大本作軍

諸、宋本脫、仍之下、宋本有以

既、宋本脫、給軍、宋本作給之軍

兩等上下○祭享軍契宗各社以下諸處一祭享大科  
 元貢價木十同錢一千兩參元數○四同初以分京騎等兵屬錢  
之五部兵房書員使之騎舉而自都案廳員計給雇立價  
矣、英宗庚午革罷京騎兵屬之自都案廳員計給雇立價  
 一軍額、割價給雇、定價、使之、上下、而行、又、庚、割、新、募、營、貢、旅、人、作、爲、十、八、名、契、  
 及、合、畫、出、十、夜、直、軍、使、之、保、軍、役、二、○、十、留、名、營、傳、旅、滿、師、軍、十、六、名、巡、移、應、屬、軍、六、  
 十、名、禱、廟、當、華、城、乙、丑、訓、鍊、以、三、院、軍、門、在、待、章、年、關、軍、等、充、諸、處、而、軍、仍、保、爲、軍、二、  
 應、罷、見、今、割、十、給、二、名、有、巡、  
 元貢不足軍雇價錢一千三百  
 四十五兩零元數二二千六百九十四錢兩加上下○兩留營  
旅、帥、十、既、二、已、分、屬、諸、他、當、處、初、課、給、軍、五、十、爲、撤、罷、不、足、爲、割、給、軍  
計、八、名、矣、每、名、當、每、日、乙、雇、丑、因、二、貢、錢、人、磨、鍊、通、 褒貶時員役食



二百一十每名收木一疋並納代錢七道合錢五千五百八十兩。關西一年都納其除六道一年分作十二

百八十兩。關西一年都納其除六道一年分作十二

中除元數補充隊落講軍四百十七名每名收木一疋、

京畿純錢關西純木其餘錢木參半。產布邑則七道

合木四同十四疋錢四百六兩。京畿三錢三十疋十錢兩六湖

十六兩。湖南一木六十四疋錢四兩八錢二兩南木一西

十價二疋錢八除關西兩則元數中除二疋年例捧入。○

二軍色移來關西忠順衛給代錢二千兩。正宗庚戌

西徒歸徵斂之科關西忠順衛出於慰撫之意到特為

革軍色以給代事定式。自二軍色定式移來錢二千四

徒、大本作都、北關、宋本作關北。

料、李本孫本作料、供、朴本作例、均應、事、本作均役、應、事、

百兩。英宗辛巳、因有應每朔官二百兩、移來、以爲支、放、朔、之、

價龍各一石、以二軍色均給、代、換、錢、米、依、均、應、折、

留式、每朔來、爲、八十、價、九、兩、十一、朔、合、一、軍、色、六、移、十、八、錢、中、除、

逐朔上下○時原任大臣領敦寧判敦寧輔國知事

宗班封君引陪員以上從及各司員役皂隸議政府中

樞府奇別債本色行用紙筆墨等木三同三十五疋

零、十二朔合四十四同二十四疋零。

一年四等應下○本色計士筆墨債及員役等衣資、

並木一同二十疋、一年合爲五同三十疋。

一年兩等應下○備邊司書吏使令衣資及本色計

士員役等筆墨債、執吏書吏紙債、褒貶時員役等例  
下、內吹習角賞格債等木四同三十疋零、一年合爲  
九同十疋零。

每年一下〇永宗鎮給代木七同三十四疋、肅宗辛未

鎮設防營後、自本色逐年移送、以爲接濟之需、事筵稟定式、本色員役等歲饌例

下捧下會計大都錄草都錄紙地茵席等債、座起時

大廳房點火債、差備有廳軍官冠帶青天翼等木四

同二十三疋零、〇都合木十二同七疋零、

隨時上下〇陵行時忠贊衛員役以下軍服馬貫糧

饌價、各都監不足、差備忠贊衛雇價、勅使時匠募軍

價堂上遞任時員役等食物例下、並臨時磨鍊、無恒  
定數。

〔一〕朴本宋本大本脫、  
以下做之。

〔馬色〕驛卒〇青坡蘆原兩驛合二百八十八名、馬戶二百

走戶八〔馬匹〕兩驛三等馬、騎、披、龍、旗、奉、持、馬、謂之上等、

下等、上、中、每、四、每、一、名、驛、卒、二、名、合一百六十六匹、上、中、下、等、七、

備、立、下、等、每、四、每、一、名、驛、卒、二、名、一百三十二匹、上、中、下、等、各、二、

結、走位田畝各五十負、給復馬戶走戶、每名給復一

戶。

立番〇每日兩驛馬各二十五匹立番於馬軍營、在、

外、門以應各項立役、旗、馬、藏、馬、判、書、參、議、一、二、軍、色、

各二、中本麻本李等三  
本作各一。

日、中本作月。

議、朴本大本作判。

人、朴本宋本立、立、蘇本作人。

命、宋本作命。

驛、申本麻本李等三本

本色、宋本作假令。

公馬入直食草下馬及立番書夜待令以爲傳  
命舉

立馬○上等馬自官備立百七十八兩二中等馬驛戶

備立官給添價十兩者則自色二軍下添給騎馬至七、八

年新納後、當年致弊則減例上下兩周

補把○陵幸時京圻驛馬二十七匹補把與司僕寺

分排正宗已西以驛屬曹司僕各十五匹

每年應捧○六道無西北驛保一千四百四名每名收

布一疋京圻九百四道一江原道六十九慶尙道一百

海道三合木二十八同四疋○均廳給代驛保一疋庚

給後均廳 木二同二十六疋二十尺布十疋錢三百三

兩○二軍色給代始與等五邑移屬華城後、自邑驛

軍代色錢六百四十八兩○吏奴貢寧金始未詳今在開

比安、草溪、星州、龍宮、清道、昌寧、禮泉、慈仁、靈木三同

零、各廳、同、○山錢府守令、邊郡、縣、朝、日、驛、收、三、兩、鎮、四、兩

甲一鎮三一千兩各廳、同、○二軍色移來錢一千兩當

色錢辰、判、不、敷、錢、翼、以、式、木、合、木、三十六同四十二疋布收

年各式、或以木、或以錢、木、參、半、或、純、錢、錢二千六百四十

八兩

每年應下○青坡蘆原兩驛卒保布分兩等合木四

寄、宋本大作案。

色木之木、麻本脫。

大、宋本作賦。

十同十六疋驛卒二百八十八名，每名下馬，太價錢  
 二百兩每分春、秋、冬、春、兩等，純錢上無位田驛卒二十四名錢七十  
 二兩每三名員役恒式錢九百七十二兩每十兩八員役  
 四等衣資錢四百八十八兩每二十等一百計士員役筆  
 墨債錢四百四十八兩每兩分春、秋、冬、春、兩等合木四十同十六疋  
 錢二千一百八十兩。

各掌事例

五、林本大本作三。

【結束色】信箭以旗葉標。○郊幸時用之，列於駕前而指  
 麾各營凡軍務守禦，應出鎮後，純用黃色。都城留門之  
正色，御營應守禦，應出鎮後，純用黃色。都城留門之

林、林本麻本作奉。

時，宣傳官持信箭並標信，另到門外，則部將祇受，  
 從門告兵曹，通于守宮承旨，請出徽旨，東宮隨駕  
慈旨，先開闕門，仍詣城門啓鑰。人定後，禁軍持符驗  
 還宮，若值夜，則闕門仍留，城門東、南、東、南、崇、禮、仁、守宮承旨  
 請出徽旨，仍留其餘各門，東、惠、化、光、熙、崇、禮、仁、隨駕  
 承旨請出信箭，仍留。

標信造以象牙，藏之大內，用於軍務及宮。○闕門留

門及仍留時，自政院請出標信，使宣傳官在門旬檢

而另有許出許入，則一依政院指揮舉行，待竣事還

納標信古則留門標信，宣傳官開門後，即為還納，仍

請、申本作仍。  
 則、申本作時。  
 時、大本作則。



指、李本林本厥本大本  
作持。  
式、申本作矣。

留供請標信事竣還納事定式。○凡留門時許出官許  
入兵曹專管內午因下致自收院。○指揮標信宣傳官  
專掌舉行。○都城留門勿論正門。○敦義仁崇禮化間門。○彰  
昭義靖光人定前閉門則用閉門標信。開門則用開門  
標信。人定後正門用宣傳標信及當門符驗。○詳見符  
間門只用開門標信仍留用宣傳標信。○正宗上丁李未本  
建自參考法例。○成出節一內書揭兩而符驗開門後先  
關兵曹外以各門直所一內書揭兩而符驗開門後先  
納標信事過後還納。○城內經宿動駕還宮時開門  
單子自兵曹預為啓下而闕門留門。○昌慶宮弘化隨  
駕承旨言送守宮承旨請出。○徽旨啓鑰待先廂來  
到開門其餘各門。○昌慶宮宣仁通化。○隨駕承旨請出

府堂、李等三本作制堂。

郊行、原本諸本或作郊  
幸、一及不舉。

更書、宋本厥本作書更。

抹、諸本皆作來。

請之下、宋本有啓、割  
註、宋本脫。

于、大本作於。

標信從其正門入來則兵曹捨府間守宮堂上。○化從入  
來則兵曹祇受弘化入來則捨府間守宮堂上。○祇受前則  
留門時標信來則弘化入來則捨府間守宮堂上。○祇受前則  
得乙通本此後判兵曹徐有隣府各建白關處門祇下鑰事定建陽門郊不  
從行時官則守體宮祇受將祇受時從門未開之際後開門。○宮前則留還  
當門該丁卯承旨臣入崔京後重院疏論此後于則依宮除幸時城開門  
兵曹請出門單啓下事定門式。○自。○郊外幸行時自行在所  
若有都城留門之命則標信宣傳官並箭到門外則  
部將祇受後告兵曹請。○徽旨開門。○詳見信  
符驗。○以一本為之用於留門。○四正門皆有符驗。○藏體  
于各大內直所。○城門留門。○正門只用符驗。○當門符



驗自政院請出入直禁軍賚去標信傳官持而時值初

更則二更符驗同為賚去更符去之際或慮過更來

同合符時只用當更符驗啓鑰後還納後人定前罷漏

信符○文臣二品以上武臣蔭官中曾經揔管人員

跟隨各司員役並於歲首頒給詳見大典

調發○郊外及城內動駕時隨駕營門及軍兵哨數

並自本曹稟旨磨鍊後傳關各營前則城內動駕時

御兩營留陣事自兵曹直為磨鍊郊幸時調局為先

無論京外動駕○禁御兩營鄉軍新番點考後舊番

下鄉前若值動駕時則新舊番軍並為稟旨出用正

則宋本作時失村

郊之下申本有外為

時宋本脫

項麻本李等三本作真

項壬寅因下教定式○上○藝文館宗簿寺奉安之行

挾輦軍及前後射隊以所經各道軍出用而宣傳官

持標信兵符馳往各該道營闔則監兵使祇受合符

後徵發調用古則自兵曹行會出用待正宗壬寅因

闕內行巡○衛將四部將四分直四所東西北西每夜輪

更自初更至三更行巡五軍各兵曹揔府郎廳亦

為分掌巡檢古則陽以望前望後各一次行巡矣正宗

逐夜巡察察劭衛卒直等事無所不檢入按視門鑰

同該門守將違者罪之

前宋本作先

巡審○本曹郎官直入每於中日子午卯酉巡審闕內申飭

修掃正宗庚子教日兵曹郎官御路內四所一衛將推

將及入修潔若有不勤則該所衛

嫡奸○隆冬時宿衛軍校之衣薄寒凍者本曹入直

堂上躬審書啓令各該營周給絮綿正宗丁未因

能麼兒講○吏兵批堂下武臣年限五十能麼兒

廳堂上營訓練都正三考講兵學指南後四季朔會報

本曹居不者自本曹從輕重草記論責詳見大本曹

判書時或數問或抽柱試以已誦之陣三陣俱不者

亦爲論勘正法庚戌因下教本曹判書問或抽柱本曹

官、朴本作廳、中日、李等三本作日中、再續、朴本作續、此、李等三本作次、中日、申本李等三本作日中。

續、諸本皆作摘。

未、申本作卯。

不、宋本作下。

法、申本作曹、會報、申本在本曹之下、戊、申本作午。

式定

文武試射○文臣堂下每月二十日設行有稟故文武

各一員從二備擬二監試無論實職軍職外不進禁

行有稟故亦差文武各一員從二監試年六十以下應

武臣堂下每月二十二日設行有稟故職月勿行兵曹

判書監試年六十以下應

擬望○別雲劔曾經政府西壁六曹長官及亞銓人

員中排擬受點以二員備望實差四宗親儀賓將

臣勿拘備擬古則以大判臣之未經亞銓者亦皆擬入

下、宋本作上。

獎、朴本作辟。

賞差、預差之差、大本作次。

品、申本作案、君、宋本作臣。



正宗丙辰因下教就式捕將品從二禁軍別將勿能散並

備三望守宮大將時郊幸備二望擬入守宮實及捕將應從

其自望將下幸時左右捕將並為隨駕編以在

巡將○文武臣及中庶賞加人員抄啓數無定分定望

前望後遂日書入受點二後分所行巡後左右關受將申

牌人定後分字

軍官○諸道監司闔帥留守御史使臣所帶軍官因

其自望口傳啓下防禦使以下本曹依施

禁宣本曹郎應○凡殿座及動駕外衛及內本曹專禁府掌衛

營隨分該時攔入喧嘩者從輕重懲礪跟隨濫率之員

分定望、申本麻本李等三本脫

檢、宋本作察

史、申本李等三本作

聖、宋本大本作仰

掌、申本麻本李等三本作

草記論勘○近仗軍士本乙亥以雇軍十名權差正英西宗

以後、增額至為二十七名分把各門每門一名專管禁喧每

十名殿座及動駕時七雙待令於帳前其餘分定差

備禁察衛內

申聞鼓○事係四件由敦化西挾入來則自本曹草

記後出付秋曹推問以啓不然則勿施川正宗已西提邑

俸付與遺滿守兵曹草記批旨內此後似火勿為煩徹

論賞○正法賊名五及劇賊名一捕捉加資指示寺奴亦同免賤○

○捉虎五頭管連頭以上加資以下米布量給處陵雖三近

頭加資官○拯活人命分等施賞資十五名以下米布以上加

似、李等三本作以

黃、宋本作賞、官、申本

本麻本李等三本作



殿宮、李等三本作宮殿。

鍾閣、宋本作各鐘。

俱、大本作具。

〔省記色〕闕內各司闕外 廟社殿宮兩宮闕及各營

各門 昭義門、興仁門、惠化門、敦義門、肅靖門、彰義門、

將東營、西營、南營、北營、觀象、廣智、等外、入直營、禁衛、曹營、

下記、官員、俱、大書、姓名、入直官員將校以下、每日申時書

啓、郎官親呈、子、元、省、記、中、兵、曹、堂、上、入、直、府、官、員、又、以、小、單

殿、宮、注、書、一、史、官、員、二、各、關、一、觀、象、監、官、二、宣、傳、官、四、省、記、同、社

入、爲、書、

入直○闕內入直將官、禁衛、鍊、都、監、局、別、將、把、三、廳、哨、官、

將、守、門、番單子、每中日入啓受點。

行巡○巡將、色、自、抄、啓、東、監、軍、傳、官、全、數、書、入、每日入

啓受點、監、軍、將、二、而、巡、將、監、軍、申、時、詣、闕、受、牌、分、所、二、

所、巡檢、形、掌、內、如、有、火、患、

軍號、詳、見、○兵曹入直堂上親書封押、郎官詣呈

啓下、中、並、時、與、闕門下鑰時、頒布於闕內外各司各

營、禁、軍、號、大、凡、將、二、十、御、營、大、將、二、兵、衛、大、判、書、一、都、軍、別、府、將、一、

一、左、賢、捕、門、將、一、右、捕、門、將、一、右、捕、門、將、一、右、捕、門、將、一、

一、西、衛、所、別、將、一、南、所、別、將、一、北、所、別、將、一、內、漢、旅、哨、官、一、崇、智、一、門、建、局、陽、出、身、把、一、

加、一、北、營、留、一、都、所、一、應、守、宮、大、巡、將、一、擡、戎、廳、留、宿、陣、一、三、張、若

值郊幸經宿之時、則後日次軍號、排日書入、預先啓

下、巡、監、軍、及、番、單、子、省、記、軍、號、預、先、啓、下、之、意、前、期、

時、李本麻本作特、陳、原本麻本作陳、按餘、本改。

先、宋本作爲。

密、大本作參、爲草、宋本作爲下。

記 留置政院而本曹守宮郎官逐日受來頒給各處  
行在所軍號則本曹判書書啓頒布

【武備司符信】別體符與信同○各道監兵水使四都留

守搃戎使新除後兵符傳授待本曹啓下行會交龜

信男漢女符每年歲末自本色依例造成進上殿

宮後移送結束色頒給各處

留防○武科新榜出身無論京外以兩班子枝赴防

於西關七邑渭原碧潼江界楚北關六鎮會寧穩城

慶興十二朔自備糧則雖未準朔放還而來後放還科前出身

職則之期宋本脫宋本有或

授之下宋本有時

進上大本作是進

職則之期宋本脫宋本有或

人宋本作又

除中本李本麻本作際

枋宋本作汚

等中本宋本作寺

效李本宋本作郊

無論班庶並赴防而亦從自革能納米除防矣只以英兩  
己丑班曹判書具允明建自革能納米除防矣只以英兩  
思穆子建白赴防身中於已越當宜乙丑兵許赴事定式而水原  
廣州江華留防於本府鄉防士應別驍士陸禁軍上別軍職

考察○京外習操秋春及官鎮門聚點設行廟行堂覆後

自本曹考察勤慢軍額關及武器械朽鈍舟楫之破傷戰

論賞○八道四都及各邑各鎮凡城堞公廨軍器等

新備修補時修舉效勞之邑倅鎮將該營該閫啓聞

請賞則本曹考例稟處其例則軍器滿千步然後始許



請○統營東萊習操及松都都試設行時，如有居首

沒技之人則亦依狀請賞。統營居首東萊沒技松

巡審○宮城都城及 景慕宮含春苑，每年春秋本

曹判書郎廳與工曹漢城府堂郎周行遍審。景慕宮

與本宮提

補土處與御營大將同爲看審後形止草記。

鎖鑰○宮城都城各門鎖鑰，若有破傷則自龍虎營

修改以給而物力戶曹支下。都城七門鎖鑰每

修築○宮城都城 宗廟 社稷 景慕宮慶熙宮

墻垣，若有頽圯則並草記後，令巡邏營門申飭巡察

力宋本作

而修改則該營及戶曹舉行。宮城及都城該營舉行而

曹物力則戶曹支下。福宮無草記只修築。

烽軍接濟○木覓母岳烽軍番糧及炬價以二軍色

每朔移來錢。木二十五疋排比支下。前則以赴需用

允矣。明建英宗己丑納米革罷之後本曹判書具

【一軍色】賓廳武經講式。賓廳講三鑑中除宋鑑自額

並臨文一書○武臣堂下中年五十以下者，每於都政

後，賓廳講及武經講應講人員分抄啓下。賓廳講，每

年間一朔二十一日設行。武經講，四孟朔十一日設

行。試講日，書呈望單子，受點十員後，本曹入直堂上。

郎廳及兵房承旨入直揔管會坐賓廳眼同試取別單入啓連五次純通者加資不通者推考。

部守將鬼薦取才式。柳葉箭一中鐵箭九步三騎一

文粗以上五技取三技。○部守兩廳將鬼薦人每於

都政前薦單子自政色題送本色後本曹判書與都

揔府訓練院堂上眼同試取入格然後始許擬望。

別取才式。柳葉幾定試取。部守兩薦已取才人。即將

每於都政前本曹判書試取優等三人。西道北各一合人

一初仕調用。

復職取才式。柳葉三巡。宣部守三薦前啣人每於都

守。朴宋宋本作將。

守。申宋宋本作將。

職。宋本作試。葉之下。朴宋有節。

政前本曹判書試取優等六人。宣薦三望部守復職

調用。正宗丙辰定式

各道都試式。○諸道觀察使節度使四都留守揔戎

使依定式每年試取。而或春秋兩等合試或分等試

取直赴殿試直赴會試與加資邊將除授禁御兩營

哨官窠備擬之類啓下本曹依法典覆啓稟處。六營道

屬南武營軍官平安監營屬北兵營南屬富寧以屬清北馬

兵公忠屬左營右道馬兵全羅營屬左道嶺馬兵慶尙左

府兵屬本府嶺兵以南道兵屬江原監營屬道內馬兵廣

監取居屬右別良直赴殿試之兵次營屬別直赴會試。○江平





○取	寺技	茂築	試武	官居	殿及	原出	屬沒	直監	咸昌
黃居	奴閑	山從	出取	寺首	試京	州身	清技	赴營	鏡城
海首	免良	以自	身左	奴及	○畿	三輪	北出	殿屬	監宣
監及	賤直	北願	加別	免沒	咸水	鎮差	左身	○別	營川
營沒	○赴	六施	資居	賤技	鏡營	勸沒	別加	平武	屬三
屬技	北殿	邑行	邊首	○出	監屬	武技	武資	安士	左防
禁閑	兵武	親○	將閑	南身	營別	軍出	士居	監並	別營
衛良	營出	騎北	間良	兵邊	屬武	官身	壬首	營合	義州
營直	屬身	衛兵	從右	營將	右士	別加	海者	屬四	衛鎮
鄉赴	茂加	每營	自別	屬除	別秋	武資	東本	清等	黃及
騎殿	山資	年屬	願居	左授	親等	士○	林道	南試	海清
士試	以邊	合富	施首	右與	騎試	春江	兩別	左取	監南
每之	北將	四寧	行及	親加	衛取	秋原	將輪	別居	營三
年次	邑從	等以	官沒	騎資	每居	都監	待差	武首	屬和
合閑	馬自	試南	寺技	衛問	年首	都屬	○策	士及	別防
四良	兵願	居邑	奴閑	每從	合閑	居江	試平	每沒	武營
等直	每施	首親	賤直	年自	四良	首陵	取安	年技	士別
試赴	年行	及騎	自赴	合願	等並	閑鐵	居監	試閑	慶武
居試	試官	沒衛	辟殿	等行	取赴	良原	首營	取良	尙士

及、宋本脫。賈、宋本有。也之上。宋本

差、李本作次。

及、宋本在試取之下。

閑首	良及	屯沒	別技	將閑	良直	○赴	殿黃	海試	兵出	營身	屬加	別資	武之	士次	每論	合出	身四
出等	身試	閑取	良居	邊首	將及	除沒	授技	○閑	黃良	海直	兵赴	營殿	屬試	御居	營首	廳出	鄉身
加每	資年	之合	次四	毋等	論試	出取	身居	閑首	良及	屯沒	別技	將閑	輪良	○赴	黃殿	海試	兵出
之屬	次道	閑內	良武	直學	赴每	會年	試合	○四	黃等	海試	水取	營居	屬首	別閑	武良	士直	赴殿
首士	出每	身年	之合	次四	出等	身試	閑取	良居	邊首	將及	除沒	授技	○閑	慶良	尙直	監赴	營殿
窠別	備武	擬士	沒每	技年	出合	身四	加等	資試	○取	東居	萊首	別出	騎身	衛禁	每御	年兩	試營
華首	府及	屬沒	武技	旅閑	舟良	師直	廣赴	州殿	府試	守之	堞次	軍閑	官良	奉直	秋赴	會年	兩試
湍取	南居	陽首	別及	驍沒	士技	每閑	年良	試直	取赴	居殿	首試	閑○	良捲	直戎	赴廳	殿屬	試坡
人加	俱資	出三	邑別	則驍	一士	人合	以試	兩後	邑優	中等	矢二	數人	最論	多賞	者而	優優	等施
居行	首○	及水	沒原	技府	者屬	嘉左	善右	則列	衛親	將軍	除衛	授春	折秋	術試	與取	無左	薦列

兵曹各掌事例

一都軍色  
有應色  
所掌  
有應軍

加資將校前嘉中邊將良直赴殿試再大居首及沒者沒  
者母論堂上嘉中邊將良直赴殿試再大居首及沒者沒  
良直赴殿試之次

壯健、宋本作健壯

冠輦隊以都民閑丁充定湖該牌三式戶籍郎應壯健者

司僕寺官員更依京營軍兵例烙給腰牌錄名案册

而動駕及殿座時分軍部將領率陪扈有正輦陪副

輦陪玉橋陪陽繖扇差備燈籠儀仗軍名色通以稱

之曰冠輦隊元額為三百六十名如有不足之時自

本曹給價雇立正輦陪六名音紅木衣巾帶雲鞋

陳時陪座○副陪輦○四玉十陪所音與正輦陪同動駕及

木青木衣戰篋動駕殿座時陪扈○燈籠軍四差備名二音紅

戒、宋本脫

七名音青木衣副輦中動駕殿座時仍着儀仗軍殿一  
道時左行時立而法館落後十名不足故以江軍頭充落後  
社殿宮四壇行大祭東受廟香後並臨於還誓宮戒時議如政前府望關  
文禮北使臣出望拜禮各道儀

〔都案廳〕各道京外所管諸色軍兵大都案限十年自

本曹發關改案而每年歲抄各道諸色軍兵逃老故

病廢雜項自武備司啓下後移送都案廳以黃籤傳

書付標

〔有廳色〕本色郎廳一員一軍色郎廳例兼

有廳軍以各邑忠順忠贊忠壯三衛分番上京一年

分十二番一朔替番減給身布使之應役矣 英宗

丙子因兵曹判書洪漢筵稟以京有廳六十人作

廳分屬左右巡實差三十人定給料布預差三十

預差俱為散人給則委五部使之輪直於巡廳左右

管飭傳漏外人九門出夜更收巡等禁火鞍峴烽燧

輪關內東西所忠壯所忠贊三人夜輪直又以忠贊衛

差定各差備差城備內二動人駕並及戎殿服座陳鐵推差鐵推八差人備

兩差備四與人並無時角同帽而龍親鳳臨受青誓紅蓋及唱榜八時人同

駕而唱榜兩時差又備有八賜人花差帽備隨其所餘入差備待帶禮曹內知殿委動

舉差行○瑤源人音及帽實錄○陪進時鳥鐵仗差備二人紅人衣助

更更、申本作更直。

明、宋本作明。

仗、申本麻本李等三本作杖。

舉、李等三本作舉。廟、大本作社。

輻、申本作輻。

續、諸本作續。方、申本作房。

輻、申本大本作續。

杏、朴本作杏。

殿宮、朴本作宮殿。

時差等備並火廳時從十實入軍服帽宗社公翁下諸嘉禮移還安

四薦人音備各一○人宗著廟黑團永領寧殿社稷永祭禱殿時神樂差備

先景霧宮霧所文北廟郊風雲壇雷武奉祠南寺壇神雲香壇陪先農壇

奉人勅官帽帶○人勅使紅袍時黃帽儀也杖字金備三○十三人著帽關

同禮習儀外時陽舉扇蓋差備九人著帽帶拜表○殿時差備

二蝕人音香差備○陵行時蛟龍旗步下奉持發關畿

邑使之應役以步有應奉軍中使之名分排金浦通津富年

身布○影帳奉安時王世子隨駕委時公翁

刑房改火○一年五次立春立夏杏板土旺板

立秋立冬槐檀之節依例改火進上殿宮



後始頒宗廟社稷宮宣禧慶宮改火奎殿章閣議政府承政院

附、諸本皆脫。

果、林本作葉。

附龍虎營續大典曰

孝宗朝內三應節日成於三年壬辰而辛卯曹的

初元也在始置禁軍中英宗乙巳舊上無諭兵曹判書洪廟

意始有所禁也稱內三廳經國大興有禁衛之本曹又

材、宋本大本作才。

南道二北道六十員內道十二員永安使擇其有道子者永安

則司之北抄十員又抄置其禁衛法也註曰成化考年國初設

兼今司之北抄十員又抄置其禁衛法也註曰成化考年國初設

六、宋本作置六。

兼云三衛之設均分於六番謂之初內三廳衛禁軍元

額六百二十九人分六番置左右都別將稱龍大將

虎大將一二三番屬於左別將四五六番屬於右別

將尋增至一千人孝宗丁酉教曰增額之至千也十

人為一領三領為一正增置十將節曰亥定別將統將

將統正正統領領統軍挨次號令使本兵句管顯

宗甲辰禁軍時存為六百七十二人丙午減內禁衛

將三員禁軍改團束以七百為七番番置一將罷左

右別將置單別將單別將擢置之未知的在何年姑以

肅宗丙寅因兵曹判書李師命建自禁軍兼別將為

出差英宗乙亥改稱禁軍廳為龍虎營而別將依前

乙、大本作已、將之下、宋本有則。



衛、李等三本作軍。

定名、申本作定式。

辰、大本作寅。

稱禁軍別將，甲戌洞禁衛上分營之名。後曹禁軍器庫漢於

以龍虎營稱乃軍權。稱自前日雖有龍虎將龍虎營也。鳳下漢

教名而元漢請別將依前稱上命軍特以龍虎之營。正宗辛

亥減一百人為六番，壯勇衛為當于戊辰因兵曹判

書金履翼建白復置。

別將一員，武品以上樞二番將七員，內禁衛林將三兼一內

餘將防禦以上其從事官一員，郎一軍兼色堂上軍官十六

有顯宗勇戊申者填充半屬別將官三為十堂以上禁軍區處科之堂上

官其後新作中別庶軍官上時並罷肅堂上軍長官罷有禁衛勿補己軍

減復兵判別將軍所屬十五員別見額十員外又英有兵甲房

衛、大本作軍、己、李等三本作乙。

周、宋本作明、散、申本作良。

行伍、李本藤本作伍行。

昔、申本林本作昔。

二十、申本作十二。

房、宋本作曹。

閑一散員，統率西取北才別策而軍官五。屬於別將官十五內七

取柳葉箭等三巡久片勤箭每一都巡騎轉一次。教鍊官十四，減甲

鳳上漢軍建自十禁軍中代稍設解兵書鍊者官二十人。依乙兼亥習讀事判知洪

自兼司下儀軍中兼稍差解名兵書兼者教二鍊人官。行午伍因窠合判為趙十驪

指○南閑八散篇八昔禁軍取取其才優窠等四。行久伍勤窠每○日取遷才轉式。兵學

依滿二出六湖別付料兵房一員，以防禦西北別付料軍官

一百二十，關南北清二北各四正十宗己酉定庚辰○抄額。上清式南

列關北抄送北兵列營邑抄送營送營抄送曹關南。曹南

更遭試故還額若則不通計前退仕送○更抄該二帥一臣請兵推房○試在

南取各五付箭十料巡策從合為數三等十○關久北勤每都日十關關北南清



合、宋本作各。

類、林本作人。

五十、大本作十五。

始、宋本脫、持之下、宋本有軍。

半領、宋本或作領半、本一作不舉、兼捕、宋

砲宗	在南	式自	式前	差久	十孝	知一	禁軍	貧自	願北
五乙	何二	○畫	○以	備勤	五宗	二政	軍七	窮該	邊各
亥	年久	西剽	加部	內事	當壬	節一	百	之應	將選
英	而勤	北掠	設將	禁知	初辰	日人	勤	類衆	窠一
宗	久間	抄故	兼率	衛三	則始	○即	與後	望所	則人
始	勤一	上禁	捕領	八人	以屬	道事	五	報共	都關
丁	問都	軍中	盜矣	棚遷	坊禁	路知	前	知	政南
巳	二日	各居	十	出轉	役旅	摘兼	十	書	前清
標	都遷	五在	二正	未後	雇久	奸司	別	吏	試南
下	日轉	北三	宗	知一	立勤	之僕	抄後	一	取合
軍	遷○	關江	肅戊	何人	矣問	任六	輪之	吏	優選
中	轉兼	三之	宗戊	年式	問	也內	回稱	一	等一
官	○習	南人	癸以	○相	正收	初日	六未	輪	擬人
以	兼讀	關別	未兼	推問	宗用	始事	臘知	書	或
兵	教十	二定	郊司	牌遷	己○	知知	大的	書	有
書	鍊瓶	清譏	盜率	將轉	西龍	何四	政在	書	有
取	官始	北捕	賊領	四○	屬標	年節	一何	書	京
才	二未	三事	竊事	牌月	之旗	而日	政年	書	外
定	知	清定	發	軍刀	禁奉	而日	二而	書	軍
別	英的					事	人	書	四
式								書	門
將								書	窠
習								書	不
操								書	
火								書	

醫時	每標	臺窠	李操	正守	勿仕	禁身	應者	二山	人每
二別	番下	上各	得時	宗門	論額	衛久	薦移	人禁	前番
將	各以	火二	臣臺	丁將	禁外	大勤	取屬	式軍	仕各
孝所	二稍	砲本	建上	西十	軍許	將收	才禁	初者	通一
宗號	軍知	八營	自號	內八	六付	李用	一旅	仕母	計人
壬令	器方	標	定令	禁參	測從	敬一	依定	收得	間式
辰砲	寺書	英下	式砲	衛軍	事願	懋窠	一額	用擬	一遷
瓶舉	別者	宗軍	宣舉	一三	定啓	建以	內百	○差	都轉
出	破差	己窠	傳行	番合	式下	自額	宜數	各事	日○
以久	陣出	卯二	官○	定二	每戊	禁內	薦移	番定	一各
禁勤	窠久	以習	十兼	爲百	都午	御額	例屬	禁式	人番
軍與	六勤	標操	四仕	宣八	日宜	兩外	而騎	軍名	遷正
各	訓上	下時	武	薦實	初薦	營取	守士	久日	轉領
馬番	禁同	軍該	兼正	滿額	仕出	一才	部外	勤初	○中
治正	御○	出番	十宗	六四	二身	番收	兩每	一仕	壯久
撥領	三番	身應	二乙	朔百	一防	騎用	廳都	內禁	勇勤
事通	營火	窠砲	部卯	後九	窠六	士○	初目	外軍	衛每
也計	別砲	定舉	將因	始十	以朔	之丁	入守	每都	之都
困○	破十	式行	十兵	擬二	出者	有已	仕部	移日	移日
散	陣四	習○	五判	初○		薦因	不兩	屬一	屬一

才取、林本作才取。

取、林本作取。



龍虎營 入軍直額 標下軍

一九四

禁軍者九十人，式十二，遷轉人每	標下軍四百六十，三名，○百七十七名，二甲，內增置字的十	書一，字牌頭一，軍創器子書員一，例別將牌頭五，巡劍令手二，別二將名，陪內	五，將吹陪鼓八，手大三，旗十，手九，三名，十內，書字內，書一，字牌頭一，牌劍頭子一，手劍一	名，子內，牌一，頭別一，將細陪七，手燈二，籠十，名，內，牌牌頭一，兼帳內，幕吹軍十	十番，二，駕手後二，十，八，軍，內，四，番，牌，頭，一，軍，每，七，番，十，各，內，標，下，字，的，馬，一，軍	每牌，番頭各一，軍，有器料庫兒，直旗一，手十，番，各，十，教，下，鍊，直，官，九，候，別，無，將，料，所，兒，二	名，旗，各，番，一，書，員，五，十，名，掌，別，將，務，書，所，員，書，一，員，二	各處入直 ○禁軍排番，一內二內三內一兼二兼一	羽二羽為七番，每番百人入直於仁政殿月廊，以每番
-----------------	-----------------------------	--------------------------------------	---	---	---	--	---	------------------------	-------------------------

燈蓋軍十、宋本作燈蓋軍七。

十四、中本作四十。

他人番為禁軍而外補名處，日入，助入，又此，番十，助四，入者，故不，番足，受之，數，以	內三之內，通入，名，日，兼，二，入，兼，一，助，入，二，羽，式，通，內，二 ○都城八	門木覓燧燧五間水門，禁軍分排入直，而四正門，禮崇	化與仁惠護軍一，禁軍祿試射，以時，優，六，人，十，輪，回，部，將，一。	禁軍者，謂之直部，將都四維門，昭彰義，光，肅，部，將，二，木覓燧	燧五間水門，部將各一 ○龍虎營，一，在，百，於，五，十，生，洞，公，廨	將校一，手堂，上，帳，軍，官，教，鍊，官，二，細，官，樂，輪，手，回，率，一，卜，領，馬，吹，軍，一，手，書，四，字，大，的，旗	書一，牌頭，直，軍，輪，回 ○朝房，在，公，廨，於，十，金，虎，門，外，教鍊官一，領率	吹，大，旗，入，直，手，各，一，除，來，以	內中日，內三廳，入直禁軍百人，番將率領標信祇受
--	--	--------------------------	-------------------------------------	----------------------------------	-------------------------------------	--	---	-----------------------	-------------------------

萬機要覽 軍政編二

一九五

後赴試中日閣附孝宗良直基殿初試出身矢加資中者

內三廳四孟朔戎器點考○四孟朔旬前軍士房承

旨出令當日直稟後詣仁政殿月臺上官給軍物與

禁火器械點考番將禁軍等處勞問有無頓書啓宗英

甲戌○官給軍裝禁軍每人戰笠一筒筒一長筒二

一要鉤金一校子弓一甲胃○禁火器械廣伊十

金桶十二鋪十二斧十二水瓢二十鏢二十務十二小時餅推十二

雲梯造十二

禁軍取才每年春秋本曹判書都摠府訓練院堂上

眼同試取而初從次第納馬口傳閑庚寅規矩始爲定式

餅、朴本作餅。

從、宋本作從、次、李  
本作此。

技、宋本作其。  
四、宋本作以。

一	百	三	十	五	步	納	馬	三	矢	一	百	十	步	終	出	身	射	遠	三	射	二	矢	
二	百	十	步	納	馬	三	矢	一	百	十	步	戰	邊	將	承	遞	來	遠	北	射	中	二	矢
三	人	一	門	二	十	步	好	納	身	三	善	矢	一	百	步	者	步	○	領	捧	懸	單	保
嚴	令	許	出	身	而	自	如	有	訓	有	鍊	習	院	進	收	捧	當	該	懸	各	保	正	領
十	英	宗	定	壬	午	因	良	納	十	馬	四	人	終	之	積	七	濤	出	春	身	秋	五	納
加	一	承	若	傳	因	各	有	一	故	如	一	無	年	戰	只	亡	承	傳	才	傳	一	等	次
則	等	取	並	計	限	次	以	次	六	口	十	傳	四	啓	○	禁	軍	下	有	關			
宣	薦	內	禁	衛	取	才	每	年	六	臘	本	曹	判	書	都	摠	府	訓	鍊				
院	堂	上	眼	同	試	取	柳	正	宗	丁	西	始	二	初	中	鐵	箭	三	一	矢	巡	九	十
取	三	技	一	次	一	中	武	經	七	書	中	從	願	而	講	粗	以	上	五	六	臘	技	





粟、宋本脫。

與出身、閑人、良通、越薦、人收、取、○、捧、額、內、取、而、未、別、入、格、者、後、規、矩、上、才、同、時、  
三、而、額、抄、內、出、擬、外、中、優、初、仕、等

禁軍祿試射每年六臘本曹判書試取付在祿前矣則都顯試

宗、都、幸、亥、別、爲、虛、許、多、射、禁、祿、旅、都、飢、代、才、祿、落、之、患、自、法、本、始、曹、啓、而、稟、  
停、都、試、丙、射、子、○、己、規、卯、矩、因、年、柳、葉、因、箭、設、三、巡、騎、射、一、後、或、行、肅、都、宗、試、已、連、

肅、宗、試、丙、射、子、○、己、規、卯、矩、因、年、柳、葉、因、箭、設、三、巡、騎、射、一、後、或、行、肅、都、宗、試、已、連、

行、肅、宗、試、丙、射、子、○、己、規、卯、矩、因、年、柳、葉、因、箭、設、三、巡、騎、射、一、後、或、行、肅、都、宗、試、已、連、

式、卯、定、從、矢、數、付、祿、祿、窠、預、內、差、禁、五、衛、十、三、實、每、番、關、實、預、差、五、中、十、

果、首、二、仕、陸、實、司、正、差、窠、十、上、護、軍、一、副、十、護、軍、四、司、勇、四、直、十、一、二、預、司、

二、差、窠、司、僕、果、二、番、實、司、差、正、窠、二、上、護、軍、一、副、十、護、軍、四、司、勇、四、直、十、一、二、預、司、

司、果、六、十、司、正、司、九、司、十、司、六、司、八、司、二、司、十、司、七、司、三、司、五、司、二、司、九、

十、實、差、窠、十、猛、上、護、軍、一、副、十、護、軍、二、預、司、差、窠、十、司、果、七、司、七、司、正、

十	實	差	窠	十	猛	上	護	軍	一	副	十	護	軍	四	司	勇	四	直	十	一	二	預	司
十	實	差	窠	十	猛	上	護	軍	一	副	十	護	軍	四	司	勇	四	直	十	一	二	預	司

戎器點考每年二月二十日本曹判書與都總府

堂上眼同設行於郊館或訓練院宗初子未詳而二九肅

論、其、二、賞、罰、一、定、式、○、賞、點、木、閣、一、戰、馬、正、二、肥、馬、軍、裝、而、番、瘦、馬、四、或、肥、退、瘠、

官、或、棍、則、軍、裝、字、給、私、馬、者、則、自、間、字、烙、或、印、○、烙、入、印、直、後、仍、軍、爲、則、行、勿、操、

考、爲、事、出、參、正、只、宗、軍、庚、子、馬、定、四、點、式、

禁軍官馬戰禁軍之給疲官殘馬自是自古備例而馬爲孝宗矣壬辰英以

年、自、庚、子、司、辰、儀、官、寺、馬、受、庶、正、分、排、取、時、以、遠、二、射、百、七、十、砲、四、定、醫、式、而、抄、每、

能、上、禁、軍、及、遂、陣、上、致、當、斃、年、丙、寅、致、斃、者、分、給、軍、之、矣、近、來、政、貢、分、馬、

仍、宋本在因、則自之、  
則、林本脫、

癸、林本作庚、  
正、大本作定、年、麻、  
本、作、每、年、

能	上	禁	軍	及	遂	陣	上	致	當	斃	年	丙	寅	致	斃	者	分	給	軍	之	矣	近	來	政	貢	分	馬
能	上	禁	軍	及	遂	陣	上	致	當	斃	年	丙	寅	致	斃	者	分	給	軍	之	矣	近	來	政	貢	分	馬



龍虎營 習陣褒貶旗幟

二〇〇

時、李等三本作始、例、宋本作制。

以、大本作而。

命、宋本作命。

於、宋本大本脫、費、宋本有於、事之上、宋本有等。

專時當傳命行之事。

習陣每月十八日設行於鷲梁沙場入直禁軍英勿參

○乙所已定式出番宣傳三官全輪數回進來排觀○操正事乙亥午定習式

虎陣設行例但當內分營之院後別將曹合習私陣習實而涉已無義欲依行龍

鍊亦不修節日湖為之姑不此啓一下款者欲也為今詢番問習處陣之停所以可訓

啓也伊故仍為議中尚止未

七加太三加斗太式以自六斗曹為例式給而臨近試射每時番抄馬十匹及動合駕

冬浮三朔為禦寒軍之入資所 ○抄擇走馬一每番四十二匹每匹

式年自涼司僕草上消下合錢錢七兩代給事以定此式錢每造入給一毛錢

以中箭中十青賜一給千以今百時三並八計不給六軍十喂馬○古年例

褒貶每年六臘本曹判書設行於龍虎營別將及番

將書等第入啓將中未滿五番者勿為替代南抽

亥正宗已定式

招搖旗絡心雉俱黃旗七方五角正桿高一丈依九尺衛纓頭制

各營前招持旗駕後旗一丈心五角纓旗頭方絡尺雉五寸駕前

持兵曹判書手旗一質尺八寸帶用紅書色本旗方二九寸隨桿高

殿座別侍衛兵時持命方旗手英旗常辛操已定從式納禁軍別將

認旗質絡雉帶尼俱黃旗質方五尺俱黃桿高方九寸八尺高纓一頭珠

八寸以紅字禁軍將認旗用旗方四尺內桿高七尺上

二內黃心白邊一白羽三心藍邊二俱黃心一兼心白邊俱藍二兼

命、林本末本作命。

方手旗八寸各隨高番二尺正旗一尺邊各隨高番六尺方領旗隨心  
 尺番色旗六尺一禁軍轉羽秀羽懸於戰笠鏃子旗各隨番色  
 大旗幟十八面清道旗四二面別金鼓旗二面黃門旗七  
 面壇上待令旗幟十面別將金鼓旗二面番旗  
 禁軍勿禁牌孝宗朝名初入始體與後角牌同而前月烙而書  
 印宋本作牌 ○禁軍雖陸嘉善勿汰文英宗建丁巳禁軍陸嘉善則朴  
 資級稍高於番將相峙於金渠乃將必伍自退品仰幕裨則教  
 也嘉善將可自決退者依足各軍門威例同為取才屬還何妨  
 將官將校軍兵揔數四季朔初一日修啓則軍以兵有料  
 旗兒手旗三十六中充定仕勤兒旗手有闕以無待料兒仕旗兒

十、諸本皆作九。

印、宋本作牌。

自、申本作有。

翁、大本作有。何、李等三本作可。

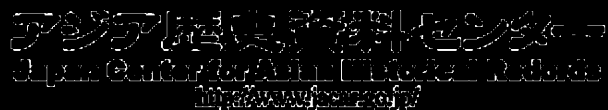
手抄擇兒充定○勤堂上軍旗官手兒旗排手十將五陪別付旗料手兵二  
 房兒旗手各五巡

訓長、申本作訓將、以下做之。

全、大本作專。

禁軍別將、李本底本宋本作禁別將。

各番正二人講能麼兒每朔二學次番將訓長○教正鍊大官  
 中文而書講陣亦同講○二年講分通四八等篇講三朔陣六抽次性六背十講分火砲  
 番上六者口賞○木英三宗正丙講子陣每番一能不通者罰書番者二日人俱式抄者  
 已名各軍二門人遞講兒操鍊定時該哨官進教退鍊之官節策全取責才舉時行○人丁  
 官講策十四教應練試官而策火三砲內一試正他策御軍營勿應論哨官禁策衛二營哨  
 官鍊官才策三、搃戎別將應哨官該營教中鍊官眼策同各試○哨官官策教以鍊  
 次出身許學試指鐵箭三其優一營步練柳官策箭只三巡學騎指翁南○  
 各番正領操鍊笏記講能入通直者戒番將不通者考罰試番而○



龍虎營 習射習藝陪扈稿儀

二〇四

長、大本作官。  
次之下、朴本有者、見  
等三本脫、由本麻本李

七矣、大本作八矣、軍  
官、李等三本作軍兵。

者、朴本並脫。

標下軍能歷兒	以上上連者	二賞木居一	正居首者	直末者	元決	○待	取年	六則	六十分
將校軍兵習射習藝	以上上連者	二賞木居一	正居首者	直末者	元決	○待	取年	六則	六十分
三則	賞四木	二五正	矢未滿	上四者	賞木	調五	番正	年片	滿箭
每○次	教七分	官居首者	賞格	上通	去滿	七番	○者	別調	付番
每○次	教七分	官居首者	賞格	上通	去滿	七番	○者	別調	付番
五每	矢湖六	以上次	者小	賞布	木十	巡四	片十	箭次	二以
葉二	箭正	三未	巡滿	騎八	者三	次居	番○	者禁	減軍
色布	標陣	下○	中標	抄下	定每	朔六	次次	習以	技藝
一等	正記	居居	末首	者者	決賞	棍木			

動駕殿座時陪扈

衛城禁內軍舉別動時、兵曹判書戎服、先別廟侍

及、宋本作返、舉勁  
殿本作動駕、舉勁  
龍旗、大本作龍標旗。

右立、朴本作右列立。

則、宋本作時。

各錢之錢、大本脫。

首稿、李等三本作時稿、  
布、大本作席。

外局	舉動	鱗時	次作	曹行	判禁	軍及	服駕	後左	只右	率挾	前排	侍五	衛○	禁郊
軍別	後將	禁率	先驅	番驅	將禁	率軍	領龍	旗外	先廟	尾局	以五	行馬	○隊	○駕
後殿	禁座	時以	依五	節馬	日隊	侍標	衛旗	而內	禁別	隊馬	等別	兵將	頭局	將作
式○	右侍	賀衛	時○	內別	禁將	只率	棍左	杖右	列手	立三	於雙	月臺	正宗	兼戊
後禁	軍臺	分下	左重	右行	立列	於立	禁羽	軍林	後衛	行西	矣月	臺當	下宇	重行
衛事	定前	式別	○抄	關駕	內後	侍禁	衛軍	時月	在臺	前上	則侍	禁衛	軍內	立禁
禁內	軍行	外矣	行當	立宇	事內	定寅	式以	挾						
幸行	後乾	犒饋	各自	錢一	軍色	式將	上官	將下	○校	軍兵	每臨	設員	人受	或名
各該	儀營	○新	舊番	歲首	犒饋	別將	○歲	展首	番自	例一	為受	軍色		
令待														

萬機要覽 軍政編二

二〇五

觀武才有特教則設行。孝宗壬辰親臨觀武才於

禁苑卽此也。宗顯宗卯壬寅英宗肅宗丙辰丙寅戊寅正宗景

校戊別戎付行之料馬步軍官駕技後列事知入啓及禁軍嘉善取將

初禁試許初赴試事鐵箭英宗三卯定百三式十會步試規葉箭一旨

合中片上箭一初巡六二中馬騎上箭一假月次刀上中騎上槍標交下戰軍一射次手三

或柳二葉分箭一用巡劍三中用片劍箭一雙劍提督中劍假砲月手鳥銃二交中

筭戰藤木牌國合劍一鏡技刀合拳一法技手拳槍法手鞭木棍長槍棍槍箭竹靶長

試槍則合隨一其技初試並入上格上等技抄試啓之會

賞試射卽中與各軍門一體設行。各禁一軍巡柳葉箭片箭

上各爲一次等鞭賞葛木六中疋爲七矢五中爲二等矢通五疋九矢以

積、諸本與翁通用、一

各技、李等三本作各持、

四、中本作三。

各、中本作雜。

因之下、未本有長、銳

四、大本作三。

司	中	邊	良	技	銳	步	者	長	百
僕	三	下	片	一	用	式	及	戰	以
者	正	不	兼	○	刀	軍	各	片	五
木	柳	中	箭	技	劍	○	番	箭	十
木	十	敢	司	賞	合	射	入	上	爲
四	葉	以	兼	格	手	禁	宣	各	步
疋	尺	兼	良	拳	一	手	格	刀	等
柳	片	此	司	柳	技	柳	薦	部	上
葉	邊	懸	兼	法	劍	外	之	加	木
箭	一	註	司	葉	○	箭	類	劍	者
貫	貫	兼	僕	拳	槍	左	外	從	閑
二	一	以	者	五	手	右	賞	其	疋
中	中	入	兼	法	提	箭	格	良	鞭
各	柳	僕	木	中	木	捕	內	直	外
邊	葉	者	兼	良	督	各	禁	赴	殿
一	箭	特	司	鞭	長	應	正	各	各
二	箭	木	僕	棍	劍	一	數	分	技
中	加	教	者	司	假	兼	許	施	試
一	邊	四	者	挾	月	巡	試	一	出
中	二	第	者	棍	槍	○	註	賞	身
片	疋	十	應	兼	刀	盜	事	張	沒
良	兼	柳	疋	棍	箭	砲	入	都	加
箭	司	尺	爲	司	棍	軍	啓	居	資
一	僕	葉	鳥	僕	兼	手	正	首	者
中	者	箭	銑	竹	棍	官	各	三	騎
兼	兼	貫	其	者	棍	爲	宗	等	鐵
木	木	一	赴	長	兼	鏃	技	弓	箭
		中	而	槍	棍	一	中	以	交
			三	木	兼	赴	戊	上	
			自	槍	棍	試	中	張	
			中	合	兼	○	定		
				一	棍	○			







龍虎營 軍器

三二二

一、宋本作三。

三十、中本作三十。

三十、宋本作二十。

雞鞭、宋本作直所。

八、宋本作八。

筒、宋本作部。

百六十張	<small>給六百四十二張、內後及所禁軍分</small>	着筋鞭棍
六百六十九柄	<small>後六百四十二柄、內後及所禁軍分</small>	仁老里鞭棍一千
三十六柄	<small>所給一百柄、內三應軍直用</small>	稜刃槍鞭棍二十二柄
別軍職	<small>給軍職</small>	筒筒一百十八部
外二十筒	<small>內給五十九部、內</small>	長箭八十部
鞭各一百十八筒	<small>內給五十九部、內</small>	桶兒要鉤金馬
所駕後及禁軍	<small>分給一百十八柄、內分給</small>	鳥銃三百十
六柄	<small>二百八十六柄、內分給</small>	三穴銃十二
柄	<small>四柄、分別給</small>	鉛丸三千六百箇
飛介十箇		銅爐口二百十八坐
		銅瓢子五百九十二

柄、宋本作筒。

六、宋本脫角七、宋本作角十七。

筒皮瓢子一千箇	斧子七十七柄	月刀八柄	鎗鈹八柄
柄梨花槍四柄	長槍四柄	短槍八柄	挾刀四柄
十雙步鞭棍四柄	棍棒四柄	甲布帛一千箇	刁斗一百三十六部
喇叭十七枝	號笛十七枝	銅大角七枝	螺角二雙
啫啫囉四雙	鑼一坐	鉦三坐	捧鉞三柄
龍大鼓四坐	畫龍行鼓十二坐	長鼓二坐	細樂
手給黃號衣五十八領	黑靴子五十四部	黃木綿帥	字旗一面
本兵司命旗一面	豹尾旗一面	肅靜牌二	筒塘報旗十面
假倭旗三十一面	假倭號衣三十領	巡令旗三十五面	黃燭一千五百柄
鐵絲籠十盞	銅		



鐵絲籠一百九箇、紙油籠一百九箇、紅氈笠七十五  
 立、朱杖二十九箇、軍服三十領、御前所待令軍幕  
 十一部、甲布帳九十七部、油苞九十九部、紙油衫三  
 百三十六領、五十八領、駕後分給、二百木綿油衫五百  
 九十二領、軍七番禁○將官將校禁軍馬草價預差禁  
 軍祿米太標下軍料奉足、屯田畚等條件詳載於一  
 軍色事例。

訓練都監

宣祖甲午、置壬辰倭酋秀吉之入寇也、皇朝遣提督  
 李如松、李如栢、南將駱尙志等、率兵四萬救之、尙志  
 嘗言于相臣柳成龍曰、朝鮮方微弱而賊猶在境上、  
 此時鍊兵最急、迨天兵未回、學習技藝、數年可成精  
 銳、可以禦倭、成龍馳聞於行在、且使禁軍韓士立招  
 募得七十餘人、請教於駱、駱撥帳下張六三等爲教  
 師、習棍棒、籐牌、狼筈、長鎗、鎗、雙手刀等技、上命  
 設都監、以大臣尹斗壽領其事、尋命成龍代領、成龍  
 令願募者能舉巨石、超牆丈許、始許入、未幾而得數





白	不以	訓	將	顯	宗	丙	判	午	調	司	馬	不	可	兼	大	將	軍	上	疏	局
錫	難	於	甲	兼	帶	徐	履	文	疏	不	丙	出	備	中	局	啓	濟	本	以	兵
不	重	得	因	循	其	例	疏	嶺	備	局	啓	濟	本	以	兵	將	肅	宗	兵	壬
應	森	以	以	訓	將	拜	拜	兵	判	並	丁	選	已	調	金	聖	中	軍	一	員
將	二	員	軍	禁	御	望	兩	營	中	千	撻	二	員	水	使	局	別	將	三	員
人	邊	禦	把	撻	六	員	已	經	餉	外	三	品	而	人	一	亥	以	挾	都	摠
都	散	策	兩	參	互	陸	資	一	員	從	事	官	六	員	乙	初	亥	稱	今	願
營	軍	郎	二	文	侍	兵	從	曹	三	武	員	備	蔭	司	鳥	銖	及	火	棊	藥
三	十	四	員	十	馬	六	兵	哨	官	七	員	外	宜	並	薦	用	前	人	步	軍
一	下	策	五	宣	薦	二	十	閣	後	文	移	官	兵	一	曹	員	出	六	西	北

透、申本朴本宋本作應。  
火之上、宋本有及。

正之下、宋本有又。

軍官、大本作教鍊官。

旗牌官二十、宋本作二  
十一、六典條例同。

兼差、大本作例兼、或、  
宋本作針、大本作鑽。

正	勤	每	都	以	仕	滿	二	十	鍊	院	主	報	兵	一	曹	每	都	官	一	員
以	下	並	大	將	自	辟	啓	下	禁	松	參	軍	一	員	曹	參	下	兵	○	撻
官	以	解	上	將	拘	解	或	由	無	拘	實	職	并	自	曹	給	局	散	料	從
二	付	有	料	出	房	身	及	前	掌	脚	不	入	試	每	閣	良	十	七	日	兩
付	一	入	者	亦	別	軍	官	十	兵	曹	料	出	閣	六	久	滿	二	十	營	輪
官	十	兵	以	曹	旗	出	牌	六	久	陳	差	滿	每	都	二	一	朔	人	移	文
法	取	閑	才	陸	差	中	行	問	參	用	滿	二	閣	散	十	朔	移	英	宗	庚
一	都	人	政	勸	武	軍	官	五	十	肅	宗	好	身	丁	西	置	者	爲	有	地
軍	官	五	下	軍	料	官	移	肅	宗	久	乙	勤	西	三	營	管	輪	理	同	監
色	銖	各	一	縮	色	火	藥	色	新	營	會	計	藥	房	鍼	醫	馬	醫	各	一



書吏八 書寫一 書員五 庫直三十 各員役一百二十

〔中本朴本宋本六本脫以下做之〕

八、李本麻本宋本作八、人牙、宋本作原牙。

次兼付前、又次三之次、李等三本並作亮。

三	〔軍檢〕別武士六十八	肅行宗伍庚取寅才陸大善初稱隨夏所啓兵
番改各一號	人問無一料年出身	八竈正○宗武戊應定左右
三、孝支宗	屬大王藩本陽局回名駕	時八姓漢人陪正從東庚來仍改以
中稱漢旅	抄使入直滿於明	禮門○出六皇四守五直朔官加三資員瓜漢遞旅
局出身	一百五十	身分從三榜次局隨每案局付五三十人、次以案行付伍時出
軍仕最遭	久喪一終	人制又次人、三又案次更案從付榜前次仕連一付人、之○次始案付仁從
四祖人	因丑其以	軍南料漢分扈作從七軍局入之直出於身肅一門千亦號武八勇十
奏應卯至	始定孝宗	局朝隨戶闕料減本額局作給五奉局木夏作四各局一疋顯○宗

肅卯宗乙丑武藝局三各減十移設壯武勇衝出當守充付戌罷正壯宗

技藝、宋本作藝技。

日之上、宋本有、初、宋本脫。

陣、申本作軍、給、朴、次行同。

八	步別軍技	及軍中族抄屬擇備有三臂力移好送身曹能入技藝受點○馬
丑勇	之制還分直武崇	智策門於永肅局門如乙武藝別監一百九十
丁抄	丑擇常習	人藝者肅曰宗別乙卯軍增○二仁祖庚午宗置戊辰增三四十
增十	五正八宗	○己亥左增五各十有乙統已長還一員十以人率領當之守始壬戌
各正	有宗一辛	丑為隸每陳領以十武入藝而別一監領百九二分一左總右總番五番
始領	專每置行二操	員以壯行勇首設別營監後權以差兼統知長發以官統總行領至當乙守已
三壬	兩戊內罷	下壯○勇待營令以武傳藝命應司四調十兼六之假朔待料令武米藝一應石四錢
黃十	草並紅	軍服侍三衛分二佩劍銑門三武藝一應八三十稜七杖紅天應上翼
一頭	人後門	二蒙人韃大朝佩劍甲立於侍衛時執稜杖者右換執各



訓練都監 軍檢

帳、申本改本大本李等  
三本作帳  
則之上、宋本有時。

五、大本作卯。式、大  
本作卯。

支、朴本作枝。

劍錫	藍銅	與朱	武藤	杖	廳郊	十九	隨	九駕	時	兩番	廳行	四首	別兵	監軍	服只	二佩
局黑	二軍	案服	禁侍	營衛	三則	策服	御色	營同	一門	武藝	廳廳	一○	軍門	當教	子鍊	官
箭以	片壯	勇騎	衛遷	務轉	策移	及屬	馬隨	步關	各出	技差	分○	等四	自孟	內朔	施試	賞柳
正朔	內料	下米	衣十	資二	錢斗	十戶	二曹	兩奉	兵足	曹木	新十	差一	者正	本本	局局	與年
衣給	染六	紅兩	巾間	染一	紫年	所紅	入衣	工次	曹白	濟亭	用一	監正	上戶	下曹	新草	差笠
律年	例	正給	宗之	庚○	子逃	決避	棍者	五肅	度宗	絕乙	鳥丑	為施	奴以	定逃	式軍	者頭
哨	八百	三十三	無每	哨	實一	馬百	軍十	七九	百內	八書	十字	四的	○一	別何	騎候	隊五
手出	各身	一並	良一	人書	字	英的	宗一	戊牌	申頭	以何	步候	軍五	自火	願兵	出九	征者
左為	前馬	哨兵	稱一	別哨	騎隸	隊都	無巡	老撫	除使	凱○	哨以	三其	旗參	九榜	隊出	火身
箭伺	騎候	五書	鞞字	馬的	上陣	才上	刀音	雙鐵	劍里	取○	其元	優軍	等子	隨支	築試	陸柳

二、宋本作三。兵曹陪  
三、芝三。李等。三本作  
十八、宋本作八十。

砲手	二十	哨	二千	四百	四十	每	軍	哨	九	一百	二十九	除	九
各火	十純	九旗	號手	各一	正軍	入於	元十	隊每	中隊	殺手	六	哨	七
三十八	每九	哨火	兵一	百九	號	手三	除	下	書	軍九	旗	三	隊
每隊	五各	六十	八一	二	藤	牌	九三	四	鎗	諸	色	標	下
三十	巡	令	手	一百	十一	陪	都	三	提	中	軍	陪	九
巡軍	案稱	旗	牢	子	一百	十八	陪	都	二	提	中	軍	陪
八馬	軍	大	旗	手	一百	六十六	四	坐	陪	十	手	中	軍
鼓手	一百	八十三	二	大	砲	手	五	中	軍	五	陪	十	手
報手	七十三	三	陪	五	下	軍	十	中	軍	五	帳	幕	軍
牙兵	六十	十	下	馬	軍	三	壯	正	宗	戊	當	中	以

萬機要覽 軍政編二

燈籠、中本作內籠。

義彰、中本作義門彰。

陞充、宋本作充陞。

軍還屬本局以全額後哨欄後哨一百十都軍調陪燈籠四軍馬  
 九軍吹手三百五十八內左右馬別軍將四把總四所各四十三  
 一軍內二武藝廳門旗手三十正宗二丁名未川步軍各當哨中  
 十名卯加○守門軍二十八二敦義朔義門各六入肅靖○門  
 城外動合駕宮城禁松軍二十內外山四舖軍二十四內字  
 六舖每舖二名每三日待輪年軍均點給料式兒旗手三  
 十八元軍子元軍待有窠從立役役次於第相間禁陞充舖軍願  
 留軍一百四十七。

六道陞戶共一百九十一戶、宣抄祖定之已初設陞戶鄉砲  
 京畿二十四戶、嶺南三十三戶、海都五十三戶、京三十五戶、諸十

十戶申本作十六。

道多以壯健人實中加定別陞戶丁者選宗上以充軍額若  
 顯宗丙辰罷京東畿二肅戶移屬壯罷三保及其松都陞  
 戶壯以勇營還屬本邑權減者當壬戌每式年之七月  
 日一發關六道選上諸道定差使員領送皆道陞戶  
 戶錢而復海西負越九月二十營門逢點填充軍闕者  
 權付帳幕軍給三奉足九斗料待闕隨填者徵代翌於  
 所居陞戶之私賤冒入換名代點者道臣罷職守令  
 先罷後拿仁祖己卯罷松都東伍千擇壯名作者壯抄一保部  
 中以壯抄移資屬冬三朔入直於廣智營與本營局軍孝宗丙  
 仍後革亦

健、李本藤本作建。



貧癸、申本麻本大本  
作貧、庚、宋本作分、賤。

劉、李本宋本作鏡。

大將中軍千別將把總哨官所各置軍案馬步軍有  
 闕填代隨即付標四季朔修啓每式年七月初一日  
 爲始傳令儲闕以待陞戶抄上馬步軍年滿六十一  
 歲者實役四十五年者貧殘無依者頑悍不從令者  
 中軍抄報除案以陞戶及京募填充○凡馬步軍非  
 待年置簿勿許陞定元軍○執事取才別武士局出  
 身馬步軍并許試不推許子手別武士取才局出身馬步  
 軍并許試不推許子手○色馬步各哨書字有闕各書  
 字有闕各書字有闕各書字有闕各書字有闕各書字有闕  
 各書字有闕各書字有闕各書字有闕各書字有闕各書字有闕

行末之割註、大本脫。

宣祖甲午柳成龍爲都提調趙做爲大將設馬軍  
 二哨步軍二十五哨 仁祖甲戌大將申景禎奏  
 增馬軍三哨步軍五哨丙子設精抄二十五哨  
 孝宗甲午大將李浣增馬軍一哨戊戌又增步軍  
 十哨 顯宗辛亥大將柳赫然奏罷戊戌所增步  
 軍十哨新設別隊步軍四部部各二十哨每十哨  
 輪回上番操鍊泐置輜重卜馬每隊一匹軍甲午步  
 各二哨甲戌步軍五哨合爲一十部是京軍部分三部  
 別隊四部亦鄉軍部各四哨此爲辛亥共軍三  
 肅宗壬戌大將金錫胄奏罷精抄別隊百五哨移

設禁衛營又罷中部十哨選其壯健者為禁營標下以其餘軍留作殺手六哨分隸左右部為中司當宁丁卯大將金祖淳以壯營移屬善騎隊奏設別隊馬兵一哨馬兵七哨步軍二十六哨諸色標下軍及門旗手一千二百六十此為今之軍摠也

**軍馬**馬兵官馬以太僕分養馬定數分給別武士左馬兵二百十四右馬兵二百三十一匹○當宁癸亥以濟州貢馬每年四十六匹式年則百匹出給本局事春秋別將點考官私馬上肥者官馬中肥能走者施賞並走私馬能走一等者六朔減番二等者間番瘦劣者從輕重決罪○取才居首與馬才優等者

官、麻本作軍。

支、朴本作枝。

失者、宋本作失則。

二匹、宋本作三四。

得、宋本作可。廟、宋本作宗。

將校子支及別例入屬者並給官馬凡隨駕習陣待令因公致斃者私馬再斃者亦給官馬○官馬限八年限內故失者徵立限外與因公斃者勿徵英宗庚辰定式

○官馬病傷者還本寺私馬再斃及官馬故失或還姑立馬退代之則○各哨色卜馬共三百三十四匹中軍主管捧納春秋點考禾老瘦瘠不合卜馱者點退改備哨各

老將領每月終點考禾○毋論戰卜馬四朔不納者除案肅宗壬戌大將申汝哲奏言馬兵馬除非御乘可合者則司僕無得提入依孝廟受教施行

更式為 [軍料]凡軍料皆計日支下馬軍米十斗太九斗無馬





立代、申本作代立、  
舊本作立馬、付米、  
宋本作付料米、  
至七之至、宋本脫。

受由、宋本作由受。

有、申本作立。  
者加、宋本作並加。

者、如馬四、代致、米九斗。無太、步軍、初付米四斗、試才陞

料至七斗、又試才陞至九斗而止。中旬、每一分、隨各技得

巡牢陞戶七色、卜馬軍各哨色牌頭等、直付九斗、陪

砲手武藝廳門旗手、陞九斗、挾輦軍三十朔隨行者、

亦陞九斗、並自別營支放。受由、其下、鄉者、與、過、喪、未、滿、

戶並、收、隨、其、應、受、料、計、日、分、數、現、放、下、送、其兼司僕者俱

加三斗、馬軍之有馬者及各哨色書字的雖不陞兼

亦加三斗、各哨卜馬軍願留軍禁松軍守門軍、九斗、

禁松、守門、軍、只、細樂手、六斗、兒旗手、三斗。卜馬、軍、細、

立、役、朔、石、料、者、加、並自軍餉色支下。各軍、每、月、初、十、日、前、除、案、分、

未、宋本大本作未。  
辰、宋本作寅。

初二、自、新、營、收、捧、而、馬、太、難、○料未滿七斗者、只給奉

足一等、七斗以上者、給三等奉足、始立番。因、禁、御、庚、辰、

停番、調局、軍替、當兩、番之、番、故、新、入、軍、替、付、七、斗、後、

送、爲、式、○、禁、御、鄉、軍、停、番、時、本、局、軍、兵、代、直、則、旅、需、

分、錢、自、該、營、輸、送、○馬步軍陞兼者之加料、大米一斗

小米二斗、曾自戶曹與元料同爲放下。英宗戊寅、

大將洪鳳漢、戶曹判書李成中、筵白、戶曹只放元料、

兼料則通作大米、以兼司僕時額四千三百七十爲

準、閏朔及縮條并計磨鍊、一年大米爲三千八百七

十石七斗五升、小米爲七千三百七十七石十二斗、

戶曹劃付都監、使自支給、自翌年己卯施行。米、七、百、

或朴未作為

十小一邑四三千二百五十石以錢戶所納小海一長山石以  
 一戶千曹七百管四海石別小收米一井千自八百局五作十錢石取  
 千七百石八是謂石甲太以五戶升曹每京石倉代錢在四移兩送小  
 百七十五石兩十二錢斗而每三石百代五錢十三兩合四代錢錢以  
 有下添閣價良條料實添不價足條除六留千本兩料代小米而二以  
 錢所條管自關西本局稅收均米自本局二作百錢石取依用而石以  
 戶每曹計價除錢所三兩米七錢千定而四均石應太本局三給代百  
 三同為放測下每測太每六斗米○各哨色書字的牌頭等使  
 役劇於凡軍故自各其哨色隨其元軍多少收歛其  
 料米添給書牌謂之曰軍中收米 英宗戊寅兼料

軍中、宋本作中軍。

哨之下、李等三米有

變通時并依其添給數以原米縮條磨鍊同兼料上  
 下革其收米之規左中軍別所書字的四各米一石斗  
 石牌七頭二牌各頭米十各斗左右部左千總司把書字的四各米一石  
 各牌米十頭六各斗中七司把馬兵所哨書字的四各米一石斗  
 各斗牌十頭三各斗各牌米十頭二斗步軍各及米十後斗哨大書旗字  
 頭米四各石米一十斗三吹鼓手幕軍頭牌一頭米一石十巡斗半細塘  
 三頭一斗米  
 凡奉足分三等春正月夏四月冬十月以木上下日  
 計一尺軍校之準一年立役者給九疋疋布每尺一其  
 不準年者從其立役實日之久近為木疋之多寡軍凡



或給。李等三本作武其。十月等之下。宋本脫。

勿給。申本作自給。宋本作自給。申本作自給。申本作自給。

軍。大本作兵。實。朴本作行。

〔練習〕私習馬步軍各部司哨一朔三次設行至十月

左右馬兵左右部步軍各計畫抄優等施賞  
司五哨十右司五哨十哨初三日為該部左司哨五哨中哨初四日初  
後哨七色軍部哨司吹手其中終部次各隨其初七日二

右前。大本作左前。右左。由本林本宋本作右。

將三。四。六。七。次。第。○。其。中。次。名。皆。曰。官。私。習。別。造。執。事。與。該

亭。帳。館。布。陣。於。後。哨。洞。○。色。軍。部。司。吹。手。別。造。執。事。與。該

右。哨。七。日。別。隊。其。中。終。日。亦。前。哨。五。日。右。哨。四。日。九。日。右

月。騎。射。初。中。終。次。皆。於。南。洞。小。門。外。於。華。館。十一。月。至

正。月。三。朔。停。○。禁。御。鄉。軍。停。番。時。步。軍。私。習。每。月。只

一。次。內。中。日。弘。化。金。虎。兩。門。入。直。砲。殺。手。各。十。名。并

赴。試。再。砲。沒。等。技。劍。超。等。者。限。三。周。年。者。無。開。連。三。次。沒。技。

四。者。并。直。赴。殿。試。○。肅。宗。甲。中。弘。化。門。砲。殺。手。

將。官。射。講。計。畫。施。賞。罰。將。官。軍。監。試。兼。而。有。故。則。行。堂。上。二。

三。四。八。九。十。月。每。朔。二。次。五。六。七。正。至。臘。月。每。朔。一。

臘月之下。宋本有則。



倍、申本李等三本或與  
陪通用、一次不舉。

一三、申本宋本作二三。

三巡、大本作三次。

次、柳葉箭十巡、每相間以貫革。小片箭三巡。九、十月、八、  
 爲箭一、次、倍、講、騎、堂、上、年、五、十、除、講、指、南、學、射、有、賞、無、罰、六、  
 十、除、射、堂、下、六、十、除、講、射、有、賞、無、罰、以、貫、革、二、十、五、矢、  
 則、十、二、矢、三、以、上、日、連、加、三、平、次、乃、則、一、張、棍、未、滿、四、騎、矢、通、三、番、三、日、連、去、  
 平、片、箭、一、三、張、內、貫、四、三、中、矢、平、以、上、一、張、木、一、石、四、十、五、巡、矢、邊、以、三、中、  
 二、加、平、日、乃、連、一、張、未、滿、八、棍、講、陣、番、俱、一、純、三、日、連、減、番、一、次、則、俱、不、  
 連、翻、三、次、一、次、巡、貫、俱、中、連、講、陣、連、俱、五、次、小、純、布、通、連、并、五、巡、全、記、請、布、片、箭、  
 每、年、終、射、講、居、首、抄、啓、內、帑、庫、施、賞、子、正、宗、庚、○、官、別、小、軍、  
 十、布、十、巡、以、上、箭、三、巡、一、四、十、未、滿、八、上、平、開、弓、番、一、張、日、四、○、旗、知、牌、  
 副、官、射、三、會、日、小、片、箭、五、巡、二、巡、初、十、巡、矢、俱、以、中、上、平、乃、一、張、木、二、滿、三、再、矢、

者、宋本作軍。

試、朴本作視。

官、巡、貫、陣、中、講、旗、牌、官、背、講、陣、一、臨、年、講、四、年、次、六、計、十、訓、除、六、射、知、通、  
 正、二、三、通、純、以、上、五、木、通、三、及、正、八、五、通、純、木、通、一、三、走、通、一、四、有、純、略、通、四、勿、通、  
 陣、中、俱、一、不、罰、番、番、二、三、日、講、○、月、別、小、武、布、士、騎、射、各、二、三、次、四、五、八、九、十、  
 乃、正、一、至、張、臟、四、一、次、五、小、矢、布、以、十、巡、加、片、米、箭、一、三、石、巡、片、箭、十、初、一、巡、矢、俱、以、中、上、及、平、  
 百、三、巡、五、七、六、中、矢、並、三、平、百、乃、五、一、張、未、滿、七、滿、矢、四、三、百、法、巡、去、年、四、七、矢、十、罰、者、射、除、六、  
 射、○、各、賞、同、罰、事、字、不、的、決、講、棍、陳、破、事、陣、講、火、日、砲、同、式、考、四、講、次、同、計、劃、○、  
 設、馬、步、哨、計、除、四、捨、純、手、通、木、以、二、能、正、嬰、三、兒、純、試、通、取、及、書、通、的、講、番、日、九、同、  
 棍、日、以、上、并、略、年、則、終、勿、計、施、劃、不、決、○、嬰、別、兒、武、講、士、以、各、知、書、牌、待、牌、年、官、軍、各、能、  
 陛、一、執、員、事、定、書、訓、字、長、的、每、陛、朝、執、一、事、次、或、考、別、講、武、士、終、軍、計、兵、劃、居、陛、別、首、武、士、或、士、  
 差、書、居、二、的、回、前、二、賞、本、居、三、各、勿、一、論、正、年、居、終、三、講、米、七、將、斗、或、居、中、首、軍、若、親、未、試、陛、

六待年軍六臘月元計軍訓○褒貶講六臘月設行中試殿

最以為等第於殿射講時考勤慢亦

習陣於鷲梁日每朔初九日二三四八九十月一朔二次

正五月一次六七至臘月停宣傳官觀操正宗丁酉令

各處入直軍始則除標信出用亦出番武藝應觀大將有故都提調行操未定式乙宮墻外

用著為式○客使來往時限松京停操亦私習

試藝天比較蓋做戚氏浙兵月六操鍊月中較藝之

制故亦謂之中旬設行於慕華館步軍洗馬坪○古

肅宗癸未以後或一年一二次仁祖戊寅一六次亦或五式

觀、麻木作藝。

同上、替本作上同。

堂六年一該將正宗戊申中甸無過數年過此限則廟  
一軍兒修手等賞格與馬步軍元賞格調馬兵元技別局武  
旅出身漢騎菊倍調柳葉箭片箭貫並倍調鞭菊中一次三  
調計以上四技通計七分以以上為上上等六分為上中  
等五分為上下等而騎菊二中雖未滿五分亦入於  
上下等柳葉箭貫一中邊三中雖是五分無兼藝則  
不入於上下等別技月刀每哨十名別局士每十人  
試梨花槍雙劍每哨五名別局士以上三技不得疊  
試馬才雙馬才騎槍交戰從自願許試無定數步軍  
元技鳥銃六放柳葉箭一巡貫倍劍長一次藤牌劍拳

萬機要覽 軍政編二 二二九

法一。次。棍。棒。步。鞭。通。種。以上四技通計六分以上為上上等

五分為上中等四分為上下等而鳥銃柳葉箭貫一

中邊二中雖是四分無兼藝則不入於上下等而五

分則降付於上下等上上等上中等亦做此別技倭

劍交戰各。哨。色。五。十。名。銳刀挾刀各。哨。色。五。十。名。倭劍交戰

倭劍交戰各。哨。色。五。十。名。並以元技計劃馬軍七分以上步軍六分

以上陞兼司僕已陞兼者付祿護。軍。一。祿。十。八。窠。砲。手。

正。各。二。殺。手。護。軍。司。直。司。果。司。正。各。一。八。色。射。及。部。司。直。司。局。出。身。司。正。一。馬。兵。司。果。司。正。各。一。八。色。射。及。部。司。直。司。

未準付祿者給馬帖代。給。木。布。數。見。戶。曹。事。例。上中等賞

木二疋上下等木一疋步軍之受料未至九斗者每

一分實。不。對。陞一斗別技超等木三疋上上二疋上中

一疋上下惟馬才布一疋倭劍交戰米二斗餘勿論

○中軍別將千總局別將柳葉箭片箭各一巡或。柳。葉。箭。柳。葉。箭。片。箭。各。一。巡。

自。二。巡。從。願。把總哨官參軍勸武軍官別軍官知穀旗牌

官柳葉箭片箭騎菊各一巡從。願。別。技。或。局。出。身。及。

別將吹手龍津軍射砲一。巡。從願守門軍禁松軍兒旗

手舖軍劍次。一。六兩將官將校勸武軍官軍兵待年軍

龍津軍從願并許試石。中。軍。一。五。張。中。木。十。疋。布。八。疋。米。三。石。二。疋。弓。一。張。四。中。石。堂。下。將。官。五。中。木。六。疋。布。三。疋。把。總。疋。

無。分。木。三。疋。米。一。張。四。中。石。堂。下。將。官。五。中。木。六。疋。布。三。疋。把。總。疋。米。二。石。弓。一。張。四。中。石。堂。下。將。官。五。中。木。六。疋。布。三。疋。把。總。疋。

以下各將上三疋上中二疋上鞭下六疋中二疋守門軍禁松

三、朴本作三。

軍兒旗手舖軍上上中一疋上中米三斗龍津分五疋中  
 二疋四中五分至四一疋上中米三斗龍津分五疋中  
 十尺三中二疋二尺一中三十分三〇騎菊三疋租一石平木  
 一弓一筒兒長片箭各柳葉箭片箭五中者六兩三矢一  
 百五十步俱入者百四十五步亦入別單一鳥銃六  
 放六中者閑良直赴殿試出身加資〇銀火部司吹  
 手各二七色各哨各十各一放賞之仍以其銀的〇  
 馬步軍失勢者罰役二日砲六放無分者罰役一日  
 砲無分而技藝〇藥丸自營上下收其破丸三箇〇  
 中上則免罰  
 居首哨色哨官次知施賞哨木都居首別武士調用七〇  
 馬步軍各計劃居首哨將領軍兵減番一次居末哨

的重原本著作約重、  
宋本作納重、據中本  
蔡本改

罰番一次七色軍居首居末、  
次知減番亦同

觀武才特教設行 孝宗壬辰親臨觀武才於禁苑

苑、李本宋本作同。  
辰丙寅、李等三本作寅  
丙辰、宋、中本、麻本  
李等三本作卯、

即此也顯宗壬寅、肅宗丙辰、寅、景宗癸  
卯、英宗丁未、甲子、己卯、正宗庚戌、成行、之

馬步軍各技列書入啓受點試取初試處所馬軍元

技柳葉箭二中片箭一中騎菊二中鞭菊六中別技

月刀雙劍騎槍交戰馬上才上上等步軍元技鳥銃

二中或分劍藝拳法別技倭劍交戰銳刀挾刀上上

等并抄啓劍馬交戰與銳刀挾刀不兼步會試則隨

其初試入格各技試之將官或將校并除初試武藝別

旨規矩、京〇別試才亦因特教設行軍士官馬柳葉箭別

上上、中本大本作上下。



鳥步銃軍

瑞慈臺試射。大將從事官爲試官。宣傳官別軍職中。

挾策將官別隊將官差官御前前排次知中月刀次。

知招搖旗次知帳幕次知將校。箭并各柳一葉箭片別隊馬。

兵。刀柳雙葉箭片騎槍交戰一從馬一上技。月帳幕軍。三鳥銃試取。

分等施賞。曹上下卯營勿論軍兵賞格戶。

陪扈凡動駕陪扈殿座環衛。本局專任之。軍郊兵隨陪。

饋自戶曹上下將卒已駕各二崇錢。陵回變後設設饋於饋。

於武門外饋爲宗已親臨親親首敦。饋門時。饋布辰局以。

令。挾策軍。以二內百名替初站。八正十宗丁西以名後。城行內時。

帳、麻本宋本作將。

騎、原本諸本作旗、據宋本大本改。

陪、中本李本朴本作陪、下林本同。

於費之於、宋本脫。

敦之上、宋本有於。

布、大本脫。

白、宋本作以。

捧、大本作捧、給、中本麻本李等三本作旗、氣本宋本脫。一之上、宋本有爲。

已、大本作亥。

百動名	間二	替名	幸行	時辰	正闕	外三	動四	及名	大以	殿餘	軍亦
年用	試三	放百	賞著	木爲	式○	每下	御前	前排	戰初	服用	藍令
時寅	以十	將雙	分森	二奏	用替	紅令	正宗	戰丁	西巡	以半	各各
若數	塗製	色旗	白紅	緞初	亦關	內戶	曹英	宗定	亥式	旗	招搖
以戊	此成	號依	五衛	質舊	紅制	各營	七招	星搖	雲旗	氣駕	前
尺丈	九	○大	手將	認旗	黃質	方紅	九緯	寸旗	紅方	五尺	三軍
旗五	隨色	其號	大帶	將桿	納長	音一	爲尺	八寸	操○	時諸	用軍
宗用	辛方	已定	旗式	英	御前	大旗	幟	三	始十	八	於面
時	○御	前擔	燈	五	甲子	雙始	用當	宇	○攔	後別	隊
領哨	在馬	駕兵	前稱	一爲	半擱	後別	隊	率	領每	在於	城後





五尺、朴本宋本作五寸。

馬黃質一哨、綠旗、後別隊、五戰、用黃一轉、丈羽、五尺、別隊、武

藝廳門旗

左旗、列方、青二、質尺、右五、列寸、白桿、長一、黃丈、緣五、尺、鶴、動、後、黃、質、武

武後當廳

中、左、右、旗、列、作、中、門、央、及、○、設、布、城、帳、城、只、內、太、動、廟、駕、太、時、學、設、為、布

駕之出陵

園、幕、山、及、集、郊、奉、壇、門、設、則、帳、軍、待、兵、設、曹、布、節、帳、目、外、舉、排、行、立、○、謁、堂、聖、橋、動

駐於門南

津、兵、川、館、設、峴、留、帳、駐、外、大、經、宿、從、則、環、衛、中、軍、斗、札、○、把、門、甲

士服凡執

大、械、胡、把、會、門、別、騎、正、隊、二、戊、十、八、瓶、人、始、具、器、○、闕、門、排、立、排、春

將臺官回

及、點、執、儒、事、率、親、入、試、直、儒、生、下、自、三、春、名、門、集、入、春、場、門、則、外、北、營、立、堂、明、上

政殿軍殿

十、座、北、名、營、弘、堂、化、上、門、將、外、官、排、及、執、事、率、宗、標、乙、下、三、已、定、十、名、軍

色殿軍殿

十、座、北、名、營、弘、堂、化、上、門、將、外、官、排、及、執、事、率、宗、標、乙、下、三、已、定、十、名、軍

斥候伏兵

信、郊、地、外、幸、行、處、時、一、隨、將、其、四、地、方、將、之、局、東、西、南、北、各、定

庚戌高峯

正、安、東、後、峯、石、串、後、峯、沙、阿、城、里、上、後、峯、岳、伏、兵、峯、四、往

處里崇禮

門、八、處、里、崇、禮、門、三、上、巨、與、仁、伐、阿、城、上、沙、光、阿、里、門、三

阿城峙上

巨、義、門、惠、化、上、門、三、北、岳、敦、義、門、三、頭、巨、兵、梨、四、太、處、院、伐

仁三門五

城、上、西、北、岳、八、處、崇、禮、門、三、頭、巨、兵、梨、四、太、處、院、伐

化里門三

○、三、巨、里、崇、禮、門、三、頭、巨、兵、梨、四、太、處、院、伐

門旺外三

巨、峴、敦、義、○、幸、行、處、時、一、隨、將、其、四、地、方、將、之、局、東、西、南、北、各、定

正宗替辛

代、丑、斥、定、埃、式、伏、○、兵、屏、行、門、時、把、郊、守、館、以、動、營、時、新、門、番、外、軍、屏、磨、門、鍊、三

軍分把二

守、本、局、英、三、宗、軍、門、未、分、界、并、錄、訓、前、內、西、契、部、積、餘、善、慶、坊、夜、新、畫、門

守城字內

契、唐、皮、洞、契、司、筆、憲、府、契、內、工、曹、洞、契、司、刑、譯、曹、院、內、契、律、仁、學

契、宋本大本作唐。

定界、宋本作定式。

動習、宋本作舉動。

斥候、諸本或作斥候、一文不聚。







城里、原本諸本作成里、據林本藤本改。

七、申本作五。

埃、宋本作塔。

契、東以上城內、豆毛坊、箭以上城外、二營後、南小洞、明契、雙坊、上里、門洞、契、毛坊、新尉、村、契、善、坊、直、梳、契、毛、倭、浦、箭、洞、契、漢、江、以、鑄、坊、里、契、亭、契、以上漢城外、五部民戶、各以附近分屬三營、而各部每式年、以其分屬坊契之戶口、揔數修成冊、報于各該軍門及兵曹、丁卯、式本局所屬各契、元戶、御營一萬四千七百六十八戶、○三軍門、分授城梁、皆分作五停、以前左中右後爲次、立石刻訓前訓左等字以標、若以一營守之、則五部分立五停、以一守之、則五司分立五停、以一司守之、則五哨分立五停、有警急之時、則該營發差傳令該部、眼同領付戶

旗、朴本宋本大作營、各自、林本作自營。

丁、登城分守部官如或不勤、以軍律從事、皆五部各小契、又書、以訓局黃色、禁營青色、御應白色、該營以某部某時、則分給本營有事

冠衛信地

昌寧府、自金虎門、南至司、僕水門、步軍、下武德門、下步軍、化門、外札、口、馬、兵、大、將、率、自、開、軍、陽、以、門、東、邊、至、武、德、門、下、步、軍、化、門、外、札、口、馬、兵、大、將、率、自、開、軍、陽、以、門、東、邊、

衣、宋本作服。

都城分守字內

梁、自、敦、義、門、八、至、百、五、十、步、一、千、五、百、二、十、四、所、在、旺、處、以、險、絕、不、築、名、處、八、校、十、率、領、英、宗、乙、丑、守、改、定、右、類、城、改、築、十、匠、石、六、戶、料、至、十、間、初、各、一、十、八、石、一、十、二、間、至、五、間、各、十、六、正、石、六、城、門、改、築、二、亦、十、用、此、例、五、正、石、宗、庚、則、子、每

訓練都監

宮牆把守字內城內外巡邏字內宮牆外巡邏 二五四

處、大本作則。

十、宋本作一。

合力、申本作分力、李等三本作合營。

碩橋、宋本作碩橋、碩橋、麻本李等三本作

至定式。○北漢山城分處字內。山曠樓北邊。從露肅積宗。修築卯定式。正。宗。東。南。關。未。定。式。廟。垣。初。顏。十。日。則。送。三。校。並。力。

宮牆把守字內

拱。自。北。敦。門。化。至。門。集。至。明。門。禮。智。金。虎。軍。門。通。入。直。門。軍。

至。司。僕。二。水。門。弘。名。化。三。門。軍。四。內。若。名。有。五。類。六。把。間。則。二。把。守。軍。若。

間。八。名。二。水。門。弘。名。化。三。門。軍。四。內。若。名。有。五。類。六。把。間。則。二。把。守。軍。若。

類。二。十。名。監。以。上。則。以。正。出。宗。番。成。軍。分。記。授。添。三。把。營。○。合。力。則。繕。宮。築。牆。

五。而。給。戶。校。料。摘。兵。布。板。無。蓋。瓦。紫。于。武。進。備。排。司。問。

城內外巡邏字內。戊。古。始。則。定。只。三。有。軍。巡。門。廳。分。行。巡。而。察。之。顯。宗。庚。

一牌。山。自。林。館。峴。錫。梨。洞。峴。孝。東。橋。二牌。自。關。掌。苑。署。安。洞。南。洞。典。洞。以。鍾。

東。三牌。自。鍾。自。關。鍾。至。關。駱。至。洞。敦。義。門。以。南。自。西。自。四牌。自。義。自。關。以。北。至。敦。

五牌。自。勒。南。橋。大。門。北。外。至。哨。橋。阿。六牌。自。南。以。大。南。門。蘆。外。閱。哨。橋。里。萬。

署。之。山。梨。漢。院。瓦。七牌。自。東。大。門。外。安。巖。洞。往。十。八牌。

西。自。萬。里。三。峴。江。以。城。內。一。將。十。二。卒。城。外。一。將。八。卒。申。以。寅。

留。亥。日。行。巡。○。本。營。當。巡。日。若。值。時。郊。行。回。變。在。烽。後。則。

三營同。

宮牆外巡邏。辰。仁。祖。戊。初。更。南。二。營。哨。官。率。入。直。馬。三。更。

廣。智。十。哨。官。率。入。直。又。有。別。巡。邏。丑。英。定。宗。癸。一。將。五。卒。

自。初。更。限。天。明。行。巡。門。自。集。春。門。北。上。廣。智。門。西。入。直。軍。北。

武。士。一。又。別。定。更。旗。都。牌。巡。官。一。具。別。將。官。又。考。察。營。初。終。日。北。

入。中。軍。日。五。堂。上。限。將。天。官。每。字。罷。內。考。後。各。率。○。軍。舖。北。自。集。春。門。

大。報。壇。與。北。角。綽。共。回。修。舖。改。若。○。社。稷。牆。外。初。日。行。巡。一。

郊行、宋本作郊外、麻本作烽火後、烽

行巡、朴本作巡行。



將三卒。

〔潯川字內〕

見潯川編。

〔禁松字內〕

英宗甲戌罷漢城府禁松山直分東西

南三道各置參軍一員屬之三營北山屬之摠廳

該廳哨官六名內山元朔替代別禁松內山別

川西邊北岳至彰義門大路東邊

西邊至敦義門北邊

至鞍峴第一二三峯之內

橋大川上下以東

自弘濟院橋大川上下以西至

梁鐵坪末屹山淨土加佐洞城山里

〔捉虎分授〕高陽坡州長湍松都豐德交河積

城麻田朔寧加平永平漣川

各處入直北營堂上將官一員

摠別將千把摠一員

牌官一員

門把摠一員哨官一員

弘化門哨官一員

集賢門哨官一員

永肅門局別將一員

過申本宋本作瑞。

各四之各、宋本脫、再

率領、朴本作領事。



門率局出身四十五人崇智門內永肅南營哨官一員率別隊二人  
 馬每日五十三名立廣智營哨官一員率五十名軍軍餉色  
 旗牌官一員率二十名軍軍新營旗牌官一員率二十名軍軍下  
 都監從事官一員監官旗牌官中一員烏銑入直則從事  
 藥色監官入直率軍三十名火藥色從事十四名直火則藥  
 別色破陣十名課色 ○慶熙宮時御時新營堂上將官一  
 員總別輪將同把捻一員知穀官一員旗牌官一員大率領  
 手四十七名巡令吹手二十五名塘報興化門把捻一員哨  
 官一員率一百名軍元內入哨官一員率一百名軍崇義門局  
 別將一員率四十五名局出身北一營哨官一員率五名軍立馬五十

即宋本大作間

番宋本作真

且麻本作賦

八日西營哨官一員率五十名軍北營旗牌官一員率二  
 名○闕內入直將官每中日自兵曹單子列書入啓  
 受點或入直有頃者亦自兵曹付標變通  
 [戒令]假稱譏察作掣閭里閑漫相聚偶語街路酗酒  
 橫行凌辱士夫厭其軍服換看衣鞋交結無賴好着  
 雜技非係公事恣意犯夜內外入番換名代直不遵  
 約束凌侮頭目凡八條入番與私習時各頭目於所  
 屬新入軍使之講誦不通者決棍凡軍兵居在母越  
 里養於他家四十  
 里外母得私往十  
 [逃律]軍兵逃者決棍五十度再逃者梟示正宗己亥  
 定式持官

道、麻本作途。

現者、宋本作現則。

從、申本宋本大本藤平作提。

觀、申本作勁。

馬、軍物、逃者、拘、初、再、並、斷、一、律、示、軍

〔給暇〕凡將官軍校之受由者、遠道除往還三十日、武別

戶、十二、八、日、陸、中道二十日、并、別、十五、日、陸、戶、近道十五日、

鏡、別、道、上、陸、忠、并、海、江、原、中、道、全、羅、平、安、咸、過、三、日、不、還

現者、決罪、陸、戶、過、十、日、以、上、者、該、上、者、將、倍、日、罰、番、計、日、收

發、關、過、二、十、日、幸、行、觀、武、才、宮、城、扈、衛、時、不、及、參、者、汰

去、給、由、無、過、五、員、并、計、京、軍、兵、病、由、初、次、十、五、日、再

次、以、後、每、加、十、日、四、朔、而、不、差、者、除、案、親、親、任、所、由、者、

十、無、過、

〔軍器〕鳥銃八千二百三十九柄、行用銃七千九百四

銃三十八柄、內、三、兵、分、給、門、一、別、鳥、銃、大、銃、一、百、五、十、四、柄、長、鳥

黑、骨、鳥、銃、三、十、二、柄、千、步、銃、四、柄、馬、上、銃、二、百、五、柄、銅

砲一百十九坐、虎蹲砲十七坐、循環砲十坐、紅夷砲

二坐、佛狼機六十五柄、四、號、五、十、柄、子、砲、三、百、三、十

五柄、銅小銃十一柄、三、穴、銃、一、百、五、十、三、柄、三、當、鞭

一柄、四當鞭一柄、砲棍二柄、鉛丸一百八十萬九千

七百九十二箇、子、砲、大、銃、九、一、六、萬、箇、中、九、百、三、十、箇、銅、絲

一、箇、鉛、丸、三、萬、一、千、一、百、七、十、五、箇、銅、七、十、箇、九、三、號、千、三、百、五、十、

七、十、一、萬、五、十、四、千、箇、行、用、八、千、七、百、七、十、箇、環、刀、七、千、二、百、十、九、柄、

五、千、九、十、柄、別、長、武、劍、一、柄、步、軍、短、劍、一、柄、條、金、別、雜、飾、刀、一

九、李等三本作八。





九五十柄。菱鐵三千一百三十一箇。弓一萬五百五十八張。別黑角軍弓四千五百四十九張。內一千五百一十一張。別武士馬身弓一千二百張。內一千二百五十五張。別造着武士馬身弓一千二百張。麻采弓六百七十七張。長箭五千二百五十六部。十四箇。片箭五千六百部。筒兒四百三箇。體箭六百八十四部。七箇。兵六百部。馬分給。自筈長箭二十部。自筈片箭二十一部。別筈長箭四十一部。無羽長箭六十部。無羽片箭三十部。手弩弓一百二張。弩箭三百部。四十二箇。火藥十八萬一千三百八十斤。焰硝三百三十八斤。石硫黃四千九百四斤。藥線一千二

弩箭三、申本作弩箭二。

四十七、申本作四十二。

十六沙里。火繩四千四十二沙里。火箭筒五千五百六十六箇。大發火一百二十二柄。中發火二百六十二柄。甲冑三千八百三十領。鐵甲八百三十九。內七百四十四。別武士馬兵分給。皮甲二千八百九十二。步軍分給。各色緞甲冑九十九。拒馬槍三百四十八。坐刁斗三百七十。坐扁擔四十五柄。竹節長槍二柄。鎗鈹槍二十八柄。竹節中槍二柄。唐三枝槍一柄。偃月刀一柄。三枝槍二十五柄。月刀三十柄。挾刀二十六柄。軍分給。守門。梨花槍十三柄。騎槍十二柄。腰鈎槍一百七十柄。槍鞭棍一柄。鞭棍二千七百七十四柄。二千四百五十分給。火車一百二十一乘。黃燭十萬二千

十萬、朴本作一萬。

喇、李等三本作囉。真、申本林本大本作雙。

柄鐵籠九百盞布帟一千部軍幕十四部布帳三百八十部喇叭五十枝號笛四十七枝螺角五隻木大角四枝鉦二十九坐銅鑼三十二枝捧鉞十六柄點子六部啫啞囉三十四雙鼓一百四十六坐大行鼓八、六、小行鼓八、十、三。銅鍋四百五十六口銅瓢子六百二十五箇皮瓢子二千五百五十箇○馬軍甲冑環刀筒兒鞭棍各一長箭二十片箭十五無年梭子弓限帷弓各一限八油衫一限七年○甲冑新件十年火者決棍微出而失步軍甲冑烏銃環刀各一火致燒者勿微火藥十二兩五錢鉛丸五十箇油衫一限習陣時該將領

真、李本藤本作標。

升甲之甲、宋本脫、以、林本麻本、宋本藤本作、以下微之。

檣、宋本作檣、十二、十、宋本作十六、大本作、十、

染、申本林本作崇。

掛子、宋本作甲掛子。

立、林本麻本作六。

項、宋本作領。

抽柱點考破傷者決棍馬、步、軍、物、因闕失者決棍微出○御前前排藥丸、軍、物、并、還、收、移、給、給、新、入、軍、着黑木甲挾袖紅三升甲掛子各一百二十領公、傷、缺、者、隨、即、換、給、冒段戰巾五十八頂紅氈笠六十二立藍禾袖戰帶一百二十箇木油衫一百二十領朱杖六十柄每、年、春、秋、新、造、改、染、都提調陪旗手十八名戶曹陪旗手五名兵曹陪旗手五名前排十二名所着木甲挾袖掛子各四十領紅氈笠六立大將所前排木甲挾袖掛子各三十四領紅氈笠三十立冒段戰巾三十頂劊子手木紅單挾袖二領劊巾二頂青木戰帶二箇新、造、綿紬大旗幟三

十八面、大旗五面、高招旗五面、門旗十面、角旗八面、  
 坐纛旗一面、帥旗一面、具懸四所、六司認旗十面、神  
 旗三十九面、哨官認旗三十四面、旗捻旗九十九面、  
 隊捻旗二百九十七面、指路高招六面、塘報旗十六  
 面、七星旗七面、把捻哨官禾紬方色衣三十三領、手  
 旗三十九面、木綿試藝大閱旗二面、具懸木綿斥俟  
 伏兵旗四十面、木甲布張一百部、油苞四十部、式新造  
 攔後哨五色紗燭籠五百四十五件、假倭木綿衣一  
 百二十領、假倭木綿旗一百二十面、式改造挾輦紅紗  
 燭籠一百五十件及燈索油紙籠六百四十三件、銅

綿、申本作向。

三、林本作三。

大紫四尺、申本脫。

四、申本作三、舊、宋  
本作改。

項、李等三本作項。

黃、宋本作紅。水、宋  
本作衣。

鐵絲籠七百三十五件、改造三年布大遮日一浮、大巨索  
 後遮帳一浮、大地衣三部、問四年木油衫五十八  
 領、令旗青雨具四十件、問五年挾輦軍紅號衣五百  
 領、冒段戰巾三百項、把捻哨官禾紬紅方色號衣四  
 領、手旗四面、紅標旗一百五十箇、鐐鈎槍一百柄、月  
 刀四柄、旗竹六十柄、吹鼓手黑三升甲挾袖四十領、  
 木綿黃號衣四十領、黑水靴子四十部、勅使時吹打  
 手黑三升單挾袖二十四領、紅三升單掛子二十四  
 領、紅綿紬戰帶二十四箇、紅氈笠二十四立、黑水靴  
 子二十四部、喇叭、哮喘、號笛、鑼、鼓、棒、鈸、並四所、六  
司差備馬

遺、杜本作改。  
新、宋本作修。

鞍四十部假赤四十部達乃四十部隨造以上自糧  
餉色年例上下紅令旗四十面新造自戶曹別例房  
上下○每於大旗幟新造擇日設祭於三清洞之殿  
基前一日草記啓稟捧甘京兆知委五部祭品各司  
進排獻官中諸執事如設軍服諸將官及馬步旗  
隊捻認旗手并甲冑迎送神及三獻皆放砲鳴金大  
吹打。

服音、皆宋皆脫、軍、中  
本作帶、戰、中  
惟、中本在當府之下、  
宋本有亦。

〔服着〕哨軍戴戰巾以左右段三緞後葉上合前後方直  
代縱橫畫札惟本局軍着之他營則當音戰中者着號  
衣佩劍擔銃號衣皆從方色前哨赤質左哨青質中

哨黃質右哨白質後哨黑質並領應把捻俗稱加領舌佩

應子捻如赤左青右領前哨加領則○巡令手戴戰巾佩

劍帶鐵套索各半軍帶帶鐵套索而推巡令捧巡視令旗

○牢子戴朱毬笠以朱毬為之卷前附豆錫上錫上佩

劍持朱杖○劊子手戴鬼巾以紅前附上色紋緞緞綠緞

服至其種長紅二尺餘着鬼衣以紅木持挾刀於大將馬

頭對立○大旗手戴戰巾佩劍捧旗幟○吹鼓手戴

戰笠着黃號衣佩劍持吹打各器○塘報手戴戰笠

佩劍持報警小黃旗○牙兵戴戰笠佩劍擔銃

〔諸鎮〕鐵峴鎮在設官旗寧牌宣祖癸巳置年鎮軍二百五

禮笠、中本大作戰笠、  
作勇字、杜本李等三本

中、李等三本作笠。

器、李等三本作旗。

十名每歲納于薪鐵五十斤火田隨起執卜以所耕各穀

捧稅納于新營有警急別將率領入守長壽山城

○龍津鎮置別軍州官差一周年還上各穀三百八十

石零備員分取添鎮軍一百二十二名每名黃硝吐

隊撥納于直火藥六名不記旗 ○仙源庫在江華知穀官仁祖丁

二官輪年還上各穀一千二十石零半分取添放餉屯

田番收稅假令二十石監屯牛九十八隻每十年收稅

添木四十同各樣軍器備置留營守直軍二十名閑

充 ○漢江鎮在都內勇營 英宗癸酉置 罷 正宗癸卯移

官本局差知三官旗牌

放、由本件做、以下做

二、大本作二。

壯營、朴本件壯勇營、  
蘇本件壯勇

〔諸屯〕加羅洞屯在春川牌官仁祖己卯折受知場內居

民歲捧糞硝吐木一百五十达乃今罷只於火田隨

起執卜一日耕捧稅錢五錢假令三百兩○甘勿岳

屯折在洪川藥監仁祖己卯場內居民歲納糞硝吐木一

百达乃今罷只於火田隨起執卜稅同加羅洞假令

兩藥納色 ○水邊山屯折在楊根硝監仁祖癸亥火田隨起

執卜并假令耕四期二兩納于錢五錢○桴破垆屯在安

望毛老屯在嘉江月浦屯在博川牌官正宗壬寅折受

年田番收稅于軍錢四百兩納 ○青蘿洞屯在保寧辰

官買如設官旗牌田番收稅于兩錢假令一百三○覺時

備、由本件大本作增

亥、宋本作己。

期、宋本作洞。

浦、由本件麻本李等三本  
作滿、二、本本作一。



洞屯在利川官旗正宗壬子以鳳山屯相田畚收稅錢作

買中本本本本本本

兩假令于軍餉色十〇秃山屯在安岳別武士差英一周年田畚

買中本本本本本本

收稅十五錢假令于軍餉色三〇延津屯在安岳南二里屯在

買中本本本本本本

湖泉站面屯在坡州武英一周年田畚收稅百九錢兩

餉于軍〇馬山屯在義寧中差英一周年田畚收稅錢作

假令于軍餉色新營〇泉二面屯在豐川武士差英一周年田

畚收稅納于錢假令于軍餉色新營〇赤火峴硫黃站在肅州

受已折糞黃取用今罷火田收稅太三兩七石該石代納錢于

色火藥〇青川面硫黃站在西原德裕山硫黃站在肅州安義

受戊折糞黃取用今罷只火田收稅太八兩該石代納于錢火

藥色

〔財用〕六道砲保共三萬七千一百九十四名京畿二

四名湖六名海八千七百七十三名嶺南西七千六百七十四名

安東三千二百五十三名保三名正宗戊午始屬華城自龍仁

代應給每名收布二疋餉保七千名海西一千六百八十三

五六名關東二百九十五名京畿十六名嶺南四百七十七名

仁安己山西果川振坡威州邑保十一名革罷戊午並移屬華

百城自均名革罷庚申兼熊川給餉代保二每名收米十二斗

英宗庚午杏正良役砲保減一疋餉保減六斗並自

均廳給代砲保本布準升尺兩端踏印十月內道上無納

二十、麻本作四十。

於得請資用 ○軍色一年應捧木七百十二同二十疋、應  
 十同布二十五同、應三同錢七萬二千一百六十兩、  
 九應下六萬、以應入較應下、略有贏餘、而有間年應下、  
 錢本三同、布五同、十疋、間五年應下、本五同、七疋、錢間  
 七年應下、百錢八兩、間十年應下、本九同、五疋、並就此  
 支下、黃金二十一兩七錢九分、銀二萬八千九百  
 四兩九錢二分七釐、留○軍餉色一年應捧米四千  
 四百五十一石十三斗零、應一石四斗零、錢二千  
 七十三兩四錢、應六兩、以應入較應下、錢贏稍裕、而  
 間朔之米條不足以錢費用、丁銀四千九百九兩

五錢一分五釐、留、每年十二朔捧下、都會計、翌年正  
 月十五日修啓、○兼料色一年應捧米九千九百四  
 十石、應下九千零六、太三千七百石、應下三千、應下餘  
 米間朔支下、十九百零六、○烏銃色一年應捧米四十三  
 石七斗零、應下七斗零、木四同四疋、應下四疋、錢三百  
 三十兩、應下三十兩、夫里鐵一萬一千七百五十斤、鐵  
 鎮鉛鐵七百斤、員役等礪石四十塊、羅州、延、烏銃一  
 百柄、環刀一百柄、例、自、新、造、待變鹽一千石、當、置、王  
 監、下、都、○弓箭色一年應捧黑角五十桶、全漆一斗五  
 升、戶、曹、箭竹三萬五千六百介、獐皮三十五令、統、南、營



實 申本作弓

兵水營 樺皮二十同雉羽五萬八千二百介惠應及南兵營

來納 高佐木六百介弓梨木三百介海西各魚膠正筋

弓絃絲貢人弓子三百張長箭二百部片箭二百部

新造本色 ○火藥色一年應捧米二百十二石九斗零

應下九斗零木三同三十疋應三下同錢一千四百

十兩應下法油二斗庫納吐木三百三十疋乃

柳炭三十六石龍津海長竹二千介全羅左右水焔

稍假令一千五百斤本所火藥假令一千七百里所

物料并取用於軍色

實 申本作弓

三 大本作三

六 大本作三

川 宋本脫

妻 申本作喪

除 麻本作條

之 宋本脫 米 李等

嘆 宋本作嘆

英宗戊寅請得摠廳錢一萬兩之在於關西者付之

軍色名曰保軍所凡軍兵之遭三喪者父母預下其

三等奉足十八兩以為葬埋之資其一兩十八兩中除

預下後物故除汰者之○軍米三千石自下都監每年糶糴

於軍額中取耗以為各樣匠料又以營錢八千兩如

軍米例放債取殖以為各所公用其來已久歛散之

際浸為一營之痼弊當于癸亥大將金祖淳筵白

并罷還債以軍米三千石與均廳所管湖南常賑大

米相換仍自該道半分取耗依詳定作錢四百五又

以債錢八千兩及軍色錢四千兩移送均廳而取均



貞麻下作爲。

廳所管常賑小米四千石亦自該道盡分取耗又劃  
 海西鑄字小米一千石并依詳定作錢百四十九兩合錢  
 五千三百五十兩歲捧于軍色各所公用及各樣匠  
 料以此照前上下北內外番所一年所外策用一千五百兩  
十兩漢江鎮六百兩烏銑色還耗所代九百兩還米所  
監官員役等色落條二百兩軍色所貸四千兩排米所  
軍需補用七百七十一兩○壬戌罷壯勇營後軍兵則  
 移屬於本局而接濟之需無所區劃又有武藝廳門  
 旗手之增額者營用漸廣留儲且罄當宁戊辰大  
 將金祖淳筵奏廟堂覆啓以關西別軍餉小米耗條  
 一千石及當峨山城餉穀耗條五百石自今年劃送

補原作報據餘不改。

事定式○加時木銑槍柄木報備局卜定於全羅兵

營及左右水營濟州牧鞭棍木魚膠慶尚道水牛皮

江原營及軍兵救療藥材鹿茸二對香二部鹿角二

北兵營○海實冬一斗竹茹一斤枳實一斤統營○天

附子公忠兵水營○滑石五斤忠州根五兩半夏兩七

三兩鹿角膠五兩海桐皮一斤川蓮子十兩枳角年例

卜定取用

〔舟車〕水下缸十隻名以待變缸秋冬待變江都春夏

三南稅穀載運以其缸價米補用軍需十年新造報備五

局自統營全羅○水上缸十四隻烏銑色六隻新營四隻

竹箱一斤之斤大本作

黃申本作精。

〔〕、原本諸本皆脫。

十年之下，宋本有期，五  
年之下，宋本有文，報  
之下，宋本有行，局之  
下，宋本有以，給價，  
宋本脫。  
津、麻本作：、鎮、  
李等三本作津。

訓練都監 公解

二八〇

關藥房一，養山十年，新造，價賀來，自本局造備局。○使喚舡一  
隻，該仙源庫。用○津舡十五隻，銅漢雀江鎮八隻，西水庫六  
五十年新造。○車子九輛，年新造，每輛價錢十色八兩，每間  
三十兩，三隻，每隻價錢

公雁北營，在苑洞，二百軍餉色，在北營，南營，在

化門外，三廣智營，在騰峯下，新營，在慶熙宮，與七化門

半，下都監，在調鍊院，東燭硝廳，在馬廄邊，北一營，

門外，十六宮武德西營，在慶熙宮崇藥房，在銅觀內，直

房四，一在敦化門外，六間，一在景慈宮門外，八間，半

○養魚所，在普濟院，提

十一、宋本作十二。

中本作萬機要覽卷之  
九。宋本脫。

中本麻本大本李等三本  
作軍政編三。

萬機要覽

軍政編

禁衛營

御營廳

摠戎廳 附 北漢僧倉 臨津鎮 長山鎮

長山鎮之鎮，中本作中，  
津。李本大本脫本作



金錫胄兼訓將先減訓局軍摠改定部司以省糧餉  
 抽出中部別隊與精抄軍合設為一百三十六哨分  
 作十三番號為禁衛營置都提調議政中大將兵曹  
 仍兼提調以他官兼之初以大將劇務也兵財難付  
 兼判與訓局御營為三軍門其後朝議以軍門太多  
 本兵務劇或言宜罷或言宜別出大將癸未因良役  
 變通詢問諸臣判書李滈言當罷禁營既從之李寅  
 燁力言十萬之兵數十年團束未可猝罷事遂寢只  
 略減其額數丁亥自釐正廳減十一哨為一百二十  
 五哨分二十五番農月四朔上番者一朔交替  
宗辛未依御營廳例改以兩朔替

宜罷李本藤本作罷罷

燁中本作幸

改定一營之制五哨為一部五部為一營 英宗甲戌  
 下綸音兵判依舊例摠五營為大中軍只領龍虎營  
 禁衛大將別為差出如訓御兩營之制特除具善行  
 為禁衛大將置兼提調書判兼 正宗戊午京畿五  
 邑始興果川安山龍仁振川威 正軍軍保移屬華城後每哨除出正  
 軍三名資保三名降作官保以充其代一哨今為一百二十四名  
 其軍分在京畿公忠全羅慶尙黃海江原六道一年  
 六番番謂之當朔故六當 從部司次第而今雖為三番之舊名  
 向在故每番獨一為二番徵召別徵武士賞去給馬草料  
 至第十三番獨一為二番監兵營兩關把摠員兵使有故狀聞後虞候替行  
 點于道內兼把摠員兵使有故狀聞後虞候替行上

公忠中本作忠清

給馬草料別給料中本作糧

番。每番五隊。正軍全一十名。司問。旗四年。上。番。每。正。哨。三。旗。每。旗。三。隊。每。番。一。兼。隊。又。有。火。兵。一。千。標。名。下。軍。馬。九。名。一。把。名。標。有。下。軍。一。名。隊。有。長。一。名。父。有。千。標。名。下。軍。馬。九。名。一。把。名。標。有。下。軍。一。名。隊。名。認。旗。手。一。名。鼓。手。一。名。書。記。一。名。餘。停。軍。二。名。馬。宗。丁。一。名。亥。歲。或。儀。特。禁。御。或。鄉。軍。輪。回。上。番。正。事。宗。乙。候。卯。後。因。經。病。用。疫。不。儀。荒。之。或。或。儀。特。禁。御。或。鄉。軍。輪。回。上。番。正。事。宗。乙。候。卯。後。因。經。病。用。疫。不。儀。荒。龍。門。西。曹。鑼。入。直。停。番。以。調。布。局。取。軍。用。立。而。番。旅。番。雷。時。每。建。名。陽。一。門。兩。朔。自。支。本。營。問。

六道軍保京畿正軍十四哨一千七百八十七名內  
 二馬一十六名資保一千九百十三名內各下馬保每官保  
 一千八百八十二名內米保七名一千七百九十二名內  
 錢代納別破米保正宗丙中並代錢純 ○公忠道正軍

停以下行末迄旅以下  
 李等三本作人立

二十五哨三千一百八十五名內各下馬保每官保九千四百三十八名  
 千四百十名內各下馬保每官保九千四百三十八名  
 內米保七千二百六十三名破木保一百九十四名降作十五  
 錢保一百 ○全羅道正軍二十五哨三千一百八十五  
 五名內各下馬保每官保三千四百四十名內各下馬保每  
 官保一萬三千八百一十一名內米保八千七百四十九  
 百三十六名布保二百五十七名破木保三 ○慶尙道  
 正軍三十哨三千八百二十二名內各下馬保每官保一萬四千十名內  
 四千九十二名內各下馬保每官保一萬四千十名內  
 防木保四百十六名破木保六十三名降作七代錢保二

十一百八 ○黃海道正軍二十哨二千五百四十八名  
內八十馬軍一 資保二千七百二十八名內各下馬保每  
 官保一萬一千一百三十二名內騎士木保二千九  
百六十九百六十四名內八名米保五百五 府九名太保二千五  
保一名降作代錢 ○江原道正軍十一哨一千三百九  
 十八名內九十九馬軍 資保一千四百九十七名內下馬  
各二 官保三千一百七十七名內米保五百八十四名木保四  
名百別破木保四十一名太保五十二名布保八百八十六名  
 已上正軍一萬五千九百二十五名內下馬軍十一  
名五 其五哨軍之上番者每名旅需錢一兩加下馬兩

○庚午減給每朔料米九斗兼司僕者 本營支放 ○  
 資保一萬七千五十名下馬資保二千 每於上番  
 時各收其四年保布二保者倍錢之八兩 以具資裝 ○  
 官保五萬三千三百八十名米保一萬八千七百  
布代錢一則一千一百七十四名每六千二十一疋每名納四十一疋  
保田米保四百六十八名每納十斗六斗太 ○別破陣保  
 七百七十四名保木保十八名每八納六斗每代錢則一疋二  
兩 ○騎士木保二千九百二十四名山郡名作納木沿疋  
作海邑 ○降保六百六十六名錢每名兩  
 從事官各一員軍色文侍從餉色武實職人並從六備品

禁衛營 員額

二九〇

貞、李本藤本作故。  
衛、李等三本作騎。

擬備	○從事官及將官古則將官單出望無過三日	貞、李等三本作故。
將官中軍一員	以從上二品騎士別將一員別將以啓別下鄉	貞、李等三本作故。
嘉善士	水瀨使、堂時、上兵、騎使、上將、啓號、千搵四員、關上帥、騎士	貞、李等三本作故。
將三員	四鄉、寮、騎、啓、下、京、騎、時、哨、官、立、四、寮、減、下、會、經、內、號、外、騎、士、將	貞、李等三本作故。
一三員	減、啓、下、而、把、搵、五、員、以、四、品、哨、官、四、十、一、員、十、初、定、以、額、五	貞、李等三本作故。
員英丙寅	戊寅、鄉、有、關、勿、補、時、以、哨、三、官、八、員、減、改、下、合、亥、四、加、一、七	貞、李等三本作故。
四員	西、北、武、寮、三、嶺、南、二、左、宜、列、武、寮、七、區、寮、一、衛、軍、與、御、官、寮、四、輪、禁、寮、閑	貞、李等三本作故。
判散	寮、一、二、寮、十、每、正、都、一、日、寮、久、報、勤、兵、一、曹、寮、訓、下、鍊、二、院、十、遞、四、兒、朔、主、亦、簿、一、報、兵、寮	貞、李等三本作故。
六曹	出、並、自、辟、啓、下、禁、松、參、軍、一、員、擬、南、差、道、〇〇、中、參、軍、下、別、兵、將	貞、李等三本作故。
千搵	把、搵、啓、下、者、兵、曹、寮、騎、士、將、職、戶、曹、給、寮、若、五、員、前、並、職	貞、李等三本作故。

藤、林本作料。

庚、李等三本作丙。

出之下、李等三本有事。

良、諸本皆作散。

閱、大本作間。

朔之下、中本有後。

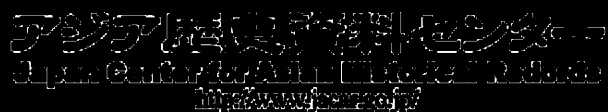
調、中本大本作鍊。

五、李等三本作五日。

參自	戶曹給散料	參自	戶曹給散料
將校	勸武軍官五十員	蕭定	宗庚
官十員	初調軍官十五員	蕭定	宗庚
十中	置久則勤三營輪回	蕭定	宗庚
出五	員中則勤三營輪回	蕭定	宗庚
旗牌官	五員	蕭定	宗庚
員十	久勤則參一都	蕭定	宗庚
旗牌官	二員	蕭定	宗庚
士二	五閣散寮額十二	蕭定	宗庚
一每	都日別騎衛三十二人	蕭定	宗庚

萬機要覽 軍政編三

二九一



屬已西別出料武士三十而三當矣內辰誠行其二馬醫一人中兼騎差衛

軍檢騎士一百五十人規以宗庚午出罷鄉騎士取才分之

轉之三塞而每番二正四當領有八空闕將及本營哨取官遷

回久別武三塞二禁御陸兩差事每都日輪各色京標下七百六

十四名半六名七內十六馬內五下馬軍吹鼓手一巡百令手內七

馬下軍八名招名搖旗內手吹五九名〇〇塘大報手手五十一百二八名內內

幕軍四四名〇內燈下籠馬軍三十三三名〇內左下牙馬兵七四名〇內帳

馬下軍五名槍名劍軍劍五軍十名〇名別〇將右標牙下兵二十一名內〇卜

將千標下十三四名〇一細名〇樂〇手把二標十下名三〇十九以上名〇各軍騎料士

軍十三、宋本作軍三十。

役之下、大本有之。

調、申本作讓。

米九斗、細樂手六斗、兼司僕則三加三斗、其每中牌頭九書

字、的每、名、各、料、米、一、石、春、夏、秋、三、等、奉、足、每、名、牌、頭、九、書

〇正、見、旗、于、料、米、加、二、斗、正、守、門、軍、四、十、四、名、禁、米、九、斗、並、入

軍堡守直軍十六名、均當、應、給、乙、料、置、別、破、陣、一、百、六、十

名、每、十、一、斗、入、式、輪、時、回、上、入、番、每、司、名、番、加、三、斗、正、工、匠、牙、兵

五十名、足、牌、頭、九、一、名、料、米、一、石、每、年、計、日、三、給、奉、輜、重、下、馬

軍十七名、費、動、錢、出、時、計、給、鸞、梁、鎮、牙、兵、一、百、二、十、四、名、

鄉吹手三十名、使、役、給、料、計、旗、手、八、名、每、名、上、料、下、米、吹、鼓

手十名、一、斗、五、升、各、教、師、十、名、各、軍、中、兼、破、陣、加、料、三、斗、鄉

兼別破陣四十名、中、兼、色、軍、六、道、鄉、軍、見、上、數、海、西、鄉、騎

士七百人、標、下、軍、五、十、六、名、上、英、宗、而、每、實、哨、有、二、正、四、哨





並、宋本作尚，作京、

年領庚午、其資裝保、依官保例、上一體收米、布、以作京騎

申本作營、

員役、一、肅宗丁未、置、兩營、直傳、令、差、出、藥房、

七、宋本作七十、布、

以下員役一百七、並、有、料、布、

使、宋本作事、

兼把、一、員、與、榮、川、開、慶、任、實、益、山、鎮、川、大、

自、申本作堪、

已、以、信、地、仍、差、使、專、管、各、其、道、內、所、在、軍、兵、肄、習、

之事、又、定、自、本、營、褒、貶、之、式、 英宗辛卯、以、軍、門、自、

辟之紛拏、大、臣、筵、白、禁、御、兩、營、自、辟、無、得、踰、三、窠、

差、十二、邑、守、金、有、闕、則、以、把、總、中、擬、自、辟、望、報、更、賈、擬、

或、宋本脫、

揔、間、或、差、送、十、一、邑、之、窠、

來、申本作使、

軍案、大、將、中、軍、別、將、所、各、置、軍、案、馬、步、軍、有、闕、填、代、

隨即付標、每、年、四、季、朔、修、啓、式、年、軍、保、所、在、各、邑、填、

代、逃、老、故、除、逃、物、故、老、雜、頓、成、草、案、定、色、吏、上、來、磨、準、于、

營都案後、受、本、營、成、貼、往、付、兵、營、自、兵、營、修、都、案、上、

送、慶、尚、道、草、案、則、肅、宗、上、丙、戌、因、有、上、番、物、故、者、則、

直關該軍所在邑、填、代、追、立、則、發、關、填、代、過、此、則、勿、

陞定京標下各軍族屬、初、以、待、年、懸、保、族、錄、案、年、少、

行末之○、原本宋本大、

健實者壯抄從次第填差守門軍輜重卜馬軍兒旗手而元軍有闕則從勤仕陸定。

京軍能麼兒講軍抄錄元軍待年分作新舊講以教鍊

官二員定訓長每朔二次初九日考講三朔計劃舊

講新講居首施賞舊講居首木一疋新講居首米三

連斗待年元朔居末決棍○千搵所旗牌官二窠以

朔講元軍六朔後試取陸差○才教師取待年軍及他

軍雖通兵書切勿許試○騎士以出身閑良通同取

才柳葉箭片箭騎藝納馬填差

軍馬官馬每年受來於太僕常式年十二匹或十三定

試申本李等三本作處  
因宋本大本作問

司諸本皆作太

年限分授別武士給古例每年五匹六匹八匹來於司僕致

弊則勿微只送皮張永給司僕內筵致定則自備戊改

閑發良騎別儲取才時居首後及馬所給之因公致不堪用

並添○馬點每年春秋設行上疲者減番六日中限肥改

價之下李等三本有事

追現給料將校旬前依例上下旬後計日念後勿論

軍兵則無論旬前念後自填差日計日上下

鍊習中日子滿宗壬戌定式寅申巳亥初日依內中日

例設行於南別營中軍監試將千撫中代則行內外入

直二哨鄉軍以出番鄉軍略千名替代後赴試該哨



官本營入直教鍊官火藥庫入直別破陣亦為參試

內入直哨官外入格者施賞鳥銃邊三司帳文已兼

待標信赴操者賞一木三正柳葉箭四片箭二沒技者別單書入

中乃賞一木三正則柳葉箭四片箭二沒技者別單書入

鄉軍別邊三陣點考後中沒技例施行私習戊肅宗壬每初日中日行入直把入稟詣政院私習則

己亥定式正宗各該領軍哨官牌教鍊官二員與教師同參

率鄉軍教習陣法初日出番鄉軍三哨肄習中日入

番軍試射放後出入番鄉軍合私習監領軍把操亦為

就鄉軍五哨中擇其健壯者各七領軍千總終番朔

二十八日率新舊番八哨大私習○京標下自二月

賞、本宋本本常、有、李等三本作、

三次、宋本作二次、行、宋本作賞、

假、大本之外諸本皆作、

至九月每朔二次以各差備私習○牟劍手每朔二

次試藝計劃居末決棍一正

習陣日次肅宗壬戌定式大將有故則因提調設

每朔初十日二十日三十日番如營則新舊番軍合操

西○六月七月十一月十二月以西營著隆寒軍不赴操

本營入信赴操期會不進者決棍近例決棍示○客使

來往時限松京停操

將官射講戊定式庚中軍監試或大將之時自別將至哨官

柳葉箭十巡片箭三巡講陣試取而二三四月八九

十月每朔二次五六七月正至臘月每朔一次貫革

赴、宋本作不、則、宋、

京、本本作都、

衛、中本作對、李本末本  
作對或對、一及不射。

片、宋本作柳葉。者、宋  
本脫。五矢以上之、以  
上、宋本脫。四十矢以  
上之下、宋本有並爲。

次者謂之者、中本在俱  
通之下。

射、李等三本作射。

片相問設行。二次騎爲一月次。堂上年五十除講六十除射。  
 堂下六十只除講年滿者有賞無罰。柳葉貫箭革小連三連。  
 草記沒講技貫箭連三次五一巡以俱上中講陣五四十次俱通上者並。  
 一米張一片石貫三革巡三內初矢巡以貫上小布四五十次俱通上者並。  
 去巡俱革中弓滿一四張騎五布中米八十斗者通三番技無分者連者法。  
 講次陣者中不番通六日番連三日次俱者決棍講日再俱通決棍番三日。  
 則法去爲計劃騎則通計數賞每年終射講都計劃居首。  
 各一人別單書啓。○教鍊官射講。每月二次。初六日。  
 設行。講小布四分以上居首減一番石年六十除七矢罰十番除。  
 分三日上未居經將官布新正除五十分善除講通三日未滿七矢罰十番除。

之、原作與二、據徐  
本改。

末決罰棍番三六日講陣俱不罰番三日再。  
 月設行。中軍殿最以爲等第。六朔射講試記亦。○鄉。  
 軍之下番在鄉者以當哨之一旗。摠兼假哨官自十  
 月至二月每朔二巡式管下軍兵試射放私習劃紙  
 每年春秋修報于大將餘月則以農時停。  
 試藝賞試才。肅宗壬戌冊行大。間朔二十五日新番  
 軍點考時下番軍別破陣並試射砲藝講陣試取。入內。  
 直鄉軍待標信赴試時以入格者施賞領軍千摠把。  
 摠哨官及次知教鍊官旗牌官亦試射。以內入直將官。  
 後者應替直試教師則四孟朔砲藝講陣亦爲試取並從入。

射、宋本作才。

行、宋本作得。

一、中本作三。

覆、諸本皆作廢。

格施賞若有沒技者、教師外、別單書啓。或因不行、則

下番鄉軍、回糧、每三名、木一疋、分給、其

騎士都試。當濟寧、戊辰、大將、李每年一次設行、優等、優

者、各技、未滿、五、直赴覆試、加、出身、沒技、亦爲、稟旨、論賞、

分、則、自、營、施、賞、中甸。今、古、則、限、春、五、秋、兩、次、行、之、或、間、年、特、教、舉、行、中軍

以下至將官將校、有料無料軍兵、驚梁鎮軍兵、並各

技試取。不、鄉、參、從其入格、分等施賞、沒技及鐵箭三矢

一百五十步以上者、別單書啓。

觀武才。特教設行。肅宗丙寅、設行於南別營、此其

始也。肅宗、丙寅、景宗、癸卯、正宗、戊戌、行之、賞、木、初、自、戶、曹、上、下、景宗、癸卯、自營、支、下、事、定、奪、

初試時、馬步軍各技列書啓下後、試取。馬軍、柳葉箭

三中片箭、二中騎菊、二中鞭菊、六中、別技、月刀、雙劍

騎槍、交戰、上等、步軍、鳥銃、二中、交戰、銳刀、偃月刀

提督劍、木國劍、旗槍、挾刀、籐牌、狼筈、竹長槍、鎗、鈹、步

鞭棍、拳法、棒、上等、並抄啓。會試、親臨試取。規、矩、京、

而、從、事、官、諸、初、試、官、○別試才、亦因特教設行。將、官、將、

鳥、銃、步、軍、瑞葱臺試射。應參人、衛內、隨駕、將官、將校。柳、葉、箭、帳

幕軍。三、鳥、銃、試取、分等施賞。御、前、右、特、教、則、技、駕、後、試、吹、打、

賞、則、丁、卯、營、上、下、事、

當、

事、中本作。



守之下，宋本有軍。

郊外行幸隨駕與御營廳間年輪回留陣營自兵曹  
 稟旨舉行調局內排立守而三分營二調局城外則隨宿營及  
 留則都動駕過宮後城更外把守收軍兵名數依兵曹傳關  
 舉行牌頭中軍以下將官並給軍校服黃凡軍員役及各色  
 得年內授無御前前排字十甲六雙瓶當御前擔燈當五雙  
 甲始子招搖旗畫正宗氣旗方定尺藍質黑緣一丈九尺  
 瓶將認旗藍質禁衛軍黃司命五方旗尺九寸五丈八號  
 手大將藍質禁衛軍黃司命五方旗尺九寸五丈八號  
 尺帶八寸長一見納音局編式騎士走馬以十五匹元  
 定自教化門至鸞梁行宮分定六塘不足則加數出  
 用幸時立城行轎饋隨駕將官以下乾轎饋自營支

下將卒始自營各二當而七稿分初設行自曹是下法中肅宗甲  
 設有乾稿後仍之例矣錢肅宗甲子兵曹定奪戊以稿饋  
 臨稿饋待時令

鄉、麻本殿。躬之下、麻本有之。

則、申本作時。全、申本村本李等三本作恐。

城內動駕時隨駕與留陣及軍兵名數一依兵曹傳  
 關舉行自終番鄉軍取京點出後交替前若值動駕時式大路  
 把守將卒隨其屏門或多或少而與御營廳左右分  
 當御禁營應為為右兩營中一營隨駕則一營全當若值  
 經宿之時高峯斥堠通路伏兵亦與御營廳輪回定  
 送昭城內經宿時斥堠義門四處一將四卒崇禮仁門城上  
 後上光熙門城上後上嶺頭兵六處北岳禮曲門外三丘里昭王義廟



禁衛營 守城字內扈衛信地都城分授字內

三〇六

上伏兵之下，宋本有處，則宋本作時。

辛之下，宋本有而。

子，申本作字，別註，宋本脫。

日	宣	傳	官	稟	定	日	子。	當	行	辰	朔	行	戊
動	駕	時	及	大	殿	座	時	槍	劍	軍	定	元	抽
排	衛	○	槍	劍	軍	每	年	二	月	試	放	後	賞
日	宣	傳	官	稟	定	日	子。	當	行	辰	朔	行	戊
仁	外	門	三	城	上	里	敦	義	社	門	稷	城	動
兵	熙	門	三	城	上	里	敦	義	社	門	稷	城	動
宗	平	廟	事	動	正	宗	癸	卯	定	七	處	崇	禮
仁	外	門	三	城	上	里	敦	義	社	門	稷	城	動
伏	門	外	三	城	上	里	敦	義	社	門	稷	城	動
濟	院	幸	三	行	里	東	關	伏	王	廟	三	勅	巨
郊	外	院	幸	三	行	里	東	關	伏	王	廟	三	勅
動	駕	時	及	大	殿	座	時	槍	劍	軍	定	元	抽
排	衛	○	槍	劍	軍	每	年	二	月	試	放	後	賞
日	宣	傳	官	稟	定	日	子。	當	行	辰	朔	行	戊

凡大朝會騎士十二人具器服執械把門。正宗始戊

大小吉事各處設布帳與訓局分當。

傳語軍。客使往來時與御營應輪軍回待兵曹知軍一舉

百名分營立待客使入南別營後當事軍收宗已門內

始創下教

守城字內。英宗辛未定局式○禁

扈衛信地。昌德宮自崇自義門大門至廣軍智營度熙宮自開

軍守以出入番

都城分授字內。英宗丁卯定式自敦義門北邊舞砂石至光

熙門南邊。有額把處行以出番鄉軍二十名把守修築

客使、宋本作使客、次行同。禮、朴本脫。

專、宋本作全。

創、申宋本藤本作般。



禁衛營

北漢城堞分授字內宮城外巡邏

宋、中本作卯。

力以修營門物 敦義門昭義門崇禮門 營或有修繕而並役有

兵戶城廊二十四處 近處俱在 積峙石城 廊城堦一

千五百四十二堦 四十九步

北漢城堞分授字內自大城門北至曲城以西 城三十廊

則、李等三本作處。

若、宋本脫。

七處有修類祀

宮城把守字內 正定宗式戊 自拱北門至明禮門 西類祀入

直軍把守 若過問七八名 二間則量十名 加三間十五名 五委

舉行 宮三軍合門 春合苑力 塙修築 有築戶料 兵布

城內外巡邏字內 戊顯定宗式庚 一牌 自監興仁國門北東至山典

京清洞三鄉軍九二卒 二牌 自禮洞仁南底至山鍾洞銅以峴

冉、宋本在監洞之下。

京東一將二鄉一卒 三牌 自禮洞義門南底山鍾洞銅以峴

九鄉軍五牌 自梨太弘院濟一院 將山慕卒華京館二門外軍至阿峴 六牌

行巡、中宋本作巡行。

八牌 八東卒郊京部軍字內 鄉全軍當 六將 每中日行巡 日本營 偵當 郊

庚、大本作戊。入直、朴本在哨官之上。

一以下行末迄、中本脫、宋本作巡行。

宮城外巡邏 庚辰定宗式庚 二更 二十營哨官率 二周 又有

別巡邏 丑英定宗式癸 一將五卒 自初更限天明行巡 北自拱

東至一宗廟大京門西出一番哨官率 又定別軍官別

軍士一名 輪騎回都巡一人 率京將官又考察 官初中日堂騎上將





禁衛營

摘奸香祝陪往字內澹川  
字內禁松字內捉虎分授

三一〇

祀、宋本脫。晝出夜、  
宋本作式每旦守。

直將終日哨官。每罷滿後，率入軍舖八處。自拱北廟門  
大門。初若自兵曹則與戶曹輪當。回修乙丑，每舖二營，晝  
守直事。○社稷牆外，中日行巡，一將三卒。京別軍一士一鄉

摘奸東南關王廟，每朔二十日，宮牆，每五日，南壇等  
祀壇龍壇司寒壇，每月初，並送校摘奸。東、南、門、並、壇、等

享、宋本脫。祭、麻本  
脫。

南壇春秋節享及祈雨祭時，香祝陪往字內營門大  
將。大將有故，自崇禮門清道，導詣壇所，祭罷後位版  
還奉時，清道至太常門，每年春秋奉審後，形止草記。

南壇等事。風雲雷雨壇，壬子定無清道。

澹川字內，英定宗庚辰，自長通橋至太平橋，大川石築，英宗

毀改已築。石橋自長通橋至太平橋，隨

本、李等三本脫。更、  
宋本作更卒。

禁松字內，因南道。○禁松之本，自京兆軍門，四山監役，改

軍稱參內一牌，自承敦傳義門南二牌，自承傳路西三牌，自

光熙井洞南至外一牌，自萬基洞西至高二牌，自寺至漢江洞

西路三牌，自漢江浦東西四牌，自各置禁松軍二名，內、外

山隊哨官各一名，員五，日替代。別

捉虎分授。肅定式。陽川仁川南陽金浦始興富平喬

桐江華振威通津安山陽城水原，捉虎先賞，木三兵，大、中

萬機要覽 軍政編三

三一

禁衛營 各處入直領軍將逃軍腰牌給服

三二二

木二疋再放三放各木二疋布二疋小虎先放再放各  
獵提納近者元軍木布待則年軍陸論元賞私

各處入直新營千揔一員別主將管輪營直與騎士將一員

後宋本作時哨官一  
宋本作哨官

哨官二員每日下鑰後哨官一員教鍊官一員率京

六軍四十名鄉軍四名騎士二十五人終日中各八匹

西營哨官一員率鄉軍四門把守南別營哨官一

員別騎衛二人率鄉軍十五名火藥庫哨官一員率別破陣

把守別武士二人率鄉軍十名銅龍門哨官一

員率鄉軍三名南倉率鄉軍二名○崇禮門昭義門守門一軍各

守式輪回 ○慶熙宮時御時延化門把揔一員率一教鄉師

領軍將每部一司五哨軍上番大將割千揔一員把

揔一員哨官五員領之

逃軍決棍五十度再度啓請臬示正宗已亥定武而

一再並斷

腰牌借牌者決棍三十度破牌者十五度失牌者十

度私行外方者二十度圖避使役者十五度

給暇凡受由將官每月無過五員別軍官教鍊官無

過三員別武士無過四人騎士每番無過五人除遠往

人宋本作員下同

再度申本勝本作再選

道將官二十日軍兵十二日軍兵十五日軍兵道將官十日過限期則將

官汰去軍兵重棍

騎士馬隨駕時及教場致弊本京軍下馬因公致

弊錢五兩輜重下馬改立五年後致弊錢五兩陣上

致弊錢二兩並添價改立

戒令京軍之有罪查問巧飾欺罔者上番鄉軍憑藉

收賂者會飲橫行聚眾雜技者凡係事為貪緣圖囑

者紛拏閭巷侵辱士大夫者厭避差役侮凌頭目者厭

其軍服換着衣鞋者冤枉訴告不為挨次者不勤巡

邏寢睡假家者並從重決棍或除案凡此條件待年

貢、中本村本麻本作貢。  
傷、中本村本麻本作傷。  
之、下、者、中本在役  
下、者、中本在役

性、原作性、據條本改。  
項、大本作脫、則並之  
並、李等三本脫

一千、宋本作二千。

子、中本作字。

元軍元軍中番時店中作弊者軍次借頭口者行賂京  
軍器烏銃一萬三千六百三十八柄八千四百六十分

給○大烏銃一二柄胡別烏銃四八柄別馬銃上銃一二柄

三筒鐵佛狼機一柄子砲千步銃四柄循環

砲三坐威遠砲七十九坐勝子銅砲二坐佛狼機六

十坐子砲每式銅砲十柄噴火筒六百四柄梨花筒

七百九十七柄鉛丸二百六十萬四千九百九十九

筒大鉛丸三萬七千九百九十九筒中火車五十六乘車



蜂鉢四十五門、大本之  
外諸本皆脫。

一千、宋本作六千。

分、中本作用。

銃三十柄	正鐵一窩	蜂銃四十五門	鑰鐵一窩	蜂銃
四十五門	車槍二百八十八枝	環刀一萬一千六百		
三十七柄	兵一分	給○百六十九柄	別武士一柄	塗金粧
飾七柄	銀入	菱鐵一萬三千五百箇	弓六千七百八	
十一張	○二千八百三	九張	別武士一柄	鄉軍三分
四角七張	黑角八	長弓三	九張	別武士一柄
黑角十	鞍弓四	黑角六	十張	漆子張
竹長	校子長	弓九	十六張	校子張
黑角大	弓十五張	弩校子大	弓二百十六張	手弩弓
四百九十九張	弓弩二百三十九	坐長箭四千三百		
十三部	十箇	士鄉軍一分	別武	片箭四千四十部

十六、宋本作六十。

黃、宋本作磚。

十二、中本作十三。

二十五箇	武士鄉軍二分	給別筒兒一千二百九
十三箇	騎士鄉軍一分	給別箭長箭二部
百九十三部	五箇	火藥九萬九千五百四斤
錢八分	石硫黃一百五十九斤	八兩藥線二千八百
十三條	火箭一千八百七十二枝	小發火二百四十
六柄	甲冑二百部	胄一百二十五部
二部	各色雲紋	皮甲胄三部
京鄉軍	分給	竹節槍二百二十一柄
十三柄	三枝槍一柄	短槍六柄
十柄	月刀十柄	挾刀二百九柄

十六、宋本作六十。

鞭棍六十八柄	<small>五十四柄</small>	攔後槍一百六十柄	風眼
鏡五百三十面	<small>千里鏡</small>	一面	喇叭一百二十枝
<small>京、鄉、軍、分、給、</small>	號笛一百四十四枝	<small>京、鄉、軍、分、給、</small>	螺角七隻
木大角八枝	鉦三十八坐	<small>鄉、軍、分、給、</small>	銅鑼十二枝
鉦二十一柄	<small>鄉、軍、分、給、</small>	點子二部	啫啞囉十隻
六坐	鼓五十三坐	<small>大、行、鼓、八、坐、大、行、鼓、十、四、坐、小、行、鼓、十、二、坐、中、坐、</small>	御軍
幕四部	<small>平、軍、幕、一、部、行、軍、幕、一、部、</small>	御房帳一部	軍幕十部
十一部	布火遮日二浮	<small>大、索、</small>	後遮帳二部
大地衣二	浮	<small>隨、造、毀、</small>	木甲布帳二百三十九浮
木單布帳三百三	十浮	布帳一百十浮	油菴七十浮
加時木七百二十			

三十五、宋本作四十七。

一、李等三本作七。

九箇	槍柄木一百十四箇	銅瓢子五百一箇	皮瓢子
五千一百十三箇	木瓢子一千二百箇	刁斗八百七	十六部
馬鐵一千五百部	銅鍋一千一百六十二坐	黃燭一萬柄	鐵籠六十七蓋
銅鐵紗籠四百九十一	蓋	油紙籠一百二十件	木帟五百件
布帟五百件	大	緞大旗幟三十八面	<small>大、旗、五、面、高、招、旗、五、面、清、道、旗、十、</small>
<small>二、面、金、旗、一、面、</small>	坐	纛旗一面	帥旗一面
<small>豹、尼、旗、一、面、</small>	部	司認	旗八十面
神旗三百二十七面	哨官認旗一百九十	六面	旗摠旗四百三十五面
隊長旗一千三百六十	二面	指路高招旗四十一面	塘報旗三十面
千摠把			

摠哨官手旗三百四十七面、方色號衣七十二領、鄉  
 軍木綿號衣五百七十領、紅帶五百九十箇、騎士將  
 認旗四十九面、手旗二十八面、正領旗一百二十面、  
 鄉軍假倭木綿旗四十五面、木綿衣四十五領、藍大  
 緞令旗一百四十八面、巡視二十二面、紅令旗六十  
 六面、巡視三十面、朱杖七十五箇、紅氈笠七十七箇、  
 貫耳箭二十八箇、令箭二十三箇、冒緞戰巾七十五  
 頂、黑木綿挾袖一千二百二十九領、三升一百九十二、一升三  
 領、青木綿戰服一千四百九十一領、紅三升七十一、青一  
二升三、紅三、青三、升七、一、百六  
領、紅三、升三、百十九、領、 藍方袖戰帶一千四百六

十七、中本作十五。

十九、宋本作九十。

十箇、紙油衫一千一百八件、青木綿一百五十四、紙油衫三百五十四、  
 件、紅號衣三百五十五領、黃號衣三百五十三領、黃

十三、朴本作十四。  
葵、宋本作葵。

各、中本麻本李等三本  
作名。

江都留營、肅宗乙丑、置、教、錄、官、一、各、有、輪、差、一、周、年、員  
役、四、僧、將、一、僧、軍、十、六、各、有、料、米、自、留、營、  
 下、餉米一千九百六十六石、太八百三十六石、還、取、耗、分

鎮、宋本作津。  
之、宋本脫。

鎮、宋本作津、次行同。

將、英、宗、庚、午、屬、本、營、以、教、鍊、官、自、辟、啓、下、自、均  
 應、褒、貶、瓜、限、則、三、十、朔、哨、官、二、旗、牌、官、一、員、役、八、並  
 布、料、錢五千兩、放、債、取、殖、以、放、米、二、千、石、取、耗、支、放、餉、津  
 船十五隻、九、隻、銅、本、鎮、六、 汲水船二隻、香祝陪行船一

萬機要覽 軍政編三

隻、以上、船、隻、均、應、新、造、下、改、梁

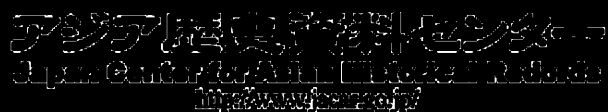
十六、宋本作六十。

一、宋本作三。

軍色恒留銀五萬一千五百四十七兩六錢九分 <small>銀天</small>	並入。價布一百六同三十六疋二十五尺錢三萬五千	六百七十二兩四錢五分。○一年應捧。價布三百三	同五疋。 <small>應下二疋二百三十八尺五寸四</small> 布三十一同十六疋、	應下二十一疋。同錢三萬三千四百十六兩。 <small>應下九百二十四</small>	五三錢兩	以上錢木布以其一年應捧支計應下各有餘裕	而有間年應下。 <small>價布九寸三同三十一疋二十五尺錢十三</small>	千一百二十。同二年應下。 <small>價布三寸四錢三千四百七十一尺</small>	七兩二分。同	錢三兩七分六分
---------------------------------------	------------------------	------------------------	---	--	------	---------------------	--	--	--------	---------

錢以下行末迄、朴本脫。

餉色恒留銀一萬八千四百八十七兩六錢。○一年	應捧。米一萬八千二百八十四石六斗零。 <small>應下七千三百</small>	十四斗零。田米三十八石九斗零。 <small>應下六百一十條</small>	代太二千十九石六斗零。 <small>應下四千一百四十六錢</small>	九千一百八十七兩三錢。 <small>應下五兩九錢九分五</small>	別破色一年應捧。米九十七石三斗零。 <small>應下石三九斗十木</small>	六同十一疋。 <small>應下四疋</small> 同錢八百九十兩。 <small>應下十二兩</small>	待變鹽一千石。 <small>英宗置下南倉</small>	一年財用會計。每年正月十五日修啓。 <small>英宗定式</small>	求請軍物所用加時木槍柄木垂乏之時論報備局
-----------------------	--	--	---------------------------------------	--------------------------------------	---	--	-------------------------------	---------------------------------------	----------------------



則自備局量宜卜定於湖南左右水營落幅紙亦報備局請得取用。

車子二輛正宗己亥置四大小公役買牛使用牛當初價

雙賀給後每年添給運沙車三輛時川

公雁別本營在墨虎洞一門外三百九十六間。二南倉在新營別營南

在南一百營一北。十下南倉在墨洞一百四十四間。○火直藥房

在觀南營監在觀十熙宮開陽門營上十景二間。○越邊房在慶間

內八宮洞 ○養魚所在賀往十里定軍

上、宋本脫。  
內、大本脫。

上、宋本脫。

鄉軍除番作隊式一罷鄉軍一實一哨除番新募京軍每番

五哨軍六百三十七名內一百二十四名除番實五

百十三名分作前左右後四哨。

四哨作隊式部標下九名司標下八名每哨軍一百

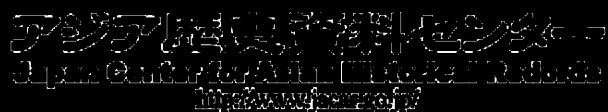
二十四名內書記一能歷兒一認旗手一鼓手一旗

名十

新募秩京哨軍一百二十四名新募作為京中哨以

代鄉軍中哨京標下加設五十名內牢子巡令手各

二十名燈籠軍七名帳幕軍騎士標下添額。






御營廳

仁祖甲子始置御營使以延平府院君李貴爲之召募勇健教以火炮及扈駕公山益募近邑山尺業砲者肄之還都後屬之搃戎使而罷御營使尋復置以李曙爲提調具仁垵爲大將以御營大將設立初兵曹以單營擬差啓下仁曹

祖丙午始自備局三望受黜○肅宗癸亥仍帶言議

趾完拜御營大將備局以介胃之職不司大司議

拜之職將相臣南九萬奏遞職仍爲後例另設一局專管教鍊地部支餉癸未增置都提調議政中兼提調兵判兼判孝宗壬辰李浣爲大將始置軍營定軍保

有五部別三司又有別中哨收保人米布沿山郡作米

以為支放。肅宗丙戌罷別三司別中哨改為一營五部之制其軍分在慶尙全羅公忠江原京畿黃海六道每部五司每司五哨共一百二十五哨分為二十五番從部司次第徵召送微肅宗文已丑因宣傳官資以該營別兩武士並去兵曹給上番每番兩哨每間三年馬監兵營別開並傳于監營上番兩哨每間三年及旗每旗三隊每隊九正軍又十名火標一軍下軍九名把一標名七下軍八名六百哨五十標二下軍各○停顯宗已肅宗給乙亥歲或特教或鄉筵稟輪停番上番定奪其後集疫營以訓局戎應入番需每朔自料布應三分自局近因輸送又應入正宗戊午應禁衛軍因特教弘番化東營集銅春營則以

備、宋本作飢、廢本作  
同。檢廢、宋本作檢  
或。宋本作御。則、朴

哨之下、朴本有之。

立局番○正限甲寅每一番五年哨身布一百資保十五名補除

每番城五百役物七名故上今則

六道軍保京畿正軍十一哨一千四百三十一名內

馬軍一名資保一千五百三十四名官保三千二百一

八名十四名正名自均應給代二千八百五十別破陣保八

十八名錢純○公忠道正軍三十三哨四千三百一名

內百十馬軍資保四千六百十一名官保一萬一千九

百四十七名木保二千五百七十三名太保三名別破

陣保一百九十五名○全羅道正軍二十七哨三千

五百二十三名內百十馬軍資保三千七百七十七

代納、申本作上納。

名官保一萬二十一名保一保一千八百三十七名九十二名布保米  
十一名七別破陣保一百三十五名布保二保二百九十六名〇  
慶尙道正軍三十五哨四千五百六十四名軍內三百馬  
九名二十資保四千八百九十三名官保一萬七千一百  
十四名能保一保六千一百二十九名能防保並入  
十五名八別破陣保二百六十二名布保二百七十五名〇  
黃海道正軍十二哨一千五百六十六名內一百十馬三  
名資保一千六百七十九名官保六千七十三名保木  
內四千三百二十二名米保一千七百五十一名騎士  
保三千七百二十九名保五保三千一百六十三名內十六名九名米

者、宋本脫。

府自開城別破陣保十名。○江原道正軍七哨九百十  
五名內六十六名馬軍資保九百八十一名官保二千十八  
名木保七百四十八名米保七百七十三名別破陣保  
九十名。  
已上正軍一百二十五哨一萬六千三百名內馬軍下  
七千五百名其五哨軍之上番者每名旅需錢一兩  
加一馬軍每朔料米九斗兼司僕者本營支放。○資  
保一萬七千四百七十五名正軍一名一保、卜馬  
軍一名二保、每於上番時各收其保四年保布保一  
者錢八兩二以作資裝之需。○官保五萬一百七

御營廳 員額

八、林本作八名。七、宋本作七名。

黃、宋本脫。

粟、李本宋本作印。

十五名	木保三萬七千二百一十四	布保一萬四千六百
太尺	米保五十一萬三千二百七十一	錢每兩六錢
破陣保	七百八十名	木保六千九百一十四
○騎士保	三千七百二十九名	木保三千一百六
從事官	並從色六品以上一員	辟色下時帶臺職人武實職
戊備擬	○從事官及將入啓將則官出望無過三且正宗式	
將官中軍一員	從上二品	騎士別將一員
千搵五員	以邊上禦	騎士將三員
官四十一員	三出騎士九品以上	抄宣薦二禁軍二西官北

別將、李本宋本作兵曹。給、宋本作給。散、宋本作給。料、宋本作給。有、宋本

給、申本作出。子以下。行、宋本。申本脫。調、申本作鍊。

二策	十二、嶺南左列久武勤士一策一與禁院遞兒主簿散一出身判
則官	二一策、劍正亦報兵曹出六參下並自辟啓下禁松參
軍一員	職參戶下曹給祿若○前中職解山未出則自曹付給
將校	勸武軍官五十員、閑顯良無料中置參川士夫別軍
官十員	參閑下二英四宗戊申則移置久兵勤曹出六輪回都提調
軍官五員	三閑營散久回勤教鍊官十二員、旗牌官九員、軍禁
牌策	三、別抄與禁二營行輪差閑武散前窰出窰四出身窰五出身
曹勤	給一都參日下一二一四都朔移文人兵曹出六千搵所旗牌
官二員	從行伍專陸管教鍊官鄉軍本廳軍官十五員、房兵戶





花領、宋本作花津。

九、宋本作九名。

計出料繪楊花鎮牙兵一百名、以下鎮各使役。○朔別破陣教  
 師九名、訓各鄉軍中兼加料專管教兼別破陣四十名、各軍六  
 道鄉軍檢數、見上鄉騎士七百人、標下軍五十六名、在並  
 一海正四各領、英孝宗庚午戊辰置京騎士罷鄉上番而有  
 保式並一屬之收米、每年以都京騎士資接濟之依官  
 員役。鍼醫、兩醫司前宗卿西置藥房、宗丁閑散計士、  
 分一、戶曹書吏二十書寫一以下員役一百五十八、並有  
 者、自營支十九有其中軍兵兼  
 兼管別後部千揔一員、永宗萬戶兼差本營把庚申、以  
 宗而三哨、復舊獨鎮陞金使兩色軍官每年春秋元射八

右司、宋本作左司。  
惠以下行未迄、申本脫。

陸以、沁都留營米二千二石零移送分等、給馬試春秋施  
 應、稿在取用中軍一員、把揔一員、哨官五員、防營軍  
 官一百六十人、待變軍官三百人、教鍊官八人、旗牌  
 官十五人、別破陣十八名、別隊軍五哨七百三十一  
 名、各軍報案每年該待變鹽五十六石、每年春秋收○兼把  
 揔十員、縣宗左部中前司本廳定府使左部前司軍威  
 司、清安部前司古阜郡後守伊川府使後部左縣監右部  
 監、後部中司積城縣監專管各其道內所在軍兵肄  
 習之事。顯宗己亥、又定自本廳褒貶之式。英宗  
 辛卯、以軍門自辟之紛拏大臣筵白、禁御兩營自辟

無得踰三窠。宗乙邑中，新除則以兼把，啓下，只給傳令，事定，每今

則銓曹以本廳把搵間，或差送十邑之窠。

軍案大將中軍別將所，各置軍案馬步軍有闕填代，

隨即付標，四季朔修啓式年，則步軍之年滿六十一

歲者老除填代，鄉軍則每式年軍保所在各邑填代，

逃老故。除逃物，故老雜頃成草案，定色吏上來，磨準于營

都案，受本營成貼，往付兵營，自兵營修都案上送。尚慶

軍所在邑填代追立。道草案，肅宗丙戌，因補有上番物故者，則直關該

標下各軍族屬，初以待年懸保，族錄案，年少壯健者

莫、申本作軍。

壯抄，以壯抄從次第填守門軍兒旗手，而元軍有闕，則以守門軍兒旗手中從勤仕次第陞定。

取才能，磨兒軍。軍抄論元軍待年分作新舊講，以教鍊

官二人定訓長，每朔二次考講，三朔計劃，舊講新講

居首者，施賞。舊講居首木一疋，小青布一疋，之次，布

首則陞元軍居末者，決棍。○千搵所旗牌官，以能

磨兒朔講元軍，周年後，試取陞差。○才教師取。○別武

士，以各色元軍射講並試陞差。惟劍刺手○騎士，以

出身閑良，通同取才。柳葉箭片箭，騎納馬填差。

軍馬官馬，以太僕分養馬，每年受來。當年二十五匹，式

刻注、中本脫、略、宋本、宋本脫。

本、宋本脫。

而、中本脫。

差之下、中本有者。

分授別武士

受古來分別授抄所受官馬士中廢八年間或略致

弊則當字發只送皮張移於司限內錢致定則式自備戊辰

矣則當字發只送皮張移於司限內錢致定則式自備戊辰

故發良騎別士儲通取才時居首後及騎士所給之公馬致不堪並用

價添○馬點肥騎三士則瘦者年決棍後設定限上改肥別番抄六則四

減孟巡選設一行且瘦者減番限改立中肥

軍料凡各軍之新差者皆計日給料望前勿論下而如

有罪除則當朔已受之料計日還徵移給於新差足奉

同。 鍊習中日子仁祖己巳册行寅申己亥初日依內中日

例設行於南小營中軍監試右故則代將東營集春

代宋本作侍

營入直鄉軍以出番鄉軍代直後赴試亦入直別該破哨陣

直領軍哨官亦為新營射入格者施賞將官柳葉箭木四

邊正軍中報柳葉箭四兼司僕帖文已兼者木中三足銃沒技

者烏銃連三次邊三中者別單書啓直南鄉小軍營及火倉藥

今庫入直別五破陣鄉軍等並參放舊番軍亦上試番軍放於

如不當新番點考別破陣每朔二十五日後點考後則中日

赴試亦不

私習丑册行乙每初日中日行入直把入稟詣其日院私習則設

已不稟定式正宗各該領軍哨官牌教鍊官二員與教師同參旗

率鄉軍教習陣法小處所南初日出番鄉軍三哨肆習

值後、宋本並脫。



臥、李等三本作肆、次  
行次六行同。

該、宋本作哨。

仍、大本李等三本作四。

客使、宋本作使客、來  
往、中本作往來。

中日入番軍試射放後出入番鄉軍合私習領軍把  
監操、川劍軍技藝、別武士中差、教  
官二人、元私習設、行日、同、私習、終番朔二十七日、  
 新舊番八哨大私習官、該、哨、○京標下自二月至十  
 月每朔二次以各差備私習○倭劍手每朔三次試  
 藝計劃居首、小、青、布、一  
疋、居末、決、棍、  
 習陣日次孝、宗、肅、宗、已、定、式、大、將、有、故、則、都、提、調、設、行  
事、肅、宗、乙、未、定、奪、而、近、來、則、仍、特、教、為  
 之。每朔初一日十一日二十一日軍、如、上、當、番、軍、下、朔、則、番、新  
進、行、合、操、而、以、其、替、番、在、來、朔、初、一、日、故、初、二、月、一、以、操、盛、次、  
 著、隆、寒、春、營、正、宗、丁、酉、定、式、停、操、○客使來往時限松  
 東、營、集、入、直、馬、步、軍、不、赴、操、

京停操中、日、私  
習、亦、同、

將官射講

正、宗、庚、戌、定、式、中軍監試有、故、則、堂、上、將、官、中、差  
兼、中、軍、舉、行、大、將、時、或

之。自別將至哨官柳葉箭十巡片箭三巡講陣試取

而二三四月八九月十月每朔二次五六七正至臘月

每朔一次貫、革、片、箭、二、巡、問、設、行、騎、二、次、之、堂、上、年、五、十、

除講六十除射堂下六十只除講年滿者有賞無罰

柳、葉、箭、中、講、陣、五、次、巡、貫、革、連、三、巡、沒、講、技、貫、箭、連、三、次、

以、上、小、布、四、十、五、矢、以、上、加、上、一、米、箭、三、巡、內、初、

五、巡、貫、中、十、斗、通、木、三、技、無、弓、分、一、張、初、去、貫、中、未、滿、一、張、騎、小、

次、未、滿、八、矢、講、陣、俱、通、番、三、日、二、講、陣、中、不、通、六、日、連、三、

箭、日、俱、不、通、六、日、再、不、為、決、棍、三、次、則、通、去、計、每年終射

舊一、宋本作講二。



沒技、宋本作沒技者。

過、申本作次。

俱不、宋本作俱不通、本脫、申本麻本李等三

講都計劃居首各一人別單書啓。○別軍官射會每朔一次。取冬、夏、柳、葉、六、箭、初、停、柳、葉、箭、小、布、十、巡、四、十、箭、以、二、巡、木、試

二、正、連、番、三、次、三、日、連、三、次、以上、居、首、木、箭、初、正、巡、沒、技、一、張、未、滿、

四、矢、箭、連、番、三、次、三、日、連、三、次、以上、居、首、木、箭、初、正、巡、沒、技、一、張、未、滿、

再、各、一、木、三、正。○教鍊官射講每朔二次。次、冬、夏、柳、葉、六、箭、初、停、柳、葉、箭、小、布、十、巡、四、十、箭、以、二、巡、木、試

五、巡、二、片、箭、二、巡、講、陣、加、弓、試、一、張、柳、初、葉、箭、二、布、十、矢、一、以、上、米、一、

石、二、巡、二、片、箭、二、巡、講、陣、加、弓、試、一、張、柳、初、葉、箭、二、布、十、矢、一、以、上、米、一、

初、四、巡、俱、中、番、三、日、一、張、一、巡、六、貫、三、中、次、一、棍、無、分、二、重、勘、片、箭、

俱、通、三、朔、講、陣、計、俱、不、首、番、二、日、二、次、末、調、決、番、棍、三、日、次、重、

別武士射會每朔二次。布、冬、十、巡、六、試、取、四、十、次、柳、以、葉、上、箭、木、

番、三、日、初、巡、六、日、連、三、次、各、一、正、未、滿、四、矢、去、調、

講六臘月設行。主、試、軍、殿、最、以、爲、等、第、亦、六、於、殿、射、講、最、時、考、記、

慢、勤 ○下番鄉軍私習。鄉軍之下番在鄉者以當哨之一旗。揔兼假哨官自十月至二月每朔二巡式管下軍兵試射放私習。割紙修報于大將。餘月則以農時停。

試藝賞試才。將、仁、祖、戊、辰、册、行、大、 間一朔二十五日新番軍點考時。下番鄉軍及別破陣並射砲藝講陣。試取。東、營、集、奉、營、入、直、 入格者。施賞。領軍千揔把揔哨官及次知教鍊官。旗牌官亦試射。教師則四孟朔。砲藝講陣亦爲試取。從入格施賞。而若有沒技者。教師外。並別單書啓。回、因、事、故、賞、試、才、不、行、則、下、番、鄉、軍、

以下待後次設行時試射放

騎士都試

當寧戊辰大將李堯憲定式 每年一次設行優等

者各技未滿

直赴殿試出身沒技亦為稟旨論賞

中甸

今則限五年調局先行後因特教舉行 中軍

以下至將官將校

有料無料軍兵楊花鎮牙兵並各

技試取

不鄉軍從其入格分等施賞沒技者鐵箭三矢

一百五十步以上者

並別單書啓

觀武才始行於

孝宗癸巳而其後每因特教設行

賞木自營上下

於南正宗戊戌設行時別軍官赴初試於

曹初試規矩馬軍元技柳葉箭片箭騎薊鞭薊別技

並宋本脫

旨中本作處行本之旨之下宋本有舉行

帳幕軍以下行本及宋本脫

取之下宋本有事

鐵箭騎槍交戰步軍元技射手柳葉箭片箭砲手鳥

銃劍藝則提督劍偃月刀雙劍本國劍用劍別技則

竹長槍旗槍籐牌狼筈木長槍鎗鈹銳刀挾刀倭劍

交戰拳法棒步鞭棍並列書入啓各技中受點試取

抄啓

從事官諸將官及教鍊官旗牌官會試兵曹稟

旨

規矩所舉行○別試射亦因特教設行規矩處所

瑞葱臺試射駕前別抄御前前排次知招搖旗次知

帳幕次知將校並柳葉箭片帳幕軍鳥銃試取分等

施賞

御軍前前排軍及該營後下手若特教則技藝

取試

幸行之下、宋本有時、  
衛、宋本脫。

日、宋本脫。

凡、宋本作元。

字、宋本作子、寸、李  
等三本作尺。

郊外幸行隨駕與禁衛營輪回、一年留陣營、自兵曹

稟旨舉行、營城內屏門把守、而三分營、二調局、城外則經

入宿、都營、還宮後、日、更外、把守、收軍兵名數、依兵曹傳關

舉行、牌、頭、別、將、役、以、各、下、色、頭、官、將、校、兵、並、給、軍、服、別、負、抄、兵、戶、房

內、已、受、軍、給、象、得、再、受、○御前前排、子、戊、辰、雙、冊、始、當、○御

前擔燈、甲、子、雙、冊、始、當、○招搖旗、正、宗、綵、繪、七、星、畫、雲、白、氣

長、旗、一、丈、五、尺、桿、○駕前旗、正、宗、丙、午、定、制、一、丈、五、尺、○

大、將、認、旗、白、質、黃、綠、軍、司、命、五、字、旗、方、九、寸、五、色、八、號、

手、帶、長、一、○見、調、局、編、式、○騎士走馬、元定二十匹、

尺、八、寸、○自敦化門外至鸞梁行宮、分六塘立把、行、時、立、塘、幸、○

設、於、宋、本、並、脫、篇、之  
下、宋、本、有、設、行、篇、之

犒饋、隨軍、將官、以下、以乾犒饋、自營支下、各將、二卒、錢、每、七、人

分、宗、已、卯、設、犒、饋、於、畫、所、中、間、多、有、乾、犒、饋、之、例、武、

英、後、○設、犒、於、歲、首、犒、饋、時、駕、前、仍、以、抄、入、參、則、給、展、布、本、廳、

待、令、城內動駕、隨駕與留陣及軍兵名數、一依兵曹傳關

舉行、依新、動、鄉、軍、點、考、後、交、替、前、若、大、路、把、守、將、卒、隨

其屏門或多或少、而與禁衛營左右分當、左、御、營、營、

右、兩、營、中、一、營、隨、駕、則、一、營、全、當、○斥、候、伏、兵、若、值

經宿之時、則與禁衛營輪回定送、內、城、外、各、宿、之、所、地、

每、處、一、禁、營、編、卒、○把門甲士、凡、器、服、執、械、把、門、二、正、人

門、李、等、三、本、作、守、下  
俱、同、具、李、本、藤、本、作



御營廳

守城字內扈衛信地都城分授字內

三五〇

宗始戊戌 ○闕門排立 排立政殿殿座時弘營新門營外南直路

兩營出則待標信式出而東集

傳語軍 回客使來軍往數時詳與禁衛營輪

守城字內 火英宗○辛未定局式○禁

扈衛信地昌德宮 至自東營 慶熙宮 至自武崇德門 大將

領軍札駐

都城分授字內 卯英宗式丁 自肅靖門東至光熙門南標

石 一處千五百九十八軍二築共三千七百九十五步 有類

而者以戶營門兵布力修築 興仁門光熙門惠化門 軍守各門

六五間水門 之守役則軍二門舉○行而一並測有輪回料或有布修○繕

塹 藤本作塹

衛城外動門軍合城番 城廓二十七 廊近處幸未定積峙各石

子 雉城六處 ○至北漢門以東有類 處自本營修門築以○南

並東力修關築王廟塹 正垣類丁未定三軍門

宮牆把守字內 戌正宗式戊 自集春門南至通化門 營集入春

軍直 自內司僕前水門隅至東營 自內農圃至敦化門

東 三東營入直軍名○類五六把則二十守名一若過七八間則十量名

宜加料數並待兵 景曹宮委舉及行三春苑門合修力修築同築

城內外巡邏字內 戌顯宗式庚 一牌 廣自通五橋三水清門洞北以至大

二牌 廣自通五橋南水門內南至大 三牌 鍾自關敦四義巨門北北至四

牌 鍾自關敦南門內西至五牌 自西華館外弘濟院至六牌 自東

軍 朴本作營

春門 藤本作春營

待 李本作作付



門外至往十里七牌、西自南門外至青坡八牌、自大觀  
藏島祭基、鍾巖、西自南門外至青坡八牌、自大觀  
花渡、楊城內、一將十卒、京軍七、城外、一將六卒、一京軍

五、每終日行巡、變本在應當巡、則若都營發巡、

宮城外巡邏、辰、定、祖、式、戊、四更、軍、集、二、十、名、哨、官、率、二、周、五更、

東、十、名、哨、官、率、二、周、又有別巡邏、丑、英、宗、式、癸、一將五卒、

自初更限天明行巡、自、哨、官、宗、廟、一、廟、大、門、東、入、直、月、觀、五、門、出、

官、自、月、觀、中、一、東、員、集、春、門、北、上、水、門、出、五、身、軍、又、別、本、廳、教、

鍊、人、官、輪、回、軍、都、巡、察、武、衛、士、中、將官又考察、堂、初、日、將、新、官、營、中、入、日、直、

東、後、營、各、入、直、騎、直、士、軍、將、五、終、日、東、營、明、入、直、字、內、把、槍、每、罷、○軍舖、

類、自、圮、則、宗、廟、大、門、東、回、修、葺、每、舖、北、上、水、門、二、名、門、共、夜、直、舖、○若、

發、申本作門。

行巡、麻本作巡行。

門北、朴本作替北。

輪回、朴本在傍之下。

以、初、自、兵、曹、分、屬、立、守、矣、直、當、定、字、乙、丑、○社稷城外行巡、每、

日、一將三卒、本、廳、一、軍、官、一、身、軍、官、二、鄉、軍、二、

摘奸、每朔二十七日都城、晦日東南關王廟、每五日

宮牆及 景慕宮案山、每十日先農壇、每中日鷹峰、

並送將校摘奸、宮、牆、手、本、則、有、無、頃、先蠶壇、城北屯監檢

察、先、農、壇、先、蠶、壇、正、宗、祭、丁、巳、堂、上、將、官、

濬川字內、見、濬、川、編、

禁松字內、東、道、定、式、英、宗、一、牌、自、肅、光、熈、門、南、北、二、牌、自、

化、門、外、南、三、牌、自、興、仁、門、外、北、至、四、牌、自、安、嚴、祭、基、

三、巨、五、牌、自、小、署、二、名、兒、以、出、番、里、水、路、軍、一、裏、每、朔、替、代、禁、參、軍、



專掌巡山。自營又定別禁松哨官一員。

捉虎分授。肅宗己式。廣州楊根砥平陰竹竹山龍仁果

川安城抱川楊州驪州箭串場內。捉虎先放木三疋大布

木二疋再放三放各木二疋布二疋小虎先放再放各

獵提寢近者元軍木布待則年軍記論賞○私

各處入直新營堂上將官一員。別將千管營中哨官一

員。門外受下鑰後往關教鍊官一員。兼率別破陣六名

報鼓手八名大帳幕軍手九名塘鄉軍一百十一名。復番間

今六十東營騎士將一員把搯一員哨官一員騎士

二十五人。立馬初日各八匹鄉軍六十一名。復番間今

集春營哨官一員鄉軍五十名。復番間今南小營哨

官一員鄉軍十二名。復番間今火藥庫哨官一員。率領破

陣二名兼別鄉軍八名。復番間今南倉鄉軍十名。復番

破陣二名直房教鍊官一員別武士一人。率領吹鼓手二名○

慶熙宮時御時北二營千搯騎士將把搯哨官別武

士各一員。率騎士二十五人別破陣吹鼓手東營哨

官一員。率鄉軍五十名

領軍將每部一司五哨軍上番大將副千搯一員把

搯一員哨官五員領之。把搯哨官則領軍下番後各

雖再賞領母

人朴本作員。

之、申本脫。戒防、宋  
本作防戒。

御營廳 戒令逃律腰牌給暇軍器  
戒令京、鄉軍之戒防條  
作與禁衛營同。

三五六

逃律軍兵逃者决棍五十度再逃者八十度三逃者  
梟示持軍物逃者雖○習陣時期會不進者回示後  
决棍三十度。

十五、宋本作五十。

只、李等三本作人。

名、宋本作人。

腰牌闕失者决棍十五度借牌者重棍除案。

給暇凡受由哨官每朔無過五員騎士每番無過三  
人軍兵各色無過五名除往還遠道二十日軍兵十

中道十五日軍兵十近道十日軍兵過限不現者决

罪將官汰去○重棍除案

軍器烏銃六千四百八十八柄京、鄉軍分給一百七十七柄

鳥、宋本作字。

依定奪移送兵曹○倭鳥銃十四柄別長銃四一柄八

柄大長銃一柄大銃二柄唐鳥銃一柄黃字銃一柄

上勝字銃二柄胡製銃三柄馬短銃五百九十八叢枝二

枝二百九十九叢三千步銃一柄四號鎗佛狼機十位

五號鎗佛狼機五十位木母砲二位鐵母砲二位虎

蹲砲一位循環砲三柄銅砲一百十六柄長銅砲八

砲七十柄短銅砲三穴砲十二柄鐵三穴砲五十八柄

梨花筒二百箇火車十乘體鐵銃二百二十箇鎗一

窩蜂銃九十門正鐵一窩蜂銃九十門環刀五千九

百二十八柄京、鄉軍分給二十一柄別長劍抄二柄長劍七

柄菱鐵三萬二千一百六十七箇弓一萬一千九百

此頁、宋本脫。十六、  
李本、藤本誤作六十。  
短鎗、藤本作銅短。

此頁以下二行、宋本脫。  
別長、申本、李本、藤本  
蘇本作長別。



二十四張	軍一分給三百	○百二十一張	別百抄	別武士	騎士	鄉
三千張	弓弩	角十張	木雜	弓七張	一弓	皮木
七張	尚角木	平弓三張	交角	平弓	一登	子竹
二千張	漆交	子十五張	百竹	五弓	交子	七弓
一六兩箭	五十三箇	長箭	六千七百七十五部	二十		
七箇	抄	騎士	鄉	軍	分	給
八十部	別	給	騎	筒兒	二千五百四十七箇	騎士
及將校	軍	兵	分	給	軍	自
弓弩機	一百十九	坐手	弩箭	二十二箇	火藥	九萬二
千八百九十五斤	九兩	封	不動	五萬四千三百八十五		

尚、由本作射、鄉、中  
本作常

三、宋本作三

箭、藤本作機

斤百六兩十三	石硫黃	五千一百五十五斤	二兩八錢五
分鉛丸	二百七十七萬	一千八百五十六箇	九千九
四百錢	八分四	筒十二萬	三錢九
五百一十	六分三	筒十五萬	二錢三
九一十	六分五	筒一十五萬	四分錢
十七千	筒三行	用九	筒二千四百十九枝
箭竹	四千九十七箇	火箭鏃	三千五百二十三箇
華一百箇	在江	放機	十三柄
三十枝	耳藥筒	二千九百三十九部	小發火
火藥筒	二千一百八十一部	藥管筒	一萬

三、李等三本作三。  
銀、申本宋本作樹。

銀、申本宋本作樹。

六領、宋本作六部。

九千八百三十部、火繩三百二十三沙里、甲冑三百七十六部、塗金部十部、銅部二部、別抄部、騎士部、分給部、甲冑部、紅部、環部、  
 甲冑二部、沙部、豆部、錫部、鱗部、藍部、皮部、鐵部、甲冑部、五部、十部、各部、  
 鐵部、甲冑部、九部、十五部、各部、各部、各部、皮部、甲冑部、五部、十部、各部、  
 一、狗部、白部、鹿部、塗部、金部、銅部、葉部、甲冑部、甲冑部、一千一百八十六領、  
 木部、大造部、甲冑部、一千一百八十六領、各部、各部、各部、各部、各部、各部、  
 綿頭口一千一百八十二部、拒馬槍五百七十六叢、  
 鎗鈹槍三十五柄、長槍三百三十三柄、鎌鎗二十二柄、  
 騎槍七柄、竹長槍三柄、木長槍二柄、假月刀九柄、挾  
 刀二百五十柄、月刀形長劍三十五柄、倭挾刀一柄、

行未割註、申本脫。

二百、宋本作一百。

弩、李本麻本作箭、  
麻本李等三本作弩。

劍、刻三、大將、鞭棍五百七十三柄、抄、四百一柄、將官、將校、別  
 棍、給、十、步、軍、鞭、百步燈一坐、腰鉤金二十二箇、斧子三百  
 二十九箇、一百箇、江、華、留、營、封、在、不、動、角耳二百九十箇、  
 弓弩鐵鉉八箇、別筒箇三百三十部、部、鄉、軍、分、給、七、戰  
 車五十一輛、五、輛、獨、輪、五、輛、兩、輪、二、十、威遠砲七十九坐、  
 長劍四柄、藤杖四柄、月刀形大刀四柄、把、門、甲、棍棒  
 五雙、籍足鐵十雙、刁斗四百六十四叢、馬鐵一千四  
 百九十部、螺角五雙、鼓九十三坐、大、鼓、三、坐、大、行、鼓、三、十、  
 五、小、行、鼓、長鼓六坐、銅鑼一雙、鉦二十五坐、大、鉦、十、  
 鉦、五、坐、小、點、子、十、雙、細、點、子、二、雙、喇叭二十雙、號笛十

柱、中本作鈔。錢、宋本作投。

帳、中本宋本作日。

籠、中本宋本作籠。

三雙銅大角七雙、木大角六雙、捧鉢五十柄、啫啞囉  
 十雙、御軍幕二浮、御房帳二浮、軍幕六浮、平軍幕八  
 浮、布大遮日二浮、具、大索後遮帳二浮、大地衣二浮、布  
 揮帳二十一浮、布單軍幕九十浮、木甲揮帳九十九  
 浮、木甲帳幕四十六浮、木單布城一百浮、油菴一百  
 十三浮、加時木八十七箇、槍柄木一百九十五箇、銅  
 瓢子一千五百三十箇、木瓢子一千六百箇、銅所羅  
 四十八坐、銅鍋七百十坐、阿耳鐵一千四百二十箇、  
 黃燭十一萬四千七百八十五柄、封不動、大燭五千柄、小燭三千三百四十三柄、行用、大燭一百二十八柄、中燭二十六柄、紗籠五

軸、宋本作油。

軸、原本諸本作油、據中本改。

軸、宋本作油。

八面、朴本作八面。

十雙銅絲鐵籠四百二十三箇、小鐵籠六十七箇、方  
 色油紙籠五百十七箇、油小紙籠一百二十箇、三升  
 黑油單四百七十八箇、大緞大旗幟三十八面、綿紬  
 大旗幟三十八面、木綿紬大旗幟三十八面、大旗十五面、高道旗六面、金鼓旗六面、豹尾旗三面、坐蓐  
 旗一面、帥字旗一面、具、懸別抄負旗二面、綿紬旗一  
 千一百六十六面、旗千九、把三、哨官認旗四十九面、指路高手  
 招旗十五面、旗別將、騎士將、認旗四十五面、隊令旗三、面、正七  
 領旗十八面、綿紬旗一千九百十六面、認千旗、把、百、哨官  
 旗一面、神旗、一百二十五面、指路高旗、招三、旗、百、七、十五面、騎隊士長

別將、騎士、將、認旗十二面、號令旗十六面、方紗紬方色旗二百六十四面、動用時、方色號衣六十一領、塘報旗三十二面、假倭木綿各色旗六十面、各色衣六十領、各色袴六十件、紅大緞令旗二十二面、巡視旗十面、藍大緞令旗一百七十六面、巡視旗三十面、藍三升令旗五十面、巡視旗二十六面、朱杖一百一十箇、紅氈笠八十二立、貫耳箭三十六枝、令箭三十枝、冒緞戰巾四十七頂、黑木綿挾袖一千十領、三升七領、四升八領、布青木綿掛子七百七十六領、紅木綿九十二領、青三升七領、藍方紗紬戰帶七百七十六箇、紙油衫一千六十

蒙、宋本作巾。

英、大本之外諸本作作吐。土、車本大本作

一領、青木綿所着、木綿號衣七十七領、紅黃十二木綿周莫衣五十領、甘土五十立、柳葉箭貫革七坐、烏銃貫革十七坐、騎菊貫革十坐、大布一浮、中布一浮、小布四浮。

諸屯、汪濟屯、在長淵、官、顯宗己亥、折、還、穀、假、令、一、百、七、十、石、取、還、稅、正鐵二千一百九十六斤四兩、吹鐵保軍五十番錢一百五十兩、除本屯應下、軍、色、兩、楊州屯、在、楊、州、鐵、原、兩、處、請、宗、戊、年、稅、各穀假令六十石、屯、屬、支、放、及、屯牛八十九隻、以、柴、炭、屯牙兵一百名、柴、納、○苔灘屯、在、長、鍊、官、輪、差、一、辛、未、營、還、租、假

受、原作、誤、餘、本、改。

令七百石零	役取	放員	稅各穀	假令八百石零	無論
納于十騎兩士恒定	屯牛	一百三十四隻	入每隻	稅租各穀	十斗
貨取牛殖稅用錢於五百兩	散募軍	五十名	每名	徵收物五錢	開
元峯屯	買在別積武城士	英宗辛未	年營還租	七十石	屯牛二
十八隻	下稅外各納殺于策	應租所	○城北屯	英在宗惠乙西門	外設
教一鍊	官周輪	還米四百石	餘耗	別將員	錢文
假令二千兩	生散殖	屯牛三十三隻	下稅	外作及錢	牛稅
條	○仁川屯	軍英宗	輪差已	一營	出
及錢	納稅于軍	色下外	○古阜屯	本英宗	收稅已
三隻	百稅兩	納于軍	色五	○鳳山屯	鍊英宗

武、申本作騎。

一、宋本作二。

及、朴本脫。

羨、申本作次。

千、宋本作十、貨、蘇  
 本、作、號、  
 租、申本作條。  
 米、申本作米。

泐水稅租	應下外	假令一千六百石零	從市	直作
費納于京監支	○楊花鎮	官英宗	甲戌	荆設
十限三	還米假令二千石零	石取別	將添	餉而
一百二十兩	支本放	錢三千兩	生散殖	屯牛四十九隻
外及牛稅	租應下	○江華留營	肅宗庚申	置
一萬五千兩	木十同	封不	還米假令	一千八百石零
官取員耗	添餉	永宗	賞米	監
財用軍色	一年應捧	木三百二十六同	二十三疋	應
疋二百九尺七寸四分	同四分	布二十六同	四十疋	應
疋九尺七寸四分	同四分	布二十六同	四十疋	應

六錢三萬四千五百六十二兩三應下三萬二千八百一十正  
鐵二千一百九十六斤四兩。

以上木布錢以一年應入支下應用各有稍贏而

有間年應下木三錢三十三同六千九百九十二尺間二

年應下木四錢四十三尺三十七兩七錢八分同三

年應下木九錢五十一尺二錢又有五年一應下

錢一千七百三十四尺一錢十年一應下錢一千八百

同十五兩木一○葉子金六兩五錢五分丁銀一千

八百八十八兩八錢八分恒留○鑄錢本錢一萬

二千兩送留戶曹曾自本廳設鑄公貨多消融遂

八分、宋本作六分。六  
是、宋本作六尺。

移鑄所於戶曹每於歲鑄時一爐以本廳報債條  
別作名色推其利條匠色所負則每日每爐五兩  
式計捧定式。

糧餉色一年應捧米一萬六千三百八十八石二斗

零應下十一萬八千四百零錢九千八百四十八兩二錢

六分應下七千一百一十四石九斗零應下八石九斗二

以上錢米太以其一年應入較諸應下錢太有餘

而米則不足故以其餘錢買米補用而有間年應

捧米三石百閏朔應下米一石四千六百零○待變鹽一

千石英宗置南倉

三、申本作二。

騎士色一年應捧錢八千八百九十二兩、應下六千六百六十六兩、錢兩三木四十同四十一疋、應下九疋、同米一百九十七石十二斗零、應下七石十一斗九升、太二千一百六十石、應下五千九百八十石、布四同二十八疋。

以上錢木米太支計一年應下多有贏餘而有閏

朔應下、錢百七兩、木三石七斗零、閏年應下、錢四兩七錢五分

分、閏三年應下、錢一百四十三兩五錢、又有五年

一應下、布五疋

別破陣色一年應捧錢九百十四兩、應下九百兩、木五

同七疋、應下六疋、同布一同十六疋、應下十疋。

又以下行末迄、宋本脫。

下四、宋本作下條四。

以上錢木布較其應下稍有餘剩而有閏朔應下。

錢木七十三兩

會計案每年十二朔捧下都計翌年正月十五日修

啓。英宗式

奉足先下。正宗戊申大將李柱國以屯稅錢二千

二百兩付之軍色名曰補軍色。凡軍兵之新差者及

遭三喪者、父母妻預下其三等奉足代錢十八兩。

求請軍物所用加時木槍柄木垂乏之時論報備局

則自備局量宜卜定於所產各道兵水營落幅紙樺

皮箭竹亦報備局請得取用。

續、申末末作津。  
汪、申本作廣、宋本作

御營廳 舟車公廩

舟車津船十五隻	新造、改梁、花鎮、物力、自均、浦在、上下、二隻、銅十
運餉船八隻	新造、改梁、物力、自均、浦在、上下、二隻、銅十
○車子四輛	大車、二輛、使
三輛	時、濬、川
公廩新營	百、五、梨、峴、五、南、小、營、百、九、南、十、洞、一、東、營、二、在、一、
南小營	百、九、南、十、洞、一、
東營二	在、一、
集春營	外、十、六、春、門、南、倉、南、在、
北二營	德、在、慶、門、外、六、宮、十、武、
火藥庫	五、在、南、二、小、營、內、
直房二	一、在、慶、金、虎、宮、門、外、二、門、十、外、十、間、
藥房	二、在、十、二、座、洞、
植木所	景、慕、宮、案、山、及、節、峴、與、景、慕、仁、宮、門、內、將、外、則、合、仕、滿、處、各、

續、申末末作種。

植木所	景、慕、宮、案、山、及、節、峴、與、景、慕、仁、宮、門、內、將、外、則、合、仕、滿、處、各、
○養魚所	在、興、仁、門、外、定、
養魚所	在、興、仁、門、外、定、
直房二	一、在、慶、金、虎、宮、門、外、二、門、十、外、十、間、
藥房	二、在、十、二、座、洞、
火藥庫	五、在、南、二、小、營、內、
南小營	百、九、南、十、洞、一、
東營二	在、一、
集春營	外、十、六、春、門、南、倉、南、在、
北二營	德、在、慶、門、外、六、宮、十、武、
公廩新營	百、五、梨、峴、五、南、小、營、百、九、南、十、洞、一、東、營、二、在、一、
三輛	時、濬、川
車子四輛	大車、二輛、使
運餉船八隻	新造、改梁、物力、自均、浦在、上下、二隻、銅十
舟車津船十五隻	新造、改梁、花鎮、物力、自均、浦在、上下、二隻、銅十



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

一、宋本作三。  
上番、原本山中本李本麻  
 本大本據本作番上、  
 據徐本改。  
 漢、李本宋本作疾、藤  
 本作若。略、宋本大

當于戊辰八月引見大臣備局堂上。御營大將李堯  
 憲啓言曾於先朝甲寅以華城城役物力之各處  
 貸下還報次本廳五哨鄉軍上番中每哨各除二十  
 七名合一百三十五名減番收其身布及資裝保錢  
 以爲排年計減者今已畢報自今十一月爲始當爲  
 復番徵立而第有區區愚見蓋鄉軍上番最是民邑  
 之痼瘼雖略千名之減番除弊不些今若復舊徵上  
 則十五年安於除番之餘其所爲弊無異新創又以  
 軍額言之除番後其間上來者名雖五哨以實數論  
 之不過四哨之軍而其中如有病故等雜頃則各處



入直及行陣。每有隊伍不備之弊。臣意則今此除番者。仍令依前除番。以今鄉軍五哨之額。合作四哨。自京新募勇健。別作中一哨。以備五哨之制。則在民邑無復番增弊之嘆。在軍制可免隊伍之不備。而或值全數停番之時。一哨之軍。恒在都下。諸般排番之道。庶不疎虞。且京標下諸色軍。自來數少。每患不足。限五十名加出。而以其除番收布較量。其新募一哨及標下五十名料布。則接濟之需。優可分排。亦有剩餘矣。於五哨之制無損。而標下有增額之效。恐合兩便。上以詢大臣將臣。左議政金載瓚曰。此異於改定軍

番、中本作舊。

收、宋本作數。

鄉、中本作生。

制。即不過停番之餘。仍爲停番。則鄉民無徵發之弊。京營有精抄之兵。而况又接濟有裕。可補營用。臣以爲有十全而無一弊也。右議政金思穆亦言其便。禁衛大將李得濟曰。禁營則今纔復番。故臣不敢仰請。而其實則當初除番。與御營無異。到今御營既仍除番。則禁營恐不可異同。上可之。教曰。禁營宜無異同。一體施行。禁御兩營。啓曰。禁衛營。御營。廳上番。鄉軍中從前除番者。仍爲除番。以今五哨之額。合作四哨事。已爲筵稟定奪矣。上番軍。以四哨改定作隊。除番軍。則並其資保。今年爲始。收布上送事。軍保所在。

會、朴本宋本作委。

各道監兵使處措辭知會。

鄉軍除番作隊式每番五哨軍六百五十二名內一

百三十五名依前除番實五百七十七名分作前左右

後四哨四哨作隊式部標下九名司標下八名每哨

每哨宋本脫。

軍一百二十名內旗十名、火兵三名、隊長九名、正軍九名、每哨

下五、宋本作下軍五、哨、中本脫。

標下五名式本除軍充代俾準七名以京哨

新募秩京哨軍一百三十五名新募內一百二十七

名以鄉哨隊伍例作爲中哨餘軍八名則移充鄉四

哨標下見減之代京標下加設五十名內牢子巡令

手各二十名燈籠軍十名添額。

揔戎廳

頃、中本朴本宋本作略。

仁祖甲子創置揔戎廳以完豐府院君李曙爲揔戎

使置水原廣州楊州長湍南陽五營定巡操之制。

開營○新營在彰義門外設廳初開營於社稷洞北

二營 顯宗己酉移建於三清洞 英宗丁卯移設

於鍊戎臺○肅宗癸巳知敦寧金鎮圭以平倉宜有

防守請建漢北門築左右翼城。

官制○使二品以上例兼備局堂上 英宗庚午兼京圻

兵使出鎮鍊戎臺矣新造印信庚辰廟議揔戎使以備堂

兼帶外任有所掣碍京圻兵使減下仍爲還鎮○甲

中因相臣所奏例兼造紙署提調造紙署在該

戎古例徐會經大移戎使都監中軍門軍兩正宗癸卯帶

請備改差司啓 中軍一員以二品 千撻二員三品 把撻六員

堂下 四〇京 哨官二十六員京軍十員 禁旅戶曹一〇北道

一 策出身北漢 策六鄉 策十六 軍官五員加設 教鍊官十七員

禁旅 策一閑 策九行 策一水 策二加 策三武 別付料軍

官二員皮一茶員 肅子廟 承以司 永鑰崔 泰一員 等請進 五加付

料軍官十員以 射戎計 軍官每 禁松監官二員漢北

門部將一員子春坊 承書永 姜孝元 在家軍官一百五十

人疏無 簡書內 二營員 書役書 吏十人 庫直六 名書大 廳一直 朝一報

廟、中宋本大本藤本  
作宗。選、中本藤本

一人、宋本作二人。  
本作一人。宋

房使令七十名禁文書直三名 驛從士十三名裝直二名 都  
將官廳一人名下馬軍三名 直一

軍制〇內營軍制二部四司左部有左司右司右部

有左司右司二部皆有中司謂之二中司四司各領

五哨二中司各領三哨壯抄十哨金浦二哨 通仁津二

坡一哨南陽 一哨長湍 一哨等 屯壯抄三哨散在 州利 楊城智 仁川

仁富平設 陽川稷 抄山平 哨澤等 邑〇仁祖丙 戍具內 牙兵十哨

二長湍高 哨一坡州積 哨一麻田富 一哨交 哨河屯牙兵三哨散

曹朔寧漣 川楊 州麻 田積 城長 湍等 邑〇肅宗甲 寅戶

屯民中壯健者凡二十六哨也八色標下軍九百九

陽川 中本作楊州。

富平、中本、本李等三  
本作麻田。

尹、宋本作書。



十五名。京八百五十三名，各給資保一百六十二名，內英宗元額

寅定式。○鄉標下屬華城後十六名，充之。是為內營軍

也。外營軍制，凡三營，南陽為前營，屬陽川邑，坡州為中營，

屬河邑，高陽城。長湍為後營。屬邑，漣川、麻田、朔寧。○甲子

丁卯，宗移屬中府，陽於守禦，只設五營。南陽為前營，水原營

宗為左營，北漢為中營，坡州為右營。長湍為後營。○正

前營，別驍士二哨。陽正宗甲寅命依坡州例，長湍、南

伍軍十二哨。陽川一哨。二部四司各三哨。中營、後

中營，別驍士二哨。英宗甲申，坡州設防，東伍軍十二

哨。坡州七哨，後營，別驍士二哨。正宗甲寅命依坡州

改，李等三本作設。

一名，李本宋本作一石。

別二哨，陸為東伍軍十二哨。屬邑，七哨。凡別驍士六哨，

東伍軍三十六哨。○三營皆有中軍一員，別驍士別

將一員，局將二員，千搵二員，把搵四員，哨官十二員，

輜重哨官一員，教鍊官。前營十五員，中營九員，後營各九員。旗牌官，前營

一員，中營二十七員。標下軍三百五十名，輜重軍五十

名。惟中營有攔後軍一哨，攔後哨官一員。○各邑軍

需保九百五十一名，各屯軍需保一千二百十六名，

各邑守堞軍官三十七人。散在各邑。

兵符○正宗乙巳大典通編刊行時，搵戎使發兵符，

右一隻及屬邑兵符新造，北漢鍊戎臺出去時，仍佩

往來事定式

旗號 ○認旗 五尺心 帶黃邊 一丈八尺方 手旗 黃質 紅書 命

八寸方 ○納音 手旗 式見 調局 一尺 招搖旗 黃心 營黃邊 紅

珠以相維 尼繪 七星 雲氣 旗方 五尺 依五衛 長一丈九尺 招纓 搖頭

邊 駕前 守禦 應出 鎮後 以單 營稱 號改 黃色 白

二鎮 方 坡鎮 州 於 中 營 地 ○臨津鎮 在 坡州 初以 洛河 渡 移

設臨津渡 置別將 白兵曹 差送矣 肅宗 庚寅 藥房

提調 閱鎮 厚啓 請移 屬本廳 京教 鍊官 送 ○英宗 甲戌

建鎮 西門 築左右 翼城 時餉 米還 租盡 分取 耗接 濟

鎮屬 別將 一員 代將 一員 鎮西 門部 將一 員 旗牌 官三 員 軍

營、宋本作戎、大下作

旗、宋本作戎、大下作

宋、宋本作津

宋、宋本作津

宋、宋本作津

宋、宋本作津

宋、宋本作津

宋、宋本作津

宋、宋本作津

宋、宋本作津

宋、宋本作津

宋、宋本作津

宋、宋本作津

鎮、宋本作營、本營

山鎮、宋本大本作山津

浦、宋本作津

浦、宋本作津

浦、宋本作津

浦、宋本作津

浦、宋本作津

浦、宋本作津

二名 牙兵 二哨 書員 二名 庫直 一名 山直 一名 通引 ○津夫 七十

四名 津缸 十隻 津夫 有改 梁位 田番 津缸 每兩 自宜 惠新 造

受 ○本津 合水 解冰 潦水 漲溢 形止 鎮將 報本 營轉

報備局 ○正宗 庚戌 別將 移屬 禁衛 營壬戌 還屬 本

廳 初禁 衛代 送壯 勇營 罷後 還屬 ○長山 鎮在 坡

州 英宗 甲戌 右參 贊洪 鳳漢 以兩 西要 路馬 浦淺

灘不可 無防守 筵稟 設置 築墩 臺置 屯田 餉米 糶糴

取耗 置別將 一員 京教 鍊官 二員 軍器 監官 一員 將一 員 旗牌 官將

三員 墩臺 直官 一名 通引 二名 軍旗 二十三 名 山牙 兵二 名 哨書

八名 直

諸屯○仁祖甲子撻戎使李曙設屯於長湍積城等  
 閑曠之地募民起耕除身役給農牛隨起收稅以備  
 兵食此爲本廳屯田之始 英宗己未備局知委劃  
 給關西屯牛六十五隻於本廳分送畿內十屯以作  
 農牛○正宗己未撻戎使李邦一定各屯上中下撻  
 成置節目。

長湍一屯	租石五	粟一石	太石一	稷一石	豆一石	二屯	租石八	粟一石	太石一
廣州屯	租石八	粟一石	太石一	稷一石	豆一石	朔寧屯	租石二	粟一石	太石一
陽城屯	租石五	粟一石	太石一	稷一石	豆一石	麻田屯	租石四	粟一石	太石一
稷山屯	租石二	粟一石	太石一	稷一石	豆一石				

七十、宋本作十七。

水原屯	租石四	粟一石	太石一	稷一石	豆一石	德池屯	租石二	粟一石	太石一
鳳山屯	租石五	粟一石	太石一	稷一石	豆一石	積城屯	租石五	粟一石	太石一
靈巖海南屯	租石三	粟一石	太石一	稷一石	豆一石	西南新屯	租石三	粟一石	太石一
安屯	租石六	粟一石	太石一	稷一石	豆一石	陽智屯	租石八	粟一石	太石一
振威陽城屯	租石二	粟一石	太石一	稷一石	豆一石	務安咸平屯	租石六	粟一石	太石一
洪州德山屯	租石五	粟一石	太石一	稷一石	豆一石	金			
海屯	租石二	粟一石	太石一	稷一石	豆一石	今勿屯	租石七	粟一石	太石一
通津屯	租石五	粟一石	太石一	稷一石	豆一石	江華屯	租石八	粟一石	太石一
富平屯	租石二	粟一石	太石一	稷一石	豆一石	平山			
臨津屯	租石五	粟一石	太石一	稷一石	豆一石	長山屯	租石七	粟一石	太石一
長山屯	租石七	粟一石	太石一	稷一石	豆一石				

五、申本作七。





聖、中本作標。

交、大本作今。

百四、宋本作百單四。

門部將三員、守堞軍官二百人、散在山城員役四十  
 六名、令、書、員、五、名、庫、直、十、二、名、門、軍、士、直、一、二、名、使、軍制一  
 司五哨、把下軍三十名、別破軍二百名、牙兵五哨、散  
 幾標下軍一百九名、在、九、名、○置僧兵號曰緇營、在  
 與搵攝一人、原、本、以、原、居、僧、差、出、矣、以、正、宗、丁、巳、因、水、  
 寺、原、留、守、趙、心、泰、所、廢、以、龍、珠、寺、僧、輪、差、  
 中軍僧一人、將校僧四十七人、料、有、僧軍三百七十二  
 名、七、十、三、太古寺、在太古臺下、一、百、四、十、九、間、輔國寺、在禁  
 重興寺、在登崖峯下、一、百、四、十、九、間、輔國寺、在禁  
 倉下、六、十、鎮國寺、在露積峯下、中城門內、一、百、扶旺  
 寺、在鶴巖峯下、一、百、國寧寺、在義相峯下、七、十、普

佛、宋本作納、次行同。  
五、麻本作四。

光寺、在大城門下、五、七、元覺寺、在額峯下、一、八、龍巖  
 寺、在日出峯下、八、十、祥雲寺、在靈鷲峯下、九、十、西巖  
 寺、在水口門內、一、百、七、右十一寺、各置僧將一  
 人、首僧一人、番僧三名、奉聖菴、在龜巖峯下、五、二、  
 元曉菴、在元曉峯下、十、文殊菴、在文殊峯下、○行宮、  
 在上元峯下、六、正、殿、三、間、內、八、間、行、閣、外、五、間、水、刺、八、  
 二、行、閣、外、門、四、間、中、山、門、三、間、一、月、廊、○管城所、在上倉、大、  
 執、事、八、間、內、衙、軍、二、間、衙、門、四、間、米、庫、六、間、書、庫、十、三、間、軍、器、庫、三、間、  
 各、門、七、間、中、倉、六、直、家、間、五、間、米、庫、七、間、門、二、間、八、下、倉、六、大、  
 直、家、米、庫、八、間、大、門、四、間、別、庫、在、行、宮、傍、○大、直、家、三、間、五、間、

二大間門右，上倉中倉下倉別庫，謂之管城四倉。○別館  
 四，山關一樓，一問。○東射亭六間，東將臺三，因將臺三，建問，御製訓倉，廳大  
 軍十所八間，內郎衙廳八所，五間，米書庫六，應十，五間，軍器庫，留庫，問十六，問，中  
 一開十禁倉，軍器廳，庫十八，三問，內中衙，六所，問，五間，米書庫，員五，應十四，問，問，  
 八月廊御倉，軍器廳，庫十八，三問，內中衙，六所，問，五間，米書庫，員五，應十四，問，問，  
 二廊十間，○山城附近之地，分定外字內。○新屯，清下，潭西，調門  
 內倉字內，彌阿里，青水，洞，加，五，里，牛，洞，為，耳，洞，倉，為，禁，倉，字，內，○  
 屬屯四，甲士屯，甲在楊州，以本樓屯，當為北兵，漢曹，騎牧，角場，之，勢，肅，宗，  
 盡京請取，得，耗，屬，之，北，漢，隨，餘，起，數，收，添，稅，付，元，還，米，水，逾，屯，附，在，楊，州，  
 堂士屯，閱，○，鎮，本，厚，糧，請，餉，得，屬，屯，之，北，漢，置，還，租，理，黔，巖，屯，州，在，黔，楊，

六、本本作七。五十四  
 宋本作四。八。三三  
 宋本作六。  
 二、大本李等三本作四。  
 十二、宋本作二十。門  
 宋本作關。  
 阿、中本作河、黃、中本  
 宋本作清、子、本本作

六、李本宋本作三。

爲、宋本脫。

租嚴○肅宗已亥買置還新屯。黔北漢屯。○西肅宗外附子於  
 鎮經遠買置上閣。○甲士黔巖二屯皆有別將。黔巖別將  
 差以別將代李承聖臣子寅亮永  
 軍儲○本廳軍儲曰屯穀。屯見諸。曰平倉北漢餉穀。宣  
 送應制。曰壯牙兵身米。奴三斗。曰軍需保需米。各屯各  
 保所。曰兩西添餉米。曰義僧番錢。曰兵曹移來木。曰  
 經理穀。曰取耗米。曰月課米。詳見蔡民。曰補土所物  
 力。見補上。曰別備錢。見策應。此其綱領。其中有沿革  
 而爲均應給代錢者。  
 兩西添餉米。英宗己巳。因相臣所奏。兩西小米一

規之下、諸本皆有式

錢、李本廢本作兩。

付本府、宋本作保本廳。

千五百石、每年劃給添餉。 正宗壬子、權減。見米需條  
 壯牙兵需米。 英宗庚午、既罷壯牙兵入番之規、以  
 奴三斗良六斗捧身米。參操則 丙申、因御史俞漢敬  
 別單、壯牙兵需米、自本邑以米收納、保米則從民願  
 每斗代錢四錢捧納事、定式。 正宗壬子、水原需米  
 軍移付本府後、需米八百石、代以月課米、移用、月課  
 米代以兩西小米換給、添餉條則權減。○正宗己酉、  
 以高陽軍額不足、因廟議、本廳牙兵七十一名、軍需  
 保一百十二名、除減、以長湍軍需保、換名作哨。  
 均廳給代錢。 英宗戊寅、京畿監司趙暉、以水原民

兼役為弊、狀請減本廳屬軍需保良一千名、奴五百  
 名、自均廳、每年以錢二千五百兩給代。○正宗戊午、  
 始興果川安山振威龍仁五邑、需米軍移屬華城、自  
 均役廳給代錢四百十兩于本廳。此段即軍需保事、又錯  
及均於壯牙兵需米條

義僧番錢。北漢築城後、泐設六道義僧上番之規。  
 英宗甲戌、湖南釐正使李成中書啓、以番僧齋裝有  
 弊、革罷徵番、自兵曹捧番錢輸送本廳、雇立城內原  
 居僧。己丑、因兵曹判書具允明所啓、自本廳直捧。  
 正宗戊申、因特教番錢半減、以常賑穀加分耗給代。

式、宋本作定式。

兵曹移來木。英宗甲戌北山禁松移屬本廳後以  
山直雇布每朔木六正式自兵曹受來。分給教師以等

代料給米

經理穀。英宗壬子以本廳留庫木五十同貸下湖  
西以補賑資其後作穀會錄賑廳。正宗乙卯撥戎  
使徐龍輔請得取耗以補應用丙辰壯勇提調鄭民  
始啓請屬壯勇營。當宁辛酉撥戎使金祖淳筵稟  
還推用於支放。

於申本脫。

取耗米。正宗甲寅撥戎使鄭民始買米三千五百  
石分置畿內十六邑。驪州、楊根、振威、南陽、豐德、長湍、

各二百石。陰竹、利川、漣川、麻田、各一百石。取耗執錢、耗每石

兩買米以補北漢支放。

銀錢米太醬鹽炭○銀二萬四百九十五兩二錢四

分五里。一萬二千二百五十四兩。北漢在八千二銀代

錢一萬九百兩八錢別備錢一千三百十七兩零補

土所錢二千九百五十四兩零合一萬五千一百七

十一兩零。

上下平倉餉米一萬三千一百八十八石零。分給二百

五十六石。留庫七千管城四倉餉米一萬三千四百

四十五石零。分給四千七百九十三石零。餉太二十

異、宋本作厘、下同。

五石零。分盡訓禁御三倉餉米一萬三千四百十六石  
留分庫八千五百八十八石零。餉太一百五十石零。  
分盡僧倉餉米四千六百七十四石零。餉太一百十  
 一石零。分盡醬九百七十三石零。上平六十五石零在  
七百零九石零在訓禁御三倉。鹽五十石。置作一軍器庫封炭  
 二千一百二十石。一千一百石埋置龍巖寺前一臨津  
 鎮餉米一千六百三十八石零。分盡租八百六十七石  
 零。屬分取添耗接濟餉鎮長山鎮餉米一千八百十三石  
 零。分盡租一千四百石。作米支放甲士屯還米一百八  
 十一石零。屬分取添耗接濟屯還。水逾屯還租三百五十

九、宋本作五。

還、朴本作餉。

路、宋本作作。

二石零。接分取耗。黔巖屯還租七十一石零。耗盡接分取  
屬屯京畿各邑買置米三千五百石。十年取耗。三  
 經理各穀一萬二千三百六十九石零。散置七忠州等  
分取合米五萬六千八百五十八石零。不理各穀除  
 分給恒留二萬五千一百七十四石零。太二百八十  
 七石零。租二千六百九十一石零。  
 一年應捧錢○僧番錢六千五百五兩零。六千三百  
一年六當僧。立價及造紙署格價上下。各屯稅錢  
餘在一百九十一兩。每年留儲以補。各屯稅錢  
 二千九百六十五兩零。均應給代錢二千九百八兩  
 零。番布代錢一百十九兩零。兩西小米代錢四千兩。

經理耗代錢一千兩、燠造太代錢二百四十五兩零、造紙署員役料代錢一百八兩、合錢一萬一千三百四十五兩零、

一年應捧米各穀○各邑軍身米及屯稅米一千八十石零、惠廳月課米一千石、上下平倉耗米六百五十石零、臨津鎮長山鎮耗米二百石零、合米二千八百八十七石零、租一千三百十六石零、太六百四十九石零、豆三十五石零、粟二百二十石、稷二百四十石、一年應下錢○各樣上下一萬一千二百四十五兩零、餘在九十九兩、零以備開湖。

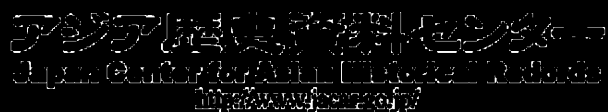
岩臨之安、宋本脫。合米之下、宋本有爲。

備、宋本作補。

備、宋本作補。

十二、宋本作十一。

一年應下米各穀○各樣上下米二千八百七十六石零、餘在十石零、租一千一百九十五石、餘在十一石、以充太粟、以備開湖。太七百二十石零、不足、五十石、豆三十五石、粟二百五十六石、不足、三十石、稷二百八十四石零、不足、十四石、零、  
一年捧下木○兵曹移來木一同二十二疋、教師朔布下。  
北漢一年應捧應下米○山城內各倉耗米九百五十二石零、各邑取耗米三百五十石、各邑軍需米一百七十六石零、合米一千四百七十九石零。○各樣



鎮、朴本作津。

料、申本作札。縮條之下、宋本有合。

支放等應下米一千四百六十一石零。除在十八石  
 臨長兩鎮一年捧下○臨津耗米一百六十三石零、以備開朔  
 長山耗米一百八十一石零、耗租作米五十六石、合  
 米四百一石零。○兩鎮將校員役料條及鼠縮條一  
 百九十二石零。除在二百九石  
 募民養兵○顯宗癸丑、戶曹判書金壽興啓請募得  
 吹鐵牙兵八十名於黃海道長淵縣、除雜役收身鐵  
 以備本廳軍器之資。○英宗戊辰定式、北漢及本廳  
 字內募民起耕處免稅。○英宗甲戌、右參贊洪鳳漢  
 啓請三南月課鳥銃二百四十柄、火藥五百斤、本廳

于、申本作於。

受價于宣惠廳、造給各邑。○三南藥丸契海西銃藥  
 契曝白契燠造契移設於營底、以爲居民聊賴之資。  
 ○英宗戊子、摠戎使金時默啓請北漢久居僧、依南  
 漢例帖加。○正宗庚子、摠戎使徐有寧啓請標下軍  
 在外邑者、依守禦廳例、烟戶雜役勿侵。

陽、宋本蘇本作營。

輪操○軍操、春行於前營、秋行於中營、後營、輪操之  
 式、累有沿革。英宗己巳、三鎮營春秋輪操定式、甲  
 中、南北各二營、春秋輪操定式。○前營、南陽別驍士  
 二哨、束伍軍十一哨、陽川束伍軍一哨、所屬列邑壯  
 抄八哨、屯壯抄三哨、牙兵一哨赴操。中營、坡州別

士、李等三本作士。  
邑、中本作營、子、麻  
本宋本作字、狀、申  
本宋本作壯。

驍士二哨束伍軍七哨壯抄一哨牙兵二哨屬邑束  
 伍軍五哨牙兵五哨臨津鎮牙兵二哨長山鎮牙兵  
 二哨赴操。後營長湍別驍士二哨束伍軍五哨壯  
 抄一哨屯牙兵三哨屬邑束伍軍七哨牙兵二哨赴  
 操。○赴操軍身米減半報備局給代。○若停操則官  
 鎮門聚點。自各邑鎮聚點口額軍物畢點後則自本○  
 三鎮營赴操軍兵犒饋米假令三百石。儲置米臨長  
 兩鎮赴操軍兵犒饋米二十九石零。取以移報耗局先  
 代。賞格假令木三同。兵曹箭竹五十浮。請得於帽子  
 一百立。營門軍兵甲布帳木十同。報備局曹

箭竹、宋本作竹箭。

留陣○陵幸時弘化門外留陣專當舉行。正宗戊戌

舉幸時弘化門外留陣守後專當舉行。

中甸○若值中甸之時則內營將官將校八色京鄉

標下軍北漢將官將校標下軍僧校卒試射放技藝

賞格假令木十四同布八同。或取用於三軍門或

大閱○大閱時依兵曹節目三鎮營中馬軍幾哨束

伍軍幾哨徵發舉行。稿饋自本

試取○三營別驍士每年自各其營以鐵箭騎菊鞭

棍初試入格本廳以柳葉箭片箭合試取二人直赴

殿試。英宗甲申坡州別驍士每年都驍士居首直赴

自各、宋本作各自。



試、申本末作式。

式將官射會每朔二次隆冬盛暑只一次。規柳葉箭十巡北漢將官一體爲之別單書入。庚戌

立、宋本作人。五、李本、本本作伍。

十卒、宋本作十名。

七卒、申本作七名。

斥墩伏兵傳語軍○幸行時斥墩伏兵傳語軍以各

邑束伍軍排立於各該地方而斥墩處一將三卒。五本

一將五卒。辰、本、七卒、甲、請出標信、合符調發、駕過該地

方稟旨解嚴。

禁松○英宗甲戌四山禁松分屬各營北山本廳專

當○參軍宣薦哨官例兼。三、十、朔、出、六、○、松、禁、設、始、時、以、把、捻、例、兼、正、宗、癸

定卯改式

補土所○普賢峯來麓卽都城主脉也。肅宗癸巳

經理堂上閔鎮厚建議補築。正宗甲辰更爲補築

以三營錢一千五百兩帖價錢五百兩添補錢一千

七百兩給本廳取殖補用成節目定式丁巳又補土

命揔戎使與漢城府堂上溶川堂上春秋看審草記

事定式。

公廨○新營在鍊戎臺。五、新、大、廳、二、十、間、舊、大、廳、二、十、

器庫間三十六間中營大廳一十間執事廳房十二間軍器

色軍物庫三十七間直家廳十一間下門七間拘留亭三

爲、申本作議。

錢五、宋本作錢二。



時、李等三本作置。

問 策應所、在宣仁門外、本壯勇營直房也。當宁丁卯、搃戎使李堯憲請得、儲峙軍物、名之曰策應所。別備

添錢一川於修補之資、取殖

辰、李等三本作戊。

諸倉○平倉、在鍊戎臺。肅宗壬辰、勅設置餉穀、自

宣惠廳、劃來糶糴。大廳三間、庫直家六間、月廊二間、南

北有、宋本作北皆有。

門、江倉、在楊花津、初屬舟橋司、名曰蠶頭倉、舟橋

時、申本朴本作曠。

司罷後、完豐府院君李曙請得、置本廳稅穀。大廳七

十二間、大門三間、庫直家

移轉○北漢各倉及平倉穀、本有京內部還畿邑保

還之規。正宗甲寅、搃戎使鄭民始以部保還有弊

轉、申本藤本作屬。

於京外筵稟罷之、移轉于畿內十八邑。通津九百二

興四百富平屬上八石、交金浦一七石、安山五六石、石陽始

略川四百石、屬下八石、交金浦一七石、安山五六石、石陽始

十所屬坡州倉一萬一千石、高陽一萬一千石、橫城四安驛三平邱驛石

二屬禁倉一萬石、屬高陽倉一萬石、漣川二石、重八驛四石、零石、豐源二驛

式稱頃、不受去者、歲末、捧奉、退守、代、錢、施、以、遠、勤、之、經

語、以、啓、其、後、亦、許、捧、道、留、臣、別、措、邑。

雜事例○顯宗庚戌、搃戎使徐必遠狀請、各鎮營將

考其將官勤慢、報本廳、自本廳褒貶修啓事、定式○

辰、中本作寅。  
校、麻本作官。

校、李本宋本作官。

成、中本李等三本作城。  
大南、李等三本作南大。

英宗戊辰、摠戎使具聖任定式、哨官教鍊官各一窠、以北漢鍊戎臺將校取才差出。○英宗庚午、滅牙兵京把摠哨官、自各其邑望報差出。○銀錢餉穀用遺在會計、每年正月十五日修啓。○正宗丁酉、命將官將校軍兵摠數、依三軍門例、每年四季朔修入。○正宗丁巳、備堂李書九啓請、本廳餉還、捧留區別、春秋修啓。

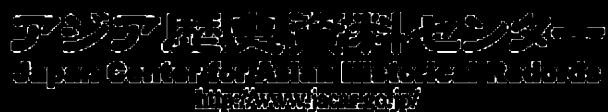
禁條 ○英宗庚辰、下教、以北漢大成門路有妨於都城主脉、仍閉不用、用大南門出入。○正宗丙申、左尹張志恒啓請、本廳禁標內、舊葬合葬、勿禁、新葬繼葬

禁斷

廟、朴本宋本麻本作宗、次行次、各行同。  
廟、麻本作使。  
設、中本作屬。

屬邑沿革 ○設營初、以水原廣州楊州長湍南陽爲五營。仁祖己亥、廣州移付南漢、以竹山代定。孝廟丙申、因守禦廳啓請、楊州移付南漢、以通津代定。肅廟丁卯、因守禦廳啓請、南陽移付南漢、只設水原長湍楊州己巳、楊州又屬南漢、以坡州代定。英廟甲申、因特教、長湍防營移設坡州。

輪番沿革 ○仁祖丙戌、具仁堅既設壯抄屯壯抄、除農月輪番廣智營。肅宗甲寅、閔維重設牙兵申汝哲設屯牙兵、除農月輪番三清洞本營。三清洞本營、尋罷。



正宗甲辰、宋本脫。  
下軍之軍、申本脫。九十  
名、申本作九十九名。

英宗庚午、罷壯牙兵入番之規、捧身米。 正宗甲辰、  
因禁御兩營鄉軍停番、以本廳標下軍一百九十名、  
自正月至六月分三番輪回入直於廣智營集春營、  
請得關西遼軍木五同、補用料布。  
調發○肅宗戊辰、相臣金壽興啓請、影幀實錄奉  
往外邑時、以守揔兩營所屬東伍軍臨時請出標信、  
合符調發、名之曰射隊軍。○仁祖己丑、勅使往來時、  
以三鎮營東伍軍調發護行事、定式。 肅宗甲寅、以  
守揔兩營輪回舉行事、更爲定式、名曰軍威軍。近因  
遠接使知委、連爲除之。○正宗甲辰、因館伴徐有隣

所啓、勅使往來時、禁雜人次、自弘濟院至長湍終境、  
令守揔兩營所管別驍士及牙兵調發舉行、而臨時  
請出標信、知委於坡州長湍高陽三邑、各一百一十五名、謂之  
曰禁辟軍、而標下軍一百名、自營門調發、排立于弘  
濟院。○宴享臺出入時、標下軍五十名、調發排立、名  
之曰環衛軍。

軍器○鳥銃五千二百二十三柄、三千五百三十二柄、東伍軍壯牙兵

等分給。○倭銃二十七柄、別銃三十分、柄長銃二十九柄。 循環砲四坐、一窩砲一坐、

烏銃體鐵五十柄、火藥一萬四千四百四十九斤八

兩八錢四分鉛丸四十四萬二千一百六十六箇、鉛大

二十、李等三本作三十。  
十二、宋本作十三。

九十六、宋本作九百，百十  
三、李等三本作百十

四九三十六箇、三百火繩四百十五臺、乃火藥桶七百七十  
一箇、火箭四百八十七枝、火箭竹一千四百六十五  
枝、箭竹六萬四千四百十八箇、南飛箭一百六十五  
部、弓一千九十一張、分三百十二張、壯牙兵、旗隊長等  
長角弓一百五張、黑角弓弩弓二張、交子弓弩弓五十  
二張、長箭八百六十二、浮二十八箇、三百十二、浮、壯  
分、片箭四百二十五、浮二十五箇、弓弩箭四百八十  
浮八箇、長箭鏃二千二十二箇、片箭鏃二百十箇、箇  
兒二百六十三箇、弓弩機六十九部、環刀八百十八  
柄、四、百、八、十、二、柄、壯、牙、兵、旗、隊、長、等、壯倭長劍二柄、筒箇三百

十三、宋本作十五。

十部、黑鼠皮筒箇擔筒箇三百二十三部、三百、壯、牙、兵

旗、分、隊、給、長饒口槍三柄、菱鐵一萬七千三百二十九箇、

壯、一、萬、五、千、分、給、拒馬槍八百十二部、挾刀二十二

柄、鼓十七坐、大、鼓、二、坐、鉦十三坐、大、鉦、八、坐、黃燭八

千八百七十八柄、石硫黃七十九斤一兩五錢、倭、石、硫、黃

六、三、十、刁斗一百叢、銅爐口一百二十七坐、阿里金九

十五、巨里、銅釜二坐、鎗所羅十二坐、假耳七十五箇、

不、以、上、封木軍服俱三件、三百五十領、紙油衫二百四

十七領、木綿紅掛子四領、木綿黃號衣五十領、戰笠

二百五十立、紅氍笠五十二立、紅緞揮巾一雙、貫耳

木、朴本作大。

氍、基本作戰。二立、  
由本作三立。



五十、中本作二十。

箭二十八枝、令箭二十枝、朱杖五十箇、肅靜牌一雙、  
 鐵絲芝四十八巨里、藍大緞令旗四十面、巡視旗六  
 十四面、喇叭五雙、號笛五雙、螺角一雙、銅大角一雙、  
 啫唎囉二雙、點子二雙、鑼一雙、捧鉢一雙、長鼓一雙、  
 三穴銃九柄、大緞大旗幟三十八面、大旗五面、高招旗五面、  
 二面、門旗十面、角旗八面、清道旗一面、二廣緞大旗幟三十  
 八面、座纛旗一面、帥字旗一面、具懸旗兩備一百二  
 件、帽緞戰巾十立、千捺把捺哨官方色手旗三十三  
 面、方色號衣三十三領、部司神旗三十二面、部司哨  
 認旗三十四面、指路高招旗六面、旗捺旗七十八面、

尾、宋本作尾。一、中

字、中本作子。

領、宋本作日。

帳、麻本作日。

末、朴本作木。

調禁御、諸本皆脫。

隊長旗二百三十四面、節一柄、鉞一柄、纛一柄、塘報  
 旗十面、放機竹二箇、小燈鐵五十八箇、藍紗籠十三  
 雙、油紙籠一百四箇、方色紙籠大遮日二浮、具大索大  
 地衣一浮、前後遮帳四浮、軍幕四部、雨備平軍幕六  
 部、布揮帳二十六浮、木甲帳六十二浮、具鐵末油芭三  
 十部、已上新行用

北漢訓禁御僧倉

鳥銃八千二百六十六柄、調三千柄、禁一千七百八十三柄、  
七千二百六十七柄、大長銃三百柄、禁喇叭別銃十柄、御中  
 銃五十四柄、調十七柄、禁十七柄、三穴銃十五柄、御水鐵

大砲六十七坐 <small>御十九坐禁十八坐</small>	威遠砲八十七坐 <small>御四十五坐禁一百一十九坐</small>	鐵佛狼機母砲六十坐 <small>御九十一坐</small>	鐵佛狼機四百十五坐 <small>御八十二坐禁一百一十五坐</small>	鑰佛狼機四百十五坐 <small>御八十二坐禁一百一十五坐</small>	單家砲五十四坐 <small>御四十六坐禁五十九坐</small>	單家砲五十四坐 <small>御四十六坐禁五十九坐</small>	水鐵單家砲體鐵一	鑰佛狼機四百十五坐 <small>御八十二坐禁一百一十五坐</small>	火藥五萬四千七百四十九斤十二兩 <small>御一百一十五坐</small>	火藥五萬四千七百四十九斤十二兩 <small>御一百一十五坐</small>	鉛丸一百三十三萬五千二百十六箇 <small>御三十一萬二千五百六十八箇</small>	水鐵丸九千四
--------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	----------	---------------------------------------	--	--	--	--------

八十二、原本及諸本作三十七、據宋本改。

九斤、原本諸本作五斤、據宋本改。

三百一十、原本諸本作二百八十、據宋本改。

六枝、原本諸本作九枝、據宋本改。  
練、宋本作綿。  
五百、原本諸本作四百、據宋本改。  
弦、宋本作本。

百四十六箇 <small>御四十五百三十八箇</small>	火藥桶九千三百	耳藥升四千九百	三十四箇 <small>御二百一十箇</small>	火繩	九千三百七十六臺 <small>御七千七百六十七臺</small>	乃、御八千四百九十四枝 <small>御九百九</small>	火箭竹一千四百九十八箇 <small>御九百九</small>	交子弓五千五百五十四張 <small>御一千五百五十四張</small>	空弓弦五百箇 <small>御長箭三千三百</small>	長箭三千三百	片箭二千五百七	筒兒二千一百二十
--------------------------------	---------	---------	----------------------------	----	-----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	-------------------------------	--------	---------	----------



五箇禁一千五百箇御二十五箇僧環刀一千五十一柄禁六柄九柄御一百四柄御七柄胡劍一百柄禁長槍八百九十柄六柄禁九百柄僧五千里鏡一部訓黃燭四萬五千二百四十七柄禁三萬柄御一萬五鐵籠四百箇禁三百箇御帥字旗一面御懸二廣緞大旗幟三十八面鼓十八坐大鼓四坐喇叭十一雙鉦二十二坐木大角十雙銅爐口一百三十坐阿里金一百雙御食鼎一千四百二坐訓五一千三百八十六坐加時木鐵杖二百二十箇訓簪鐵五百三十九箇禁三百二十箇鐵凹心二十五箇御童車三十二坐禁絲沓釵丁

宋、申本作十。

二百十五箇禁

臨津鎮

千、宋本作十。

增、李等三本作箇。

烏銃一百八十柄火藥一百斤鉛丸五千箇環刀二百五十五柄長箭二十四浮擔筒箇二十四部交子弓二十四張扁擔十八箇別將哨官方色手旗三面認旗三面神旗五面旗摠旗六面隊長旗二十四面不以動上封

長山鎮

千、宋本作十。

烏銃一百八十柄火藥一百斤鉛丸五千箇環刀二百五十五柄長箭二十四浮擔筒箇二十四部交子





費、宋本作萬。

摠戎廳 軍器

四二二

弓二十四張、扁擔十八箇、別將哨官方色手旗三面、
認旗三面、神旗五面、旗摠旗六面、隊長旗二十四面、
以上、封
不動。

萬機要覽

軍政編

關防附關防摠論

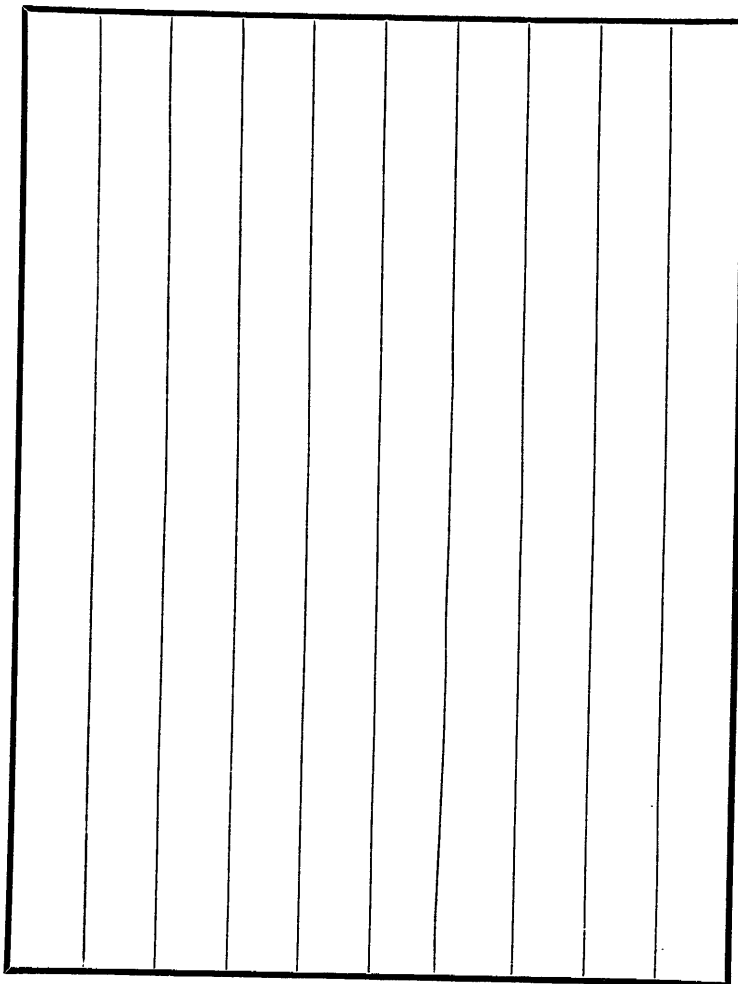
海防附日本海路

舟師附戰船改造改築年限 分防法

中本作萬機要覽卷之十。  
中本麻本大本李等三本  
作軍政編四。

萬機要覽 軍政編四

四二三



關防

隘、諸本或作匪、一、不舉。

設險固圉是謂關防。凡道路控會嶺隘緊要築城置兵以備外侮皆是物也。我國多山阻險儘為可守之地。歷代措處殆無遺策。修以行之存乎其人。

〔〕原本諸本脫、據蘇本補。

〔漢城府〕 太祖丙子發民丁二十萬築都城。石築周九千九

高百七十五步 世宗戊寅改修立門八。正南曰崇禮。

正北曰肅靖。正東曰興仁。正西曰敦義。東北曰惠化。

國初號此門曰弘化。中宗辛未以兩宗癸卯名混改曰惠化。東北曰彰義。東南曰光熙。西南曰昭德。今廢。

〔永原府〕 邑城。石築周正宗甲寅始築。六百步。 禿城山城。石築周一千八百

〔〕原本諸本脫、據蘇本補。

〔一〕原本諸本脫，據蔣本補。

祖百步。已。築。

〔開城府〕本高麗故都，據畿海交界處，通燕直路，人物

邑居之繁，甲於八路，而城郭頽廢。○大興山城，石六築，

內辰設築。肅宗。青石鎮城，石築，長七百五十六。○青石

洞，二十龍峴，鶴嶺，並西。大興洞，路北。大蛇峴，東。○諸鎮，

青石鎮，當宇甲。礪峴鎮，庚宗庚。白峙鎮，肅宗丙。

〔江華府〕丙城，周三步，今五里，前三百四十步，外城，周二百四十三步，

石今築，雙倉城，周七百三十三步，石築。鼎足山城，檀君○子本三朝郎

宗瑤源開，史開在，其中。英。高麗古宮城，三萬七千城，七周

尺。十六高麗山城，土築，周十一萬九千尺。

〔一〕原本諸本脫，據蔣本補。

庫、麻本作發。朝、申

英、朴本作肅。

〔一〕原本諸本之外諸本脫，以下倣之。

一千，申本作二千。

〔廣州府〕南漢山城，石築，周六千二百九十七步，改爲連

珠峯城，石築，周三百七十五步。三峰巖城，石築，周九百一十八步。汗峯城，石

七十九步。嶺路，沙斤峴，理輔峴，險川峴，并大。鶴峴，楸峴，

路并南。廣峴，雙嶺，二嶺，小。刀磨峙，路并東。龍撞峴，路北。

京畿〔楊州〕北漢山城，石築，周六百二十七步。大母山城，石築，周九百六

尺。水鐵城，周三百五十五步。嶺路，蟹踰嶺，坡州。碌礬峴，有小。大

峴。所沙峴，昭寧路。鬱岱峴，高陽路。千坡峴，積城。磨峙峴，平加

路。車踰嶺，九曲遷，路并東。〔坡州〕臨津鎮城，石築，長一百

長山鎮城，石築，長一百步。〔喬桐〕邑城，石築，周六百尺。〔長湍〕嶺路，加

勿峴，測寧路。頭峴，蜂峴，川并連。獺嶺，東。楊根嶺，路，清涼嶺。

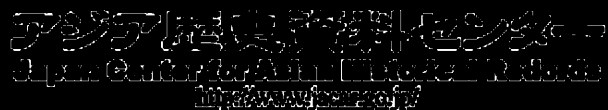
三十，申本麻本李等三

本本五十一。

桐、李本麻本作洞。

蜂、麻本作蜂、宋本作

作獺峴。涼嶺、大本本



川、原本中本本大本  
作州、據條本改。

井、宋本脫。

作時、中本作作時。

勞多嶺老味峴并洪川界月溪遷路西永平嶺路慈燈峴

赤木峙路加平抱川嶺路秃峴路永平屈峙路加平祝

石嶺燈化嶺石門嶺檜巖嶺并楊州積城吐吞城石築

十七九百三嶺路雪馬峙楊州千坡峴路西自作峙牛象

峴坡州廣石峴路長湍竹山嶺路沙瑟峴路智利獐項

峴安城柱峴路利川周傑峴路鎮川利川嶺路廣峴路廣州

絕音峴在大路西富平嶺路星峴通津文殊山城石築周

秋峴路廣州直谷峴路南下雨峴路東南曲道峙路北

梁誠之曰原平據臨津之險又可挈交河提豐德

扼倭寇於海口矣。

柳成龍曰 祖宗朝京畿有四鎮管水原廣州二

鎮在漢江之南而爲其門戶楊州在國都之左以

蔽東北長湍在其後專備北方江華喬桐二邑以

在海中故無所隸屬使之專力於防海。○驪州婆

娑城水原秃城既已成形而陽城無限山城今方

修改兩邊形勢不至蕩然而中間一條自竹山以

北措置極難支保并畿甸以衛神京乃今第一急

務高麗時設都巡問使於豐德以禦倭今當依此

於南漢城中置都巡察使行營上以控制婆娑龍

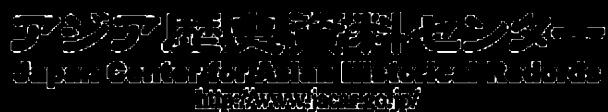
津右連禿城無限而又益修竹山之城使三路之勢相連而居中策應則布置脉絡終始不斷續而事或有補○京城收復之勢當分爲三道楊州抱川積城永平等邑之軍屬於一將遮蔽東方高陽交河等邑之軍又屬一將遮蔽西方廣州果川水原等邑之軍又屬一將遮蔽南面三面合勢迭爲犄角賊少則分兵設伏賊多則合兵攻勦仍使江原道與東面之軍合江華之兵與西面之軍合忠清全羅之軍與南面之軍合或引其前或推其後相機乘便齊心一力四方雲合則京師指日可復

屬之下、申未存於、次行同。

少、申未本作小。

惟、大本之外諸本皆作唯。  
所、麻本作地。

矣○水原之禿城衿川之衿芝山仁川之山城皆險阨必守之要地若隨便繕治屯兵據險參錯相望互爲聲援則襟袍固密人心有恃而不恐縱有敵兵亦首尾牽掣不敢輕突矣○楊根南山正當沙灘而過此則迷原之路加平之路月溪之路皆從此分出若賊過原州由婆娑之後直向楊根則惟此處爲可控扼○竹山山城正當清州忠州兩路之會直走京師形勢之重甚於他處若於此地設築城壘爲前營以爲操鍊之所且於山下平野廣開屯田則又爲萬世之利前朝之末亦以此城



禦蒙古此乃已試制勝之地。○龍仁陽智之間有古城當路名曰石城。地形險要勝於禿城。且在直路之衝。若於此地又為修葺積粟鍊兵。右控禿城。左連南漢。為鼎峙之勢。則京都之門戶固矣。

李廷龜禿城山城記。城居廣野之中。無險阨之阻。有山斗起於道傍。又無樹木。望之童童然。故名禿城。人視之尋常。不以為奇。壬辰倭寇大至。都元帥權慄轉闢入據于茲。屢却賊兵。於是人知茲城之得形便。為國中要衝也。

李泰壽曰。欲備坡江。則捨江內之形勝。而以長湍

開。朴本脫。賊。麻木作敵。

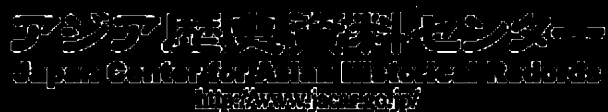
之鎮處。江外者終不如坡鎮之自內備外。欲備後江。則長湍形勝之緊要。又不如松都之阨項。欲備新屯北程。則松都與長湍形便不殊。今宜罷長湍。移松都。而以長湍豐德朔寧麻田屬之。以坡州為重鎮。而以高陽交河積城屬之。必有明識者。卜其得失矣。

忠清道石築周三千六百尺。高八尺。 嶺路。毛女峴丹陽界。

惡峴西路。 兩大峙南路。 林鳥峙陰竹界。 丹陽嶺路。竹嶺東路。

鷄卵峴。虎踞峙并西路。 代峙醴泉路。 檜嶺南路。 槐山。延豐嶺

路。伊火峴東路。 松峴大路。 鷄立峴東北路。 永春古城石築周五千五



三百、大本作二百。

三百二十嶺路、重峴、赤峴、馬兒峴、順興、迦文峴、別退峴、奉化、每南峙、丹陽、清州邑城、石築、周正、宗乙、改築、十、兵營在城內、於太宗丁酉、始設於德山、戊戌、移設於此、上黨山城、石築、周七、千二、嶺路、華清嶺、巨竹嶺、東、三日峙、報恩、沃川嶺路、文峙、長先峙、并東、鞍峙、東、列狐峙、南、馬鞍項峴、東、南馬達峙、西、北稷山嶺路、夫蘇峴、望日嶺、并木、洪州邑城、石築、周五、千、嶺路、狐洞峙、東、大峙、海美、嶺川嶺路、大門嶺、安城、脅吞峙、稷山、報恩嶺路、燕峙、西、北熊峴、車衣峴、楸峙、并西、文峙、南、黃澗嶺路、秋風嶺、東、掛榜嶺、南、牛頭嶺、知禮、錘峙、永同、青山

城界、申本麻下李等三本作城路。

嶽峙、朴本大本作嶽峴。

將軍峙、申本麻本李等三本作路。

嶺路、白水峙、永同、馬峙、沃川、將軍峙、永同、公州雙樹山城、古名、樹下、故城、甲子、李適之、周變、布尺、仁祖、駐蹕、于城、左、右、翼、城、并、外、石、築、及、嶺路、義郎峙、天安、雙嶺介峙、并北、板峙、南、馬峙、大峴、狄踰嶺、林川、嶺路、發峴、楡峴、升達峴、石築、周七、千、嶺路、曲峴、鴻山、箕峴、赤峴、全義、嶺路、松峙、燕岐、大峙、清州、栗峙、碑巖、峙、公州、界、定山嶺路、松峙、公州、狐峙、獐項、峙、青陽、直峙、扶餘、大峙、青陽、懷德嶺路、迭峙、東、鷄峴、珍山、連山嶺路、開泰峙、鎮岑、黃山嶺、珍山、羅移峙、南、扶餘嶺路、羅所峙、炭峴、石城、白也峙、扶餘、梨峴、魯城、三峙、南、燕岐嶺路、

松峙、大本作松峴、申本麻本本作城路。

大峙全義界舒川邑城石築周三千五百尺嶺路夫蘇峙猪嶺并鴻山界金福峴瑞山邑城石築周二千七百尺嶺路武陵峴唐津界溫陽嶺路小率峴禮山界角屹峙公州界鴻山嶺路九折坂藍浦界青陽嶺路吾里峴西路餘道峴保寧界羅叭峙扶餘界峯五嶺鴻山界天興嶺路車踰峴公州界庇仁邑城石築周三千五百尺嶺路夫蘇峙藍浦邑城周二千六百尺嶺路馬峙東路九折坂鴻山界結城邑城石築周三千五百尺保寧邑城周二千九百尺牙山貢津倉城石築周三百八十尺禮山嶺路蘇機峴溫陽界海美邑城周三百六十尺清安嶺路粉峴清州界松峴椒峴仇自隱峴堤川嶺路拜峙大峙朴

粉峴 宋本作粉峙。

達峙忠州界

柳成龍曰忠清道勢與京畿相連當修鎮管之法而於忠州洪州公州清州各置鎮營使之各率所屬軍兵以時鍊習而於天安溫陽設爲中營內以衛護京畿外以控制四鎮則此實汪立信建闔之遺意高麗太祖以天安在忠清道中央置都督府鍊兵其慮遠矣而地形之可據又可見矣○京城以漢水爲固然若忠州有失則賊兵從上流而下如屋上建瓴而不可防遏若忠州得全則賊雖來而當從下流其勢稍緩矣忠州之重蓋與京城相



等鎮管之人必宜察擇而任之。○忠州居上流爲國門戶。忠州不守則沿江數百里皆爲受敵之地。欲保忠州當自把截烏嶺。始自嶺上東下十餘里。兩崖斗絕中蟠溪水。行人往來者橫木爲橋。凡二十四處。名曰鷹巖。若於此處設機把截。當賊兵臨至。撤去橋梁。又橫斷溪流。使兩峽之間盡爲洪流。人不能着足。因以弓弩鐵火砲等器守之。不過百餘勁卒而嶺路之把守自固。

金靖曰。湖南之路由茂朱錦山達於沃川文義嶺。南之路由尙州金山達於黃澗永同。湊集於清州。

此處。中本作此地。

火砲。朴本作火砲。宋本作火砲。

遊。朴本作遊。

皆南賊橫突之捷路。其間有德遊大菴諸山。盤亘數百里間。皆大山長谷。多人跡不到處。自古稱爲雀苻之鄉。向者鳴張之忠。幾乎難制。設營之後。纔得少息。

江原道江陵邑城。石築。周二千七百八十二尺。嶺路。大關嶺。員泣

峴。毛老峴。秃峴。并。橫路。界。西。城。界。火飛嶺。南。路。鉞峴。嶺。善。三陟邑

城。三。而。石。築。周。四。百。三。十。五。一。十。四。尺。沃原城。土。築。周。百。七。尺。五嶺

路。榆嶺。嶺。南。路。巾衣嶺。嶺。寧。越。百福嶺。嶺。善。路。唐旨峴。江。陵。路。

瓦峴。嶺。善。路。襄陽嶺路。五色嶺。弼如嶺。嶺。善。路。所冬羅嶺。

阻。沈嶺。九龍嶺。江。陵。界。兄弟峴。兩寒峙。并。西。路。平海邑城。

吳。朴本作路。

百石築周二十五尺三  
 嶺英陽路大峴仇里峴西杆城巴嶺路彌時嶺南陳  
 富嶺仙遊嶺西所坡嶺南烏天時北高城嶺路  
 狗嶺西插時嶺麟通川嶺路楸池嶺西灑嶺板幕  
 嶺甕遷并南蔚珍巴城石築五百六十二尺嶺路葛嶺三陟  
 高草嶺英陽路廣庇嶺安東歙谷嶺路文時嶺南原州  
 嶺路柵時車踰嶺東松時西化時西可莫只峴  
 江陵春川嶺路幾落遷東席破嶺西原昌峴南甫通  
 遷北旌善嶺路星摩嶺碧波嶺西半占時東所也  
 時南諭峴北寧越嶺路高德時北角斤時西分德時

陵路李等三本作陵界  
 峴大本作時  
 北李等三本作西古  
 時宋本作點峴  
 嶺朴本作嶺

路北花折時旌善平昌嶺路七足嶺東南梨時江陵橫  
 城嶺路禿時江陵檜時九道味時并東彌等乃時小  
 三馬時并洪加五時砥平洪川嶺路獐尾嶺神堂時  
 并西國師堂時春川麟蹄嶺路味施嶺高城屹伊嶺  
 炭屯嶺並北頭毛時楊口建里時洪川淮陽鐵嶺古  
 城設關嶺上發嶺東九嶺路平介嶺安邊楸池嶺通  
 界溫井嶺北鐵原嶺路渴馬峴北霜峴平康楊口嶺  
 路兜率嶺淮陽鳩時北鷄山嶺麟蹄狼川嶺路注所  
 嶺彌勒峴並北馬峴西梨峴楊口金城嶺路菩提  
 坂北餘破時金化法水峴淮陽住所嶺狼川金化嶺

施嶺 麻本作施時  
 毛時 朴本作毛嶺  
 始宋本脫介申本  
 作明池李本蘇本  
 作地朴本他

佳宋本作注



山路、李等三本作山界。  
仇、宋本有九。

路、馬峴、狼川路、中峴、金城界、遐峴、春川路、伊川、嶺路、朴達嶺、

安邊界、分枝嶺、平康界、件隱峙、谷山路、薪破峴、新溪路、安峽、嶺

路、阿峴、南、豬仇里峴、火峙、巖馱嶺、並西路、平康、嶺路、雪

吞嶺、安邊路、分地嶺、西北路

柳成龍曰、原州鎮管與忠州犄角、淮陽當北路之衝、內與楊州相倚而外防鐵關、江陵合海邊之邑以備東海。

黃海道、黃州、邑城、周一萬七千四百尺、兵營、在城中、設營於海

州、甲午、移於此、仁祖乙亥、移於正、方、山、城、辛巳、還于邑、城、、正、方、山、城、石、築、周、二

百、七、十、、嶺、路、易、界、嶺、東、路、草、茂、嶺、鳳、山、界、件、隱、嶺、東、路、商、山

嶺、東南、城、峴、嶺、鉢、山、嶺、舊、洞、仙、嶺、大、皇、嶺、小、仙、嶺、所

藥、嶺、並、南、洞、仙、關、長、一、萬、二、千、尺、、城、行、、平、山、太、白、山、城、

石、築、周、一、萬、一、尺、、嶺、路、車、踰、嶺、北、路、漆、嶺、嶺、、瑞、興、大、峴

山、城、石、築、周、三、萬、八、尺、、二、嶺、路、慈、悲、嶺、嶺、、酸、梨、嶺、嶺、

自、隱、嶺、東、峴、嶺、禿、峙、北、路、下、峴、舊、老、破、嶺、卜、戴、嶺、東、並

路、勅、踰、嶺、所、、鳳、山、舍、人、巖、城、一、名、洞、百、七、十、步、長、一、、赫

山、棘、城、以、棘、四、萬、三、千、六、百、五、十、九、尺、昔、築、七、城、十、樹、之

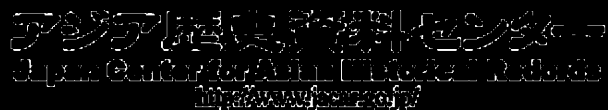
古、之、戰、場、白、骨、暴、野、寅、文、宗、廟、朝、親、、嶺、路、東、里、嶺、洞

仙、嶺、北、路、正、方、嶺、西、路、載、寧、長、壽、山、城、周、三、萬、八、尺、、遂、安

防、垣、鎮、城、石、築、周、六、百、餘、尺、左、右、有、行、城、高、山、對、此、不

載、朴、本、作、載、

對、中、本、作、大、、坂、中、本、本、作、判、



檢展、宋本作檢展。

八、宋本作三。

而退。嶺路，件隱嶺、東大嶺、並山路、蔓嶺、納老里嶺、泥嶺。  
 明月嶺、並北、**谷山**、文城鎮、在檢嶺下，嶺上、嶺路、檢  
 險嶺、關北、民乙嶺、路西、月峴嶺、路北、件乙峙嶺、伊川、高達  
 峴、東、**金川**、嶺路、白峙、關西、**兔山**、嶺路、沙率峴、西北、大  
 秋峴、新溪、東砧峴、湖寧、**新溪**、嶺路、烏巢嶺、北、**海州**、**邑**  
 城、高麗、改、泰、王、時、築、一、萬、三、千、一、百、朝、二、十、尺、丁、池、城、山、城、肅  
 百丙辰、改、石、築、周、二、萬、四、千、七、嶺、路、鶴、峴、松、禾、牛、峙、康  
 路、**豐川**、邑、城、今、皆、廢、**延安**、**邑**、石、築、周、一、千、三、百、八、十  
 得、全、拒、倭、**鳳勢**、**山城**、石、築、周、五、尺、百、川、雉、嶽、城、周、一、千、六、百、尺、二  
 容、高、句、麗、時、所、築、四、面、險、峻、中、可、**甕津**、**邑**、城、周、八、五、千、尺、八

所江行營城、石、築、周、一、千、五、百、**殷栗**、**九月**、**山城**、石、築、周、一、千、尺、一  
 城、萬、四、千、三、百、六、十、六、尺、**長淵**、**古城**、石、築、周、二、百、八、十、尺、千、嶺、路、倭、城、項、碣、峴、吾、義、路、磚、石、峴、豐、川

梁誠之曰：海西之延安、海州沿邊之要害，平山、鳳山、陸路之要害，鳳山失守，則無海西、平山失守，則無松都。至於長淵與豐川、康翎與甕津，俱當併為一鎮者也。

柳成龍曰：黃海一道形勢，所重者在於江陰。往年倭賊西下時，於興義驛及江陰置陣，以為形勢，蓋以興義則政當脫彌谷、吾助川兩路之會，而江陰



則又豐川白川延安海州之襟喉留軍防守以遏我兵之掩襲然後始得連營遠下其知一道形勢也如此

黃海道觀察使權修疏口道內山城如海州之首陽文化之九月載寧之長壽瑞興之大岘僻在山峽卽古人所謂山塢避兵之處非固圉禦敵之要害也惟正方城右聯洞仙之嶺左枕棘城之路最據形勝之便者也然由關西通本道者有六條路洞仙爲直路南有棘城北有慈悲嶺板籍院塞墻塞南等關隘不爲分屯而單守正方一城則無救

塢、申本作鳥。敵、申本作作賊。

於敵兵之橫鶩洞仙嶺雖無高深合沓之阻直是險阻峻仄騎步不能成列若以數千精卒置其中十萬之師無所用其衆果能守此則敵不敢前進其勢必向棘城正方山麓迤爲平岡南走入海倉浦邊延袤可五里古人築城守禦處也又自黃州東北行數十里路分兩歧由鯉魚淵踰慈悲嶺達于瑞興此一歧也由板籍院趨遂安此又一歧也慈悲今已榛塞險澗人馬難行有衆一旅以守敵亦不可踰板籍院路口稍濶且無當路橫攔之嶺必待築堡立柵以守其隘然後保無撓出之憂然

而敵行數十里山峽無人之境猝遇堅城其不敢  
 久頓而仰攻矣塞牆在三登祥原之界兩崖峽束  
 峻巖三十里易守而難過寒南在陽德之界危險  
 殊絕守以羸卒數百則雖使鄧艾更生亦未易過  
 軍也外此則惟有薛罕嶺入咸鏡地境而已凡此  
 六條關隘洞仙爲兵衝其險雖有足恃而卽今事  
 勢有難以人功增補若使長養樹木蔚然叢蒼則  
 藏兵設伏皆有可恃臨機斫取樹柵拒路亦可藉  
 以有用故臣已令黃鳳兩邑別定山直嚴禁火伐  
 以爲漸次養成之計慈悲嶺形勢雖險路徑甚捷

亦、大本作方。

也、宋本作矣。

勝、中本作勢。

亦是必爭之地其所屯兵設柵可次於板籍而如  
 塞牆寒南則不須更費一塊石而可以爲固者也  
 至於棘城地平無阻而濶難守必須峻墉深塹設  
 爲重險使敵無繞出背後之患矣  
 李泰壽曰海西形勝以黃州正方山城爲第一要  
 害而洞仙嶺慈悲嶺豬灘次之北路黃州之東里  
 堡南路海州之首陽山城皆爲第一要害而江陰  
 之慈老浦次之

全羅道全州邑城石築周二千八百十八步威鳳山城石築周五千九百七十五步  
 嶺路熊峙鎮安界梨峙珍山界掃峙任實界履峙金溝界塞

崎峙路南歸信峙金溝萬馬洞路南益山箕準城石築周  
 百嶺路內山峙礪山古阜邑城石築周二千九尺錦山  
今廢城嶺路松峙龍潭松院峙珍山骨南峙路北珍山嶺  
 路梨峙全州方峴連山新目峙沃川萬頃邑城石築周  
 二千八百臨陔邑城石築周三千六百古鎮城土餘里興  
 德今邑廢城扶安邑城石築周四萬六尺沃溝邑城石築周  
 百三古縣城石築周九千九百一十尺龍安邑城石築周四千井  
 邑嶺路鞍峙秦仁牛死峙淳昌蘆嶺長城小蘆嶺德興  
 赤峙古阜栗峙笠峙並西屯月峙東路葛峙東路南高  
 山嶺路炭峙東路柵嶺龍潭泰仁嶺路鼎峙東路柵峙路南

梨峙、申本作熊。山界、申本、廢本、李等三本作山路。

縣、原本、本、竹、藤、棟、徐、本、改。車嶺、申本作車嶺。

屈峙淳昌九折峙路南沙瑟峙淳昌雲巖峙任實羅州  
 邑城石築周二千六尺嶺路嶺院峙靈巖長城笠巖山  
 城石築周東邊一千四百三丘珍城石築周嶺路塞峙  
 界不沙羅峙靈光曲道峙淳昌月隱峙井邑靈巖邑  
 城石築周九千三梨津鎮石城周尺一千四百七於蘭  
 鎮城石築周七嶺路屯德峙長興東峙康津加鶴  
 峙馬峙牛膝峙並南海乾橋峙南路烏巢峙百一靈光邑  
 城石築周九千四嶺路磨車嶺東路蟹峙東路咸平箕山  
 城石築周十一嶺路雙嶺南路外峙羅州猪峙務安高  
 敞邑城石築周十三嶺路松峙長城佐兒峙興德

嶺 申本宋本作洞。

設 宋本作故。

熊州、朴本宋本作熊川、申本作仍。

址、麻本宋本作地。

取城。法府之稱。帶川。畫帶。為九區。其始也。尚存。相傳。井田。遺制。麋蛟。	百石。四築。周。八。千。八。嶺路。三嶺。路南。南原邑城。石。百築。周。九。千。九。尺。高。方。三。刺。尺。史。留。鎮。熊。州。在。於。此。築。城。因。稱。為。帶。仁。軌。	靈巖。石。門。路南。海南邑城。石。百築。周。二。千。八。尺。右水營城。	倭。鎮。要害。嶺路。穴巖。峙。舍人巖。峙。大巖。峙。與。長。道。音。峙。	十。千。五。康津邑城。石。百築。周。八。千。尺。加里鎮城。石。宗。辛。巴。以。里。	八。石。百築。周。三。千。尺。南桃鎮城。石。百築。周。一。千。四。百。尺。金甲島鎮城。石。一。築。	路。銅嶺。路南。珍島邑城。石。七。百。築。周。二。千。四。百。尺。古珍島城。	路。東。北。務安邑城。石。七。百。築。周。一。千。尺。木浦鎮城。石。百築。周。一。千。尺。嶺。	吉沙峙。長。城。茂長邑城。石。百。築。周。二。千。六。尺。嶺路。白鶴峙。
---------------------------------------	---	-------------------------------------	--------------------------------------	---	---	--	---	--------------------------------------

界。申本宋本作界路。犬。朴本作大。

界。申本宋本作界路。

界。申本宋本作界路。

邑界。申本宋本作界路。

未。朴本作未。

未。申本脫。

宋。宋本作。福界。宋本作。福路。

龍山城。石。七。尺。周。五。千。七。百。十。嶺路。福星峙。柳峙。女院。	峙。並。雲。界。宿星峙。南栗峙。禮。並。求。界。屯嶺。路南。飛鴻峙。淳。昌。犬。	峙。任。實。水分峙。長。水。潭陽金城山城。石。九。百。築。周。四。千。尺。嶺。	路。大。犢峙。北。滅峙。淳。昌。暮牛峙。路南。淳昌蘆嶺城。石。疑。古。築。	防。守。嶺路。牛峙。界。玉。果。熊峙。南。原。鷺峙。溫。越峙。葛峙。並。西。	路。屯。越峙。界。井。邑。屈峙。界。泰。仁。沙瑟峙。界。泰。仁。龍潭嶺路。虎。	峙。東。古。南峙。路南。汗未嶺。路西。昌平嶺路。留屯峙。東。南。方。	下。峙。同。福。任實嶺路。瑟峙。火峙。並。全。州。界。末峙。東。南。沙峙。	路。西。栗峙。西。終山峙。界。泰。仁。谷城嶺路。狃峙。南。指東峙。	路。東。南。馬輪臺。東。玉果嶺路。藍峙。同。福。騎牛峙。界。潭。陽。雲。
-------------------------------------	--	---	---------------------------------------	--	---	------------------------------------	---------------------------------------	-----------------------------------	--------------------------------------





安界、麻本作安路。

福界、申本麻本李等三本作福路。

峰嶺路箕峙走峙原並南界釘峙八良峙並陽界鎮安嶺路  
 栗峙鋤古峙水並長界馬峙件隱公峙並全州界對戎峙任實界  
 賊川峙西界山影峙龍潭界鶴頂峙高山界長水聖壽山嶺  
 路中臺峙鎮安界柵峙龍潭界六十峙安義界漢興峙南嶺  
 峙西北茂朱赤裳山城石九築周二十一萬六千九百六十八嶺路古里峙  
 召爾峙於隔峙並南界素沙嶺東嶺狐峙東北光州邑城  
 石築周八千二百五十三尺嶺路板峙和順界獐佛峙同福界塞墻峙  
 長城長興邑城千石築周九百九十一尺嶺  
 路熊峙吾道峙並南界南平嶺路大峙南順天邑城石築  
 周三千三百八十三尺左水營城石築周三十六尺嶺路松嶺北

一、宋本作二。

吾道峙西樂安邑城石築周九百九十一尺嶺路周志峙西南  
 寶城邑城石築周二千九百五十三尺嶺路北山峙森鉢峙並長  
 蘆洞峙竹方峙伽伽峙並綾州界逸臥峙大原峙並同福界道  
 里峙樂安界綾州嶺路猪峙同福界倭峙寶城界熊峙南光  
 陽邑城石築周九百七十四尺嶺路熊峙汗峙東北埋峙東  
 求禮邑城石築周一千四百八十八尺石柱關柱又稱石興陽邑城  
 周三千八百尺蛇渡鎮城千石築周八百尺鹿島鎮城千石築周四百尺呂  
 島鎮城石築周一千一百一十八尺鉢浦鎮城石築周一千二百一十八尺同福甕城山  
 城石築周三千八百七十四尺嶺路雲遏峙斗峙並順天界朱路峙和  
 界方石峙西北松峙谷城濟州邑城石築周五千九百八十九尺山

石城、麻本宋本大本作石築。  
石城、宋本作石築、下防鎖條城、本本作築、別鎮。

爲、宋本作有。

禾北城、麻本宋本大本作石城、麻本宋本大本作石城、防、中本作勳。

底泉在別城內、嘉樂泉在朝天鎮、石城、周八尺、百涯月鎮、石城、周五尺、明月鎮、石城、周三、別防鎮、石城、周九、尺、四、西歸鎮、石城、周八、尺、防、水山鎮、石城、周、尺、十、慕瑟鎮城、石築、周、尺、遮歸鎮、石城、周、尺、東海防、石築、周、尺、防、護、所、二

體察使柳成龍啓曰、丁酉之亂、倭見湖南諸城莫不笑其齟齬、及見潭陽之金城曰、使朝鮮固守此城、吾軍何以攻陷。○南原順天皆巨鎮、而其次全

斷、宋本作絕。

州羅州皆係必守之城、南原則前日駱參將修治城壕、至於全州羅州順天之城、當及今修築也。○全州聚軍團練、而與公州之勢相連、南原置營鍊兵、而與全州之勢相倚、爲宜。

體察使李恒福啓曰、南原蛟龍山城、山無祖宗斗起野中、有兩峯、北曰密德、南曰福德、羃山爲城、西峻東低、城皆石築、有八井、劉都督嘗登此城、逐脉穿井、往往得水、劉言城大而圯、用功必大云。城外西南北三面無高峯、斷壠可瞰、腹內者密德、福德兩支東走而下、如雙蛟並臥于中、區分三洞、中曰

赤巖北曰牛巖南曰水巖兩峯爲首二支爲脊三洞爲腹肺腑重掩南北遮隔首尾不相通脅脊不相貫脫有緩急金鼓形名所不能指揮東門爲受敵之地門外大路牛馬皆通從路上俯視城中蟲蟻可數距門數百步有阜前峙矢道所不及後面平衍敵來可以藏兵我太祖嘗駐軍于此與賊戰破之○同福甕城山有三巖形如甕故名城南北有兩門只此爲受敵之地石逕索廻僅通人跡逕出崖下城在崖上人從城上俯臨往來一夫轉石千人莫過東城外十餘步尖峯對峙間有鳥路

賊、中本、麻本、李等三本作敵。

逕之上、原本諸本皆有而字、而在字脫、據增補文、似備考改。

在、李等三本作此。

人不得並立自南迤西至北自北至東皆全石爲壁削立萬仞猿猴之所不能度真天險也城中有七井不甚豐足而西峰之下潛通赤壁縻繩可汲大溪絕磴懸空賊人所不能覺也舊址多頽廢黃進爲縣時橫截東北面一隅築爲內城○潭陽金城不知何代所創按歷代兵要云麗末阿只拔都聲言將殺馬于光州之金城註云今在潭陽府俗傳我太祖自南原踰雲峯聞賊勢甚盛與諸將謀曰萬一蹉跌當退保金城未詳是否東西南三門爲受敵之地由潭陽以上者路出山脊一線百

轉盤廻六七里始達南門南門之外兩傍皆絕壑東門之外可六七十步有石側立斜睨城中一面矢道所及寂爲深忌今若退築羊馬城可備先據之患西門兩傍山皆峭竦賊來如在穴中不敢恣意直衝泉出甌巖下成溪而下大旱亦不竭又有九井東北正南壁立千仞城形奇壯濶遠四高中崩外無峻峯難以窺瞰城外四面線路脉布眞形勢之地也○羅州錦城山城西南北三面地勢險峻東門外一面寬平爲受敵之地城中有五井東門大谷兩井爲大又有四峯北曰定寧南曰多福

峭竦、中本本作峭竦、大本作峭竦。

正、原本諸本作向、據增補文獻備考改。

地勢、中本宋本大本作地形。

敵、宋本作賊。

堞、麻本宋本作堞。

嶺、中本作嶺。

西曰悟道東曰露積定寧爲主峯而東西南三峯拱揖于前指顧相應言語相通東北兩峯之支環抱而成洞可以藏兵或言泉井不足而築城時役徒五千飲東門一井且不竭云山北高南低城勢欹側東門外山脊連亘數百步至壯元峯從山脊仰見城內鐵丸所及西北兩面城繞山腰勢分內外守堞之人身在山外其與東南裏面聲勢咫尺不得相顧此爲兵忌按歷代年表三別抄叛據珍島來犯本道郡縣望風迎降上戶長鄭呂倡率守城領來諸縣入保錦城樹棘爲柵裹瘡死守賊攻

城七晝夜，竟不拔。契丹來侵，顯宗南巡，駐軍于此。契丹敗退，顯宗降本州爲牧云。○康津修因山城在兵營東，由本營至南門，鳥道盤迴，抵門外地勢偏側，人不並立。北門尤險絕，只東門爲受敵之地。門外有洞曰修德，山勢陂陀，城內外相爲洞視，丸矢皆可及。由東門迤南，別開小東門，門外百數十步，一峯壁立，號曰勿喜峯。賊若先據，城中一面不敢接足。仙迹峯城外又有斷崗，突出數十步，四隅斬然，未易攀登。露積爲主峯，西南北三面足爲天險，而間有堆阜爲賊所倚，勿喜尤爲大害。東門內

述，麻本宋本天本作跡。

外無所碍，障所長不能掩其所短，舊以泉井爲虞。東門外數十步，衆壑之泉合而成溪，今於舊城之外，別立子城，環溪退築，溪在城內，周可七百餘尺。勝覽云：麗末道康耽津寶城，長興靈巖之民皆避倭寇于此。○井邑笠巖山城，山勢崒嶺而頭頂凹陷，四顧中寬，城因其勢形如馬槽，閣在棚上，自外仰觀，隱隱儼然，莫測其內。城中四面無所碍，眼泉池有裕可飲，萬馬險固不及金城，而形勢過之。東南北三門爲受敵之地，笠巖一面俯壓葦嶺大路，地勢尤奇壯。

測，李本麻本藤本作測。

門，申本大本作向，故申本作賊。

地勢尤奇壯。



固、大本作保。

姜沆曰諸處山城頗與邑居相遠臨急始收邑居之民使入山城賊遠則愚下之民憚其險遠不肯入保賊近則竄匿山野不肯從令况望其傍邑之壘入乎如全羅一道則潭陽府宜設於金城而割傍近數邑以益之移井邑長城於笠巖山城亦如之以及嶺南諸山城盡爲治所則重屯相望形勢相依而國自固矣。

李泰壽曰礪山兩湖間要衝而羅巖倉水陸之大都會也邑居後有可以築城處前監司李時稷啓聞准許而今姑置之且如羅巖大設倉庫兩湖山

邑之在百里者皆令輸納築城以守之可以轉漕軍餉於八方矣。

築、李本麻本藤本作城。

八、麻本李等三本作入。

慶尙道【慶州】邑城石築周七十五尺嶺路南箴嶺  
 件代巖嶽嶺八助嶺并東柿嶺長舍羅峴路北蔚山  
 兵營城石築周九千三百六十八尺太宗丙午合屬  
 兵甲營復別立兼判於本府內宣甑城一名島山倭賊築  
 名故外甑城在西生鎮嶺路栗峴西梁山邑城石築周三千七  
 尺百十城隍山城石築周八千三百三十八尺嶺路黃山遷路驛永川  
 嶺路柳峴東興海邑城石築周九百一十三尺清河邑城石築  
 五十一千三百尺迎日邑城石築周九百四十二尺嶺路沙峴東長



瑟觀。大木作瑟觀。

基。申本麻本李等三本作址。

石城。朴本之外諸本皆作石築。

浦。諸本皆作觀。

眠。申本作向。

德界。宋本作德路。

鬢邑城。石築。周八十二尺。嶺路。柿嶺。路。南。彦陽邑城。石築。周三千。築。六

尺。十四。嶺路。嘉瑟峴。路。西。東萊邑城。石築。周九十一尺。萬七。英千二

辛亥。拓其舊。水營城。石築。周九千一。戡。鬻。百。九。十。尺。孝宗仁

于。舊。基。還。金井山城。石築。周六萬九千五百七。十。辰。改。尺。

築。多大浦城。石築。周一千。豆毛浦城。石築。周五百一。十。尺。嶺

路。其比峴。路。西。沙背也峴。鞍嶺。路。北。安東邑城。石築。周二千。築。九

百。四。十。嶺路。豆毛浦。路。北。耳而峴。茅峴。路。東。龜嶺。石峴

古巖峴。路。南。順興嶺。路。竹嶺。路。西。馬兒嶺。路。永春。寧海邑

城。石築。周八千二。嶺路。西。泣嶺。路。英陽。烏峴。路。西北。南眠

峴。路。盈。德。松峴。路。南。青松嶺。路。刀峴。路。永川。三者峴。路。南。柳峴

慶州。枝峴。界。安。東。禮泉嶺。路。狐項嶺。路。北。歸毛峴。界。豐。基。築

川嶺。路。白嶺。路。南。苴嶺。路。東。豐基登降城。南。世。傳。高。麗。于。此。祖

至。七。日。百。濟。降。書。嶺。路。礪峴。汗嶺。路。南。骨里峴。路。西。義城

嶺。路。百丈嶺。路。南。發只峴。路。南。鷄卵峴。路。北。盈德邑城。石

周。三。千。七。尺。百。嶺。路。林勿峴。路。北。竹峴。路。青。松。禮安嶺。路。長

葛峴。路。東。龍宮嶺。路。大峴。路。東。北。天丘邑城。石築。周二千。四

步。嶺。路。八助嶺。界。清。道。密陽邑城。石築。周十七。四。尺。六。嶺。路

羅峴。路。西。鈴峴。路。南。穿火嶺。界。彥。陽。清道邑城。石築。周五百。七

十。步。州。郡。宣。祖。丁。亥。有。倭。寇。之。邑。則。皆。新。築。庚。寅。直。始。路

設。功。二。年。吠城。此。高。麗。太。祖。東。征。至。郡。境。有。山。賊。嘯。聚。壤。據

礪。原。作。峴。據。除。本。改。汗。嶺。麻。本。作。汗。峴。申。本。作。里。峴。

界。朴。本。作。路。七。尺。諸。本。皆。作。五。尺。

壤。原。作。穰。據。據。餘。本。改。



租、原作宗、據徐本改。

尾、中本作泥。

石築、麻本作石城。

其曰、夫之、以、書、物、司、夜、而、不、司、其、守、前、而、志、嶺、路、甲、乙、嶺、	路、西、省、峴、界、慶、山、 <b>慶山邑城</b> 、石、築、二、百、尺、 <b>亏谷城</b> 、新、羅、時、押、	改、梁、郡、統、合、後、 <b>仁同天生山城</b> 、四、面、石、壁、新、創、立、始、為、祖、城、王、如、	震、始、築、王、不、辰、郭、再、祐、大、倭、留、在、冠、多、取、兵、器、祖、辛、丑、郭、矢、	城、再、祐、三、以、察、六、百、使、齊、開、二、尺、築、外、 <b>嶺路、月巖峴</b> 、界、星、州、 <b>玄風嶺</b> 、	<b>路、大峙</b> 、界、昌、寧、 <b>義興嶺路、苴非峴</b> 、界、善、山、 <b>智士峴</b> 、界、漆、谷、吐、	<b>乙峴</b> 、界、南、 <b>靈山嶺路、件峴、尼勿峴</b> 、界、密、陽、 <b>昌寧嶺路、馬峴</b> 、	路、北、 <b>漆谷邑城、內城</b> 、石、築、仁、祖、四、千、七、百、 <b>外城</b> 、石、築、千、七、百、五、	宗、十、四、步、築、 <b>肅中城</b> 、石、築、周、辛、酉、二、步、 <b>嶺路、所也峴</b> 、界、仁、	路、 <b>鼎峴</b> 、界、大、丘、 <b>尙州邑城</b> 、石、築、百、八、十、三、尺、 <b>嶺路、倭踰峴</b> 、
--	---	--	--	---	--	---	---	---	--

北嶺、中本作花峴。

湖、中本作胡、元、宋、

<b>竹峴</b> 、界、並、南、 <b>大鳥峴、松峴</b> 、界、並、北、 <b>金山嶺路、左峴</b> 、界、善、山、石、	<b>峴</b> 、界、知、禮、 <b>箭峴</b> 、界、星、州、 <b>秋風嶺</b> 、界、黃、洞、 <b>掛榜嶺</b> 、界、西、 <b>知禮嶺路、</b>	<b>牛馬峴</b> 、界、居、昌、 <b>釜項峴</b> 、界、星、州、 <b>餅峴</b> 、界、東、 <b>咸昌星州邑城</b> 、石、築、	十、周、二、千、五、 <b>秃用山城</b> 、石、築、百、八、十、四、步、 <b>嶺路、赤峴、花嶺</b> 、	路、並、西、 <b>星峴</b> 、界、南、 <b>勿閑嶺</b> 、界、高、靈、 <b>月巖峴</b> 、界、仁、同、 <b>扶桑峴</b> 、界、開、寧、	<b>大也峴</b> 、界、北、 <b>善山邑城</b> 、石、築、百、四、十、八、尺、 <b>金烏山城</b> 、石、築、周、七、	絕、千、六、百、六、十、四、尺、無、城、 <b>外城</b> 、三、十、四、尺、一、百、 <b>嶺路、加乙</b> 、	<b>峴</b> 、界、東、 <b>余乙峴</b> 、界、東、北、 <b>聞慶烏嶺城</b> 、界、肅、宗、戊、子、石、築、八、千、	北、五、百、九、步、 <b>舊城</b> 、在、三、處、一、在、嶺、上、一、限、在、湖、草、谷、界、一、在、應、倉、巖、	嶺、三、城、皆、有、虹、霓、東、門、草、谷、通、大、路、主、屹、城、關、 <b>烏姑夫城</b> 、與、
--	---	---	--	---	--	---	--	--	--



卯、中本作鴨、宋本作  
翻、原本諸本作從、據  
宋本大改。  
梁、原本諸本作從、據  
宋本大改。  
東觀、宋本作東城、沙  
贊、麻本作典、增補文  
祖、李等三本作宗。

今母城石築對姑母城百九尺。嶺路鳥嶺伊火峴古毛
嶺西雞立嶺路北串岬遷路南晉州兵營城內城千九
百尺。外城癸卯移萬營于本州十嶺尺石山宣祖防禦山城山
軍鐵像世上石城西癸未倭寇登此山馬蹄岬北有將東
梁城石築周今有一使鎮三千鎮城十尺築周二千五
城嶺路東峴咸昌馬峙路北沙峴路南陝川嶺路知乙峴
路東頭里峴西北阿峴界嘉馬峴路北咸陽邑城西英宗己
十五尺。古邑城舊時爲倭所奠移今治嶺路八良
峙西桃峴東昆陽邑城百六尺。嶺路十二峙
路東栗峙路南南海邑城六尺築周世祖己卯築。平山浦

二、宋本作七。

朱、原本李本麻本作州、  
據餘本改。

城石築周八尺。城古介堡百六尺。彌助項城宗中
壬午置鎮石築周二牛古介城百十三尺。曲浦城築石
午九百二十尺。置于此。嶺路城峴路南居昌城山城
三里。周乾興山城三里。嶺路都馬峴界。赤峴州
界牛馬峴路北泗川邑城千十五尺。嶺路鬱道峙芙蓉
峙並東三嘉邑城百五十九尺。嶺路三大峙界丹城
都豆峙界宜寧阿豆峙界陝川宜寧邑城百七十七尺。千五
祖己嶺路長峙路南大峴西北月羅峴東河東嶺路長
嶺黃嶺牛峙並東蟹峙路南山清嶺路本通峙界咸陽
古川嶺居昌密占峙界三嘉尺旨峙界丹城白也峙東安

牛峙、林本作牛嶺。



義嶺路六十峙長水丹城嶺路矢峙路南新峙路西金海  
 邑城石築周四千六嶺路栗岷露岷路西羅田峙馬  
 岷路北昌原邑城石築周二千四嶺路安民嶺路南新豐  
 岷東路諸屈岷西路南井岷南路咸安邑城石築周三千七嶺路  
 一伊岷東路眉山嶺於嶺界大岷鎮海巨濟石水營  
 城石築周二千六龍浦因置加背萬祖甲辰玉浦城石築  
 十周四尺知世浦石築周必於此候風開洋固城邑  
 城石築周三十一尺詳見海防所乙  
 非浦城石築周八嶺路城峙泗川甘峙西路大峙東南  
 路漆原邑城石築周一千五嶺路於嶺峙赤岷昌原

詳、原作、據餘本改。

岷、朴本之外諸本皆作

東路、宋本脫。  
府、宋本脫。

栗田峙鎮海嶺海邑城石築周四百嶺路大岷路北熊  
 川邑城石築周三千齊浦城石築周四千安骨浦城  
 七石築周十四尺嶺路松岷西路栗川岷東路  
 柳成龍曰釜山以北直路則有密陽府迤東海邊  
 則蔚山郡及節度營迤西則金海府此三路皆係  
 要害必守之地三處既固則賊雖散出他路而堅  
 城在後重兵在前有所牽掣不敢輕犯內地○宜  
 寧縣有洛東江下流而一派達於晉州丹城名曰  
 歧江其上十五里有鼎津最爲要害郭而再臨江  
 至於慶尙全羅忠清之境如求禮之頭恥津咸陽

地之下、宋本有矣。

十岷、中本作十岷。

境、增補文獻備考作徑。

德、中本作德、以下倣之。

而、宋本脫。及之下、宋本有於。

扼、宋本作扼。

之八良岷安陰之六十岷知禮之牛頭岷金山之秋風嶺聞慶之烏嶺善山之洛東江豐基之竹嶺最爲山川之險可以據守然若人不知備則細路他境之旁出者亦不可不慮耳○海中諸島天城加德巨濟皆小郡之地而距金海熊川水路纒二十餘里而望全羅界甚邇且往時沿海一帶以及內地多設築山城往往控扼要害有百二之險而昇平既久率廢不修緩急無所恃如大丘之山城仁同之天生城是其一也此外宜寧之鼎津三嘉之山城陝川之冶爐山城星州之伽倻山城皆係

天險次第修葺積粟屯兵堅守不動清野以待賊前無所掠後有所憚其於保邦禦暴之策實爲便益

敬輿、大本作白江。敬輿之號也。

祖、原作朝、據餘本改。住、宋本作臥。

即、宋本作則。

埃、麻本作塵。

李敬輿曰聞慶之北烏嶺之東有一山城名曰御留未知何時之事而或云麗祖住駕之所其中濶狹比南漢十分之九形勢險固即非南漢之比東南絕壁萬丈鳥獸難越北則比東南稍低而又非人力可通略設城堞可以高枕其西亦有可通之路而視南漢之最險處不啻倍蓰築城之所不過五六百把大小山石積如土塊隨取完築功役甚

省不必甚高，自成難犯之勢。城中井泉，川溪百道，爭流樹木，森列取之不盡，可作千間廣廈，可備數年樵爨。天造之險，實為東南第一地。中可容四五萬兵甲，亦可置一二萬戶，儻能少加修築，經營屋宇，峙置糧草，以為永遠不拔之基，百萬之師四面進薄，而城中之人安枕自肆，萬全之地，捨此無他。此地東連大小白，北通月嶽，西接華山，迤向俗離，直連德裕智異，以抵于海。又北有四郡，仍達江原，忠清據其右，安東豐榮處其左，洛東亘其南，漢水上流出其後，峻阜長嶺，橫雲蔽日，鳥道相續，無處

漢 申本宋本作傳。

時、宋本作儲。

不通，控制之勢，有若扼項拊背。山谷綿遠，絕壁參錯，百里之內，無他着足。雖天下之兵，亦無圍住之理。城北之月嶽，其東之鵠城，順興，其西之烏嶺，曠陽城，其南之姑母，兔遷，或是絕險山城，或是棧道重關，布置留屯，若干兵，聲援相接，號令可通，湖嶺三道，東北畿甸，亦可控制，山路四出，命脉無壅，從山徑運糧，不至乏食。西北有事，則可以為駐蹕之地，南方有警，則可以為關防之地也。

內 宋本作南。

咸鏡道咸興邑城，石築，周一萬二千六百五嶺路，赴戰嶺，北車踰嶺，東北咸關嶺，洪原黃草嶺，北雲寒嶺。



路江界	桑倉嶺	江界	永興聖歷山城	石築	周二千九	山
路	倉洞城	石築	周五千	嶺路	馬踰嶺	西北
路	雲嶺	西南	艾田嶺	孟山	長坪嶺	孟山
路	月項嶺	西北	定平	隨時里城	石築	周二千一
路	原山谷社隘	守地	有石築	周一千五百六十八	尺	古
路	麟嶺	孟山	留雲嶺	馬踰嶺	並西	安邊嶺路
路	朴達嶺	伊川	洩雲嶺	平康	九典嶺	陽德
路	烽燧嶺	伊川	板機嶺	淮陽	平浦嶺	南頓合嶺
路	旗竹嶺	東南	飛雲嶺	東	德源嶺路	馬息嶺
路						西文川雲

守地、增補文獻備考作  
三本在六十。

三、大本作二。

青、中本作青。

林鎮	石築	周二千二百三	嶺路	蘆洞嶺	西南	北青
府城	石築	今廢	嶺路	香嶺	北	蔓嶺
川邑城	石築	周九百四十八	丈	九尺	英宗	癸
城	其尼	至雙	青堡	石築	周一千三百六十三	黃土歧
堡	周	一千三	嶺路	馬騰嶺	檢義	德嶺
箭項嶺	蛇角嶺	牛指嶺	並北	黃土嶺	趙歌嶺	金昌嶺
並西	凡朔嶺	福貴嶺	磨雲嶺	並南	磨天嶺	吉州
利	原邑城	石築	周三千	嶺路	佐翼嶺	端川
洪	原邑城	石築	周八百	嶺路	大門嶺	車踰嶺
成	關嶺	成興	甲山邑城	石築	周三百尺	嶺路
成						應德嶺
成						馬底嶺

加乙波知廢堡	別害鎮	方堡	自作堡	茄乙波知堡	暖堡	老村嶺	仁遮外堡	馬山嶺	阿間嶺	惠山嶺	吾音會嶺	吾
石築，中宗庚辰，置百一十一宣祖丙申，置金使	石築，中宗庚辰，置百一十一宣祖丙申，置金使	石築，五十七尺，置一萬三千三百廟坡堡，石築，丁丑，置千八百尺	石築，十五尺，置七百六管魚面堡，石築，乙酉，置千九百神	石築，辛未，移一僉使於茄乙波知堡，石築，庚申，置	石築，周庚申，置三萬六千一十小農堡，石築，周庚申，置	界，端川，石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	石築，周庚申，置三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	並南，石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	並東，石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	並北，石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	並北，石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	並西，石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置

坡，宋本作波。  
三，朴本作三。

丈，申本宋本大作尺。

斜个洞	平鎮	石築	嶺	僉使	賊移	置癸	城	尺	蛇洞嶺	嶺路	馬踰嶺	西北鎮	巨門嶺	虛水羅嶺	吉州邑
石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置	石築，周三萬八千六百三十三尺，舊屬甲山，置

鎮移，申本宋本作移鎮。





設于此、麻本作設于此。

庚寅革能連梁永堡石築周六百七十尺外江邊 嶺路車踰嶺界茂山 茂山嶺會寧 葛麻德嶺加應石嶺

北并東柴嶺路南 鞍峴梨峴路北 茂山邑城石築周二千二百六

尺十六 豐山城石築周四千九百二十尺本以會寧所

邑利施都昆池 肅宗甲子茂山陸嶺路西峴嶺 會寧 邑後仍為移屬 英宗庚戌始築

梁誠之曰咸吉道會寧是凡察舊居鏡城穩城慶

源並在江邊而鏡城有龍城之阨利城有磨天嶺

端川有磨雲嶺甲山頭入西北隅咸興有咸關嶺

是一道根本最緊吉州連東良北北青亦甲山之

衝洪原有大門嶺定平有古關門永興有龍興江

爲、英宗、宋本並脫。

具、原本諸本作良、據 增補文獻備考改。

德源之鐵關安邊之鐵嶺次之。○北關志鏡城之  
爲總管今二百禩蓋北接山戎南受漕轉據一路  
之脊當六鎮之衝府城倣戚氏書而略採蠻制若  
腰鼓者又他道之所未有也。○吉州之城津自長  
白之一支南迤而爲磨天又東馳入海爲城津城  
津左右前三面皆海獨後一面連陸而高峰峙焉  
乃要害之大處。

咸鏡道觀察使南九萬啓富寧車踰嶺以外會寧  
都昆以上乃是二百餘里之地宜置一府而西加  
先利都昆等地列置二三鎮堡以爲沿江防守之

二三、宋本作二。



連、麻本作蓮。

來往、申本作往來。

處車踰嶺外可通長白山後者只有朴下遷一路亦宜置一堡於此地以備之而此外會寧之豐山富寧之梁永茂山之玉連鏡城之魚游澗等鎮堡實爲內地皆可罷也○甲山三水二邑在於重嶺大脊之外故來往之路只有威興北青端川三處而威興之路距三水郡九日程北青之路距甲山府四日程端川之路距甲山府五日程而峻嶺絕壑危棧石路又是一國之所無且三水之西則厚州廢四郡皆爲空曠之地故不得通路於江界甲山之東則又隔白頭山南支故不得通路於吉州

孤、宋本作高。

高峻、宋本作峻高。

且茲二邑風土之寒苦甚於六鎮五穀不成居民鮮少而形勢之孤絕又如此脫有緩急聲援決不可及而平居之時魚鹽衣被亦不能相資於他邑誠可悶也臣聞自吉州西北堡有獵貂人往來之路可通於甲山府云今年四月使西北堡萬戶吳尙悌吉州將官許濬往尋獵路樹木叢密人馬不能穿出五日之後始出於甲山同仁堡又自同仁堡復尋來路則二日半還歸於西北堡而中間有二嶺皆不甚高峻今若伐木開道使之稍可通行人馬則近可二百餘里遠不滿三百里又頗平易

大不如端川等路之險惡危絕不可著足云。今使甲山人開通嶺脊以西之路使吉州人開通嶺脊以東之路則不過數十百人數日之役尤無重難之事。且聞自西北堡三十里有古西北堡廢城又四十里有李陽春古基而皆是人民可居之地。嶺脊西邊又有甘坪地而稍為開野可以耕作云。其間亦宜設置一二鎮堡以為防守譏察之地。若然則吉州之斜下北德萬洞端川之崇義吾乙足雙青黃土岐甲山之鎮東等堡悉為內地皆可罷。○自三水沿鴨江西下七十里有厚州古地所謂厚

拜、申本及增補文獻備考作平。

按、朴本作接。

州未知設於何年廢於何時而其地在江之南自是吾地且郊野之廣濶田土之肥沃大異於三甲之崎嶇瘠薄地形漸下風氣頗溫又異於三甲之寒苦霜降最晚五穀皆熟誠是樂土可居之地也。自我國廢棄之後曾為胡人之窟穴其地距芻坡知既是接隣而距別害亦不滿二百里中間只隔烏蔓一嶺胡人鳴鏑之聲朝夕相聞被其侵掠者殆無虛月幸其時胡人之作賊者不過攘奪牛馬而已故僅免於城池之淪沒耳且當初朝廷既廢四郡及厚州以與胡人而以長津江為界故唯別

唯、申本宋本作惟。

鎮、宋本大本作津。

害芻坡知二鎮置之長津江西崖其餘廟坡神方  
 江口魚而甘坡自作等堡則皆置於江水之東與  
 胡人夾江而居而其設堡等處皆急流絕峽重山  
 疊嶂之中道路險惡人不堪通行又無可耕之田  
 毋論防守形勢之便否決非人民可居之地也故  
 卽今諸堡雖有邊將而士卒或不滿五六十戶若  
 使敵人永無來侵之事則可脫有數十騎倉卒竊  
 發之患則反不能支吾於頃刻之間今雖欲多實  
 民人而土地之險惡如彼決無實民安保之理矣  
 自建州雄長之後厚州之胡悉被驅去故以此五

堪、宋本作敢。

反、朴本大本作必。

惡、宋本作匪。

少、宋本作疎。

賊、宋本作敵。于、宋本  
本作於。

十年間不聞警急此實天幸也若或早晚復有來  
 據者踰烏蔓嶺直入別害則廟坡以北十餘堡及  
 三甲皆在賊之背後自別害至咸興雖三百餘里  
 其間民居稀少有同無人之境實無防守之可恃  
 若使賊自別害直出咸興則洪原以北至于六鎮  
 皆將不爲我有關防屏蔽之虛疎莫甚於此以此  
 言之厚州利害又有甚於車踰嶺事然則厚州廢  
 棄之失豈但爲樂土空棄之可惜而已哉今若更  
 置郡邑於厚州故地則在三甲相倚爲援可無孤  
 絕之憂在咸興固其藩籬可無疎虞之患而長津







嶺路松岷梅岷山并路孟慈山慈母山城石築千七百三十一萬三

牛馬城石築周六千七百七嶺路青山嶺州路安陽德嶺

路雲嶺巨次里嶺棋麟嶺并北串餘嶺阿虎飛嶺東并

孟山嶺路頭無嶺孟州嶺屏風嶺并東橫川嶺路北

江東嶺路船和岷路殷山並我之岷成川殷山邑城築上

馬馬海堡楸坡嶺從浦嶺上土嶺外怪嶺滿浦

鎮伐登嶺高山里嶺俱右諸城鎮嶺路狄踰嶺漁雷嶺瘴

項嶺筐山嶺麻田嶺石毛隅黃青嶺梨嶺巨門砮崖

俱右諸嶺狗岷路南茂盛嶺雪寒嶺葱田嶺并東廣城嶺

川宋本作天。

巽本本作路。

怪本本之外諸本皆作

嶺宋本作諸嶺。

嶺宋本作諸嶺。

甲嶺南並東梨坡嶺路南渭原邑城石築周四千鴨綠江

行城石築長一千嶺路架軒洞堡石築周五百直洞

堡石築周都乙漢堡石築周楸嶺築英宗九年擺撥嶺

路西楚山邑城石築周三千鴨綠江行城石築長二千

阿耳嶺石築周九千七山羊會堡石築周九嶺路多

樂岷靈加德路南板坡嶺路東青坡嶺路南甲嶺路西碧

潼邑城石築周鴨綠江行城石築長一在西者長

萬三千大坡兒間者長二萬四千大坡兒堡石築周

尺十小坡兒堡石築周楸仇非堡石築周廣坪堡石

五周尺十小吉號里堡石築周碧團鎮石築周

行城、增補文獻備考作

行城在北者。

坪、申本麻本大本作平。

二嶺 大本作二嶺  
熙 原本諸本作熊 據  
朴本改

十四嶺路九階嶺甫里見子嶺右二嶺 築城 防 砲 英宗大如  
海嶺小如海嶺並楚 山 路麻田嶺西 路寧遠嶺路桑木嶺熙 川  
豆岷孟 山 路

井泉 中本作泉井

梁誠之曰平壤城在大同江西北賊若四圍雖有  
南援不能應接宜於東南二隅皆築城接于江邊  
然則賊不能至城東而扼大江之險也外城則外  
有江水巖石之險內有井泉土地之饒苟或爲賊  
所據則城之守極難修築古地可也○熙川之狄  
踰嶺以北三百里山高川大土地饒沃是誠不可  
棄者欲守之則勢甚孤單賊兵一路直衝滿浦糜

矣 宋本作也

繫於此一邊自竹田岷而入或自虛空橋而入徑  
圍江界則聲援阻絕甚危道也須於立石等處特  
設一鎮堅築城堡以宿土兵然後可通大嶺之路  
而江界可保矣

雖 中本李本麻本聯本  
作類

柳成龍曰江邊一帶接連北塞處自江界至義州  
不過六七百里而皆據山谿之險若能撫集軍民  
勸課耕種修葺城池器械先爲不可勝以待之則  
胡勢雖強不至爲吾患不然鼠竊之徒尙不能禦  
之况於大賊乎○中原地方自遼東迤西高築烟  
臺深鑿壕塹或五里十里相望不絕故敵騎近京



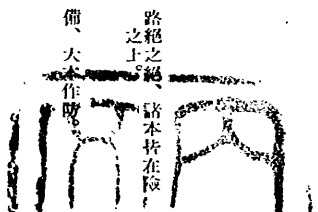
無不先知得以把截邀擊。我國則烟臺墩堡邊上城池之制皆未成形。往時高山里僉使金應瑞燒甄高設烟臺二處。至今堅固。江邊之人恃以為固。今當視形勢緩急之處。或改築。或新設。使形勢連絡。達於義州。則邊塞之形自固矣。○內地則龜城最為要害。舊有山城。形勢甚好。今可隨便修築。以遏其衝突。安州則當三路之會。據薩水之險。為一道形勢之地。但城制太濶。今當進築。而肅川土城之制。大小適中。前臨平野。四面無俯臨之山。若漸次修葺。多設砲樓。為一據守之地。則可以保障平

砲、中本作砲。

於、宋本作于。

壤而策應安州矣。郭山之凌漢山城昌城之青山山城。舊有倉庫。以為儲穀之所。今亦益為修築。為當。○安州為一道咽喉。且有積穀。不可不堅守。安州不能守。則平安一道將不保。蓋過安州則清川以北。其路四達。由博川。泰川。達於朔州。昌城。由嘉山。定州。達於義州。由寧邊。熙川。達於江界。所謂城有必守者。此類之謂也。此州城子。雖似太濶。而後面臨江。前面依山。可謂據險。若有數千之軍。則可以守城。此城既守。則賊必不能越此而深入。○關西三路。惟博川。泰川。一路最為關重。蓋此路為江

一路、朴本作一。道。



邊列鎮安危之所係也。若賊不知出此而來自定州，我軍從龜城博川出於定江清川之間，則賊之歸路斷絕矣。至於熙川之路絕，則地勢險，賊兵未易進。故今之備賊，博川最緊，定州路次之，熙川路又次之。若於定州龜城各置一將，耀兵備禦，相與犄角，則一道可得以保也。

金尙憲曰：以國家宗社安危之重，待決於安州一城之勝負，豈不寒心。關西設三大鎮，使都元帥鎮慈母城，副元帥鎮鐵甕城，兵馬節度使鎮安州城，三分關西屬於三鎮，各選屬邑軍民之精銳武士

御、朴本宋本藤本作契。

之勇敢者，撫養訓練，則必大有益矣。若邊報至，則黃海之兵救慈母，咸吉南道之兵救安州，北道之兵救鐵甕，安州受敵，則慈母鐵甕共救之。鐵甕受敵，則安州慈母亦如之。又擇大臣或重臣之忠藎，有威望者，駐劄平壤，統御三鎮，不必事事遙制，而臨戰選失律者，請命而行法焉。又選三南關東畿內兵，整飭戎器，緩急即召以充宿衛，此其大略也。平安道觀察使洪命者，啓廟堂本以慈山慈母山城爲監司守禦信地，而平壤乃一路要衝，自西路專力山城，棄平壤不復議守，敵入直路，實無遮障。

便之下、中本李本廢本  
悲本有宜。

平壤城雖濶大若分作子母城高至十丈可恃爲固。義州國之門戶防禦使不當旁守山城而昌城朔州皆敵來路請增置兩備禦使分守昌朔義州共爲藩蔽副元帥進駐定郭間節制兩路爲便。

金錫胄曰滿浦鄰於建州碧潼昌洲之間卽與饜陽寬奠相對云自昌城以下則我邊嶺勢漸卑江流且緩故戊午我帥之北入丁卯丙子敵兵之南出皆從此路而大朔州則唐將曲承恩之所嘗駐龜城則高麗朴犀之所嘗守此皆百戰要害置重兵處也。○關西兵營舊在寧邊後移於安州蓋以

曠、中本作廣、可、中本  
李本廢本藤本作下。

本州既當大路之衝據險臨江取有形便故也今當爲一路大帥之信地。

南九萬曰閔延等廢四郡亦是曠野沃土可居之地國家之至今廢棄實甚可惜。世宗朝廢而不守者蓋緣國初本道咸興以北平安道沿江諸邑皆是驅逐野人新得之地故南民之實邊者稀少不足以守其地而野人之越在江北者其類寔繁四郡越邊兀良哈忽刺溫等部落尤肆跳梁朝夕竊發殺掠相繼其時朝廷不欲以養人者害人故棄之而不有耳今則不然江北千餘里之外絕無

欲、宋本作足。

五十、大本作十五。

無、宋本作不。

史、麻本宋本大本作使。

即、宋本作則。

關防 平安道

五〇八

寇賊之形今已四五十年矣。朝廷宜及此時得我  
 舊疆，漸次實民。我之形勢既成，則雖使日後更來  
 侵擾，亦不足為患矣。凡邊隅之地，若以為近賊而  
 可棄，則賊之近我，終無已時。此豈計之得哉。昔高  
 麗睿宗朝，遼刺史常孝孫避金兵汎海而遁，以抱  
 州及來遠城歸我。復以鴨綠江為界。其時百官獻  
 賀，以為大慶。此即今義州地也。恭愍王朝，我  
 祖以東北面元帥，率步騎一萬五千，踰咸興之黃  
 草嶺，自四郡江界等地渡鴨綠江，往擊東寧府兀  
 刺城，以收奇功。以此言之，高麗得敵人二空城而

而、宋本作以。

喜慶猶如彼。今此四郡既在鴨江之內，而乃是  
 太祖觸風霜冒鋒刃，跋涉建功之地，則其在後代  
 宜可守而不可棄。又非特高麗抱州來遠之比。况  
 今外無暮夜竊發之虞，內有流徙願入之民。朝以  
 下令，夕而可成。有復疆之美，無難守之慮。顧何憚  
 而不為哉。

平安道觀察使權愔啓。臣久在西塞，審察邊情。則  
 鎮堡碁布，山城廣築，殆無闕漏之處。而敵由義州  
 大路則宣川之左峴，嘉山之曉星嶺及安州平壤  
 為關防重地。敵由昌城則緩項嶺當峨城為關防

岡、申本、麻本、李等三本作岡。  
人民、李等三本作民人。

之地矣。海邊山城最爲緊要處，不過龍岡之黃龍龍川之龍骨。黃龍山城則三面阻險，一面當敵，誠爲必守之地。三縣人民可以入保，而軍餉不足，所宜軫念。龍骨則險峻之勢，自是天設，而非但乏水，且爲狹窄。退築外城，實爲便利。城基不過二千三百步，而山多亂石，築之無難，如得四百石之米，數千兩之錢，可以辦得矣。以山邑言之，則昌城之緩項嶺，山非阨塞，谷且寬廣，火田相連，樹木稀疏，其爲險阨，異於所聞。倘非近千精兵，難可據守。而當峨舊城在於嶺南大路之旁側，險阻甲於一道。從

阨、大本作險。疎、宋本作少。

側之下、宋本有而。

民所願，更加修築，只是旬月之役矣。關西制置之最可恨者，各置山城於大路稍左處，只爲隱避之計，而借敵兵以直路可乎。平壤安州二城，趁速完築，以爲道臣帥臣之信地，而鐵甕慈城犄角相持，則緩急庶有所賴矣。至於曉星嶺，則嘉山郡守旣爲兼營將，嶺上之植木聚石，似不可已。左峴旁有數條通行之路，雖不可專恃此峴，定爲關隘，而據險伏兵，不爲無助。則宣川府使不必專管水軍，當其海望無虞之日，猝有敵騎東捨，則率其所帶軍兵據守左峴，似爲得宜。

必、宋本作爲。

敵、申本、麻本、李等三本作賊。

白頭分支而南者爲咸興爲鐵嶺此爲一國諸山之祖自咸興分支而西數百里屈折而南北其南者東挾咸鏡道之定平永興高原文川德源安邊西挾平安道之孟山陽德黃海道之谷山新溪其北者東挾咸興長津西挾寧遠德川熙川此爲西北兩道嶺脉之分界也自熙川之甲峴嶺支折而向西至朔州之天摩嶺復南折止于東林左峴嶺脊邈迤峻嶸疊嶂連亘七百里屹然天造地設之金城鐵壁而其間嶺南北通行之路大者十四小者十二皆是折坂懸棧置鎮於隘口以守之鷹洞

峴、中本作嶺。

峴、大本作嶺。

嶺、或本或通作嶺、不詳。

而、李等三本作以。

甲峴道陽等嶺嶺內則有柔院鎮嶺外則有平南鎮狄踰嶺嶺外置神光鎮以守之而狗峴白坡等嶺嶺外兩路並會於神光此亦神光所守也柳頭幕牟穗兩嶺柳幕之上古有小城置別將以守之今無而屬之牛峴梅花棘城等嶺兩路并會於牛峴嶺之境內乃牛峴所守也牛峴嶺之牛峴鎮車嶺之車嶺鎮并在嶺外丁好尾月隱乃等嶺嶺內有委曲鎮而昌城巨里甫里見子等兩嶺嶺外有崔擔夫嶺內有於自里嶺而崔擔夫嶺之外有林土鎮於自里嶺路復會於委曲鎮狗鷄緩項兩嶺

鷄、宋本作鷄。

兩、申本麻本李等三本  
作西。幕嶺、同本作  
幕嶺。

關防

關防揔論

柳成龍築城論

五一四

嶺內有特寨鎮。大防小防兩嶺，嶺內有幕嶺鎮，大防嶺，土人謂之青坡嶺。界畔嶺，嶺內有大館城，即朔州中軍所守也。溫井、天摩兩嶺，嶺內有天摩鎮。青龍嶺，嶺之外即塞垣，而塞垣之內有安義植松二鎮，青龍以下則直至宣川之左峴。

附關防揔論

柳成龍曰：我國之人最不習兵，其於築城全無意思，但從山勢逶迤作形，務以廣濶為主，不知逾大而愈不可守也。但古之城制，五十梁而置一雉，曲即城今梁制高下，與城為三分之一。梁身三丈則一丈矣其高如此，故人

論、申本作愈。

立、李本麻本作生，宋本作坐。  
以、申本作而。

能放意平立，以避矢石。我國女牆僅至數尺，人皆鼠伏以行，而不免賊丸。此其不可者一也。兩梁之間，貴於狹窄，纔可放矢眺望而已。使賊不我國女牆中間可容數人，此其不可者二也。甕城亦甚稀設，雖以都城之大，只有東門外一甕城。無雉之城，將何用乎？此其不可者三也。○城而無雉，則雖人守一梁，而梁間立盾以遮外面，矢石賊之來附城下者，不可見而禦之也。紀效新書每五十梁置一雉，外出二三丈，雉相去五十梁。一雉各占地二十五梁左右顧盼，便於發射，敵無緣來傳城下矣。壬辰，余在安州，思得一策，城外當從形

射、申本作矢。

器械、宋本作兒城。

無守、宋本作無所守。

之、宋本脫。

勢別築凸城如雉制而空其中使容人三面鑿穴中  
 按大砲上建敵樓置器械瞭望兩樓相去六七百步或千  
 大砲中藏鐵丸從兩邊交發雖金石靡不粉碎若是  
 則他堞雖無守兵只使數十人守砲樓敵雖百萬不  
 敢近之矣所謂雲梯衝車皆不得施矣此實守城妙  
 法雖倣於雉而功勝於雉萬萬矣○近世中原有懸  
 眼之制其法從堦內穿穴直出城外使洞見城下之  
 賊以施格殺之方此制甚好又有羊馬牆之制於城  
 外壕子內築牆高一丈許下面鑿大穴使放大砲中  
 穿小穴使放小砲別使勇力之人守之與城上互爲

則、宋本作即。  
賊、宋本作敵。

輔車之勢新書所謂任他百萬來犯者是也然此則  
 用功既多亦必須用人而守之若一置砲樓則許多  
 城制皆不須用蓋兼甕城懸眼羊馬牆之制合以爲  
 一而不煩衆力不用人工至簡至易萬無一失者也  
 然若欲用石爲之又起樓其上亦頗費力目今事勢  
 危迫非朝則夕中流失船一壺千金何必問蒙衝巨  
 艦也惟當隨力所及使可禦賊足矣各邑鎮堡有城  
 柵處或用土爲之或用木爲之而外面厚塗以土勿  
 令爲賊所焚多備火藥火砲時時從孔穴習放以觀  
 形勢迺直砲道遠近使民曉然知此爲守城之妙策



則自無潰散之患矣。○昔唐太宗欲征高句麗，問計於羣臣，皆曰：高麗依山爲城，難猝拔。其後契丹欲擊高麗，其臣諫之曰：高麗鳥棲山城，大軍往征，非唯無功，恐不得自還。以此見之，我國自古保境禦敵，皆以山城爲利。敵人之所憚者，亦唯在於山城也。兵法先據高地者勝。孫子亦言：敵居高地，則避而勿攻。其意可見也。我國郡邑，凡山勢稍斗絕處，無不有古城基址。一邑或二三處，多者五六處。是則自三國以降，以及高麗爭戰之勝，不但郡邑之居，必據險地，雖村落民居，處處保險，置公私積蓄於其中，敵來則清野入

高麗、中本麻本李等三本作發。高句麗、拔、大

之、中本麻本李等三本

惟、宋本大本作惟。

守敵退，則下山耕種，實保民守國之長策也。此事鄭圃隱於金海山城，記備言之。歎其時不修山城，先賢之爲世慮遠矣。古者虜之長技在馬足，倭之長技在短兵。我在城上，以弓矢制之，而有餘矣。今則倭用鳥銃，及遠之力十倍於弓矢。凡圍城，必先環視城堞高卑，壕塹淺深，數千鳥銃向城，亂放城內守卒，方且鼠伏膝行，不敢出頭，况敢禦之耶？他賊乘勢直進，以木石草束亂投填壕，高與城齊，頃刻陷城。壬辰之陷金海、丁酉之陷南原，皆用此術。嗚呼！今欲禦此，獨有山城，奈何人不能察，而以山城爲無益也。夫山城居高

術、李本麻本作述。

臨下敵之長技到此盡失雖有烏銃不過向天而放  
力盡即墜不足以傷人此一利也土山雲梯無處可  
施城中動靜終不得窺此二利也賊雖勇悍善於突  
鬪自山下攀緣而上才近城下喘急氣竭我軍則心  
閑氣定隨賊所向而應之只以大石滾下而彼無不  
奔潰此三利也壬辰之變千里風靡一無遮截賊鋒  
者黃州有土人李思林者獨率其里老弱男婦四百  
餘人登蒜山設寨守之其山不甚高險在廣野大路  
中形勢聳起如蒜故名思林兵皆農民無弓矢器械  
但多聚大石以待之時賊壘在排毛巷與蒜山距數

明、中本宋本作開

火光、麻本作光火

擬、宋本作襲

懼、宋本作懼

嗣、宋本大本作回

里夜則火光相照其近如此而思林不為動賊屢至  
攻圍近寨數十步山上撥石車聲振山谷賊輒摧敗  
而去既而平行長以萬兵來圍山下終日相對不攻  
而退權慄幸州之捷亦以先據山上故耳賊憤甚刺  
血為誓期必報慄聞之懼甚棄幸州就臨津登守坡  
州山城以為其城當大路西下之衝而孤起突出無  
他對峰可以據倭果從京城大出悉聚於山城數里  
外廣灘邊遲徊不進未幾無故還軍當時人皆幸且  
恠之數年後得降倭一人言曰幸州雖險山腰頗有  
巖石可避矢石故力攻見敗坡州山城乃土山無隱

敵、中本李等三本作賊。

身處徒多殺士卒，故不攻而還。又余見降倭呂汝文者，亦言其國中亦多山城。若敵兵先據之，則法不進攻，惟積月固守，以待其糧盡云。此非其明效大驗耶？今觀古城，往往多在深僻隱藏之地，斯乃避亂之計，非控制之謀。此其不可用者一也。城堅小為貴，若大濶則費衆而難守。古城沿江起堞，高不滿數尺，而包絡岡巒，彼此懸遠，旗鼓耳目不能相及。將帥號令不即相通，此其不可用者二也。紀效書云：城外若有土封石墻房屋，不即毀撤，賊來依其中，而矢石不施，為不守之城。若山城則尤當童童兀兀，四面無樹木，無

板、原作坂、據餘本改。

賊、李等三本作賊。

巖石，賊來無所隱伏，而從城上轉石如板上走丸。如此之地，方為天險。世人纔見山林深密，崖石哈呀，則疑賊不能入，乃曰：此誠險地，可守。嗚呼！誰知所謂不險者，真險，而所謂險者，真不險耶？如此之地，得以自蔽，不能詳知賊兵所在，雖發矢石，皆為林巖遮碍，不能中賊。或於昏夜，一賊乘虛蟻附一處，驚呼滿城皆潰。如郭趨守黃石山城，正犯此患，惜乎！

柳馨遠曰：睢陽城中居人數萬戶，即墨城中得牛千餘。睢陽則唐時大邑，固宜其盛，即墨乃列國屬邑，而三年圍窘之餘，猶得牛千餘，則其平時城中居民之

模、宋本大本作魏。

十尺、原本李本本末本本作十丈、據徐本改。

○、礮溪臨鐵脫。

限、中本末本作院。

衆可知。不然雖張巡田單亦無能保守矣。我國列邑城子不成模樣，多不得容住居民，如是安能責人以守乎。凡城池必須量定規制，容奠閭閻也。○凡城高必五丈以上。城高皆除梁而計。用周尺，十尺爲一丈。堞高一丈，城底四丈，外開壕，壕廣必四丈，深二丈。○以上壕岸亦必築以磚石。凡城自下二丈斜倚以築，二丈以上斜直漸上，其雉及甕城牛馬墻并依紀效新書法。五十梁一雉，要當量。

其地形而爲之，大約雉出城外四五丈，則橫長六七丈。○我國山川迫阨，州郡城邑每以近於山底，被其所壓爲嫌，又有難於路越溪澗處，此則惟在形勢便宜，不必以路越溪澗爲難。

也。嘗按傳錄，中國南方如浙江紹興等城，皆跨越大水，重設水門，至於三重四重，而檣帆亦緣水出入。○城高如五丈，則底澗三丈，必表裡成築，然後方補土以平內岸，慎勿旋築旋補，使石倚於土，或土石相雜，城基必開土深廣，固杵先鋪大盤石，石上引入三四尺，始疊石爲高，復實土其外，使沒脛而廣杵之。城腰以下則以大面石釘削縱疊，腰上則以磚皆間粘石灰築之。堞則必以磚粘和石灰爲之。○城本所以衛邑，如人居舍有籬以衛之也。而我國邑殘山多，故因有山城邑居之異，其不知本末甚矣。夫築城於別處，

臨急始抽邑居之丁，民不肯入，猝至空城，百為齟齬，入者亦無顧戀之意，相率而逃，將誰與為守，其與按平時之舊，因其府庫民物，而與之共守，人各有父母家室之慮者，利害相萬萬矣。假令固守山城，盡其邑里倉廩，人民頭畜，付為賊屯，則獨守山頂，終何歸乎，必亡之道也。○我國人例言山城，而向時金州城，乃是平地，被圍三年，相戰而卒不陷，若如孤絕山城，猝然投入者，則不待數月，糧盡人散，不得保矣。安敢望支過年歲，其利害此亦可見也。以下總論城郭防守之法○凡築城，切勿多發軍丁，一時促迫，宜量地度功，分人投役，

頂、申本作城。

金州、蘇本作全州、磻溪，隨錄作遼東金州。

孤、宋本作高。

從、申本作健。

計役丁為左右軍，各置領將，每十人定一牌長，百人置監將，令各任其功，必以永固為期，若十年內崩頽，監領論罪。

柳成龍曰：凡城外及營柵外，當設重壕，務令深廣，而其中多設木角，內壕減外壕之半，其深一丈許，底布木板，列堅菱鐵，長可四五尺，其上橫覆長板，而於板腰設橫木以承之，虛其兩頭，如鑪冶鼓火之板，人踏其頭，即令傾陷。臨賊至，積置軟灰於其下，深可一尺半尺以上，而板上亦覆以土，勿令覺知，以待賊至，蓋賊欲陷城，則先聚鳥銃手數千，從城面稍低處亂放，

鑪、宋本作爐。

使城上之人不得出頭防備而別選勇力之人持長梯大鍬陷城等具踰越壕塹直到城下攀堞以上故頃刻之間城不能守如東萊晉州之陷是也若能預設重壕則勇力搏城之賊乘其銳進必將盡陷於其中覆板傾仄互相簌扇風生灰起賊目皆眯不能措手且將狼狽於壕中此亦守城之一助也○古人行必爲戰備止必堅營壁其慮深矣然營壁之設必須先得地形而設置之法必須曲盡其制務令堅緻然後我軍有所恃而不恐賊亦不敢來犯所謂地形者山勢斗絕四無攀援又眼界廣濶通望數十里左右

賊 大本作敵

眯 朴本作昧

狽 麻本宋本作貝

去之下 大本有者 者 宋本賊

而之下 宋本有已

無遮障而賊之來去昭然可知者是也倭賊最知地勢又善設柵其置陣必於要害之處觀其設柵之法以爲我國但用弓矢故塗土爲壁纔可以禦矢而盤回屈曲互相護蔽開鑿孔穴以便放丸真有十步九顧之勢如此之故孤軍深入千里連營而我軍三年相望不能攻破一屯其計密矣我國諸將全不知此意又不能堅守一處以必死爲心故所至皆散軍野處只以枯枝自繞爲柵及聞賊至則每以奔北竄伏爲上策而已○設柵最有要法古人築城專用土我國則用石二者皆費人工不可易成今有一法最爲

植、中本作直。

成、宋本作連。

取、大本作聚。

牛濕、中本朴本麻本大本作米濕。李本濕本一作米顯。宋本作米顯。

簡易。蓋增損古今營壁及倭陣之制而爲之。其法植木爲柱，入土一二尺，務令堅固。柱上或二處或三處鑿穴，令受短杠，自內出外，半在於內，半在於外，長可數三尺。短杠兩頭，又鑿穴，令受橫木，次第相連，使之方正。從內外結椽，一如人家作壁之狀，則內外相成，卽成複壁，而中間空虛，可以受土。因取外面作塹處，粘土，雜以稿秸，和以水汁，令半濕，實其中而堅築之。候乾更築，至於頭盡處而止。高則二丈許，或一丈半。數日之後，土與木相粘，堅結如石。因自內外面以細粘泥土塗之，如常時塗壁之狀，則儼然成一城矣。又

火、朴本宋本作火。

賊、宋本作敵。丸、朴本之外語本皆作凡。從、原作縱。據餘本改。

賊、宋本作敵。

於四隅曲轉處，向外面凸出一二間許，下面鑿孔穴，令放大砲，中穿小穴，令放玄黃字鳥銃等砲。上頭布板爲樓，而外面設防牌，以禦賊丸。從橫樓上，左右顧盼，可以射矢，兼爲瞭望。敵雖千萬，不敢來犯。此與木柵之功，用力簡省，而收功甚多，其堅不讓於石城，而其制曲盡於禦賊。此制若行，則日長之時，不過數百人，三四日之力，而卽可成矣。如此然後，多備火藥，火砲以待之，則柵中軍士之多寡，強弱皆不須論。○關防集錄，松都之青石洞，橫截築城，如甬道形，長則隨其勢濶，則兩邊相距僅容二十人成列。當路設關，卽

地嶺、宋本作地嶺嶺

方、宋本作榜

若兩谷山海關則功役不多而勝於僻處山城矣。北路之摩雲摩天鐵嶺嶺東之大關楸地嶺南之鳥嶺竹嶺火嶺秋風嶺掛方嶺湖南之八良嶺萬馬洞大小蘆嶺海西之青石洞洞仙嶺等處皆當依青石洞例築甬道。○賊據京城日出奔掠高陽之民隱伏於昌敬陵叢薄之中伺賊近至輒射無不應弦而倒後賊相戒遠避叢薄是其一驗也。○肅宗朝備局啓海西洞仙及諸嶺必有樹木然後庶可有益於防守而目今火田之害無處不到大小嶺無不濯濯使兵使與本官嚴禁火田於嶺隘且置山直並禁其山火及

奔、宋本作焚

久、麻本作知

改、中本作考

斫伐之患兵使虞候春秋巡審如有守令之不能奉行<sub>者</sub>論報備局以爲入啓治罪之地而本道監司亦以此爲守令殿最。○關防集錄密種榆柳枳棘等木擁腫糾結編作木柵其廣限以五六十步周圍相連則便一木城也從其林樹空隙以弓砲待之我有所恃而敵兵疑畏亦不敢衝突也。○防灘之法菱鐵爲上然若以今蒺藜鐵置之水中沙石相蕩易於流下未久皆失其故處不然則深入沙中不能爲害今有一法取雜木長三四尺或十餘尺者穿穴其上<sub>以</sub>菱鐵<sub>火</sub>尤妙別鑄菱鐵但爲一歧鐵末下一寸爲兩鉤下向



鏡、中本李本作鏡。

孔、大本作穴。

杙、中本林本麻本大本作棧。

機、中本作器。

下端只令稍銳，插於木穴中，從其多少縱橫亂鑽，如蠅毛樣，又於其木兩頭預爲鑿孔，擇江灘可涉處，埋於沙，隨處亂布，仍堅椽杙於兩頭之穴，使之深入水底，勿令搖動，設之必當於此，堦中流之內，蓋賊臨渡之時，疑我軍把截於越邊，又疑水中有機械，必四顧詳審，然後乃敢徐徐入水，而未至中流以前，則徐行顧望，不無欲退之慮矣。及其中流，則回去勢遠，而前岸迫近，其心更慮他處之軍乘其半渡而迫之，目視岸上，徑行速進，人馬入於菱鐵之中，必皆貫穿，而鐵既有鈎，拔去甚難，顛仆水中，而束手就死無疑矣。賊

從、宋本作處。

賊、宋本作敵。

信、中本麻本李等三本作信。

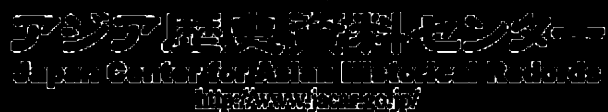
之在後者見其如此，進退俱難，必將顛擁遲迴。我軍之預伏，岸上者一聲齊起，萬箭俱發，則賊衆雖多，皆不敢輕進。此最爲守灘妙法。往年賊從楊根龍津及平壤大同江，皆由淺灘以進，而我軍皆不知設此，到處奔潰。及今措置，猶可爲備。若臨岸設砲，則尤妙。晉有藩鎮之制，合數郡而置一鎮，使大將領之，兵力不分，故其勢足以當一方之賊。如桓冲陶侃之類，皆能控制千里。宋之立國，懲五季尾大之勢，撤藩鎮而爲郡縣，其衰也。兵分勢弱，賊至一郡則一郡破，賊至一縣則一縣破，不足以禦戎狄內侵之患。故汪立信

建議請以江淮諸郡合爲四大鎮并力禦胡時不能  
用其後元伯顏聞而歎曰此策若用吾豈至此

請李本森本作清

海防

我國東南西三面環海東及南距倭又南及西與中  
國之吳越燕齊地方相距故設置海防東海之崖自  
慶興造山之南向西南斜迤至鏡城自鏡城南至魚  
郎浦自魚郎東折至架了山盡處山南北係係明城自架  
了山之南向西南折轉至吉州之門巖自城津向南  
至胡打烽臺之東自端川向西南斜迤至定平自永  
興向南午西至德源之北自德源向東南斜迤至長  
鬚蔚山自蔚山向南午西至東萊之海雲臺大抵東  
海之沿與西南海異少彎轉迂回處地之深入海曲



者惟鏡城之梨浦明川之露猜山在迎日之冬乙背串也。

咸鏡道慶興造山鎮赤島在慶源稔城鍾城會

寧茂山富寧鏡城明川吉州城津鎮端川利原北青

長津浦舊今廢洪原咸興都連浦本朝勝國及定平永

興猪鳥種太高原文川漕至浦舊今廢馬島種蒸

德源鎮溟浦兵高麗末倭寇復至元山浦商閩船幅比

竹島避安邊國島有箭竹

江原道歙谷侍中臺本朝登臺拜使故通川甕遷寇倭

卯島每歲卵育高城高城浦今廢

鍾、原本諸本皆存鏡、批宋本改。

略、宋本大本作瑤、船、泊本李大本本蘇本作宋本除本改、淡申本宋本作轉。

又、朴本作人。

松島罷時東真國以舟杆城襄陽雙城湖今廢大浦今廢

江陵安仁浦今廢三陟三陟浦今廢藏吾里浦東海有斥船泊

古縣浦今廢鬱陵島有錄于左平海越浦仇珍浦正明浦

厚里浦右三斥浦俱

慶尙道寧海丑山浦今廢盈德烏浦今廢清河介浦世新羅傳

興海漆浦迎日浦項浦注津必先產冬青魚

長鬚慶州蔚山西生浦開雲

鹽浦此浦與舊有山

機張

右咸鏡道二十一官江原道九官慶尙道九官以

古縣浦、鬱陵島、粉補文、越、麻本作月。

興、申本麻本李等三本作延、江宋本作作。

暇、朴本作漢、宋本作等三本作、與申本作如。



陸地官道計之、撻三千四十六里、海浦出入迂回處、不能悉記。此後倣

文獻備考曰、韓陵島在蔚珍正東海中、與日本之隱岐州相近、而三峯岌業撐空、南峯稍卑、日清則峯頭樹木及山根沙渚、歷歷可見、風便二日可到、地方百里、產柴胡、藥本、石楠、藤草、諸香木、蘆竹多、合抱者、蘆實、桃核大、可爲杯、升、山、猫大如犬、鼠大如猫、海中有大獸、牛形、赤眸、無角、羣臥海崖、見人獨行、害之、遇人多走入水、名可之島、本于山國、新羅取之、後恐導倭爲寇、刷出

三、李等三本作四、摠作三千六百十五里。

韓、增補文獻備考作韓、

岐、原本諸本作歧、據增補文獻備考改。

杯、中本宋本作盃。

葉、宋本作葉。

所、大本脫、石佛、朴本作古佛。

居民空其地。高麗太祖庚寅、土頭貢獻、授使白吉爵、以土頭爲正朝、顯宗壬戌、島民被女真寇掠、逃來者多、處之禮州、爲編戶、德宗壬申、島主遣其子夫於仍多郎來貢、仁宗己未、溟州道首倉使李陽實入島、取葉核、木葉異常者以獻、毅宗己卯、王聞島中地廣土肥、可以居民、遣溟州首倉金柔立往視、欲復爲縣、回奏云、島有大山、自山頂東距海一萬餘步、西距海一萬三千餘步、南距海一萬五千餘步、北距海一萬餘步、有村落墟七所、破礎尙存、或有石佛、石塔、鐵鍾、地

多巖石，人不可居。遂寢其議。後崔忠獻以本島土壤膏沃，多珍木海錯，遣使移本郡民以實之。後屢爲風濤所盪，舟覆人多物故，因還其民。高元之際，本國叛臣李樞等告于元，以鬱陵島多珍惟之材。元遣使入島欲伐木以納。上表陳乞得止。本朝太宗朝，聞流民多逃入其島，再命三陟金麟兩爲按撫使，刷出。世宗二十年，遣縣人萬戶南顥率數百人往搜逋民，盡俘金丸等七十餘人而來。其地遂空。成宗二年，有告別三峯島者，乃遣朴宗元往見之。因風濤不

鬱陵島中本李本麻本宋本作

得到而還。同行一船泊鬱陵島，只取大竹大鯪

魚，回啓云：島中無居民矣。

輿地志云：鬱陵于山，皆于山國地。于山則

倭所謂松島也。光海七年，倭差船二隻，謂將探儀竹島

形止。且曰：島在慶尙江原之間。朝廷惡其猥越

不許接待，只令東萊府使朴慶業答書曰：足下

非不知此島之橫占，乃欲撓越窺覘，是誠何心

恐非隣好之道。所謂儀竹島，實我國之鬱陵島

也。介於慶尙江原海洋，載在輿地，焉可誣也。蓋

自羅麗以來，取考方物，逮至我朝，屢刷逃民，今

雖廢棄，豈可容他人冒居乎。前日復書，今復以前



之說往觀之前已 悉梗槩。貴島宜瞿然改圖。而  
 今乃直以解纜發船爲言。不幾於輕朝廷而昧  
 道理乎。貴島於我國往來過行。惟有一路。譬若  
 門戶。此外無論漂船。皆以賊船論斷。弊鎮沿海  
 將官。惟知嚴守約束而已。不知其他。惟貴島審  
 區土之有別。知界限之難侵。恪守信義。努力自  
 勗。免致謬戾。尙克有終。肅宗十九年。馬島太  
 守平義信押還漂民二口。貽書禮曹曰。貴域漁  
 氓行舟於本國竹島。極是不可到之地也。以故  
 土官詳諭國禁。今者復不顧國禁。漁氓四十餘

惟、麻本作唯。

賊、申本作改。

還、宋本作送。

極、宋本作即。

因、朴本作因。

民、朴本作氓。

思、麻本作想。

東、朴本作東。

遊、申本作遊、宋本作

口往入竹島。雜然漁採。由是土官拘留其漁氓  
 二人。安龍福爲質於州司。以爲一時之證。我因  
 幡州牧連前後事狀。馳報東都。蒙令被漁民附  
 與弊邑。以還本土。不佞想夫我殿下泛愛黎庶  
 無間遠近。既往不咎。惟緣鴻庇。二漁氓得還故  
 土也。此事所係非細。兩國豈可不思無妄之禍  
 耶。速加改令於邊浦。堅制禁條。隣睦悠久。一好  
 事也。答曰。弊邦海禁至嚴。制束海民。使不得出  
 於外洋。雖弊境之鬱陵島。亦以遼遠之故。切不  
 許任意往來。况其外乎。今此漁船敢入貴界竹

理、朴本作利。

島致煩欽送隣好之義實所欣感海氓獵漁以爲生理或不無遇風漂轉之患而至於越海深入法當痛懲今將犯人依律科罪是時接慰官洪重夏至東萊府傳授答書則差倭以爲只論竹島事足矣何爲以舉鬱陵耶譯官答曰所以明我國之亦嚴海禁也倭曰鬱陵島固知爲貴國地壬辰後爲日本所占據者貴國芝峯類說中不有之乎首譯朴再興曰類說中誠有之然此有大不然者壬辰之亂日本兵深入我境西至于平安北至于咸鏡大小沿海郡邑皆爲亂

于咸鏡于、朴本脫。

獨、申本作得。

占、宋本脫。

曹之下、宋本有於。

兵所據不獨鬱陵一島而已則豈可以壬辰亂兵所占據者爲言乎類說所論非所可援况文士一時漫筆何足爲明證二十年馬島太守平義信奉書禮曹曰向者貴國漁民往入本國竹島者回還焉回簡有鬱陵島名是所難曉也只冀除却鬱陵之名云云二十一年島倭橘真重上書於東萊以竹島設疑問四條二十二年馬島奉行倭平真顯等六人寄書於我國譯官卞宋兩人其一論竹島事其一論安龍福擅行事時廟堂諸議以爭一空曠之地以開邊釁爲不

朝、宋本作因。

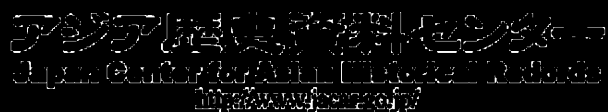
本、大本作干。

可獨領相南九萬以爲疆土受之。祖宗不可與之。乃曰：此島高麗得之於新羅，我朝得之於高麗，元非日本之地。以此往復不已。事遂寢。遣武臣張漢相往審島中，自是定爲法，每三年一送人觀其島，官給斧子十五，伐其竹若木，又采土物若干，納于朝以爲信。三陟營將及越松萬戶相逆入焉。初，東萊安龍福隸櫓軍，善倭語。肅宗十九年夏，入海漁採，漂到鬱陵島，遇倭船被拘，入日本五浪島。龍福言於島主曰：自鬱陵距我國一日程，距日本五日程，非屬我國者乎。

志、原本諸本作知、中本作地、據宋本改。

朝鮮人自往朝鮮地，何拘爲。島主知不可屈解，送伯耆州。州太守厚遇饋銀幣，龍福不受，曰：願日本勿復以鬱陵島爲辭，受銀非吾志也。太守遂稟關白，作書契授之，言鬱陵非日本界。行至長碕島，島主卽馬島之黨也，求見書契，出示之。奪不還，送龍福于馬島。時馬島主僞藉關白命，數以鬱陵島爭之，其實非關白意也。鬱陵饒魚竹，倭利其有，且差倭至，則國家待之豐厚，倭因此來往不止。至是，恐龍福盡發其奸狀，牢囚久之，押送東萊，又囚于館。前後九十日，始還。龍福

來往、原本作往來、狀、大本作訊。







在宋本作其

泊襄陽告于官且獻在伯耆時呈太守文以證前事諸從者一一納供如龍福言無異辭於是倭知不可復誑抵書萊府謝曰不敢復遣人至鬱陵是時事由龍福發故倭疾之以龍福行不由馬島為罪舊約有自馬島向釜山一路以外皆禁之文故也朝議皆以龍福罪當斬獨領敦寧尹趾完領中樞南九萬謂殺之適足快馬島憤且其人桀黠非碌碌者宜留為他日用乃流之倭至今不復指鬱陵為日本地皆龍福功也柳成龍答 皇朝將書曰東海一邊自慶尙左

道達于江原道自江原道達于咸鏡道皆傍海之地南海多島嶼東海無島嶼且水性悍急不利行舡故自前賊兵雖不無犯境之時而不常有之

南海之岸自慶尙道東萊南乃浦至全羅道光陽向

西乍轉而南自順天至海南其地多深沒雲臺者東

川則安骨新門也漆原則龜山也固梁及西則統營及所

非浦則晉州則末交也昆陽則露梁及西則統營及所

也則左水營古突山也與巖則全頭縣及海浦則蛇島蘭島

慶尙道東萊左水營釜山浦舊有倭館于草梁宗多大

浦與對馬島相對多有小城其名古置而但六紅藏甚於



去諸十港東去許十五里許絕影島與多阿館里對前洋去二十里順便有又

五里程之鳥路又則去西二十里許即水營古里又統去十五里

許有加沒天雲海菜又豆毛浦舊在釜山館肅宗六年右移於倭

皆有乞伊浦西平浦宣祖二十五年合屬風波傾大浦後

浦設於多大甘浦今丑山浦廢今漆浦廢今海雲浦廢今草梁

項在絕影島五六島觀之六列自西觀中自東

五唐將萬世德碑三峯對馬島自釜山離水路七百七十

我國故事並錄于左我

島中男子言語婦女衣服多類朝鮮其稱倭必曰日本日本人待之亦異內地民皆未嘗專以

順、大本作甚。

五、朴本作吉。

波、宋本作浪。

項、宋本作浦。

釜、李本宋本作釜。本地、朴本作本地。

在、宋本作其。紀、申、本、朴本大本作紀。

載、麻本宋本作在。

祖、朴本大本作宗。宋本作朝。

其、原作肆、據倭本改。

倭人自處也。瓠公以本島人仕于新羅，可見其為我地，其為彼地，未知在何世也。新羅本紀言：實聖王戊申，倭置營於對馬島。若本係倭地，則其置營不必載羅史也。本朝太祖五年，遣都統處置使金士衡都兵馬使南在征一岐對馬等島，明年正月還師。世宗朝遣李從茂率九節制使征對馬島。其後世祖宣旨諭對馬島人，若曰：對馬為島，隸於慶尚道之鷄林，本是我國之境，載在文籍，昭然可考。第以其地甚小，又在海中，阻於往來，民不居焉。於是倭奴之黜於

其國而無所歸者，載來投集，以爲窟穴，或乘時竊發，劫掠平民，攘奪錢穀，因肆賊殺，窮凶極惡，積有年紀。我太祖乃敷文德，載戢武威，示以恩信，懷綏之道。予承大統，克遵先志，雖或有草竊不恭之事，尙念都都熊瓦之父貞茂，慕義輸誠，每接信使，厚加勞慰，又念其生理之艱，許通興利商舡，慶尙道之米粟，運于馬島，歲率數萬餘石。予之用心，良亦勤矣。不意近者，忘恩悖義，自作禍胎，以取覆亡。若能幡然改悟，捲土來降，則其都都能瓦、錫之好爵，頒以厚祿，其代官等

稷、宋本作柔。

領、林本作須、宋本作領。

道、增補文獻備考作島。

因、中本作仍。

如平道全例，其餘羣小亦皆優給衣糧，處之沃饒之地，咸獲耕稼之利，計不出此，則捲土率衆歸于本國，亦其可矣。若其不歸本國，不降于我，尙懷草竊之計，因留于島，則當大備兵舡，厚載糧餉，環島而攻之。其必稚孩婦女，靡有子遺，陸爲烏鳶之食，水充魚鼈之腹也。中宗朝，黃衡因三浦之捷，謂此島本我舊地，仍欲進據，朝廷不許。

梁山黃山江

高麗以此江務安之龍津、光陽之水。

金海鳴

旨島

必在鳴南水路四十里，周七十里，將大雨，大旱，大風。



何聲	又遠	未最	知鳴	在坤	地島	為世	傳新	羅時	以此	島熊	川
加德	元宣	均祖	敗三	于十	年天	城浦	與一	加德	同安	骨浦	齊浦
仁倭	祖館	三年	廢有	為使	萬戶	昌原	節度	使舊	營置	行傳	元時
鎮本	折朝	都領	置節	度古	使營	四千	廢有	百人	留漆	原龜	山浦
德罷	十鎮	四年	復移	給加	鎮海	固城	三道	水軍	統制	營罷	在頭
右水	濟山	軍節	浦度	營本	於在	塔熊	川齊	浦後	移宣	祖於	昌原
三始	十兼	于統	移制	營三	浦五	辰年	李移	設本	為統	以巨	濟為
梁	舊在	以倭	累濟	入府	復玉	浦右	成宗	有二	浦有	二見	乃梁
欲知	島周	云六	〇此	十五	島當	有古	宮房	折基	受址	之破	事瓦

為宋本作于。實申本作城。

熊、原作應、據徐本改。祖、麻本作領。

累、李等三本作履。

吳、宋本大本作履。

疏、朴本作述。

疏論	以爲	艇索	青藤	肅專	出於	此不	蓮花	島有	日本	漂漁	來艇
巨濟	島海	永登	浦玉	浦宜	祖前	壬辰	李舜	臣大	三十	餘艘	艇于
加背	梁舊	十有	七年	移水	營于	固宣	祖三	知世	浦日	日本	國者
此候	馬風	向助	羅浦	粟浦	竹林	藏列	泊邑	處戰	紅沙	島高	宗時
舟賊	來寇	于縣	沙令	島陳	龍甲	適以	閑山	島周	相一	百五	里與
大於	此倭	柴川	島晉	州赤	梁泗	川晉	州昆	陽露	梁廣	今南	
海島	彌助	項曲	浦廣	尙州	浦今	觀音	浦辛	鄉地	領時	元師	
志於	倭于	此賊	之役	始不	得露	梁宣	祖二	破倭	于十	年李	舜河
全羅	光陽	蟾津	順天	左水	營成	舊有	朝禮	營萬	戶防	踏中	
害以	設僉	賊路	要古	突山	長生	浦柳	高麗	將時	倭入	寇至	是浦

倭于、申本作賊于。祖、李本麻本作朝。踏、大本之外語本作作。

押而。麻本作押以。

莫。中本麻本李等三本  
作影。

具。中本作日。宋本作  
册。

星。中本作王。子。增  
補文獻備考作主。

討。宋本作斥。

引去。軍士。金熬島。有松。獐島。于此朝。太宗朝。放。馴象。  
 大悅。作。歌。金熬島。有松。獐島。于此朝。太宗朝。放。馴象。  
 使人。以。則。聞。上。淚。且。啼。之。抑。其。時。而。觀。祭。樂。安。興。陽。蛇。渡。呂。島。鹿。島。  
 鉢。浦。損。竹。島。亡。宜。祖。二。十。年。鹿。島。死。於。萬。戶。李。大。源。統。與。倭。戰。  
 同。鳳。波。折。爾。島。有。松。寶。城。長。興。會。寧。浦。康。津。加。里。浦。莞。在。  
 倭。島。寇。要。路。宗。始。十。七。年。使。以。古。今。島。移。屯。於。此。島。募。民。屯。耕。  
 南。民。機。屬。肅。宗。之。遂。為。大。鎮。有。使。馬。島。薪。智。島。十。九。浦。出。  
 關。王。廟。兩。水。合。為。此。浦。仍。為。耽。津。耽。津。羅。靈。巖。於。蘭。浦。梨。  
 星。縣。子。朝。兩。新。水。合。為。此。浦。仍。為。耽。津。耽。津。羅。靈。巖。於。蘭。浦。梨。  
 津。達。梁。倭。李。於。慶。討。楸。子。島。高。麗。時。抄。于。此。  
 右。慶。尙。道。十。二。官。全。羅。道。八。官。以。陸。地。官。道。計。之。  
 摠。一。千。八。十。里。巨。濟。南。海。不。在。數。中。

西海之岸。南自海南。鳴洋之西。至扶安。向北。乍東。自  
 萬頃。至瑞山。向北斜進。自瑞山。向東折轉。至洪州之  
 大津。自水原。向北。乍西。至于通津。祖江之南。地之深  
 入海曲者。海南之右水營。及登山串。靈光之望雲。務  
 安之海際。洪州之興陽。泰安全郡。及郡之安興。梁南  
 北二面。瑞山之大山串也。

全羅道。海南右水營。笠巖。浦別珍。浦。李。捷。舜。臣。引。賊。莞。

島。所。分。二。百。九。十。里。當。北。一。甲。子。隅。分。屬。靈。巖。康。津。昔。有。黃。腸。

人。絕。則。徵。武。勇。絕。人。射。及。六。里。之。外。弓。燕。子。島。時。南。傳。京。麗。

待。使。而。不。渡。海。乃。時。留。燕。子。後。娥。入。於。島。中。期。以。燕。子。回。更。見。鳥。娥。笠。

宋、宋本作朱。石之下、  
宋本有上。



杜、李本藤本作社。

樂、原本諸本作平、據

增補文獻備考改、據

距、宋本作拒、謂、中

酒、宋本作沉、射、中

申本作討、

已、原本諸本作以、據宋

本改、據林本作沒、

址、麻本之外諸本皆作

址、爲、申本作謂、

境、申本作景、

黃、宋本作常、

公忠道舒川舒川浦高麗時稱長人巖相鎮善平章事杜英

過人焉老其人苟進英哲許諾之樂府有至平巖曲 庇仁都豆

音串倫世宗元年倭寇來此焚而兵倫射賊三志人願

爲見其父已墮水以藍浦保寧水軍節度營西勝湖洪州

結城洪州石串浦諸道漕船母山堂浦 紅太宗泊八年監倭

戰金訛與元山島營北舟冬經則山入去夏則軍還倉水挿是

島濟州鹿子世傳自島嗚呼島 城上遺世饒以爲格箭竹有古

海美瑞山平薪鎮安眠串小吐峰處環列甚溪洞麗甚有金沙

漁戶至雄黃青藤自北往來必道於此李之齒材需用甚多

山房留玩戲屢日因營營營營營營營營營營營營營營營營營

更山房留玩戲屢日因營營營營營營營營營營營營營營營營營

要兒梁水軍節度使分 波知浦今廢 大山串有鹽看月

鳥僧無最勝於此小庵人鄭臣保來泊神 古波知鳥波舊知

鳥今分廢 泰安興鎮所斤浦釜浦新羅水變爲王五

掘浦欲廢時以興通道甚險殆行累敗之多 發丁未夫

于南倉朝欲於掘浦輸北倉行兩倉之數兩亦漕廢稅納 安興梁

到水路累危敗人惡稱之難改行梁漕紅 白沙汀池中有大池有菜

牙滿作發菜味甚防香其 瑞山海美唐津唐津浦今難知

鳥古今廢 沔川大津浦洪州牙山貢稅串浦稷山平

澤

京畿水原大津浦西連大海遇風七丈峻巖卓絕號

萬機要覽 軍政編四 五六五

費、宋本作善、

戊、申本大本作守、

累、大本作屢、

危險、林本作險危、

香、申本作甘、

洩、李等三本作賜、

津、大本作漣、波、津

大、本、作、浪、



爲、林本作謂。

賽神令公舟人過此必香火祈禱故號陽城水原南

陽花梁舊爲水使營置使永宗仁川廣州安山仁川

德積島自一登州濟物海島至德蘇物烈者百濟時猿島中有神

祭春秋令親海濱行士也申島蘇烈于此富平金浦通

津德浦祖江江華海島月申鎮注文島草芝浦寅火堡

龍津濟物梁德津嘉陵浦上有嘉陵因號煤音島有廣博石

碑國人焉爲爲整臺肅宗朝遣金錫胃等審視島內浦邊

北西三十一

右全羅道十二官忠清道十四官京畿七官以陸

地官道計之摠一千六百六十二里濟州珍島江

德津、申本作德積、博、申本、厥本作博。

綱、原本諸本皆作珠、據增補文獻備考改。

華不在數中

西海之崖北自義州彌羅山之南向東至安州之老

江自老江之南向西南斜迤至長淵自長淵折向東

南至康翎康翎與白川相值而少北爲白川自白川

向東渡碧淵渡斜迤東南至于豐德祖江之北地之

深入海曲者長淵之長山中海州之黑頭甕津之底

作康翎之登山串也義州運糧浦宣廟於此駐蹕時漕運

運餉浦丙子後漕於此處轉輸時諸州龍川彌串鎮薪島

中自本島皆至此海十餘里有羊河口人家櫛比彼

風高則退守彌串鐵山宣沙浦清江大車牛島如形

別、宋本大本作祖。

綱、原本諸本作珠、據增補文獻備考改。



晉、李本麻本作當、林本  
作當。于、林本作於。

項、麻本大本作恒、增  
補文詳備考作出。

於、舟師、宋本並脫。  
塘、林本作唐。

錢、李等三本作越、曠、  
申本麻本作廣。

漢、林本作境。

若駕車之毛髮，森中多奇，嚴惟石鳥飛不下，入大加次。

里島，屯兵處，檓島，開府於龍，宣川身彌島，兵于龍屯。

郭山，龜城，定州，葦島，慶麗，此島方嘉山，博川，安州，老江。

肅川，永柔，順安，平壤，甌山，石多山，朝發，紅於，使臣，咸從，龍。

岡，三和，廣梁，要害，兩道，檓島，此島，時崔，入，龍岡，急。

水門，唐太宗，悍急，舟行，甚難，比之，皆於，壘，塘，入，焉。

黃海道，黃州，鐵和江，尼高，亦麗，恭，泊，于，此，賜，米，浙，江，不，章，火。

具外，赤，獻，仁，適，女，精，妻，之，鳳山，黃柄，串，野，曠，無，際，稻，田，最。

西，梧里，浦，倉，有，漕，載，寧，安，岳，絕，瀼，海，長，連，大，津，關，癸，未，宗。

商設，以，本，道，中，人，為，權，管，今，廢，禁，殷，栗，廣，巖，梁，豐，川，許，沙，浦，宗，中。

清、林本麻本李等三本  
作青。

餘丈、麻本宋不作餘尺。

回、申本麻本藤本作何、  
宋本作何。

漢、林本大本作舞。

代之下、大本有收、青、  
申本作請、次行、同、  
牛、宋本作牛。

屯、申本林本作此、蔡、  
原作慈、據證本改。

此行、宋本脫。

戶十移八年，清江，使萬碧達浦，來高麗，李恭愍王九年，紅巾賊兵。

送賊，貴林串，今廢，琵琶串，舊有，權管，禁，商，廢，檓島，椒，以，故。

神，有，長淵，白翎島，中，必，先，犯，越，吾，又，浦，助，泥，浦，長，山。

串，有，二，嚴，屹，一，立，數，十，丈，形，如，盤，瓊，巖，屹，二，石，長，百，餘，丈。

山，回，轉，北，舟，諸，行，邑，極，險，數，皆，與，載，今，收，長，大，串，梁，倉，有，軍，白，沙，汀，稱，今。

可，金，沙，白，病，沙，隨，風，為，峯，為，壑，北，海，有，棠，羅，生，其，中，有，濱，海，防，風。

多，國，犯，越，守，者，西，別，江，北，今，話，稱，邑，苦，灘，舊，有，倉，收，長，至，京，山，師，今，以。

以，錢，代，大，青，島，此，高，麗，所，忠，居，肅，王，基，四，年，流，有，亭，刺，牛，太，場，子，于，小。

青，島，設，正，宗，權，置，別，備，局，將，募，堂，民，上，鄰，食，已，始，未，建，屬，自，大，華，城，兩，島，並。

鎮，將，之，仍，作，以，自，辟，為，本，該，屯，府，支，校，之，中，雲，以，屯，監，周，年，正，鐵，五，輪，百，差，斤，收，稅，其。



納該府以補海州、甌津、所江五年有陸節使、肅宗、魏四

防府風高則住、所江、氏作浦、處北、戶富、盛泊、海州、康翎

登山串多湖、鹿則、千白、沙、爲、平、高、麗、辛、禍、欲、交、遼、之、地、古

西丁獵、海、託、茄、乙、浦、巡、威、島、山、一、名、登、海、州、龍、媒、島、延、平

島世、宗、朝、水、銀、真、珠、硫、磺、法、倭、螺、等、物、上、命、配、嶺、外、平、山、

延安角山浦燒、三、十、餘、艘、山、所、草、浦、山、公、私、達、京、船、皆、白

川

京畿開城府禮成江此、高、麗、朝、宋、禮、成、江、於、豐、德、祖、江、渡

昇天浦此、高、麗、太、祖、南、擊、珍、島、於、海、梁、鎮、仁、祖、七

西北、移、大、營、於、洋、要、月、害、處、與、江、華、爲、鎮、於、齒、之、地、設、京、畿、黃、海、

時、麻本大本作期、景、申本作住、  
頁、宋本作廷、  
託、李等三本作記、乙、申本之外諸本作上、  
檢、宋本作楚、  
船、麻本大本作浦、京、宋本作江、  
鎮、朴本作津、

公忠三、道、舟、師、統、禦、營、沿、海、各、營、長、峯、島、井、浦、喬、桐、梁、

右平安道十八官、黃海道十四官、京畿二官、以陸

地官道計之、揔一千六百八十六里、喬桐不在數

中、○東南西三海沿、凡一百二十七官、以陸地官

府相距計之、揔七千四百二十五里、東沿達于南

南沿達于西、西沿自南而北、由祖江達于京師、西

沿之起於北而南者、亦由祖江達于京師、以祖江

爲京師水路之都會也、○鴨綠江沿、自甲山、惠山

江而始、甲山三水廢、四郡江界、滑原理山、碧潼、昌

廢、宋本大本作仰、馳、原作他、其餘本改、  
師、宋本作婆、  
廢、原本麻本作廢、抹、餘本改、

併、諸本皆作井或此。

海防

海島開發之論  
日本相通海路

通文館志

五七二

城朔州義州。

右、咸鏡道二千三百三十三里。平安道七百三十三里。併廢頭四百餘里。

豆滿江沿自茂山三山社而始。茂山會

寧鍾城穩城慶源慶興。右、咸鏡道六百三十三里。社至白頭四百餘里。

三山源出處

兩江沿總三千六百七十三里。自鴨綠江上流惠山

江東至豆滿江上流其間一百二十里。○三海沿兩

江沿揔一萬一千二百十八里。

高麗辛禰十四年西海道觀察使趙云乞上書

曰我國界自西海至楊廣全羅至慶尙海道幾

二千餘里有水中可居之地曰大青小青喬桐

紀、申本作記。已、林本作也。

道、朴本作路。

江華絕影南海巨濟等大島二十小島不可勝

紀皆有沃壤魚鹽之利今廢而不資為可歎已。

宜於五軍將帥八道軍官各給虎符金牌以小

大海島為其食邑傳諸子孫則人人誰不各自

為戰乎各自為戰則戰艦自備兵糧自資而為

遊兵出其不意擊之賊不敢窺覷民得以富庶

日本相通海路

通文館志自釜山永嘉臺下發舡至佐須奈浦四百八十里。

鰐浦三十里。鴨瀨一百九十里。對馬島自府中

浦七十里。一岐島四百八十里。藍島三百九十里。諸山筑前州際地

萬機要覽

軍政編四

五七三

新 家 地	赤 間 關	則 後	州 峰	室 隅	忠 海	室 津	石	陽 州	路
冷 臺	有 二 百 三 十 四 里	舟 路 之 而 行 甚 少 於 有 涉 洋	斗 山 起 百 餘 一 復 而 正 與 至 向 島 則 相 對 州 水 盡 勢 而 甚 急 海 南 茫 茫	一 百 二 十 里	一 百 里	一 百 里	一 百 三 十 里	八 州 自 四 河 州 口 皆 抵 山 此 出 一 大 里 都 會 山	倭 京
津 其 津 七 里	海 十 里	向 浦	向 浦	上 關	下 津	兵 庫	大 坂 城	江 戶	江 戶
倭 言 新 家 地 博 多 同 音 鄭 亦 周 到 遊 此	極 險 號 為 難 渡 自 赤 間 關 之 以 間	地 一 百 八 十 里	地 一 百 八 十 里	十 里	二 百 里	五 十 里	一 百 三 十 里	八 十 里	以 上 水 路 三
與 博 多 同 音 鄭 亦 周 到 遊 此	馬 島 赤 間 關 之 以 間	過 百 八 十 里	州 水 盡 勢 而 甚 急 海 南 茫 茫	十 里	二 百 里	十 里	一 百 三 十 里	二 百 里	以 上 水 路 三

五十一、申本李本麻本宋本  
諸本或作五千大坂之坂  
不舉

記、李本藤本作紀。

漢、宋本作刊。

千二百九十里陸路一千三百十里。

倭記倭與朝鮮隔五大海名四千里若逢大小  
汛風五六日可至自釜山越一大海即馬島自  
馬島東越一海即一岐島盡日可渡南距平戶  
島稍近一岐而風浪甚惡西距豐崎陸行二日  
航行便風一日櫓行二日自豐崎西距海面只  
半日風自一岐越一海得長山大關市即長門  
州之下關也又越一海沿岸而行得大關市即  
周方州之下關也又越一海即伊預州之長崎  
方舍舟登陸至大津城。



金世濂記自釜山至馬島北風爲正順正西西北間風爲艫前風東北間風爲艫後風自馬島至上關至大坂西風爲正順西南間風爲艫前風正北西北間風爲艫後風自大坂至上關東風爲正順正北東北風爲艫前風正南東南風爲艫後風自上關至一岐東北間風爲正順東風北風爲艫前風東風東南間風爲艫後風自一岐至馬島東南風爲正順東風北風爲艫前風南風爲艫後風自馬島至釜山東風爲正順南風西風爲艫前風自釜山至鰐浦盤針向

巳午間鰐浦至府中浦向卯辰間自府中至藍島向辰巳間自藍島至上關向卯自上關至津和向寅自津和至鎌刈向子自鎌刈至向島向卯自向島至下津向丑寅間自下津至牛窓向寅卯間自牛窓至室津向丑寅間自室津至河口向寅卯間自河口至大坂向子旱路則自倭京至江戶向寅卯間箱根嶺以後又向丑寅李恒福曰庚寅秀吉縛送五島賊倭之屢寇我邊者復刷還我民被虜百餘口其中金大璣孔太元二人頗伶俐解文字自言擄在五島能言

其島頭會所爲土地肥瘠人民多少風俗形勢甚詳。又於乙未丙申以楊册使接伴往來海上。每見諸將及邊民引問海上形勢。五島在馬島之右。地小土瘠。戶不滿千。民無恒業。販賣爲生。出沒寇邊。比諸倭尤甚。平時零賊竊發於我邊者太半。此島之倭。其入寇之路。自五島得東南風。至三島經宿。過仙山島。直抵古今島。加利浦等處。自對馬島得東北風。至蓮花欲智兩島之間。經宿直抵南海彌助防踏等處。此其入寇全羅之熟路。而其間水路懸遠。不能朝發夕至。必

利、大本李等三本作里。

蹟、諸本皆作踏。

與、原本諸本作更。據申本林本改。

山之下、宋本有島。

唯、申本林本作惟。

倚、林本作依。

須經宿洋中島嶼。而風無連日之候。故賊舡停泊於洋中。翌日風若不順。又須與候順風。而所謂蓮花欲智。政與慶尙右水營烟臺。通望無礙。賊舡去來。了了指數。故五島之賊。過三島仙山。而犯古今島者。常出於不虞。馬島之賊。過蓮花欲智。而犯南海等處者。常爲我覺。唯是自馬島抵釜山。得正東風。則一帆便到。而釜山之倚。以爲勢者。只有右水營。右水營與馬島向背異勢。故風之順逆。亦隨而別。賊乘順風。而向釜山。則在水營反爲逆風。又况沒雲海雲兩臺之下。巨

浪湍悍行舡不便猝遇警急難以相救故今之爲賊計者零星散漫意在寇掠出沒竊發者湖南爲可虞如以大軍要從坦道意在攻陷者則嶺南爲受賊之門戶宜以舟師大將設於釜山分餘兵扼見乃之口據古今之面方爲長策金世濂曰今之論倭者徒知陸戰不念逆擊于洋中若下陸則難制矣左水使每以三月入防釜山謂之風和八月以後謂之風高罷防統營去釜山三日程賊若乘風張帆是爲我舡之逆風七浦前則疊入釜山今則四浦移入水營釜

矣、大本作也

山日就無形使國無南顧憂則已若或有警將何以稅駕議者謂統營舡隻當盡入防釜山此則不可薩摩州正當我全羅道地方古之設鎮本意大將居全慶兩道之間兼統下三道水軍全羅忠清有變則督慶尙以左水軍進戰慶尙左道有變則督全羅以右水軍進戰今乃盡移之釜山賊從他道出則孰能禦之賊欲出東萊則必由沒雲臺草梁項欲出晉州順天興陽等地必由加德前洋加德多大浦去釜山一日程去統營二日程爲今計者令統營中軍入防于



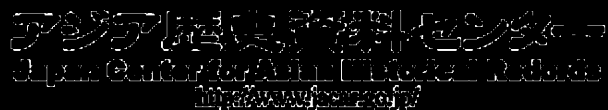
倚 申本大本作倚

加德若釜山告急則可一日進若犯晉州以南  
賊則可擊之洋中統使兵使相爲倚角統使戰  
于海兵使戰于岸使不得下陸庶乎其少可矣

舟師

我國三面環海羅麗以來屢被海寇沿海之民生長  
習水善於使舟歷代用舟師多取勝羅有百船將軍  
之號麗有戰艦都監之名舟師定制至麗末而始備  
本朝 太祖丁丑幸龍山江觀兵船世宗己亥命  
李從茂等發三南兵船二百餘艘舟師一萬七千餘  
人討對馬島大獲而還 世祖乙酉始置兵漕船以  
申叔舟爲典艦司提調博觀唐倭琉球等國船體折  
衷爲船謂之兵漕船分作大中小以戰於上漕於  
漕運一船而有兩用又虛諸所造船體不一而去水諸  
高下船腹闊狹分送諸浦所造船體不一而去水諸

施上、麻本李等三本作  
施上



觀、麻本作朝。

道漕船到楊花渡，叔舟請分左右隊，爲水戰之形，以觀行船便否，親臨觀之。宣祖癸巳，以李舜臣爲三道慶尙、全羅、忠清統制使，置統制營于固城，此爲嶺南湖。南湖西舟師之所統也。仁祖癸酉，置三道京畿、忠清、黃海統禦營于喬桐，此爲畿甸海西湖西舟師之所統也。關西關北監司皆兼水軍節度使。

觀、麻本作朝。

領、中本麻本李等三本

宣祖壬辰，李舜臣爲全羅左水使，率舟師擊倭，大破之。先是，倭費已啓，舜臣鍛戈鎔鎖，以待不虞，創智作大船，狀如伏龜，名曰龜船。其制船上覆以木板，悉以前後左右各六，以放足處。前設兵器，其底遇賊則縮，穴

兼、中本作龜、尾、中本作以。

豐、麻本作多。

滄、朴本作賴以下倣之。

滿之下、朴本有則、于、朴本脫。

黃、麻本作蒼。

海、宋本作蒼。

覆刀，以掩掩刀，而爲先鋒。賊欲登船，則陷於鏑。上欲來掩，則一時鏑發，以收績者甚夥。肅宗乙未，命審諸鎮船滄便否，改戰艦諸制。舊制，慶尙、左、水、使、且、沿、海、船、滄、非、潮、宜、滿、無、以、長、移、動、詢、于、諸、道、慶、尙、左、水、使、且、沿、海、船、滄、非、潮、宜、滿、無、以、長、移、動、詢、于、各、鎮、無、軍、防、爲、實、一、樂、安、兩、咸、邑、船、滄、不、便、右、水、使、舒、使、川、韓、以、山、林、川、平、營、戰、船、一、治、不、便、及、注、文、船、可、改、爲、防、船、爲、京、畿、防、船、水、使、給、西、則、多、海、路、與、故、南、各、邑、不、同、船、且、皆、無、已、改、材、作、防、船、他、吾、道、又、許、船、移、宜、兩、鎮、改、作、戰、防、船、登、山、之、從、猛、之、船、並英宗庚申，始創海鷗船，置于全羅左水營。其制，頭大，後小，如鷗形，舷上左右置浮板，象其兩翼，不以畏風，甚輕疾，內能窺外，外不能窺內，櫓軍射手皆可以隱身，而搖櫓射放。

而、宋本脫。射放、大

壬辰亂後各道大中、小猛諸船之名變爲今戰防兵等諸船咸鏡、江原道諸船並減。

統、李本麻本作通。

三道統禦使一、兼京畿水使中軍一、守城把摠一、哨官四、

旗牌官三、軍官一百二十八、束伍四哨、標下軍二百

五十、戰船二、龜船一、防船一、兵船四、伺候船八、汲水

船三、船將七、先鋒將二、船監官一、軍器監官四、知鼓

官四、旗牌官二十五、捕盜官十五、教師一、別破陣四、

射手一百十八、砲手一百五十九、標下軍三百二十

四、格軍三百六十三、能櫓軍九十七、防水軍八百七

十六。各邑。

水、申本李本麻本宋本作軍。

京畿水營屬鎮、德積、防船一、兵船一、報警船二、伺候

船二、汲水船一、花梁、戰船一、防船一、兵船一、伺候船

一、汲水船二、注文、戰船一、防船一、艇舩船一、卜物船

一、伺候船二、汲水船二、德浦、防船二、兵船一、伺候船

三、長峯、防船三、艇舩船一、伺候船二、汲水船一、合、戰

船二、防船八、兵船三、伺候船十、報警船二、艇舩船二、

卜物船一、汲水船六、將卒並一千七十五、防水軍二

千四百七十五。各邑。

防禦營、永宗僉使兼御營統禦營、東伍八哨、標下軍九

十四、防船二、兵船二、艇舩船一、汲水船三、將卒並二

防禦營、宋本作防禦使。

一、李等三本作二。

雜補文獻備考作頁。

百九十八、防水軍二百十四。各邑。  
 三道統制使一。兼慶尙右水使。虞候一、山城、中軍一、千搃二、把搃四、雉搃六、哨官十九、城長十九、知穀官七、旗牌官五十、都訓導六、火炮監官二、城丁軍四百四十、親兵十六哨。各邑。牙兵三哨。各邑。標下軍六百五十四、僧將一、僧軍四十二、戰船三、左右別船二、龜船一、左右防船二、兵船七、伺候船二十一、待變軍官一百四十、船將十二、捕盜將十四、砲手把搃一、把守別將二、知穀官六、旗牌官二十、都訓導十六、監官十八、別武士兼假倭將二十九、射夫一百七十四、火炮手一百五十、

砲手二百、舵工七、沙工一百四十四、假倭軍七十五、攔後兵四十一、能櫓軍八百四十一、船庫直六十九、中營將卒並三百八十六。  
 慶尙右水營屬邑鎮、昌原、戰船一、兵船一、伺候船二、晉州、戰船二、兵船二、伺候船二、金海、戰船一、兵船一、伺候船二、河東、戰船一、兵船一、伺候船二、巨濟、戰船二、兵船二、伺候船四、昆陽、戰船一、兵船一、伺候船二、固城、戰船一、兵船一、伺候船二、南海、戰船一、兵船一、伺候船二、鎮海、戰船一、兵船一、伺候船二、泗川、龜船一、兵船一、伺候船二、熊川、龜船一、兵船一、伺候船二、

加德戰船二、兵船二、伺候船四、彌助項戰船一、兵船一、伺候船二、赤梁戰船一、兵船一、伺候船二、龜山戰船一、兵船一、伺候船二、知世浦龜船一、兵船一、伺候船二、齊浦龜船一、兵船一、伺候船二、玉浦龜船一、兵船一、伺候船二、平山龜船一、兵船一、伺候船二、永登戰船一、兵船一、伺候船二、唐浦戰船一、兵船一、伺候船二、蛇梁龜船一、兵船一、伺候船二、安骨龜船一、兵船一、伺候船二、助羅浦戰船一、兵船一、伺候船二、天城龜船一、兵船一、伺候船二、加背梁龜船一、兵船一、伺候船二、栗浦戰船一、兵船一、伺候船二、三千龜船

水、李等三本作守。

一、兵船一、伺候船二、新門戰船一、兵船一、伺候船二、南村戰船一、兵船一、伺候船二、舊所非龜船一、兵船一、伺候船二、晴川戰船一、兵船一、伺候船二、長木浦戰船一、兵船一、伺候船二、合戰船二十四、龜船十二、兵船三十六、伺候船七十、將卒並八千六百三十八、營鎮防水軍共二萬二千九百三十二、保九千二百、先後運射夫五千八百四、添格射夫二千五百三十二、差備軍一百、良、餘、保、五十、各、邑、  
慶尙左水使一、虞候一、營、舊、在、巨、濟、今、在、東、萊、戰船三、龜船一、兵船五、探船一、伺候船十一、待變軍官一百、船將八、

標、宋本無本作砲。

船監官二、軍器監官一、知教官六、旗牌官七十、都訓  
 導五、教師二十、射夫一百三十二、砲手一百五十六、  
 標下軍一百九十一、舵工二十五、繚手八、旋手八、能  
 櫓軍五百七十五、攔後兵四十一、船庫直六。  
 屬邑鎮、蔚山、戰船一、兵船一、伺候船二、機張、戰船一、  
 兵船一、伺候船二、釜山、戰船一、龜船一、兵船一、伺候  
 船四、多大浦、戰船一、龜船一、兵船二、伺候船四、西生、  
 戰船一、兵船一、伺候船二、包伊、戰船一、兵船一、伺候  
 船二、豆毛浦、戰船一、兵船一、伺候船二、開雲浦、戰船  
 一、兵船一、伺候船二、西平、戰船一、兵船一、伺候船二。

合、戰船九、龜船二、兵船十、伺候船二十二、將卒並二  
 千六百九十六、營鎮防水軍共一萬四千四百四十、保四千二百  
 七、添格射夫九百一十一、先後運射夫三百一十二、差備  
 軍一百一十一、保、良、餘炭射夫五百二十八、炭匠一百八  
 十、把任末保一、八、十、  
 六、○以上、並在、各邑。

射手、朴本作射夫。

公忠水使一、虞候一、戰船二、龜船一、防船一、兵船二、  
 伺候船七、梭船八、待變軍官一百七十、船將二、知教  
 官七、旗牌官二十、捕盜官八、教師六、訓導四、火炮教  
 師四、射手九十、砲手一百四十一、標下軍一百六十  
 二、舵手九、繚手六、旋手六、舞上三、能櫓軍四百二十

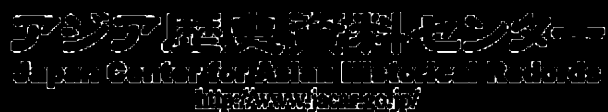


四、防水軍三千二百九十七各邑。新選二百七十各邑。輪  
 防校卒二百九十各邑。  
 屬邑鎮。洪州、龜船一、防船一、兵船一、伺候船三。韓山、  
 防船二、兵船一、伺候船二。舒川、防船二、兵船一、伺候  
 船二。沔川、防船一、兵船一、伺候船一。瑞山、龜船一、防  
 船一、兵船一、伺候船三。林川、防船二、兵船一、伺候船  
 二。泰安、龜船一、兵船一、伺候船二。結城、防船一、兵船  
 一、伺候船一。保寧、防船一、兵船一、伺候船一。藍浦、防  
 船一、兵船一、伺候船一。庇仁、防船一、兵船一、伺候船  
 一。海美、防船一、兵船一、伺候船一。唐津、防船一、兵船

一、伺候船一。平薪、防船一、兵船一、伺候船二。安興、龜  
 船一、防船一、兵船一、伺候船三。所斤、戰船一、防船一、  
 兵船一、伺候船三。馬梁、戰船一、防船一、兵船一、伺候  
 船三。舒川浦、戰船一、兵船一、伺候船二。合、戰船三、龜  
 船四、防船二十、兵船十八、伺候船三十四。將卒並三  
 千九百十四。防水軍三千七百四十九各邑。新選五百  
 四十各邑。

全羅左水使一、虞候一、戰船四、兵船五、伺候船十一。  
 待變軍官一百七十、船將七、知殼官二、旗牌官六十、  
 捕盜官八、訓導九、火炮教師一、火炮手四十、射手一

射手、朴本作射夫。



從、中本藤本作院。

百五、砲手一百四十六、標下軍四百八、舵手二十四、  
 繚手八、椀手八、舞上八、船直四、能檣軍六百七十三、  
 入防軍四千一百四十五、各需用軍八百、各軍需軍  
 一百五十、各  
 屬邑鎮長興、戰船一、兵船一、伺候船二、順天、戰船一、  
 防船一、伺候船二、寶城、戰船一、兵船一、伺候船二、樂  
 安、戰船一、兵船一、伺候船二、光陽、戰船一、兵船一、伺  
 候船二、興陽、戰船一、兵船一、伺候船二、蛇渡、戰船二、  
 兵船二、伺候船四、防踏、戰船二、兵船二、伺候船四、會  
 寧浦、戰船一、兵船一、伺候船二、呂、島、戰船一、兵船一、

伺候船二、鹿島、戰船一、兵船一、伺候船二、鉢浦、龜船  
 一、兵船一、伺候船二、古突山、戰船一、兵船一、伺候船  
 二、倭船一、合、戰船十四、龜船一、兵船十四、防船一、伺  
 候船三十、倭船一、將卒並三千六百十五、入防軍七  
 千九百十、各募軍一百。  
 全羅右水使一、虞候一、戰船二、龜船二、防船一、兵船  
 三、海鶴船一、伺候船八、待變軍官一百七十、船將七、  
 布告官二、將校二十八、知設官六、旗牌官二十五、教  
 師八、捕盜官八、訓導六、射手一百十六、火砲手四十  
 二、砲手一百四十、標下軍二百四十六、舵手二十一、



控、藤本作記

舞上九、繚手八、椀手八、船直八、能櫓軍五百四十六、  
 入防軍三千五百三十各、需用軍六百各、  
 屬邑鎮、羅州、龜船二、兵船二、伺候船四、靈巖、戰船一、  
 兵船一、伺候船二、靈光、戰船一、兵船一、伺候船一、珍  
 島、戰船一、兵船一、伺候船二、務安、戰船一、兵船一、伺  
 候船二、海南、戰船一、兵船一、伺候船二、咸平、戰船一、  
 兵船一、伺候船二、法聖、戰船一、兵船一、伺候船二、古  
 翠山、戰船六、兵船六、防船二、伺候船十、加里浦、戰船  
 一、龜船一、兵船二、防船一、伺候船四、古今島、戰船一、  
 兵船一、伺候船二、臨淄、戰船一、兵船一、防船一、伺候

賀、宋本作知

船二、翠山、戰船一、兵船一、伺候船二、蟬島、戰船一、兵  
 船一、伺候船二、荏子島、戰船一、兵船一、伺候船二、馬  
 島、防船一、兵船一、龜船一、伺候船二、薪智島、龜船一、  
 兵船一、伺候船二、倭船二、黔毛浦、戰船一、兵船一、防  
 船一、伺候船二、多慶浦、戰船一、兵船一、防船一、伺候  
 船二、木浦、戰船一、兵船一、防船一、伺候船二、於蘭、戰  
 船一、兵船一、防船一、伺候船二、南桃浦、戰船一、兵船  
 一、防船一、伺候船二、金甲島、戰船一、兵船一、防船一、  
 伺候船二、梨津、戰船一、兵船一、伺候船二、智島、戰船  
 一、兵船一、伺候船二、格浦、戰船一、兵船一、防船一、伺

候船二。蟾津戰船一。防船一。伺候船二。合戰船二十九。龜船五。兵船三十三。防船十三。伺候船六十五。倭船二。將卒並七千四百四十三。入防軍一萬三千九百五十。各無防四鎮。新智島古今島輪番軍一千一百十四。

黃海道水使一。中軍一。守城將一。城將四。千搵二。把搵四。哨官八。旗牌官六十三。軍官一百三十。別武士五十一。牙兵二。哨標下軍一百十。戰船一。防船三。兵船一。小猛船一。挾船二。艍船五。追捕官船十二。追捕船十八。別抄軍官二百。捕盜官一百。待變軍官一

百。射夫軍官九十。補軍軍官一百。陪持軍官五十。旗牌官八十。別武士三百。大砲手十。砲手八十三。標下軍一百九十一。能櫓軍三百十七。水軍一千二百八十四。追捕船將一。兵房二。武士六百九十。沙格四十九。

屬邑鎮。瓮津防船一。挾船一。豐川防船一。挾船一。追捕船二。許沙防船二。兵船一。挾船三。追捕船三。椒島防船一。兵船二。挾船三。伺候船一。殷栗防船一。挾船一。長淵防船二。兵船四。挾船四。追捕船六。吾叉防船二。兵船一。挾船三。助泥防船一。挾船一。伺候船一。追

船制、李本麻本藤本作  
居力。

船制、李本本麻本藤  
本作居力。

船制、李本麻本藤本作  
居力。

捕船一。白翎戰船一。防船一。兵船二。艍船四。長連  
 防船一。挾船一。康翎防船一。挾船一。登山防船二。兵  
 船一。艍船三。小船一。安岳防船一。挾船一。海州防  
 船二。挾船二。追捕船一。龍媒防船二。兵船一。挾船三。  
 延安防船一。挾船一。白川防船一。挾船一。合戰船一。  
 防船二十三。兵船十二。追捕船十三。挾船二十七。伺  
 候船二。艍船七。小船一。將卒並三千三百二。僧將  
 一。僧軍二百九十八。  
 平安道防禦使。三和府  
使兼。  
 屬鎮。廣梁防船二。兵船二。汲水船三。募船一。老江防

清、麻本作音。

船一。兵船一。汲水船一。伺候船一。瞭望船一。合防船  
 三。兵船三。汲水船四。募船一。伺候船一。瞭望船一。將  
 卒並八百三十五。  
 宣沙浦。清北防船二。兵船一。汲水船五。軍需船一。將卒  
 並五百三十二。  
 咸鏡道造山萬戶。爲水軍將。  
 戰船改造改製年限  
 統營戰防兵船八十朔。而追限二十朔。合一百朔後  
 改造。慶尙左水營戰防兵船六十朔。而追限二十朔。  
 合八十朔後改造。以上船皆用  
鐵釘。無改製。湖南左右水營戰防







國朝寶鑑。世宗丁巳，璽書密諭咸吉道節制使金宗瑞曰：初富居慶源之民，告于朝曰：古慶源之地宜牧農，且有江易守，請遷居之。又有言者曰：古之爲國者，務廣其地，公嶮鎮以南不可棄也。癸丑之冬，適有兀狄哈破殺管禿父子，而斡木河無酋長矣。時議者之言曰：疆域不可棄也，機會不可失也。宜沿江設鎮，高其郭郭，多其軍民，以耕以守。若大明或別有處置，則後悔無及。前者孔州之城，高不過身長，民居不過四百戶，猶能守數十年。今日之計，必無所慮，但後世綱紀緩弛，邊將非其人，是可慮也。雖然，季世破敗之

事，豈惟邊境而已，亦不足論也。議者曰：龍城要害之地也，以爲關塞，則我可以高枕而臥，則又不然。龍城以爲塞，則野人之居亦以龍城爲限，吉州以爲塞，則野人之居亦以吉州爲限，無有窮極也。况龍城之南，入寇之路非一二。予之取舍本末如此，卿所知悉也。不意初年大雪，次年大疫，人口頭畜多物故矣。去年賊變，被虜被殺亦不少矣。雖然，予猶以爲成大事者，不計小害。然今之備賊，非昔日之比也。賊不來則已，來則必千萬爲羣，恣行無忌。若欲但守城砦，勿與之校，則後日之禍無窮矣。雖然，近來告賊變者紛紜，無

理、宋本作勢。門、大本作開。

歲無之聽之者以為虛言則固不可也。以為實言而不論四時發兵南道不減千數不及十年財力竭矣。民生困矣怨怒逃散必然之理也。予深居九重北門之事遙度而已未詳其實也。卿於此事慮之熟矣。卿其商度利害宗瑞密為書以啓曰高麗始祖力能統合三韓威不及於朔方只以鐵嶺為界其在睿宗謀臣聘智誘翦戎醜遂置九城然旋得旋失太祖天縱聖武起於朔方奄有大東南盡于海西北抵于鴨綠東北至于豆滿爰置孔鏡吉端青洪咸七州誠東方闢國以後未有之盛業也昇平日久守臣失禦鏡

姑、林本之外諸本皆作始。

城以北陷為賊藪。太宗軫念姑置慶源於富居微示復舊之意其攘斥夷狄恢復土疆是在聖上繼述耳。曩者在朝羣臣獻議曰蹙慶源於龍城則北方措置得宜而民弊盡去矣。聖上以為祖宗所守雖尺地寸土不可棄也固執以為不可不從羣議厥後其議復起喧囂不已乃令微臣往議大臣加置北鎮于石幕以定界域臣今在北方無處不見無言不聞富居石幕皆非限域之處龍城亦非關塞之地議者曰龍城如秦之函谷阨險無比若守於此則胡人不敢向我而售姦我民可以安枕而肆志矣是大不

姦、大本李等三本作奸。



然無水可阻。何以設險。無山可據。何以爲固。眞所謂四散四戰之地也。若以四邑要衝。宜作大鎮。以爲主將之所。以爲四邑之援。則然矣。倘如議者之言。以龍城爲界。猶未免侵憑之患。則後之議者。必以磨天嶺爲界。而又未免則乃以鐵嶺爲界。而後已。前朝之事。可鑑矣。臣又聞歷代帝王。莫不重肇基之地。漢之於豐沛。唐之於晉陽。蓋可見矣。棄先祖之地而不守。忘肇基之地而不復。則謂之肯構肯穫。而謂其有後乎。善繼善述。而承其前烈乎。抑以龍城爲界者。有一不義二不利。蹙先祖之地。一不義也。無山川之險。

限、中本麻本李等三本作界。

耳、藤本作也。

以、宋本作而。

戍、宋本作守。

一不利也。無守禦之便。二不利也。以豆滿爲限者。有一大義二大利。復興王之地。一大義也。據長江之險。一大利也。有守禦之便。二大利也。然則欲以龍城爲界者。偶未之思耳。初年之雪。雖云大矣。而頭畜不甚斃。損次年之疫。雖曰大矣。而人民不甚死亡。若如議者之說。則農牛戰馬。從何以出。軍卒之多。餘丁之衆。尙不減於舊額。又何歟。其說之過情。不待明者而可知也。今日之建四邑。專以藩屏北方也。今日之築城郭。專以鞏固藩屏也。今日之戍邊圉。亦欲禦賊而安我民也。然則今日之事。非可已不已而輕用民力也。

音之下、宋本有者。

唯、大本李等三本作惟。

非好大喜功而窮兵黷武也。夫民至愚而神，豈不知此意。民有與臣言曰：會寧慶源，今已築城矣。所當築者，唯鍾城與龍城耳。惟此二城既築，則我輩無憂矣。信斯言也，其他庶民之心從可知矣。去年慶源之禍，可謂慘矣，而民無懼色，散者聚，逃者復，力農安業，無異平日。以今日之事觀之，後日之効死勿去，可期也。或不勝銳氣，自出赴敵，能斬賊首者有之。以往日之勢考之，異日之親上死長，亦可期也。以慶源一邑之事推類，則三邑軍民之心槩可想矣。臣久在北方，熟觀野人之情，雖父子兄弟之間有欲則相殘相害，

敵、申本宋本大本作賊。  
賊、藤本作寇。

無異仇敵。縱使日費千金，難以結其心。或結之以利，

利盡則又肆其毒矣。莫若外示懷綏之惠，內修備禦

之事，則我勢自強，彼勢自屈，以自強之勢，乘自屈之

隙，則可以得志矣。臣之欲汲汲於築城郭，繕甲兵，訓

士卒，蓄糧餉者，良以此也。若城郭完固，甲兵堅利，士

卒訓練，則四鎮之人，足以自守自戰矣。奚待他兵之

助。其賊變之永息，賊心之永服，難以預料也。臣又聞

善人爲邦百年，可以勝殘去暴。是雖善人，未百年則

不可以言治。何況新邑之設，未十年乎。何可以一事

之得，一事之失，遽爲憂喜也。伏望 聖上不求速成，

訓、原本諸本作資、據  
國朝實錄改。

甲兵、宋本大本作兵甲。

突、申本作何。

賊變、賊心之賊、藤本  
作寇。

計、原作許、據倭本改。

不貴小利、不計小弊、不慮小患、積以歲月、持之悠久、則浮言自息、民心自定、民弊自去、民怨自絕、民食自足、兵力自強、寇賊自屈、新邑永固矣。然臣之所言、似不可盡信。初年之雪、言者以爲頭匹盡死、臣則以爲不然。次年之疫、言者以爲人民幾盡死亡、臣則以爲不然。朝議多以彼爲直、以臣爲曲、指彼爲忠、指臣爲邪。臣於是時痛心固極。以今觀之事、各有迹、卒不可掩、未知孰爲忠、孰爲邪、孰爲公、孰爲私、公私之分、忠邪之辨、唯在聖鑑之明耳。自古在外建事之臣、必遭讒謗、不能脫禍者多矣。前朝尹瓘、蓋其一耳。以巨室

忠之下、公之下、宋本有而。

唯、大本李等三本作能。

能、李等三本作得。

大功幾乎未免。况臣尺寸之功、又無建事之才、而所爲多舛、寧不寒心。上卽遣中官嚴自治、慰諭曰、今見卿書、北方之事、予無憂矣。賜御衣一襲。



至此審視西爲鳴綠東爲土門故於分水嶺上勒石爲記。○輿地圖分界江在土門江之北江名分界則定界碑當豎於此。且碑文旣曰東爲土門則亦當豎於土門之源識者歎其無一人爭辨坐失數百里疆土云。昔尹瓘拓境至速平江遺碑尙在。至金宗瑞以豆滿江爲界國人猶恨不能以尹碑爭執爲奉命者之失。

洪世泰白頭山記曰白頭山北方諸山之祖也清祖自此起去我北邊三百餘里彼曰長白山我曰白頭山兩國以山上二江爲界然地極荒絕蓋莫得而詳

廢宋本蘇本作疑

焉壬辰春三月清主遣烏喇總管穆克登與侍衛布蘇倫主事鄂世往觀白頭山畫定邊界朝議多疑廢四郡不復爲我有而或以六鎮爲慮判中樞李某獨建議曰此當分白頭山頂地一半爲界遣接伴使朴權本道巡察使李善溥逆于境同往審卞金慶門以善譯從四月辛巳與克登遇於三水之蓮淵從胡可數十百人馳馬二百餘匹牛二十餘頭戊子克登與筆帖式蘇二昌大通官二哥家丁二十人馳牛馬四五十匹夫四十三人及我接伴使軍官李義復巡察使軍官趙台相居山察訪許樑羅暖萬戶朴道常

碑、中本作偶。

譯官金應濂、金慶門、導者三人、斧手十人、馬四十一匹、夫四十七人、同上山。而使布蘇倫、鄂世率其餘人、經由虛頂嶺西歸。庚寅到昆長隅、始發行。時朴李二公請與上山。克登曰：吾觀朝鮮宰相、動必輿轎、且年老、遇險能徒步乎？中途顛仆、必誤大事。不許。至是二公與克登下馬為別。壬辰東渡江、由我崕數里、又由彼崕、三十餘里之間、九渡往復。癸巳到山頂、日已午矣。是山首起西北、直下大荒、至此陡立、其高極天、不知其幾千萬仞。頂有池、如人顛穴、周可二三十里、色黝黑不測。時正孟夏、冰雪委積、望之漠漠、一銀海也。

顛、朴本作顛。

顛、宋本作顛。

山形在遠望若覆白甕、及登顛、四圍微凸、中窪如仰甕口、向上耳、外白內赤、四壁削立、若糊丹墀、又如周緇錦屏、圻其北數尺、水溢出為瀑、即黑龍江源也。從岡脊冉冉而下、約三四里、而始得鴨綠之源。有泉泡、泡從山穴中出、其流汨滅、漂疾不數十百步、峽圻為大壑、中注之、掬而飲之、爽然。又行東轉踰一短岡、得一泉、西流三四十步而別、出二派。其一派流與西泉合一、則東下、而其流甚細。又東而踰一岡、則有泉、東流可百餘步、而中泉之歧而東者、來合焉。克登坐中泉、汨水間、顧謂慶門等曰：此名分水嶺、立碑以定界。

而、宋本脫。一派之下、宋本有則。

山而、申本作山當、宋本作水、李本麻本藤本本當

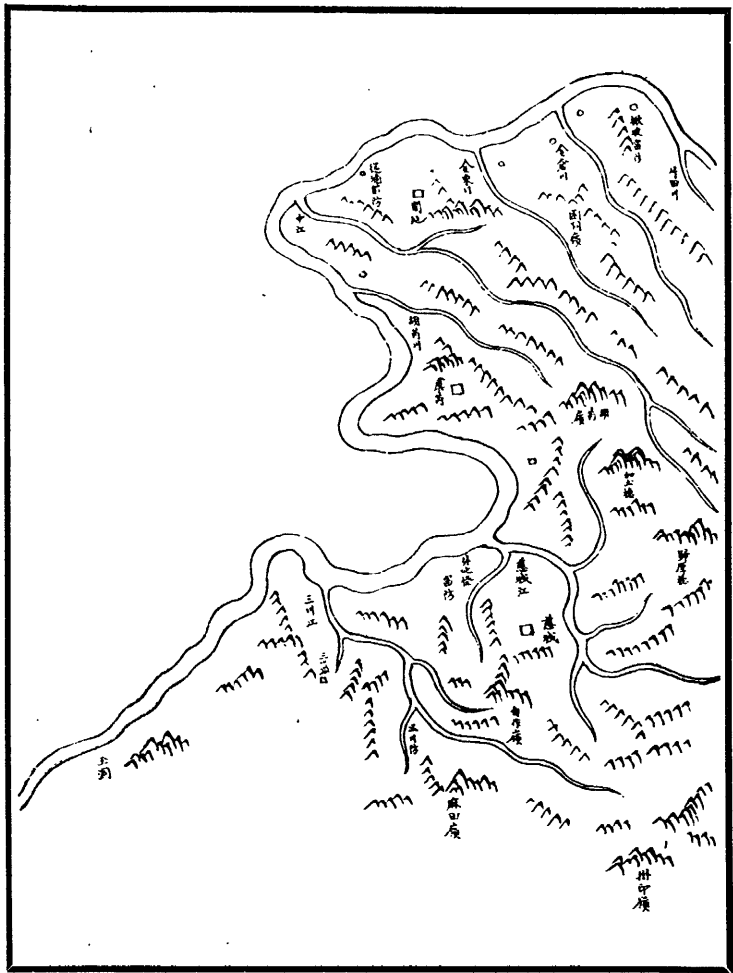
乎。慶門曰甚善。明公此行此事當與此山而終古矣。其水勢分作人字。當中有小巖石。狀如伏虎。克登曰。是山有是石。亦甚奇。可作龜跌也。下山昏黑。宿幕次。甲午。克登謂土門源流間斷。伏行地中。疆界不明。不可輕議。豎碑。乃令其二人同愛順往審水道。金應濂。趙台相隨後。行六十餘里。日暮。二人者還。白。水果東流矣。克登乃使人伐石。廣可二尺。長三尺餘。又於分水嶺取龜跌。碑既具。列書其額。大清字稍大。其下文曰。烏喇總管穆克登奉旨查邊。至此審視。西為鴨綠。東為土門。故於分水嶺勒石為記。康熙五十一年五

往齊、李本藤本作行齊、宋本作行也

貼、宋本藤本作帖

月十五日。筆貼式蘇爾昌通官二哥。朝鮮軍官李義復。趙台相。差使員許樑。朴道常。通官金應濂。金慶門。遂鑿而立之。

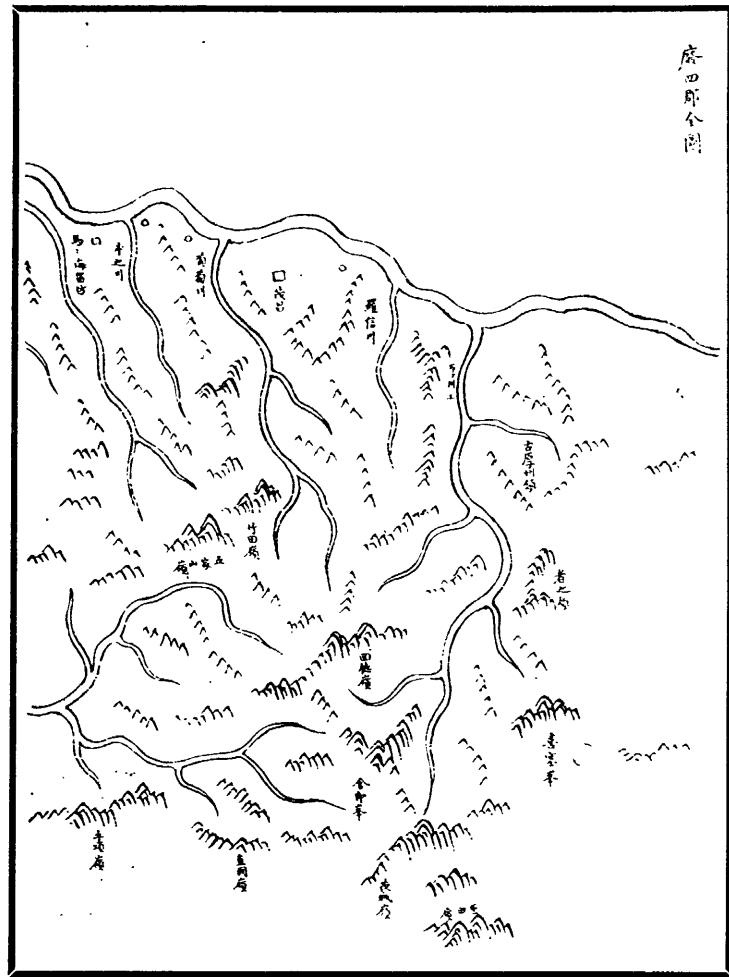
萬機要覽 軍政綱五



此圖、諸本皆脫

慶四郡全圖

慶四郡全圖







哈、朴本作合。

一百三十三里北至鴨綠江二里本閭延府上無路堡世宗十八年置萬戶二十二年以堡去閭延隔遠聲援不及割閭延府出哈孫梁厚州甫山等地民戶置茂昌縣二十四年陞爲郡世祖元年空其地移其民于龜城府。

務、宋本作務。

項、大本廢本作項、干、中本李等三本作干。

距、中本宋本作去。

干、李等三本作干。

虞芮廢郡東至閭延下無路三十里南至慈城務叱項五十里西至江一里北至趙明于二十三里本閭延府虞芮堡初置萬戶世宗二十五年以堡距本府遙隔割本府榆坡趙明干小虞芮及慈城郡泰日等地民戶置郡爲江界府所管世祖元年空其地

移其民于府。

國朝寶鑑 端宗癸酉十一月 上御經筵檢討官梁誠之奏曰平安道長城之役雖罷而閭延茂昌虞芮等郡隔在江邊南道軍士越大嶺往戍人馬俱疲多賣田產逃入遼瀋今雖棄此三邑既有大江以限之則封疆固自如也乞撤三邑戍以慈城爲界使休民固本焉 上遣雲城府院君朴從愚往審便否從愚亦如誠之言遂命撤三邑又按廢四郡故事 端宗乙亥四月平安道都體察使朴從愚巡審江邊諸邑諸口子後啓聞有曰今革

諸邑、中本廢本李等三本作都邑、子、廢本作字。

屬江界、宋本脫。

議政、蘇本作議政府、李等三本作奇。

子、蘇本作字。

虞芮閭延茂昌三邑當割碧潼以上諸鎮屬江界  
 節制使以下都統府議政六曹同議議啓平安道  
 諸邑諸口子因革並依都體察使所啓施行據此  
 三邑撤罷之議在於 端宗癸酉而朴從愚往審  
 後狀聞在於乙亥四月是年六月以後爲 世祖  
 元年而撤邑必在於 世祖御極之後故勝覽係  
 以 世祖元年也。

慈城廢郡北距上土堡一百二十里本閭延府時番  
 江之慈作里 世宗六年以小甫里等入處居民聚  
 保時番之獐項樹柵防戍十四年婆猪江野人殺掠

于、蘇本李等三本作於。

人口而去以其地與閭延江界相隔不及相救明年  
 就兩邑中慈作里築城置郡改今名爲江界府所管  
 至 世祖朝空其地移其民于府。

賊、中本蘇本李等三本作則。罷、李本蘇本作詞。

四郡自甲山而分爲閭延自閭延而分爲茂昌虞  
 芮慈城自咸鏡道而隸平安道 世祖乙亥敬差  
 官梁誠之上疏有曰閭延茂昌虞芮等邑列於江  
 邊今罷三邑慈城一郡獨當賊衝據此慈城之罷  
 最後於三邑而未詳其在於何年故勝覽只言  
 世祖朝者亦以此也廢四郡故事 世祖己卯冬  
 十月命堂上官以上議慈城流民事先是議革慈

農、李本麻本藤本作  
豐茂。

子、李等三本作於。

啓、朴本作答。

吳、藤本作時。

城觀察使元孝然啓請待秋移徙。江界府使洪興  
 祚又請待豐年移徙。民始聞待秋之議皆預爲遷  
 居之計。不事農產。及聞待豐年之言。轉相告報。扶  
 携流亡。觀察使曹孝門以爲人心已搖。勢不可遏。  
 以便宜發義倉穀賑飢民。又將穀粟器仗分輸于  
 江界等邑。使民皆知必遷。仍啓自爲擅便之罪。諭  
 書答之。其合行事件悉聽卿所啓。據此慈城之省  
 當爲世祖己卯也。

國朝寶鑑 肅宗九年夏四月引見大臣備局諸臣。  
 先是兵曹判書南九萬請於廢四郡設置四鎮。大臣

開、原作開、據餘本改。

吳、申本作展。

金壽恒亦以爲便。已令差出四鎮邊將。至是大司諫  
 柳尙運言其不便曰。此地橫亘數百里。樹木叢雜。道  
 路阻絕。今若置鎮則當伐木通道。開墾田土。新設殘  
 鎮既不足以禦賊。而反開賊路。且土地闢則貂蔘之  
 利絕矣。其弊必多有犯越之患。而重峰疊嶂。四塞不  
 通。雖欲設烽燧。其路無由。此皆不便之端也。九萬曰。  
 北路貂蔘出於三甲。而三甲設邑已至累百年。其利  
 不絕。今雖置四郡。豈至一朝斷絕乎。江邊往來之路  
 非一二。則賊來豈必由四郡乎。反開賊路之說亦不  
 然。樹木雖可爲防蔽。而亦豈如募入人民乎。諸臣多

以尙運言爲便。金壽恒請更令九萬往議諸大臣。是後九萬往問諸大臣。右議政金錫胄主尙運議以爲窮僻之地實難募民。又難接待官員。先置二處僉使。觀勢加設爲可。左議政閔鼎重以爲不可。仍設四鎮。金壽恒金壽興從錫胄言以先設二鎮爲便。上從之。命設茂昌慈城二鎮。

碑、中本作礙。

正宗癸丑。江界前府使權禪啓言。闢土開荒最爲募民之急務。江界列鎮中滿浦鎮之玉洞上土鎮之麻田嶺有閑地之可墾處。素稱膏沃。出粟必倍。非但府鎮之民隣境亦多願耕者。在昔以禁標定廢郡之界。

附、宋本作開。

或木或石。到今現在。蓋邊土體重。自營邑不敢擅自移標。至于今強遏民情不得許耕。至於從浦鎮之黃水德卽府境內嶺陘禁養處。略綽退標。量宜開墾。亦是民願所在。當此釐弊募民之時。玉洞北數十里地。麻田嶺南七里地。限慈城界。特許退標。黃水德嶺陘處亦爲許耕。則既不妨於採蔘之地。大有利於生穀之道。臣與前道臣屢次往復意見。沕合。敢達。上以問筵臣。平安前監司沈頤之曰。滿浦之玉洞上土之麻嶺果無妨於採蔘。大有利於生穀。則許民耕食。非但爲募民之方。亦係實邊之政。而至於從浦之嶺陘。

屢、麻本作累。

禁養法意不輕。此則令道臣發遣徧裨與地方官眼同看審後開墾當否論理登聞後稟處宜矣。上曰依江界前倅所奏爲之。自今年起墾俾有闢土募民之實效。而限年勸耕切勿徵稅。又令道伯今年冬以募民實數勸耕幾許狀聞。而從浦事亦依前伯所奏爲之。而如果合當不必狀請稟處直爲許施。趣東作一齊耕播直以舉行緣由狀聞。平安監司李秉模使江界府使申大年與監營軍官往審江界府所屬滿浦鎮玉洞北數十里。大年回報言與營裨偕到黃水德嶺底看審其地勢則斷崖邃谷重巒周匝初非人

蘇本作處。

十數。朴本蘇本作數十。即、大本作則。

居之可論。左右夾崖往往有陳田之痕。故問于父老則曾於丙戌丁亥年間十數里內外居民暫入耕墾土薄霜早旋即陳廢。今雖許耕決無實效云。過嶺以後便屬廢郡界內且犯數處蓼場其在重關阨慎蓼場之道許耕一款有不可容議。上土鎮之麻田嶺南七里地則果不妨於採蓼之地。而衆民嫌其窄短力請麻嶺以北五十里許退標於自祚嶺。而此則有妨於蓼場不當輕許。只限七里而退標則斷無廣墾增戶之望。不必黽勉許施。滿浦鎮之玉洞則既有數十里退標之知委別無嶺阨之界限。故限三江仇非二

十餘里移標許耕。軍官回告亦與該府所報無異。秉模啓言該府使論列儘有意見有難強令盡爲許耕。故黃水德麻田嶺兩處今姑置之。玉洞段使之退標起耕限十年切勿徵稅之意嚴飭本府新入民實數及勸耕幾許使之一一枚報擬待今年冬從實狀聞判付曰地雖加闢蓼不縮探卽較然明甚之事也若使邊禁至嚴我民專利則雖盡復四郡之界地猶有無限餘利矣。目下急務在於實邊每所以樂聞闢土之說不以探蓼爲念者也。該倅所報未知如何營裨摘奸亦未知云何。而黃水麻嶺設如云然亦豈無其

界、宋本作境。

策之下、宋本有則。

代可合處乎。此非時日緊關之舉須於在任時更加悉心探究仍又細詢於帥臣邑倅如有可行之策從後論理指陳事令廟堂申加關飭。

著、中本作者。

乙卯冬備局堂上尹著東啓言四郡復設之議其來久矣。三江三川坊近百里之地民戶許入之後人口萬餘田結七百不三年而實效甚著。蓋慈城虞芮二郡距遼瀋境至近茂昌闔延二郡接壤於三甲沿江七百里無人之地土甚膏沃路且平易山低野濶廣或爲三十里或二十里而慈城至茂昌界則廣或爲百里或爲八九十里皆是民人可居之地以蓼政一

或一、李本藤本作或爲二、昌之下、宋本有之、則李等三本脫。

民人、宋本作人民。

問、中本作問。

事言之七百里間曠之山前者廣探而足用者今焉耗縮年年益甚其必有所以然之故如欲蓼政之復舊亦莫如許民入居而江民所大願則在於先許四五十里地漸次墾闢如三川坊已例幾年而成村入烟相接自無犯越之慮則防守可停經費可減而蓼場不期護而自護罷戍設邑等事當從後經紀凡此事情未知果無差爽而一番詢訪恐無不可分付道臣往復詳問于江界府條列便否圖畫地形論理狀聞以爲稟處之地何如上可之。

丙辰春正月平安監司金載瓚狀啓言臣以備局關

一之下、宋本有而。

辭意關問于江界府矣。卽接該府使李仁秀論報則以爲到關卽爲招致曾經防守之各鎮將慣歷各把之諸父老曉諭關辭講確便否。則或曰沿江七百里之地一時許令盡闢實爲便宜之良策。或曰沿江七百里之地其若一時許闢則民皆取利相地取捨不一。臨邊村落必有間斷之弊。反非嚴防守護蓼場之道。始自慈城界加木櫛至慈城洞口長爲五十里。自慈城洞口至慈城舊基坪廣爲三十里。卽慈柞嶺外慈城江內也。自己關三川坊下倉距慈城舊基踰嶺而行則亦爲二十里之地。以此先許墾闢則不出一



二年可以成聚待其成聚設置倉廩而後漸次許闢則斯可爲募民實邊之方非但衆議之如此蓋四郡請闢實邊之策也四郡之中先就慈城洞口許闢從民之願也自明年慈城洞口限以四五十里許民入居則不出數年可以成村成村之效已驗於三川坊實蹟矣待其成聚之後沿江而上漸次許闢人烟相接鷄犬相聞則便成藩屏之勢而可藉捍衛之力通計十數年間萬金之費千丁之勞不期罷而自罷江邊實矣四五百里蓼場不期護而自護蓼探廣矣先布邊邑民刷送之令當其流民入來之時一一按名

聚、宋本作就。而、宋本作以。

蓼探、宋本作探蓼。

送、中本麻本李等三本作送。

考籍或有涓楚之人則箇箇查出面面錄名刷送于涓楚相準兩邑籍案而還之若其名不錄案者不過是無恒產朝東暮西不奠厥居者在涓楚留之無益失之無惜而歸諸新闢構木安巢火田足食樂業重遷仍爲版籍中良民則惟彼無適無賴之類自歸有根有實之戶此是固邊固濟貧窮一舉而兩得者也亦自該邑以五戶十戶作統統內民如有潛入新闢之地者統首告于本官本官移牒本府則庶可爲禁防之策云四郡復設之論各持甲乙久矣臣則以爲先定實民之方然後宜講復郡之策蓋封疆之民只

郡、李等三本作設。

蔡、麻本等三本作後、申本作後。

越、申本作赴。水之之、而、宋本並脫。

關之下、宋本有而。而、宋本作矣。

後、宋本作後。

屢、麻本作累。

此、麻本作且。

有此數，此實則彼虛，彼聚則此散。今若闢千里膏沃之地，許八方延矯之民，則惟彼困于煩繇，不堪其苦者，見此土地無稅，身戶不征，必當競赴樂地，波奔而輻湊，民之趨利如水之就下，到此而將何以呵止而令禁乎？然則四郡一闢，七邑先動，而清北列州又必隨之，不出數歲，清以北幾大州郡皆病矣。一散之後，不可復合，既病之餘，不可復蘇，其輕重得失，將果何如也？此臣所謂四郡終難遽復也。至於沿江限五六十里加闢之說，臣自莅任，已為稔聞，且於巡路屢接民訴，而商於邑鎮圖見形便，將欲登聞，姑此趨趨未

其有利無害，宋本作有其利無其害。  
緣上、宋本作緣江上。  
截、則、宋本並脫。

試於、宋本作施。

發。其加闢之論，不待邑報民言，可保其有利無害。蓋鴨綠上流橫截兩界，而若使一隊民戶遵江入居，則外作藩籬，內為防守，而固圉之道，必勝於十鎮殘卒，錯落入戍，民居所在之處，無論從某至某，入防可除也。潛越可禁也。丹黃探蓼之政，必勝於前日也。凡此三條，為利已大，而況且地是膏壤，生穀倍多，願闢之民專為厚生之計，而先試於三川，已驗於三川，三川之民最願加闢。今若以三川為例，許以加闢，則延袤五十里之地，雖無足有無於邊疆，而要其民情地利，則可謂一舉而二得。及此許入，無容更議。然而今之

臣所持疑者，如上所陳，大抵三川闢萊之後，渭楚民  
 捻比前漸縮，百弊所生，都在民少者，未必不由於三  
 川。如孟山寧遠之莫可收刷者，亦或以三川爲咎。若  
 又以方百餘里之地，加倍許闢，則荷擔之民，勢必騷  
 然并起。卽此一款，實合深量。苟依該府使所論，先立  
 科條，嚴加約束，隣郡原籍之戶，俾無得擅徙厥居，冒  
 禁已遷之類，亦使之隨卽查還，而凡自各邑流伊入  
 去者，各出該邑公文，然後自地方官照檢，乃許則可  
 防是弊。令廟堂稟處。又以江界四郡合圖，四郡單圖，  
 民人願闢處圖形及四郡道里記上，送于備邊司。右

卽、蘇本作則。

人之下、宋本有之。

奏、申本作啓。

議政尹著東覆奏曰：道臣狀請既如此，馬馬海土兵  
 李汝節手本，繼又報來，以慈城界道里遠近，土地沃  
 瘠，容入多少之論列者，亦不外於道啓辭意矣。聞風  
 入去，棲遑失所，去留兩難者，爲一千八百餘戶之多。  
 而狀請中當闢土地，可容一千三百餘戶，則雖有人  
 多地狹之慮，而爲先許令耕墾，恐合事宜。民人入處，  
 並前後爲二千五百餘戶，其外又有未占土地之剩  
 戶五百餘數，合爲三千七十餘戶，皆是八方烏合之  
 類，實有難馴之慮。而去本府爲一百八十里之遠，隔  
 以兩大嶺，實難管攝，恐當別置官長，或移設鎮堡，以

而、宋本脫。

爲控制之方。請分付道臣與本府爛熳商確。邑鎮間設置當否。條列狀聞後稟處。上可之。

時有上疏言四郡復設者。批曰。四郡復設事重關防。除民弊。爲蓼政。禁斧斤。闢草萊之道。許之固可。但民不加得於隣國。而所謂聚散之輩。必是困於誅求。恟於侵督。挈往之他。轉入這間。而然。此所以有甲乙之論。不能便卽歸一也。既問道伯。勢將待其狀本之上來後處之矣。

與、宋本大本作怯。

來、申本麻本李等三本脫。

丙辰秋九月。平安監司朴宗甲申牒備邊司曰。江界府慈城坊新闢處。自加木櫛。至慈城洞口。自是採蓼

依、大本作以。

紙、申本作地。

是、藤本作時。

里以下行本迄、大本脫。

時五把守排立處。而許闢之後。民既入居。則閭閻把守。可以排立。革罷採蓼時。五把守。一依三江三川之已例。設置閭閻把守二處。各定一將二卒。以爲長立瞭望之地。而糧米。以採蓼時。把軍元糧移給。紙衣二領。襦衣四領。依元定把守例。請自今年爲始。下送右議政尹著東奏。請行之。

先是江界府使李仁秀申牒于本道曰。本邑民人之皆願設邑於慈城舊基者。只以許多蓼場。自慈柞嶺爲始。採之地。沿江七百里七十三把守。皆在慈柞嶺外。今若設邑於慈城。而劃界分境。則慈柞嶺以北。已

非江界所管之地也。幾千募丁幾百把卒移屬於慈城則江民之戍役可除。採勞可祛。故欲爲分役之道。有此設邑之願。今若設邑則館廨倉廩之營建土木錢穀之需用將不知費了幾許民力幾許公貨。已不可輕擬。以此新闢之地。役彼流入之民。一邊辟業作農。一邊營建公廨。奔走服役。不得安巢。則安知無散而之他之慮乎。且况防守之役。採募之節。責之於新邑之新民。則必無以支保。揆以事勢。恐不可以遽議設邑。爲今之計。莫如設鎮之爲便當。而前前監司以上土鎮不能成樣。移設於知弄。惟舊城址以爲防守

擬、宋本大本作議。

截、宋本作絕。

之意修啓。前前府使以馬馬海堡既非嶺阨所關。又非賊路要害。革罷之意。狀請矣。某鎮移設某基營建等節。府使躬審目擊的。知其某鎮可移某基可設。然後陳列便否。故與慣歷防守之鎮將偕到。可移可設云云之地。周覽形便。詳察基址。上土鎮處在梨嶺麻田嶺三十里之間。遮截黃水楸之捷徑。果爲關阨緊重之地。本鎮乃是久勤之窠。則似難責備於彈壓。以此以彼勢不敢遽議移置。馬馬海堡以最至殘之堡在於本府十五里之內。又非關阨防護之地。則有無無關移設之議。比之上土。此堡爲先。至於三千坊昆

千、申本作川。坊、宋本大本作防。

謂宋本大本作爲。夷宋本作易。

長坪卽今之下倉也。咸以謂地既坦夷，民亦成聚，介於慈柞嶺、鳴綠江二路之交會，與慈城新闢處不過數十里。於斯置鎮，似合便宜云。而今若設鎮，則不得不沿江而設施。一如滿浦、高山等鎮，近江邊防賊路之爲可也。惟此知弄，惟舊城址設施之議，非但已登於道啓，防守之便，慣聽於邑論。處在慈城三川兩界間，洞口已闢，處南距麻田嶺爲五十里，東南距慈柞嶺爲二十五里，至滿浦鎮百餘里，無一鎮堡之障蔽。西北臨鳴綠，而城此真號令各把之樞機，聲勢相援之要領。古之設鎮，意亦有在。就此地移置馬馬海堡

二、李等三本作五。嚴、中、李、本、麻、本、藤、本、作、敬。

坊，宋本大本作坊。

則鎮廨營建既不張大，三川坊火田稅自今秋捧入，以補措辦之需，使之管攝新舊闢民戶，戕猾奠民，揔而制之，則似有益於控制之方。未知何如。平安監司金載瓚狀啓曰：地闢則民聚，民聚則邑設，固是次第當行之事。而今則纔下闢地之令，遽議設邑之方者，似涉大早。蓋流民散聚，姑未及預料，則設邑便否，今難以臆決。而該府使所報，卽是察民情量事勢之論。其所指陳實有意見。至於設鎮事，若依邑報，以馬馬海堡移設於知弄，惟舊基則形便，可以得宜。關防可以增重，實爲便當。宜無他議。而臣意則以爲，若使許

大、中、本、宋、本、藤、本、作、太。

關之後設有實民之效此皆烏獸之類順之則馴拂之則散姑不可以平民一例責備而今於流入之初遽示管攝之意卽移鎮堡設爲官長則必當却顧疑畏旣入者易致還散將入者必多退步然則無寧姑使之隨入隨奠俾各安意着業以至根固蒂結之後徐議設鎮恐爲十分回全之道令廟堂稟處右議政尹著東覆奏曰馬馬海堡移設於知弄惟舊基之論可使形便得宜關防增重則新入民奠居之後自當爲次第設施事耳第以目下所見言之今此流入之戶皆是無賴之類未及奠居之前遽示管攝之意必

易、李等三本作是

當却顧疑畏道臣所論儘有意見邑鎮間設置事依狀請今姑安徐而三千餘戶成聚之處官府絕遠不有以管攝禁制則易致弊從中生官民俱病該府使處各別申飭其於奠接調戕之方兩得其宜無或踈虞以爲善始圖終之地何如上可之教曰曾於李判府按道時以上土之移鎮爲言以地形與事勢言之其爲緊重切逼亦非馬馬海之比在前蔘政句檢上土爲咽喉項况今關土移民之際其所留意比之馬馬海上土爲勝該倅之不言上土單舉馬馬海者豈以鎮將勢力顏面之彼此緊歇而有此捨重取輕

之舉乎。卿於筵返後，議于李判府後，關問道帥臣使之別具意見。狀聞後稟處，是年春判府事李秉模言：上土鎮處在三川坊入去之嶺底，今若設鎮於三川，則上土便屬內地，且其鎮樣之凋弊，士卒之鮮少，漸至莫可收拾之境。移此設彼，恐合便宜。至於馬馬海，比諸上土，似不無緩急緊歇。更問道帥臣爛燬消詳，而處之為宜。備邊司關問關西曰：三千餘戶成聚之地，不有邑鎮而管束之，終有邊上生得失之慮。凡係疾苦訟獄，使之赴訴于險坂峻嶺，近二百里之本府者，決是行不得之政。上土之移作鎮將，果為此勝於

凋弊、申本作彫殘。

去、宋本作土。

土之之之、宋本脫。

彼則該府使之必以馬馬海為請者，果何所據。形便事勢與移設當否，更問于地方官後，道帥臣往復商確，指一狀聞以為稟處之地。

是年八月，傳曰：北道厚州事道伯狀啓來到已久，並與隣邑土地之劃屬當否，使之收議。而江界土地事詢問，尙無皂白。該道事極為駭然，而該邑舉行亦甚稽忽。令廟堂關飭道伯使，即詳問帥臣及該倅，各以意見。斯速狀聞，平安監司朴宗甲與兵使任律、江界府使李仁秀議之。江界府使李仁秀申牒曰：移設鎮堡及某鎮可移等事，上土鎮處在梨嶺麻田嶺兩

設、申本麻木作設。



流、宋本作由。

嶺之間各處蓼丁交會於此。故自前以上土鎮將定爲搜蓼官使之句檢修成册報營邑已是流來之規。馬馬海堡距本府十五里既非嶺隘所關又非蓼丁要路。故前報時始論兩鎮而未乃以馬馬海堡仰對矣。更爲躬審形便詳察事勢則兩鎮凋殘難支之狀等是一般弊局若論移設上土於三川坊則前報所論昆長坪地既坦夷民亦成聚倉穀已時在於慈柞嶺鳴綠江兩路交會之處真形勢之地於此設鎮俱爲便宜而此非古人設城之地且方擬議移鎮於邊上之時顧此距江邊數十里之地翔立無前之議有

距、宋本作去。

此頁、大本脫。

嶺、宋本脫。外之下、宋本有亦。

與、李本麻本作現。

所不敢故此所以以知弄惟古城仰對者也。設鎮於知弄惟則慈柞嶺大路乃在鎮後二十五里之外難以控制所可恃於後者惟上土處於麻田嶺之南扼其咽喉誠難空棄然而今若設鎮於昆長坪則嶺阨守要蓼丁句檢與上土無異雖空棄上土小無踈虞之慮移設處所亦甚便近就此地移設上土似宜矣。節度使任崱申牒曰上土在於梨嶺麻田兩鎮之間三川坊慈柞嶺大路揔爲管領兼爲蓼政句檢之咽喉項而馬馬海則距本府十五里之地嶺阨蓼政無甚關緊其存其革不足爲輕重而若移設於知弄惟

海之下、申本有陸。

此頁、大本脫。

舊址則真號令各把之樞機聲勢相援之要領而一以爲勞來新集之民一以爲上土藩蔽之鎮故前前江界府使革罷之說時府使請移之論良以此也而目今兩鎮凋殘雖是一般上土鎮基當在三路要衝之地其爲難支之狀殆愈甚焉數百名鎮卒舉皆虛錄時存只是二十八戶而校卒立役者僅爲六七名以此數箇殘卒莫重嶺阨何以防守其他烽燧入防搜募等節亦難分排不可不及今釐革而所謂昆長坪處在麻田慈柞兩嶺之間其於嶺阨關防前顧後應獲專防守之固且距知弄惟不過爲數十里之地

殘、李等三本作頌。

無、宋本作其。

始、宋本大本作施。

則可以兼察控制而倉積已峙民亦成聚非但闕伍之不忠充額旬檢募政之道衛護募場之節俱爲緊要兩得其宜移此上土於昆長坪似合便當而至於黃水德成富洞間路雖未得管領不過採募微路別定校卒以爲句檢則亦少無疎忽之慮第流入新民俱是烏合之徒任其所爲則亂無統緒少加管攝則易致渙散設始之初必有地望有履歷之人極擇差送恩以懷保威以彈戢然後庶可安堵宗甲乃馳啓曰三千餘戶新入之民而各自爲心迄無糾率撫御之所此所以移鎮置官之舉不容少緩而移鎮甲

海之下、宋本有存、則宋本脫。行末之設、中本麻本李等三本作說。

乙之論只在於上土馬海。詳其形便事勢則移上土之說平而順。移馬海之說迺而不順。古人之設置十鎮於大幹嶺之下而羅絡相望者其輔車之形唇齒之勢必有所以然之。故設若十鎮而闕其一則其精神氣脉必有闕而不通者矣。今移馬海則便是十鎮而闕其一矣。移上土則無此患矣。何者馬海去當移處越數鎮百餘里而遠矣。十鎮名數縱不以移去而有所減損若其馬海信地則已不免空闕矣。上土則去當移處不過數十里而近移與不移之間其爲上土信地只爭咫尺之際也。等是移鎮也。

何必捨近而就遠使列鎮之形便有所欠缺也。但上土之爲鎮居在麻田嶺梨嶺之間爲蓼政句檢之咽喉項苟使擬議當移之地其所句檢蓼政之方少失此箇形便則誠不可議到而昆長坪處在三川坊上頭麻田嶺之外蓼政句檢與卽今鎮基少無異同而雖有黃水榭咸富洞小小間路出於背後然有從浦鎮承其鑄而彌縫之矣。從浦之所不及察者自本府別定校卒亦足以句檢既於蓼政句檢之道無所損害又於新民管領之方得其衝要。邑報閩牒之歸一於上土而其所移之地亦非昆長坪則不可者良以

又、宋本作至。新、大本作斯。衝要、宋本作要街。

此也。抑臣之區區所慮在於移鎮之後，而有不可不陳聞者。邊上人情厭避鎮屬，一名鎮民，看作羞恥事，除非至窮殘之類外，百計謀頃而後已。此所以關外列鎮坐擁虛藉，把守之卒亦不能備數者也。今使上土移鎮於昆長坪，則必將割給民戶幾百，作為鎮屬，而以成衙門貌樣也。三千餘戶新入之民，抄割鎮屬之際，誰肯捨府民而就鎮民哉？排定謀頃之間，奸弄之患，繹騷之弊，有不可勝言矣。且況今此新入之民，皆是朝東暮西無定心之類也，其名一屬於鎮簿，則舉將鳥駭獸竄，翩然而逝矣。無卒之鎮，誰與為將？其

以、宋本脫。

奸弄、宋本作弄奸。

無之下、宋本有而。

將、宋本作皆。

鎮、中本麻本李等三本作屬。

餘不為鎮民而屬於府民者，則其視鎮將也，真箇不曾如數慢之丞矣。又豈肯曲直焉歸之，疾苦焉歸之，入其管領糾率之中，而不違規度乎？然則雖名移鎮置官，而細量事勢之所究，則必將與無官無法同矣。惟此一事，宜有別段規畫之道，而未得其要。臣於今番巡路，與節度使任崱商度此事，崱亦慮此患，已與江界府使李仁秀往復講究，而有所鑿括者。其說以為即今撫御奠接之方，惟在靜而勿擾，靜而勿擾之道，莫如姑不分鎮民府民，漸次馴習之。為上既置鎮將而不分鎮民與府民，固是說不去處，而亦不無一

括、中本麻本宋本作括。

方、宋本作道。

從、申本作製。

坊、申本宋本大本作防。

坊、申本朴本大本作防。

府、申本麻本李等三本作將。

條措置之道。若依北道端川府使爲南兵營別中軍例。無論某鎮將以合移去者兼江界防禦營別中軍。則凡此兩坊新入之民皆歸於別中軍統率之下。而雖不分鎮民府民無所拘碍設置如是之後。該鎮將各別擇人。凡係三川慈城兩坊民事大者報決小者自斷鎮府之政歸於一體則民亦視以爲本府亞官。次次調習必有漸歸矩矱之效其所爲說實合採用。令廟堂稟處。右議政尹著東覆奏曰。三川坊民人入接。今至於三千餘戶之多。則勢不得不趁卽設鎮而統領之。上土僉使之移鎮昆長坪兼行中軍事云者。

確、諸本皆作確。陸、大本作報。

道帥臣論啓既歸一而事極順便矣。所請特爲許施。時任上土僉使今姑改差以解事有履歷之人極擇差出依北道端川府使例以江界府別中軍兼帶下批使之趁歲前移鎮而統率之。凡諸舉行節目往復本府爛熳商確轉牒于道帥臣處仍卽狀聞施行之意分付何如。上可之。

丙辰十月時原任大臣入侍時。上曰箕伯狀啓江界三川坊三江櫛自今年出賦捧稅事便否何如。左議政蔡濟恭曰。三川坊新入之民卽無恒產之東之西之類也。其所移接不過數年其蹊未及黔矣。所謂

完實其然豈然而設令真箇完實如啓中之語續田  
 勸耕限三年勿稅載在法典况此與原居之民能墾  
 久荒之田有所不同則朝家所宜優恤不數年而出  
 賦徵稅臣意則未知其穩當至於玉洞三江櫛十年  
 後始爲出稅既已登聞於朝則到今以年事之稍登  
 三川之接壤又從以不及限而猝地出稅則不亦爲  
 罔民之歸乎子曰去兵去食聖人之以信爲重有如  
 是矣臣之愚見以朝家之不失信爲貴而已至於三  
 川坊亦稍寬若干年限以爲示信於民恐合事宜領  
 敦寧金履素曰三川坊今秋捧稅事道臣既因邑報

其、宋本脫。年之下、宋本有之。

有如、李本藤本作如有。

以、大本脫。之不之、宋本脫。至於、宋本作若至。

稅之下、宋本有之。

恐之上、宋本有亦。

均平、宋本作平均。道之上、宋本有矣。

則非無商量而至於玉洞三江櫛當初限年寔出於  
 優恤奠安之德意則未滿年限之前遽議出賦恐非  
 信朝令之意實難輕議而第三江既許以十年之限  
 則三川以接壤之地其所向隅勢所必至雖不可限  
 以十年更限若干年出稅則庶爲均平之道而以臣  
 愚見不敢臆對矣判府事李秉樸曰自三川坊許開  
 之初臣意則自當年出稅然後民志早定果無後弊  
 今於定稅之論別無他見而至於玉洞之三江櫛限  
 十年勿徵之意既經登聞無論年限之太過與否恐  
 不可到今改限矣右議政尹著東曰玉洞三江櫛十

年勿稅其時道臣既已登聞今以三川接壤遽令徵稅殊非信令之意此則不可舉論三川坊則當初民人之自願入墾當年出稅與玉洞三江之募民勸入迥異前道臣金載瓚又以火田稅自今秋捧入以補移鎮措辦之需之意已爲登聞而連年登稔民戶安堵上土移鎮又在目下元田實摠之添錄收稅火田執卜之屬之民庫者道臣所請不無意見又如神光鎮所管退標耕種之地北路之厚州許民並當有田租定制判府事李秉模當年出稅可無後弊之奏臣意則以爲經法可行矣有司堂上沈願之曰三江總

年、申本作初。

別之下、宋本有而。

之募民入送也以十年免賦之意道臣登聞朝廷許之則今何可以三川之納稅并及於已許之三江使邊土新移之民不信朝令乎此則近於罔民不可許施而三川三江之民募入願入雖有區別同一新闢之土新移之民則土稅或收或不收在朝家一視之政不宜若是斑駁三江之稅既定十年三川之稅亦略爲濶狹年條使兩地之民均蒙惠澤似好矣有司堂上李時秀曰朝家既定年限許之於民其在信令之道不可濶狹進退三江總收稅一款恐非可論且以三川坊言之初因募入願入之不同雖有十年三

年之差異方當設鎮之初宜軫撫恤之道臣意則三川坊出稅之限始自設鎮之年更退數年使新接之民無向隅之歎似好矣前平安監司金載瓚曰三川三江之闕俱在於癸丑年間而三川則土地膏腴民皆願入故依法典定以三年後收稅三江則土地不及三川民不樂赴故寬其限而募其入以至於十年乃稅道啓既徹朝家已許今此十年之限已成一定之制設使十年或失於太遠與民立約之後忽復進限催稅大非示信於民之意此則今不可更議至於三川之三年寬限則比之三江雖似太近此亦其時

於宋本脫。

意之下宋本有也。

則宋本脫。

勢之下宋本有而。

進宋本大本作微。

當初宋本脫。

賦之下宋本有乎。

載宋本作年。

倍大本之外諸本皆作倍。

大申本作大。

復麻本宋本作釋。

道臣已爲酌量事勢啓聞定制今年已及當捧之限時居之民亦知其當納而今因三江事忽寬三川之稅則亦非信朝令之義臣之區區迷見則無論三川三江一依當初定制俱勿追後進退似好矣上曰玉洞三江棣等地之十年寬稅何異於兖州田賦必待十有三載然後與共他州乎朱夫子曰除却治水八年蠲賦五年摠計爲十有三年大抵十年之限倍於禹貢非不知太久且遠前因道啓既從其請則到今忽地出稅非但失信近於罔民凡有朝令之下爲道臣守宰者惟當拱若弘璧而已守宰豈敢徑先報







三水府志魚面初置萬戶。顯宗甲寅本道監司南九萬啓請陞僉使移鎮厚州乙丑罷厚州僉使還移魚面萬戶。

府、宋本脫。

郡之下、宋本有尚。

正宗丙辰備邊司啓曰三水府罷邑設鎮廟坡神方江口自作等堡並爲革罷厚州江西邊江界地移屬祥霸坪等事待設鎮後詳察事勢更爲商量舉行事分付何如判付曰設邑於外置鎮於內形便與事勢在所釐正而新設之地僉使得人然後可以出意見設施履歷段追後定式須以備諳邊俗自知風土者先使足踏目接官府之如何建置兵民之如何成聚

從、申本作費、宋本作之。

以至吏隸倉庾及劃界辟菜等事件件條條一一措置始可差送官長會寧府定配罪人李健秀姑爲減等移定厚州地魚面所管把守將用白衣從軍之例使渠立功自效待其書陳便否於本司粘啓稟處日前以關西四郡地方定界設鎮事亦有關問者渭原郡定配罪人李汝節充定江界馬馬土兵事分付該道道臣。

丙辰九月備邊司啓曰厚州許民事因魚面把守將李健秀書陳册子咸鏡道帥臣查啓才已登徹而有前任咸鏡監司南兵使處問議稟處之命矣厚州設

地、朴本作之。

鎮當否及厚州江越邊江界地割屬事並爲問議一體稟處何如。上可之。

丙辰十一月引見大臣備局堂上。右議政尹著東啓言前因魚面把守將李健秀書陳冊子咸鏡道帥臣論理狀聞後有曾經道帥臣處問議稟處之命矣。諸臣獻議同異不齊而其中甲山之烏梅江以西移屬

之、宋本脫。屬之下、宋本有於。詳、藤本作詳。

三水三水之別害鎮移屬長津江界廢四郡之祥霸坪移屬厚州三水府之移邑魚面廟坡魚面神方之罷鎮等事最所緊要重臣鄭民始爲北伯時遍巡三甲諸鎮堡詳知形便而一皆持難其言誠然然厚州

既、申本作筑。

既不可不設鎮則祥霸坪姑令移屬然後可以通魚鹽之路而民人始得奠接在江界方爲無用之地則尤不必靳許厚州則陞爲獨鎮履歷僉使如法聖之例賦役獄訟使之專管祥霸坪則移屬厚州事分付咸鏡平安兩道道帥臣處其餘烏梅江別害鎮之移屬三水府之移邑廟坡魚面神方之罷置諸條稍待設鎮奠接開春後益加探察探訪道帥臣論理啓聞後更爲稟處何如。上曰依爲之鎮將以魚面把守將李健秀今日政令該曹擬入而民情必以鎮民爲不若邑民依關西上土例爲屬邑別中營勿以鎮卒

稱之爲可乎。抑直設官府乎。此亦當問之一端。以此杖舉分付。而諸臣收議。後錄下送。以備該道掌攷。政院啓曰。因兵曹啓目。厚州僉使兵符。令政院造送。事允下矣。兵符今既新造。該鎮僉使所佩右一隻。監營及所管兵營以上左二隻。定禁軍下送。依例分上事。咸鏡監司處下諭。何如。傳曰。與昨日判下於禮曹啓目印信事無異矣。姑無軍兵之團束。則發兵之符用於虎豹麋鹿之羣乎。及今下送。可謂太早計。兵曹啓目勿施。稱州稱鎮間。要之其號。則當爲厚州。既造之。左右隻姑爲封置密匣中。待軍制編伍。卽爲狀

聞事令廟堂分付道帥臣。

丁巳四月。南兵使李壽鵬狀啓言。臣營所管三水府厚州留防。每年五月。使魚面神方自作江口四鎮堡邊將替相入防。又使新舊莖波知兩鎮堡士卒輪回把守。留防設置。蓋出於嚴邊杜奸之策。而專由於厚州曠廢之致也。今則許闢土地。募集流民。人烟相望。又爲設鎮建官。政令施措。無不主管。各鎮堡之依前留防。固無所益於邊政。而不過貽弊而已。至於把守前者立把之址。人家聯絡。言語可以相報。使他鎮之卒越境入把。尤無義意。每當方農。齋糧往來之弊。亦

於。宋本脫。

我。大本作政。地之下。宋本有則。

而。宋本脫。守之下。宋本有則。

把守、宋本脫。右之下、宋本有於。

弊之下、宋本有也。

是、申本脫本作時。

不可不念。留防把守等節，移屬該鎮專管舉行事，合便宜。故以此意關問于厚州僉使李健秀，則該僉使所報果無異同。令廟堂稟處，備邊司啓曰：當初入防與把守，由於厚州之空虛，而今既設鎮建官，則事不當膠守舊例，以致無益而有弊。依狀請自今年爲始，鎮將入防士卒把守，並爲革罷，使該鎮專管舉行，俾無邊政踈虞之弊事，各別申飭，何如。上可之。

先是，咸鏡監司趙尙，鎮枚舉南兵使李壽鵬，厚州僉使李健秀申牒，馳啓曰：厚州之民願邑不願鎮，而開拓不廣，遷徙屬耳。戶不過四百，則民社之責，恐難遽

作、麻本作外。

遜、大本作損。

作、大本作非。

議。今既設鎮，賦役獄訟，使之專管，不爲管轄於三水，則外雖鎮名內實邑治，募集奠接的見其效。然後陞作官府，如茂山、長津之例，則似合事宜。別中營設施事，厚州與三水同是邊地，而衙門相敵，體統苟艱，邑樣至殘，排置無路。先以邊地履歷作爲獨鎮，軍田籍三政，一委該鎮，俾得主管，別中營則今姑置之。該僉使所報中長津之防守將減罷，移定於本鎮事，長津關防無遜於厚州，則既設旋罷，近於銷刻，置而勿論。並令廟堂稟旨分付。備邊司啓曰：厚州設鎮之凡百措置規畫已定，成就可期。而既作獨鎮履歷之策，則

訟獄、中本大本作獄訟、而、中本脫。

訟獄之主管民人之奠接名雖鎮將而事同邑倅、不  
 必以陞爲邊地有所輕重此則稍觀來頭制置更爲  
 議定恐未爲晚至於防守將移兼一款道臣以長津  
 之既設施罷爲持難之端然該僉使曾經長津府使  
 形便事勢必當稔知防守移來之後各鎮管轄之方  
 校屬名目之數或有彼損而此益府使則無繫於關  
 防僉使則有助於節制者亦必有所見令道臣詳細  
 關問于厚州鎮長津府並與前冬知委移屬罷置等  
 諸條而具由狀聞後更爲稟處何如上可之丁巳  
 四月成鏡監司李鼎運狀啓曰祥霸坪移屬厚州事

行未、宋本有則。

具、宋本作其。

板、蘇本作版。

盡、宋本作陳。

形、李本藏本作刑。

轉、中本宋本作割。

前道臣趙尙鎮在任時以三水府使柳晦源別定差  
 員與關西差員會同定界事已爲發關分付矣卽接  
 差使員牒呈則以爲去四月二十四日發行與平安  
 道差使員上土僉使洪允復及厚州僉使李健秀一  
 時會同自朴鐵下仇非鳴綠江邊立巖石限以山脊  
 至板幕洞洞口而定界立標之意報來矣今此厚州  
 新設之後凡諸規畫之策前後道帥臣已盡論列更  
 無餘蘊臣又發遣裨校圖畫形便關問邑鎮關防之  
 緊歇割屬之利害略有所領會三水移邑事本府處  
 雖僻遠控制三路管轄諸鎮關防之重有非長津厚

地之下、宋本有而。

州之比。豈可捨此必據之地。退守魚面。必欲與背後之厚州強爲唇齒之形乎。始主移治之論者。以爲三水則土地瘠薄。地勢深僻。邑底民人舉懷渙散。莫可成聚。魚面則一鎮之處。地平衍。四方之道里均適。且與厚州表裏相須。關防民情兩得其宜。此亦有不然者。厚州魚面之間。相距殆近百里。兼以重嶺險江。橫亘遮截。平時行旅如躡蜀棧。脫有緩急。無以相援。以民情言之。見今邑治尙完。猶思散而之四。况於移邑之後。一民一卒。豈肯留住故土。防守嶺隘乎。且願移者絕少。不願者居多。移邑一款。非所可論。神方等三

之、宋本脫。

須之下、宋本有而。補、李等三本作轉。

守之下、宋本有則。

鎮罷置事。議者以爲厚州設鎮之前。三水西六鎮專管防守。而既有厚州。則三鎮便屬內地。故所以有當罷之論。而當初設置。非但爲厚州之空虛。水合之後。長津一江。便成平陸。賊虜充斥。必先此地。故各就咽喉。星羅棋布。列鎮爲三水之手足。三水爲列鎮之心。腹警急相須。輔車相依。雖以厚州言之。創設之初。官未成樣。新集之民。難責瞭望。三鎮之一朝罷置。失之太遽。姑爲仍置。一以爲厚州鎮聲援。一以爲長津江防守。實爲兩便。烏梅江別害鎮之。或屬三水。或屬長津事。三水處在諸鎮要害。又與甲山左右相應。甚爲



因、李本廢本宋本作因。

關防不輕而重。論以固邊之策，政宜爲三水增益其土地，成聚其民戶，而計除其鎖戶，則府民不過爲四百餘戶，凋弊已甚，無以成樣。甲山則關防之重，不如三水之緊重，而人民土地比諸三水，不啻十倍，則折長補短，實合通變之政。以地勢言之，烏梅以西當屬三水，自是天成疆界，况甲山則已有輔天甘坪等兩社新設，則劃出烏梅以西附之三水，尤合事宜。別害鎮處於烏巒深巒兩嶺隘，表裏於厚州要衝，於長津而距三水府爲四百餘里，間以峻嶺，民人之往來，邑治極其艱辛，以其僻遠之故，不無吏校侵漁之弊。昔

精、李等三本作精。

嶺、申本作嶺。

民人、宋本作人民。

此頁、朴本脫。去、宋本作如。

該、麻本李等三本作設。

聚今散，人烟絕少。去長津不過爲百餘里，而道塗平易，土地耕作多賴長津，魚鹽交易專靠長津，故該鎮之民願屬長津，其勢固然。及今割屬實合，事宜防守，將移屬事，當初長津之設鎮也，兼以防守將者，蓋欲尊其體貌，重其節制，而今於陞邑之後，儼成一大府治，防守之名便同防營，軍校之規樞，以此而粗成，吏民之聊賴，以此而有階。今若移屬厚州，則銷刻之嫌，雖不足顧，而新設之軍制，未免踈虞，顯望之民情，必致落莫。以厚州言之，相距彼境，只一衣帶，而規模草創，形勢孤絕，防守之備，報警之責，不容少緩，蓋其形

棋、申本大本作棋，李等三本作撫。

此頁、朴本脫。

便險阻自成一局其勢不得不設為獨鎮而衙門之所重無異三甲諸鎮則彈壓無路借以防守之號稍尊其體統係是不可已之事而既兼者之不欲讓它新設者之必欲得兼事勢固然依關西江邊左右防營例今於厚州長津以左右防守將施行似甚得宜並令廟堂稟處南兵使李壽鵬狀啓曰關防形便民情事勢另加探察則三水府移邑事該府處在三路要衝會樞南與甲山為犄角輔車之須東五鎮西六鎮為左右捍衛之勢其為緊重比他自別而且其邑基稍廣居民最多民情亦皆樂土不願移治至於魚

事勢、藤本作勢之。

似、宋本大本藤本作事。

據、原作近、據餘本改。

面地形長為三十里廣僅二里許以未滿百戶之民猶有人多地狹之歎與厚州隔在紫芝峻險之嶺聲援相須之為難不在於移此設彼且東五鎮列在江岸主鎮退在一隅則關防之倒置已無可論而如當緩急前有東山白山兩嶺之阻其何能及時備禦乎由此由彼移邑一款恐難輕議神方魚面廟坡罷置事厚州今既復設則三鎮堡便屬內地罷置之論誠有所據而長津江一帶數百里之間列置鎮堡分管賊路當初設置深且密矣以厚州之復設諸路關防專責於厚州而擬議存革則不但前事之可鑑該鎮

親、宋本作創。審慎、宋本作慎審。

三水、宋本作水而三。

然之下、宋本有矣。

悉、宋本作實。

江而之而、宋本在險遠之下。夷、中本宋本作易。

新剏民未成聚官未成樣其在審慎之道恐有太遽之慮甲山府烏梅江之劃付三水三水府別害鎮之劃屬長津事利害便否昨午已爲備陳論啓大抵別害處於長津之尾局厚州之腦後欲使厚州爲表裏相應之勢則劃付長津便否皎然且與主鎮三水府相距爲四百里之遠與長津不過爲百餘里之間交易耕作悉由於此民情舉皆願屬長津烏梅江去甲山隔江而險遠去三水路近而平夷遠近險夷若是懸殊論其境界政合三水之全局且民貧土瘠不成邑樣不可不及時矯揉而若其矯揉之策無過於土

於、宋本脫。領之下、宋本有之。

依、中本作倚。

試、中本作施。

地人民之從便劃付甲山則民捨土地有倍於三水雖劃一面所失無多防守將移屬事長津之兼防守定出於重關防鎮邊圍之意則既設旋罷實有銷刻之嫌該府防守之號仍舊置之又以厚州爲防守將一如關西左右防營之例未知何如並令廟堂稟處備邊司啓曰三水移邑事在厚州雖有聲勢相依之道厚州則乃新設試可之地三水則是古來關防之重恐不可爲彼移此反致其彼此無當之慮且其民情亦不願移則有不可強而移之神方等三鎮撤罷事道帥臣難慎之論不爲無據烏梅江以西移屬三





偽奏滿浦昌城之捷。二年設鎮于宣川身彌島號雲  
 從島。四年文龍徵索糧貨不得則誣誣我國。五年島  
 兵出陸攻陷碧潼等郡斬被俘逃歸者偽稱賊級奏  
 捷。七年遼廣經略袁崇煥會文龍于寧遠前洋數其  
 罪便宜誅之遊擊陳繼盛代領其衆。初劉興治自滿  
 洲亡歸島中與繼盛不協。八年攻殺繼盛據有島衆。  
 本國遣李曙鄭忠信等將舟帥擊之興治遁入登洋  
 島詐稱受勅移咨送款。九年興治劫島衆將投滿洲  
 島衆不從興治大殺諸將官軍民將官沈世魁襲斬  
 興治。皇朝以世魁爲都督滿洲領二萬騎渡江將

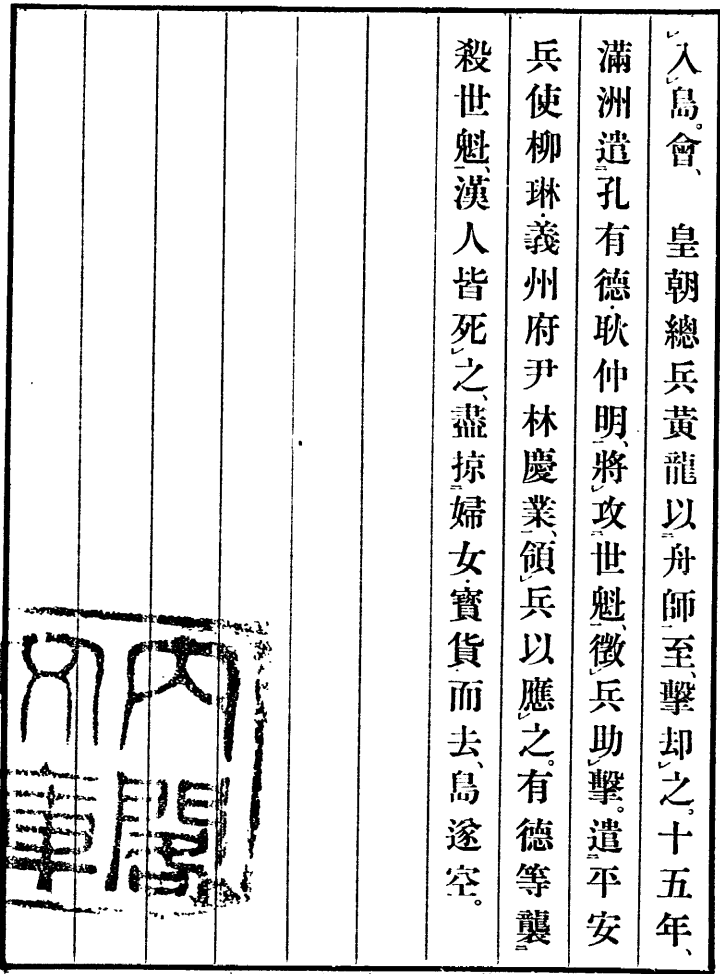
洋、李等三本作洋。

通、宋本作通。洋、李等三本作洋。

投、李等三本作赴。

去、宋本脫。

入島會。皇朝總兵黃龍以舟師至擊却之。十五年  
 滿洲遣孔有德耿仲明將攻世魁徵兵助擊遣平安  
 兵使柳琳義州府尹林慶業領兵以應之。有德等襲  
 殺世魁漢人皆死之盡掠婦女寶貨而去島遂空。



萬機要覽 軍政編五

七〇五







禁軍.....188  
 禁軍勿禁牌.....202  
 禁軍廳.....188-190  
 禁軍別將.....189, 190  
 禁松.....311, 406  
 禁路軍.....413  
 銀木裏.....643

ク

苦灘.....569  
 騙人.....699  
 空名帖.....122  
 偶語別差.....698  
 隅風.....644  
 掘浦.....281, 565  
 軍威軍.....412  
 軍官.....172  
 軍官布.....370, 413  
 軍號.....175  
 軍資監.....540, 840  
 軍資穀.....458  
 軍需保需米.....393, 395  
 軍餉庫訓局.....846  
 軍中收米.....232  
 軍田.....239  
 群山倉.....276

ケ

京畿山郡.....354  
 京騎兵.....153, 155  
 京市署.....641  
 京内都還.....408  
 京盤纏.....714  
 惠化門.....425  
 敬奉閣.....512

經理穀.....396  
 經理廳.....388  
 慶源開市.....730  
 結.....197, 199  
 結錢.....365, 375  
 結束色.....127  
 結布.....367  
 結米.....365  
 兼教鍊官龍虎營.....191, 192  
 拳法.....240  
 劍.....239  
 元會穀.....458  
 元帳付田番.....202  
 立銀.....477  
 原州別倉.....360

コ

戸錢.....367, 368  
 戸曹穀.....458  
 戸曹輸送錢二軍色.....144  
 戸南庫.....852  
 戸布.....366  
 戸料.....294, 135  
 古今島.....560  
 姑立馬.....229  
 虎蹲砲.....70  
 虎大將.....189  
 雇立軍(二軍色).....140  
 扈衛廳.....39  
 扈衛隊.....184  
 湖西山郡.....355  
 湖南山郡.....355  
 五員.....14  
 五處迎慰使.....694  
 碁子銀.....477  
 口錢.....367

口文錢.....470  
 公作米.....740  
 公山城.....435  
 公剩色.....345  
 公賤.....666  
 公賤.....479  
 公木.....737  
 甲太.....232  
 交濟倉.....662, 859  
 江倉.....408  
 江倉庫.....843, 851  
 行宮所衛將.....389  
 降續田.....200  
 降等田.....200  
 貢銀.....475, 480  
 貢津倉.....277, 853  
 高麗田制.....239  
 荒政.....661  
 黃銀.....477  
 黃口菱丁.....366  
 黃節.....619  
 犢饋.....524, 105, 244, 304, 349  
 廣興倉.....539, 840  
 廣船.....388  
 號砲.....70  
 斛上.....229  
 斛俗封.....283  
 黑骨.....468  
 勿禁帖.....101  
 坤地島.....558  
 根耕.....216

サ

坐軍號.....69  
 祭享軍契.....155  
 祭圖.....501

祭田.....242  
 碎生金.....474  
 歲俵.....526  
 歲前救急.....666  
 濟民倉.....663, 855, 858  
 作紙.....227  
 樞門後市.....725  
 朝園.....501  
 策應所.....408  
 策應所庫.....851  
 役青.....666  
 雜物色戸曹.....491  
 三軍鎮撫所.....3  
 三軍都撫府.....3  
 三司穀.....457  
 三手.....216  
 三手米.....224, 307  
 三處問安使.....694  
 三節兼行.....681, 697  
 三名日.....574  
 三畏.....277, 371  
 三浪倉.....279  
 蠶壇.....510  
 蠶頭倉.....408  
 參覈使.....709  
 蒜山棘城.....443  
 蒜山倉.....856  
 葵布.....310

シ

子砲.....70  
 四維門.....195  
 四宮.....244  
 四正門.....195  
 司寒祭.....631  
 司畜署.....628

司導寺	539	松政	647, 115
司僕寺	539	松島	550
司僕寺江倉庫	845	松都移屬大同錢	358
私賤	666	消息	338, 339
私賤	479	詔使	691
指	18	掌標	383, 384
視年上下作獻法	219	詳定	346, 348
綱營	380	彰義宮	512
兒族手調局	224	餉穀	458
字號	200	鉦	70
申聞鼓	173	賞給	693
執吏書吏料米代錢	131	上等馬	161
射隊軍	412	仍停	457
射砲狼	352	城操	71
手巾銀	476	淨業院	510
朱書	340	乘輿司	127
首陽山城	444	常平穀	458
受價未上重記	337	常平麥	617
收稅所戸曹	500	常平通寶	466
收租頒降	349	場	641
舟橋司	657	信漢符	176
秋穀	459	信琴	761
十一條錢	470	信使	763
十品金	474, 476	信箭	164
從事官調局	218	信符	168
出關未會減	337	信砲	70
恤典	669	清學新選兒	698
澄川司	655	新營庫	846, 847, 848, 850
巡將	172	新倉庫(宣惠廳)	844
初仕禁軍	193	賑恤廳	571, 580, 661
書員	218	人情	229
賣火藥	217	贖行	693
匠稅	309		
助入	195		
陸戸	224		
床頭	643		
松禁節目	116		

ス

水操 73

水標石	656	線頭	641, 643
吹鐵牙兵	402	前准	340
隨等異尺之法	198		
隨率馬兵	220		
崇義殿	242		

セ

正田	200	壯牙兵衛米	393, 394
正門	166	壯抄	225, 381
西撥	93	倉元穀	458
西水庫	631, 632	草笠	521
西北聚點	78	曹司衛將	5
西北別付料軍官	191	捨戎廳均廳給代錢	394
西北留防	176	捨戎廳取耗米	396
成敷	476	捨攝	390
青布風	643	漕復米布	287
政色	127	槍劍軍	306
聖堂倉	276	箱賃利厚	644
精抄	227	雙開市	730
精抄軍	283	雙樹山城	435
精抄廳	283	束	197, 198
精抄別隊	227	息	363, 375
稅稔	197	簇頭里屬	645
稅帽之法	718, 728	續田	200
夕	197		
藉田	211		
接倭糶米	743		
節日	693		
節目事知禁軍	192		
川反浦落	201, 216		
井准	339		
泉流庫	853		
宣薦	193		
船價	230		
贖餉庫	858		
箭竹	119		

ソ

打發	715		
駄價	129		
大車半島	567		
大用法	343		
大内	512		
大比較	238		
大嬪宮	512		
太	197		
待變船	279		
帶方城	452		
度支定例	507		
丹節	619		

タ

覃恩庫.....855	
耽津.....560	
單開市.....730	
單甲邑.....220, 406	
單藝.....751	
單代捧.....456	
團鍊使.....726	
團鍊使後市.....726	
	<b>テ</b>
	丁銀.....477
	停長.....456
	鼎足山城.....426
	堤堰司.....651
	天銀.....476, 477
	天秤稱.....459
	典書.....127
	典牲署.....539, 627
	點.....18, 22
	田.....197
	田横島.....564
	田貢.....357
	田穀.....212, 213
	田尺.....198
	田制.....197-200
	田制所.....193, 219
	田制詳定所.....219
	田稅條.....314
	傳語軍.....307, 406
	<b>ト</b>
	都案廳.....153
	都差員.....278
	都手決.....338
	都別將.....389
	土貢.....351
	度量衡.....498
	東江鎮.....703
	東倉庫宣惠廳.....845
	東水庫.....631
	番.....197
	等幾庫.....543
	登山島.....570
	<b>チ</b>
地銀.....477	
地部.....197	
地木.....227	
池城山城.....444	
雉羽正筋價.....358	
雉嶽城.....444	
中江開市.....723	
中江後市.....724, 725	
中甸.....206, 238, 302, 346, 405	
中等馬.....161	
注泊.....389	
忠順衛.....157	
忠壯衛.....157	
忠贊衛.....157	
壽司.....103	
鑄錢.....368	
鑄錢所庫.....841	
楮幣.....463	
徵族徵隣.....366	
糶器.....455, 661	
直路十二邑.....221, 406	
	<b>ツ</b>
追捕船.....462	
追慕洞碑閣.....510	

當.....135, 285	入居奴婢貢.....436
當年災.....216	
蕩春倉.....845	<b>ヌ</b>
德物島.....566	奴婢貢.....479
露.....16	
同准.....340	<b>ネ</b>
堂上軍官龍虎營.....190	年分.....215, 219
屯牙兵.....381	
屯壯抄.....381	<b>ノ</b>
	能慶兒講.....170, 204, 237, 296, 339
	<b>ハ</b>
	把.....197, 198, 383
	波市田.....563
	馬山倉.....278
	馬兵(訓局).....222, 227
	背流三大水.....557
	敗船條.....422
	白骨.....469
	白骨微布.....366
	八斗兒.....538, 539
	八包.....711
	發馬牌.....85
	撥站.....92
	反作.....456
	反番.....217
	版別.....533
	<b>ヒ</b>
	比摠法.....215
	比包.....715
	皮島.....702
	<b>ナ</b>
内官復戸.....495	
内禁衛.....188	
内三廳.....188	
内倉庫宣惠廳.....842	
内廳庫.....842	
内水庫.....633	
南小營庫(御廳).....849	
南倉庫.....843, 848, 849	
南壇.....311	
南撥.....94	
難行梁.....565	
	<b>ニ</b>
二價.....229	
二軍.....7	
二軍色.....135	
二軍色移來錢.....163	
二軍色給代.....131, 163	
二軍色定式移來錢.....131, 158	
二軍色別錄.....146	
二軍色戊午給代.....146	
二甲邑.....220, 221, 406	
二人講.....203	
二十四技.....217	

皮物價	358	丙辰相換常平米	578
被執	739, 756, 759	丙辰相換保民司米	584
七斗兒	538, 539	平市署	641
百一條	376, 403	平倉	408
標下軍	293, 336	平倉庫	844, 850
標下軍能嬰兒	204	平倉北漢餉穀	393
標信	165, 167, 169	兵曹	127
苗節	619	兵曹移來木	396
賓廳講	179	兵漕船	583
フ			
夫	197	兵布	294, 135
不而城	494	兵符	176
布城(布帳)	246, 307	別營戶曹	536, 540, 840
巫稅	309, 443	別騎衛	291
貢	197, 199	別騎隊	222
釜山倉	352	別騎兵	153
浮費	422	別皮軍	221
桴涼	830	別驍衛別將	290
符驗	166, 167	別均米	418
武經講	179	別軍官	219, 291, 333
武藝別監	221	別庫(戶曹)	540, 840
武選司	127	別將廳火砲	192
武備司	127	別需庫	534
武勇廳	220	別准	340
部還	408	別陸戶	225
部將禁軍	195	別致聘	504
風雲雷雨壇	311	別武士	220, 291, 334
覆沙	216	邊小箭	389
文昭殿	510	ホ	
分軍部將	7	保還	408
分戶曹庫	830	保軍所	277
ヘ			
丙寅別置穀	349	保民司	583, 584
		浦項倉	662, 856
		捕盜廳	43
		補階	530
		補軍色	371

補充隊	156, 157	モ	
包外越送	712	耗穀	458
法聖倉	276	耗後換作	459
奉足	231, 233	耗前換作	459
烽軍接濟	179	木物庫(戶曹)	531, 840
烽燧	79	ヤ	
豐儲會	539, 841	夜標	117
寶鈔	463	ユ	
防垣鎮城	443	由錢	163
防簾	382	由無	293
質木取剩	589	有廳軍	157, 185
北關開市	729	有廳色	156
北倉庫(宣惠廳)	843	有元貢別質	315
北道奴婢貢代	142	有土免稅	243
北撥	93	有分各厚	643
卜	197	遊布	367
墨書	340	ヨ	
マ			
磨准收租	349	須差禁軍祿俸木代錢	133
萬里倉	844	餘丁	156
萬里長城	494	餘丁色	156
ム			
無元貢別質	315	葉子金	474
無土免稅	243	楊津倉	853
無分各厚	644	養賢庫	539, 841
メ			
鳴旨島	557	ラ	
免稅結	405	羅里舖倉	662, 854
免稅折受	239	螺	70
綿布厚	643	緞	70



